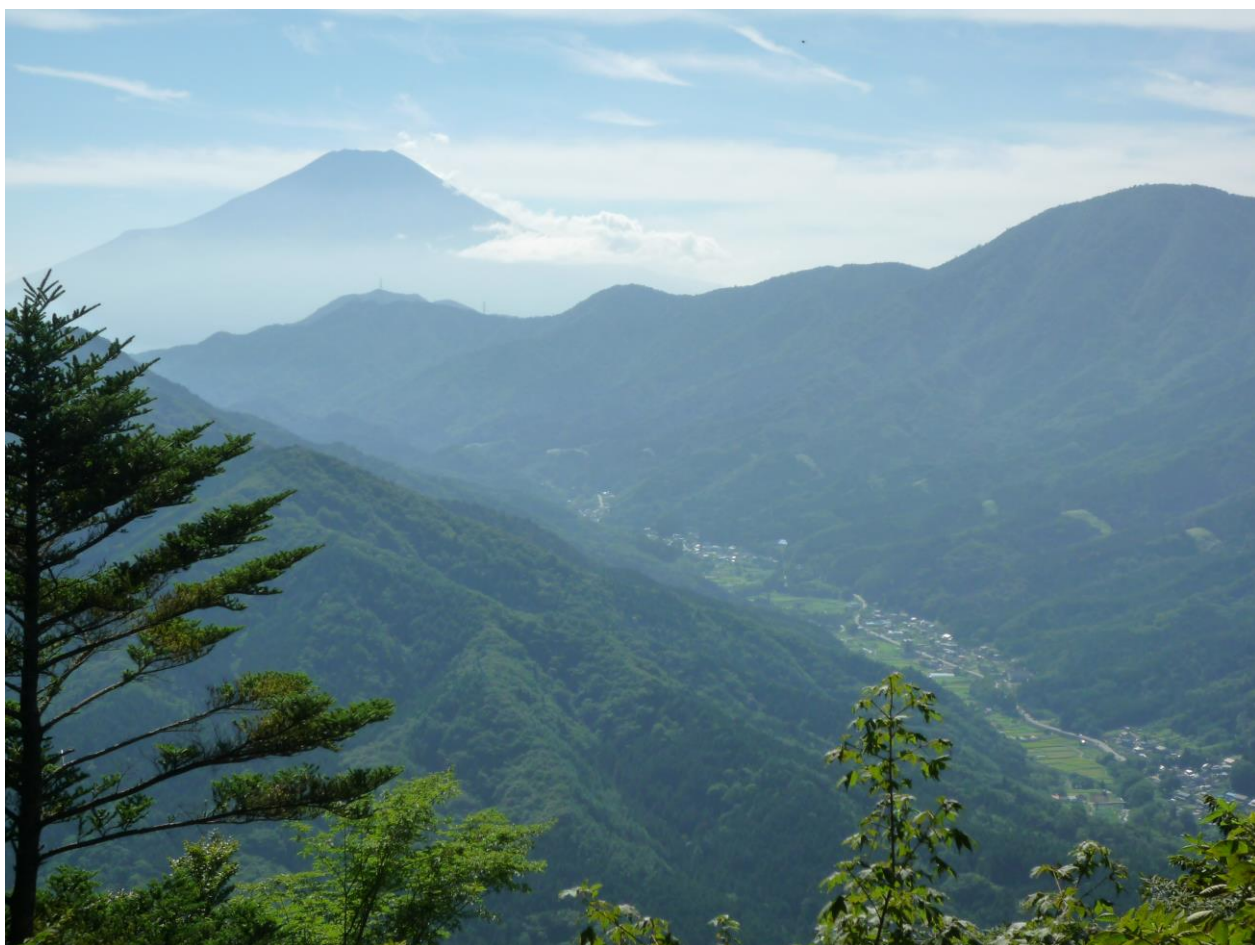


日常生活圏域ニーズ調査報告書



平成 27 年 3 月

山梨県 道志村

目 次

第 1 部 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象・調査方法	1
3. 調査基準日	1
4. 調査の実施時期	1
5. 調査項目	2
6. 回収状況	2
7. 地区別回収状況	2
8. 分析・表示について	5
第 2 部 調査結果概要	3
第 3 部 調査結果報告	9
1. ご本人について	9
(1) 調査票記入者	9
(2) 年齢・性別	9
(3) 地区別	11
2. 設問 1 あなたのご家族や生活状況について	12
問 1 家族構成	12
問 1-1 家族の数	14
問 1-2 日中独居	15
問 2 介護・介助の必要性	16
問 2-1 介護・介助が必要となった原因	18
問 2-2 主な介護者	20
問 2-3 主な介護者・介助者の年齢	20
問 3 年金の種類	21
問 4 現在の暮らしの経済的状況	21
問 5 居住形態	22
問 6 住居の所有関係	22
問 7 居住階層	22
問 7-1 エレベーターの設置	23

3.	設問2 運動や閉じこもりについて	23
	問1 階段昇降	23
	問2 いすからの立ち上がり	23
	問3 継続歩行	23
	問4 歩行	23
	問5 外出	23
	問6 外出頻度の減少	23
	問7 外出を控えている	26
	問7-1 外出を控えている理由	27
	問8 買物・散歩の外出頻度	28
	問9 外出する際の移動手段	30
4.	設問3 転倒予防について	31
	問1 転倒経験	31
	問2 転倒不安の増大	31
	問3 背中の丸まり	31
	問4 歩行速度の低下	31
	問5 杖の使用	31
5.	設問4 口腔・栄養について	34
	問2 身長・体重・BMI	34
	問1 体重減少	35
	問3 固いものが食べにくい	35
	問4 汁物でむせる	35
	問5 口の渇き	35
	問6 毎日の歯磨き	35
	問7 定期的な歯科受診	35
	問8 入れ歯の使用	38
	問8-1 噛み合わせ	39
	問8-2 毎日の手入れ	39
	問9 1日の食事の回数	39
	問10 食事を抜くことがあるか	40
	問11 どなたかと食事をともにする機会	40
	問11-1 食事をともにする人	40
6.	設問5 物忘れについて	41
	問1 いつも同じ事を聞く	41
	問2 自分で電話をかける	41
	問3 日にちがわからない	41
	問4 5分前のことを思い出せる	41
	問5 その日の活動の(自分での)判断力	44
	問6 自分の考えをうまく伝えられるか	45

7.	設問6	日常生活について	46
	問1	一人での外出	46
	問2	日用品の買物	46
	問3	食事の用意	46
	問4	請求書の支払	46
	問5	預貯金の出入	46
	問6	食事摂取	46
	問7	寝床に入る	46
	問8	座位保持	46
	問9	洗面や歯磨き	46
	問10	排泄行為	46
	問11	入浴行為	46
	問12	継続歩行	46
	問13	階段の昇降	46
	問14	着脱行為	46
	問15	大便の失敗	46
	問16	尿漏れ・尿失禁	46
	問17	家事全般	46
	問2-1	日用品の買物	47
	問3-1	食事の用意	47
8.	設問7	社会参加について	58
	問1	年金等書類作成	58
	問2	新聞を読む	58
	問3	本や雑誌を読む	58
	問4	健康への関心	58
	問5	友人宅を訪ねる	58
	問6	相談を受ける	58
	問7	病人を見舞う	58
	問8	若者と会話	58
	問9	趣味の有無	58
	問10	生きがいの有無	58
	問11	地域活動への参加状況	62
	問12	社会参加活動や仕事の頻度	63
	問13	「たすけあい」について	64
	問14	相談相手	65
	問15	友人関係	65
9.	設問8	健康状態について	67
	問1	健康状況の自覚	67
	問2	病気の有無	67

問3	飲んでいる薬の数	69
問4	通院状況	70
問4-1	通院頻度	70
問4-2	通院での介助の必要性	70
問5	在宅サービスの利用の状況	71
問6	飲酒習慣	72
問7	喫煙習慣	72
問8	充実感がない	73
問9	楽しめない	73
問10	億劫	73
問11	無能間	73
問12	疲労感	73
10.	設問9 介護保険施設（特別養護老人ホーム）の計画について	74
問1	どこで過ごしたいか	74
問2	村内の特別養護老人ホームへの入所希望の有無	75
問3	現在の介護保険料	75
問4	施設の必要性	76
問5	自由記述	77

第4部 評価結果 84

I.	機能	85
1.	運動リスク	85
2.	閉じこもりリスク	87
3.	栄養リスク	89
4.	口腔リスク	91
5.	認知症リスク	93
6.	認知機能障害程度	95
7.	うつ病リスク	97
8.	虚弱リスク	99
9.	二次予防対象者	101
II.	日常生活	103
1.	手段的自立度（IADL）	103
2.	ADL	105
III.	社会参加	107
1.	知的能動性	107
2.	社会的役割	109
3.	老研指標総合評価	111

地域別二次予防対象者及びリスク該当者の割合113

資料編

集計報告書

調査票

第 1 部 調查概要

第 2 部 調查結果概要

第1部 調査概要

1. 調査の目的

高齢者の方々が地域の中で、できる限り長く生きがいをもって、健康で安心して生活ができることを基本理念とし、健康づくり、介護予防などを推進してきた。

このたび、「道志村高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画(平成27～29年度)」を策定するにあたり、当該調査を実施し、日常生活圏域ごとの精度の高い高齢者の状態像・ニーズや高齢者の自立生活を阻む課題等をよりの確に把握することを目的とする。

2. 調査対象・調査方法

【日常生活圏域ニーズ調査】

調査基準日(平成26年8月1日)において、村内在住の65歳以上の高齢者全員及び本村の住所地特例者全員。

郵送による配付、回収。

期日までに提出のないものに対して、民生委員が戸別訪問、記入の指導、回収。

対 象	対象人数	世帯数	調査方法
村内に住所を有する 65歳以上高齢者全員	590人 うち、住所地特例者 17名	406世帯 うち、住所地特例 17世帯	全員調査

3. 調査基準日

平成26年8月1日

4. 調査の実施時期

調査期間 平成26年8月6日から平成26年8月20日

5. 調査項目

日常生活圏域ニーズ調査
①回答者基本属性 ②家族や生活状況について ③運動・閉じこもりについて ④転倒について ⑤口腔・栄養について ⑥物忘れについて ⑦日常生活について ⑧社会参加について ⑨健康について ⑩村独自質問 介護保険施設（特別養護老人ホーム）の計画について・自由記述

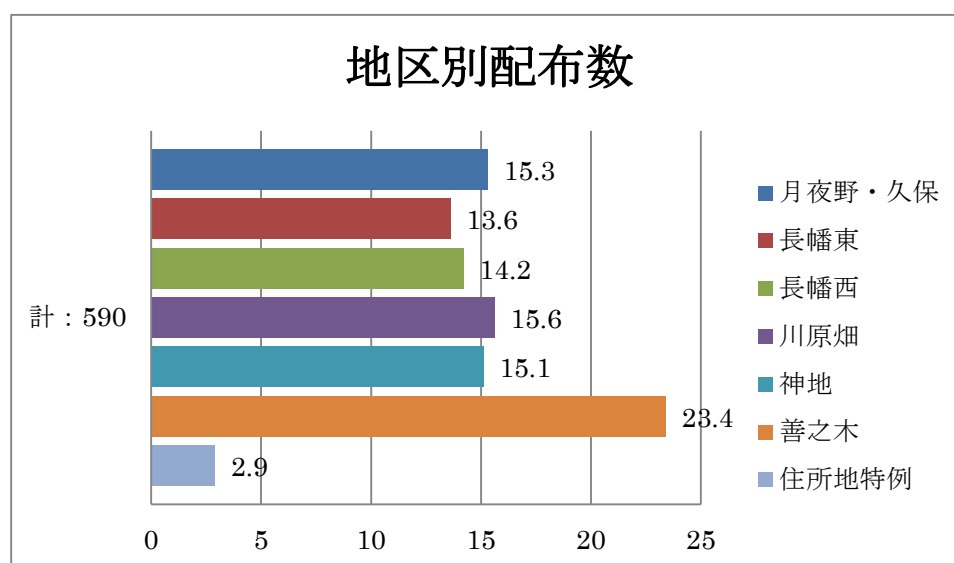
6. 回収状況

調査種別	配付数	有効回収数	有効回答率
日常生活圏域ニーズ調査	590 件	513 件	86.9%

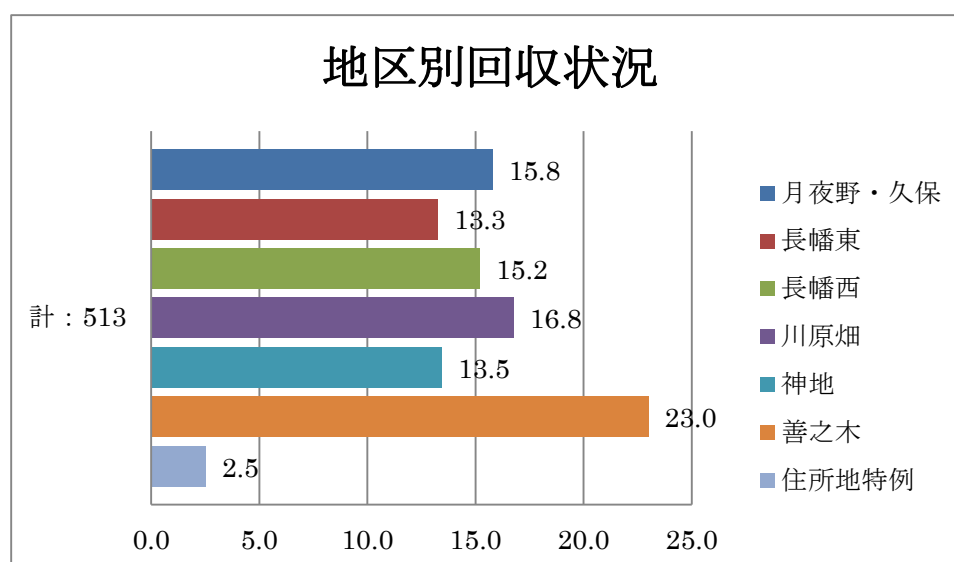
7. 地区別回収状況

地区名	配付数		有効回答数		有効回答率	
	男	女	男	女	男	女
月夜野・久保	90 件		81 件		90.0%	
	45	45	41	40	91.1%	88.9%
長幡東	80 件		68 件		85.0%	
	40	40	34	34	85.0%	85.0%
長幡西	85 件		78 件		91.8%	
	37	48	34	44	91.9%	91.7%
川原畑	92 件		86 件		93.5%	
	43	49	40	46	93.0%	93.9%
神 地	89 件		69 件		77.5%	
	35	54	24	45	68.6%	83.3%
善之木	137 件		118 件		86.1%	
	68	69	59	59	86.8%	85.5%
住所地特例	17 件		13 件		76.5%	
	3	14	3	10	100.0%	71.4%

●地区別配布数



●地区別回収状況



※ 当該地区別の設定は本村における地域担当制の行政区域です。

- ① 月夜野・久保 …月夜野、大渡・野原、久保笹久根、大室指
- ② 長幡東 …椿、小善地、大栗、馬場
- ③ 長幡西 …竹之本、東和出村、西和出村
- ④ 川原畑 …谷相、川原畑、大指、釜之前
- ⑤ 神地 …東神地、中神地、下中山、上中山
- ⑥ 善之木 …下善之木、上善之木、川村、板橋、下白井平、上白井平、長又

なお、日常生活圏域の設定とは異なります。

【参考資料】

自治会別回収状況

番号	地区別名	配布数			有効回答数			回収率		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	月夜野	9	9	18	9	9	18	100.0	100.0	100.0
2	大渡・野原	17	10	27	15	10	25	88.2	100.0	92.6
3	久保笹久根	10	15	25	9	12	21	90.0	80.0	84.0
4	大室指	9	11	20	8	9	17	88.9	81.8	85.0
5	椿	11	10	21	9	8	17	81.8	80.0	81.0
6	小善地	11	11	22	11	9	20	100.0	81.8	90.9
7	大栗	7	7	14	5	7	12	71.4	100.0	85.7
8	馬場	11	12	23	9	10	19	81.8	83.3	82.6
9	竹之本	10	15	25	10	15	25	100.0	100.0	100.0
11	東和出	9	12	21	8	11	19	88.9	91.7	90.5
12	西和出	18	21	39	16	18	34	88.9	85.7	87.2
13	谷相	10	9	19	9	8	17	90.0	88.9	89.5
14	川原畑	11	14	25	11	13	24	100.0	92.9	96.0
15	大指	11	14	25	10	13	23	90.9	92.9	92.0
16	釜之前	11	12	23	10	12	22	90.9	100.0	95.7
17	東神地	13	15	28	9	15	24	69.2	100.0	85.7
18	中神地	9	17	26	7	14	21	77.8	82.4	80.8
19	下中山	4	9	13	2	6	8	50.0	66.7	61.5
21	上中山	9	13	22	6	10	16	66.7	76.9	72.7
22	下善之木	13	13	26	9	9	18	69.2	69.2	69.2
23	上善之木	7	10	17	6	9	15	85.7	90.0	88.2
24	川村	2	5	7	1	5	6	50.0	100.0	85.7
25	板橋	16	16	32	14	12	26	87.5	75.0	81.3
26	下白井平	6	9	15	6	9	15	100.0	100.0	100.0
27	上白井平	9	5	14	9	4	13	100.0	80.0	92.9
28	長又	15	11	26	14	11	25	93.3	100.0	96.2
99	住所地特例	3	14	17	3	10	13	100.0	71.4	76.5

8. 分析・表示について

1. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%とならないこともあります。
2. 複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
3. グラフ中の（計：〇〇）という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
4. クロス集計については、集計の都合上、無回答者を除いた集計となっている部分があるため、単純集計の結果と合致しない場合があります。
5. 設問の項目名や選択肢においては、表記を変更・省略している場合もあるため、巻末の調査票をご参照ください。

第2部 調査結果概要

【回答者基本属性】

- ・回答者の約7割が調査対象者本人で、約3割が家族によるもの。その他は民生委員、施設職員や介護支援専門員等によるものである。
- ・回答者の54.0%が75歳以上の後期高齢者で、男女比では女性が54.2%となっている。

【設問1：家族や生活状況について】

- ・家族構成では「一人暮らし」は8.0%となっており、約9割は家族と同居。そのうち42.1%はおもに配偶者と2人だけの家庭。(問1、問1-1)
- ・同居世帯でも、その70%以上の高齢者が日中独居となる可能性がある。(問1-2)
- ・回答者の7割以上が「介護・介助は必要ない」と回答。(問2)
- ・介護・介助が必要となった原因では、男性が「脳卒中」(35.9%)、女性は「高齢による衰弱」(39.5%)となっており、主な介護者は配偶者や家族である。(問2-1、問2-2)
- ・現在の暮らしに経済的な苦しさを感じている人が約5割を占める。(問4)

【設問2：運動や閉じこもりについて】

- ・日常生活動作では、階段昇降で手すりや壁をつたわる人は約4割となっている。(問1)
- ・外出を控えているという人は25%いて、その理由として「足腰などの痛み」が一番多い。(問7、7-1)
- ・外出する際の移動手段では、「徒歩」や「自動車(自分で運転又は家族、友人等にらせてもらう)」による人が多い。(問9)

【設問：3転倒について】

- ・転倒経験がある人は25.5%で、以前と比べて歩行速度が遅くなった人が約6割、また、転倒に対する不安が大きい人も4割を超える。(問1、問2、問4)

【設問4：口腔・栄養について】

- ・身長と体重から算出した回答者のBMIでは、低体重(BMI18.5未満)5.3%に対し、肥満(BMI25.0以上)は28.3%を占めている。男女別では、男性に肥満の割合が高い。(問2)
- ・歯磨き習慣のある人は約8割を占めているものの、半年前と比べて固いものが食べにくくなったりする人が37.0%、汁物でむせる人が24.4%、口の渇きが気になる人が20.9%を占めており、口腔機能の低下が懸念される。(問3～問6)
- ・入れ歯を使用している人は約6割を占め、噛み合わせや毎日の手入れなどでは、8割の人が良好な状態。(問8、問8-1、問8-2)
- ・1日の食事の回数は、9割を超える方が「朝昼晩の3食」で、8割が食事を抜くことはない。(問9、問10)

【設問5：物忘れについて】

- ・物忘れや判断力の衰えの兆候がみられる人は1.5～3割程度で、女性に物忘れ症状がみられる。(問1～問4)

【設問6：日常生活について】

- ・日常生活では、多くの項目で8割以上の人自立しているが、外出を伴うような行動や食事の準備、請求書の支払や預貯金の出入、尿漏れ・尿失禁では、介助やケアを必要とする人の割合が3割～4割程度に膨らむ。(問1～問17)

【設問7：社会参加について】

- ・社会参加に関する行動では、多くの項目で7割以上の人その行動ができると回答しているが、新聞、本や雑誌を読む、友人宅を訪ねるといった項目ではやや低い。(問1～問10)
- ・地域活動や社会参加活動・仕事に参加している人は約2割、回答者の多数が参加していない。参加している地域活動や社会参加活動は、祭・行事や自治会、地域の美化活動などで、その頻度も年に数回である。(問11、問12)

【設問8：健康状態について】

- ・自分の健康状態が良好だと感じている人は約7割を占めるものの、何らかの後遺症や疾患をもっている人は約8割、常用している薬の種類が5種類以上ある人が約2割、何らかの病院や医院に通院している人は約7割にのぼる。(問1～問4)
- ・飲酒習慣のある人は約3割、喫煙習慣のある人は約1割で、これらは男女差が大きく、おもに男性で飲酒、喫煙習慣のある割合が高い。(問6、問7)
- ・ここ2週間の状況について、約2割の方が生活に充実感がないと回答している。(問8～問12)

【設問9：村独自質問】

- ・介護・介助が必要になったときでも、約5割の方は自宅での生活を望んでいる。一方で、回答者の34.7%が村内の特別養護老人ホームで過ごしたいと希望している。(問1)
- ・村内に小規模な特別養護老人ホームがあった場合、44.4%が入所を希望したいと回答している。(問2)
- ・現在の介護保険料について、負担と感じている方は63.5%で、うち10.3%は負担能力を超えていると回答している。(問3)
- ・村内に小規模な特別養護老人ホームの設置について、回答者の65.5%がその必要性を感じており、うち32.7%がサービスの充実と負担増について検討が必要と回答し、9.0%が次の第7期介護保険事業計画策定時に検討するべきと回答している。(問4)
- ・自由記述へは69人(13.5%)から85件の回答があり、うち、56件(65.9%)は特別養護老人ホームの整備に関する内容である。(問5)

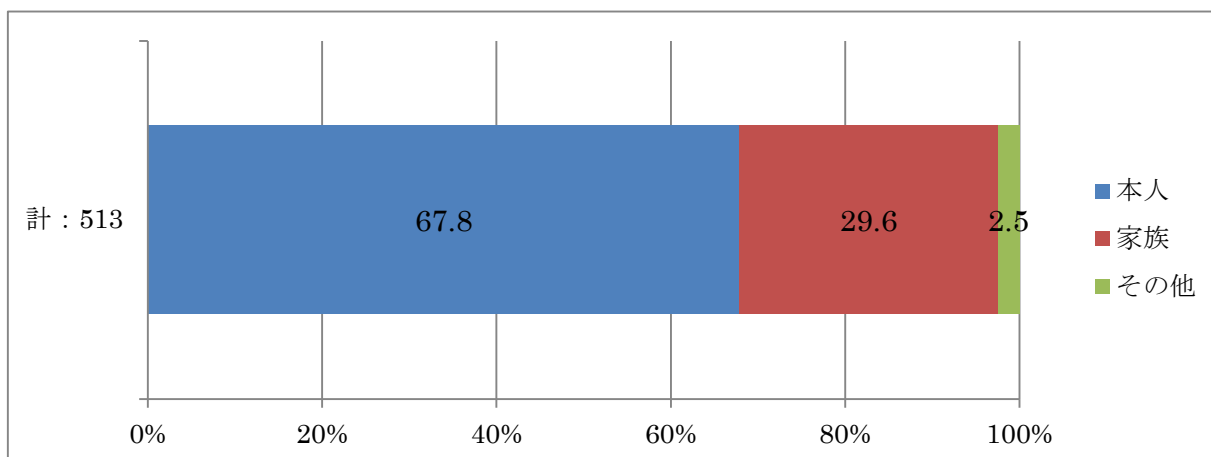
第 3 部 調查結果報告

第3部 調査結果報告

1. ご本人について

(1) 調査票記入者

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

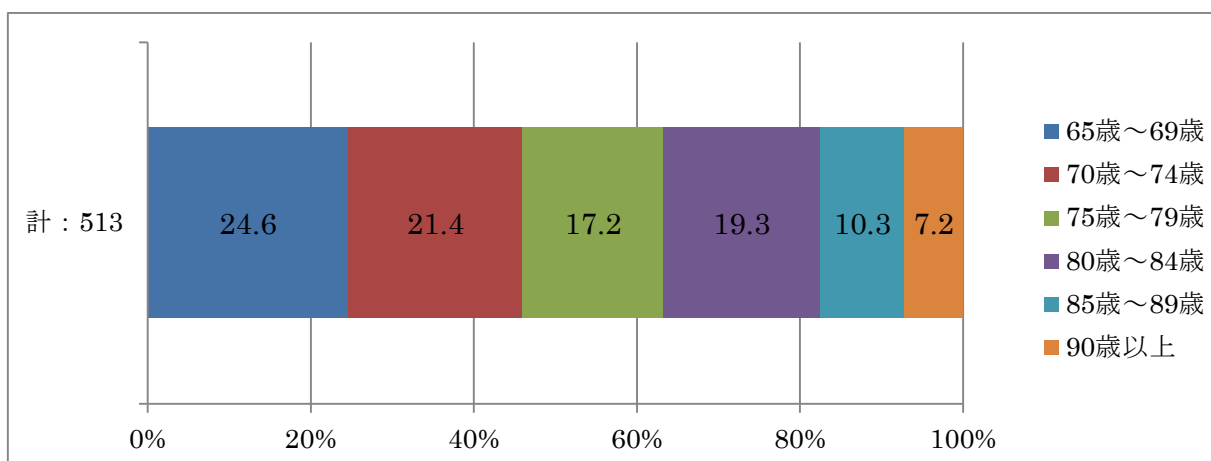


調査票に回答を記入した人は、調査対象者である「あて名のご本人が記入」が 67.8%、「ご家族が記入」が 29.6%となっています。

「その他」は民生委員、施設職員や介護支援専門員となっています。

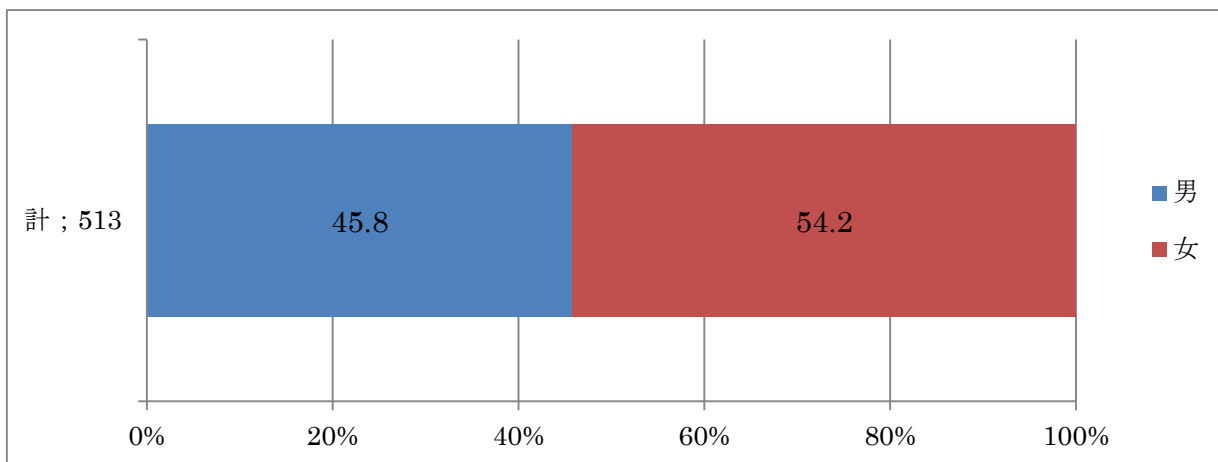
(2) 年齢・性別

年齢



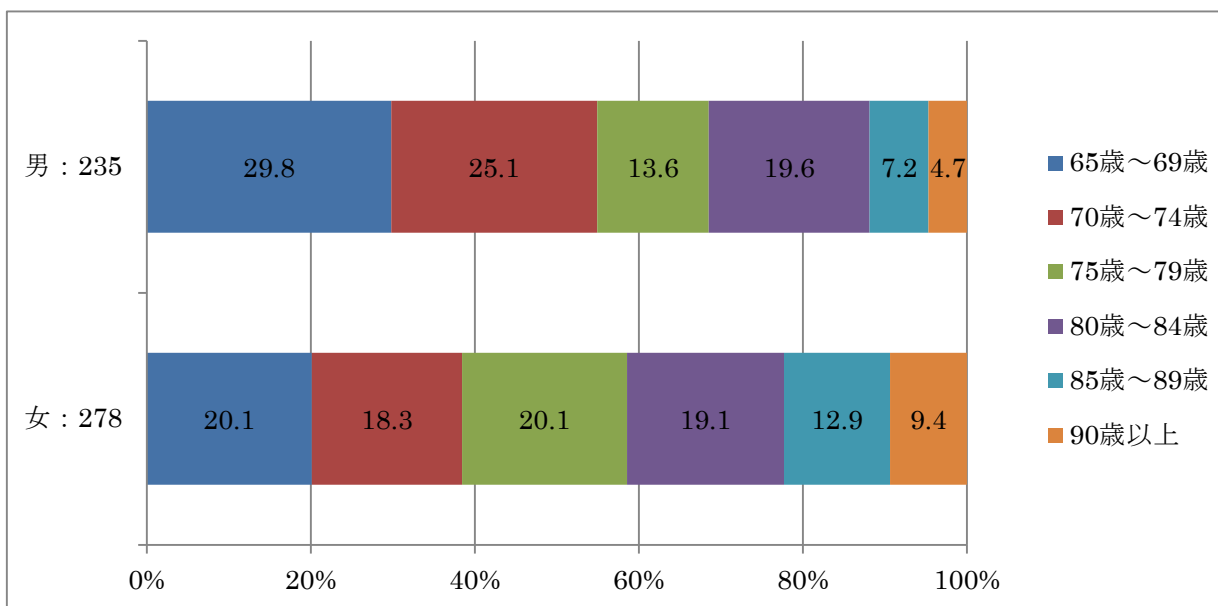
調査回答者の年齢では、「65歳～69歳」が 24.6%と最も多く、次いで「70歳～74歳」(21.4%)、「80歳～84歳」(19.3%)の順となっています。

性別



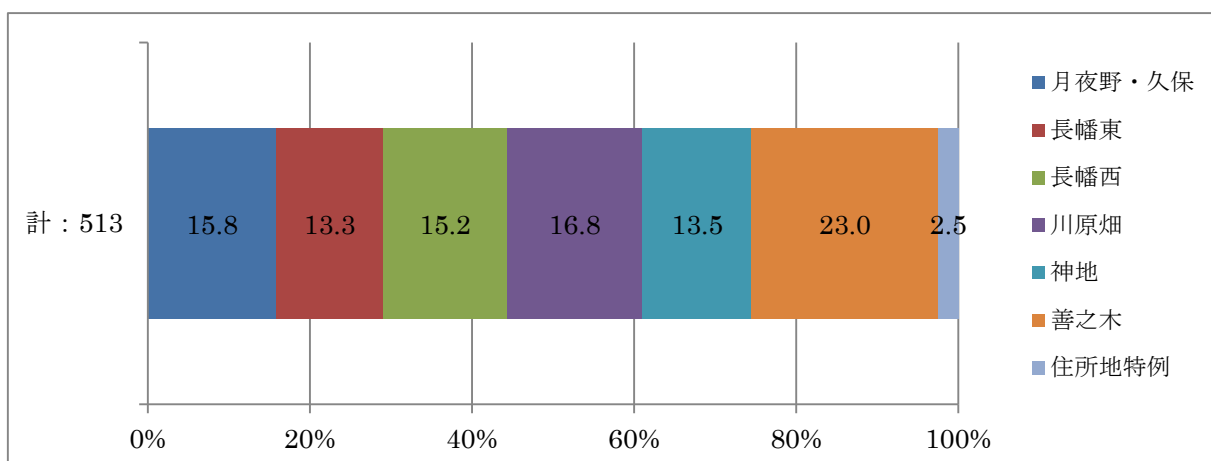
調査回答者の性別では、「男性」が 45.8%、「女性」が 54.2%で、女性が男性を上回っています。

●男女別年齢構成



男女別年齢構成では、「65歳～69歳」「70歳～74歳」「80歳～84歳」で男性が女性を上回っており、女性に比べて、前期高齢者(65歳から74歳)の割合が高くなっています。

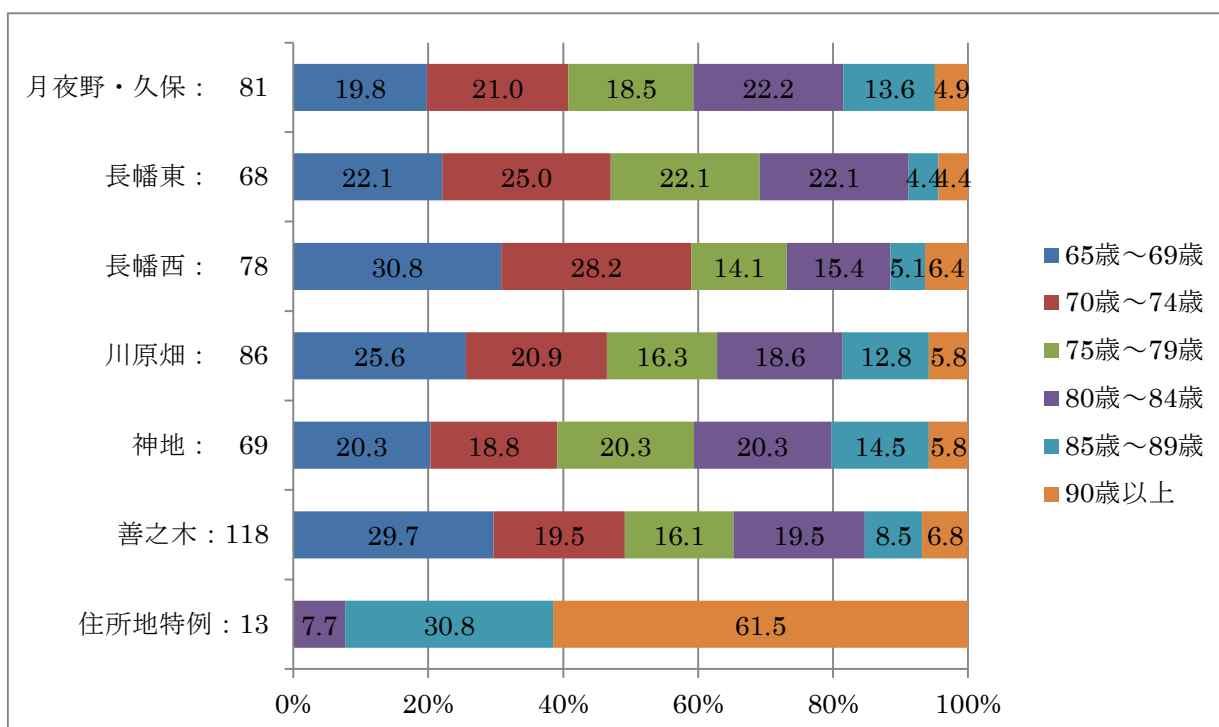
(3) 地区別



調査回答者の居住地域では「善之木」が23.0%で最も多く、次いで「川原畑」(16.8%)、「月夜野・久保」(15.8%)「長幡西」(15.2%)となっています。

また、地区別に年齢構成をみると、下記のとおりとなっています。

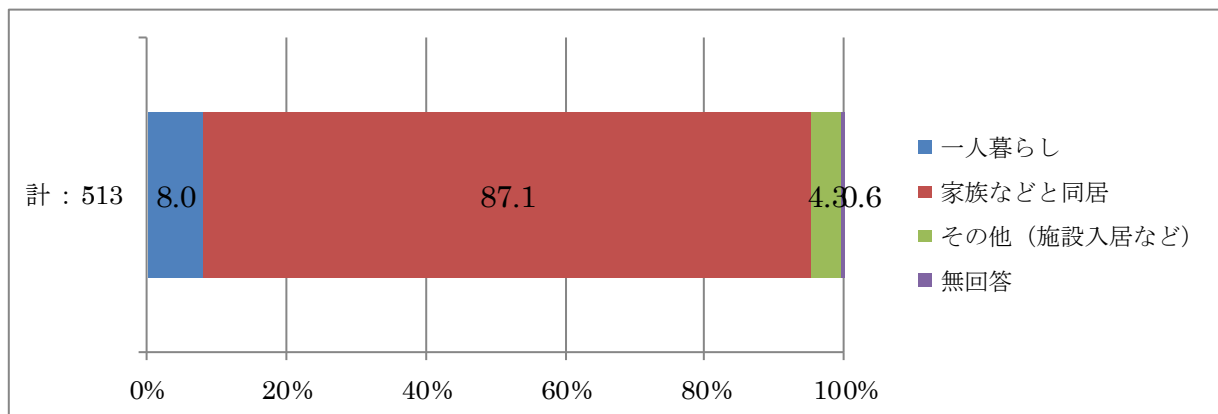
●地区別年齢構成



2. 設問1 あなたのご家族や生活状況について

問1. 家族構成

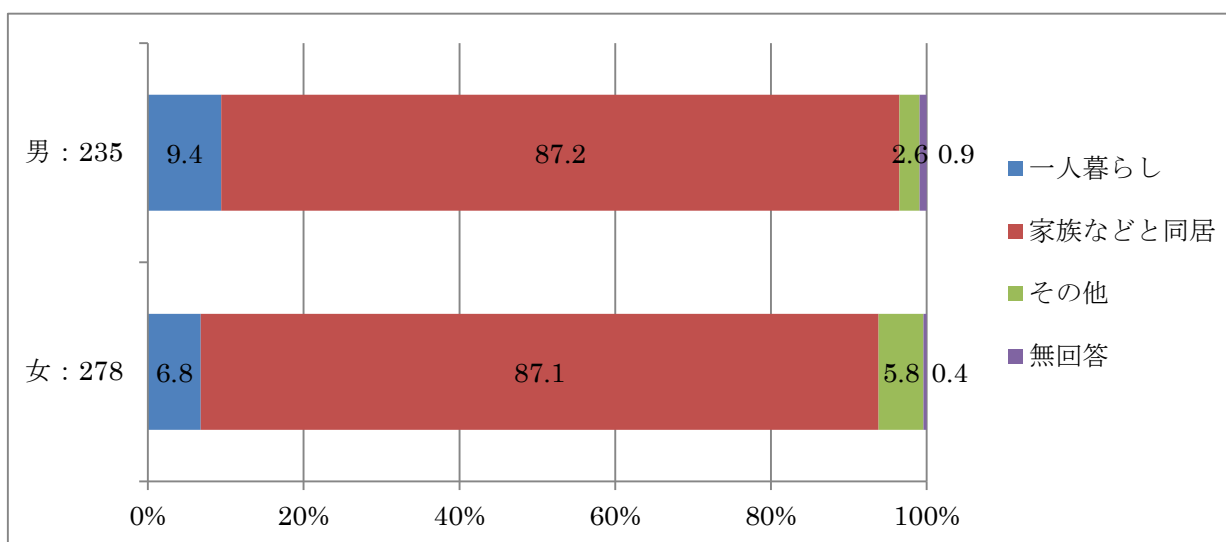
家族構成をお教えてください



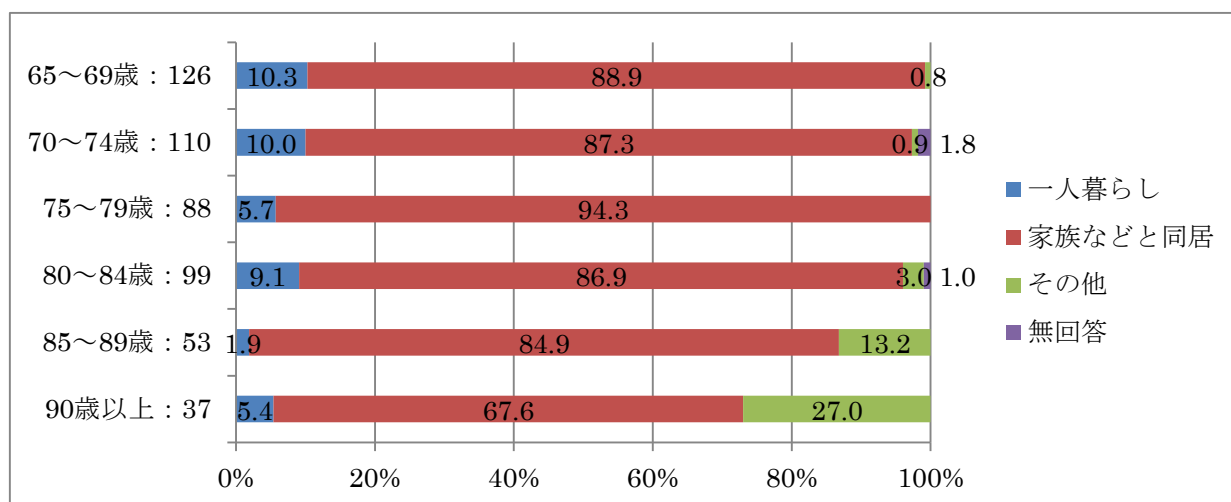
家族構成では「家族など同居」が約9割を占めています。また「一人暮らし」の回答は8.0%となっています。

また、男女別に家族構成をみると、男性で「一人暮らし」の割合が9.4%と女性（6.8%）を超えています。

●男女別家族構成



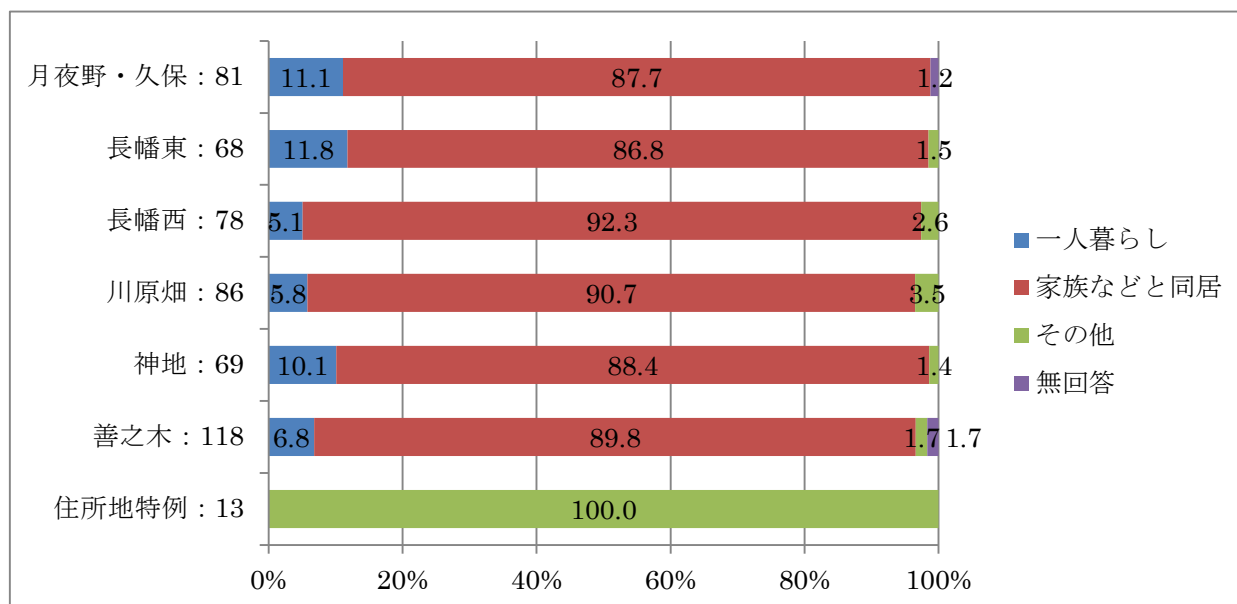
●年齢別家族構成



年齢別では、「65～69歳」の「一人暮らし」の割合が10.3%、次いで「70～74歳」(10.0%)、「80～84歳」(9.1%)の順となっています。

地区別に家族構成をみると、「月夜野・久保」(11.1%)、「長幡東」(11.8%)、「神地」(10.1%)で「一人暮らし」が10%を超える高い割合となっています。

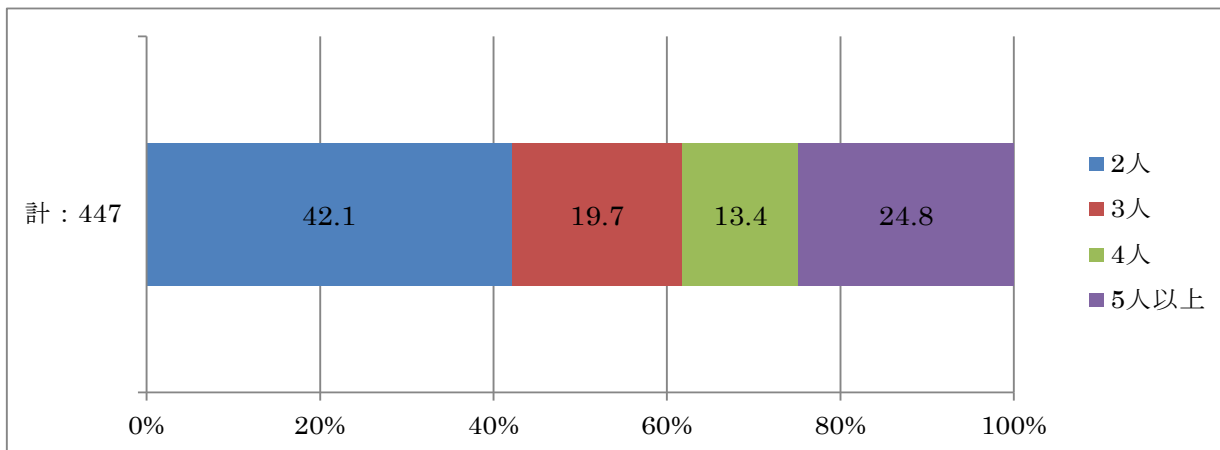
●地区別家族構成



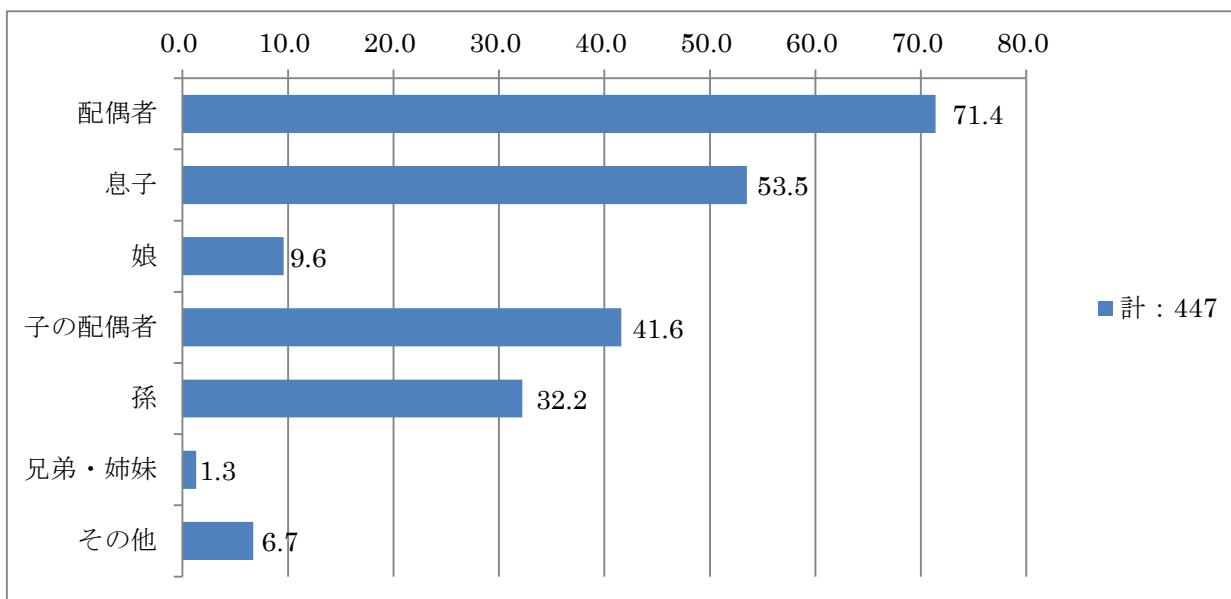
問 1-1. 家族の数

問 1 で「2. 家族など同居（二世帯住宅を含む）」とお答えの方におたずねします。ご自分を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか（いくつでも）

【同居人数】



【同居者】

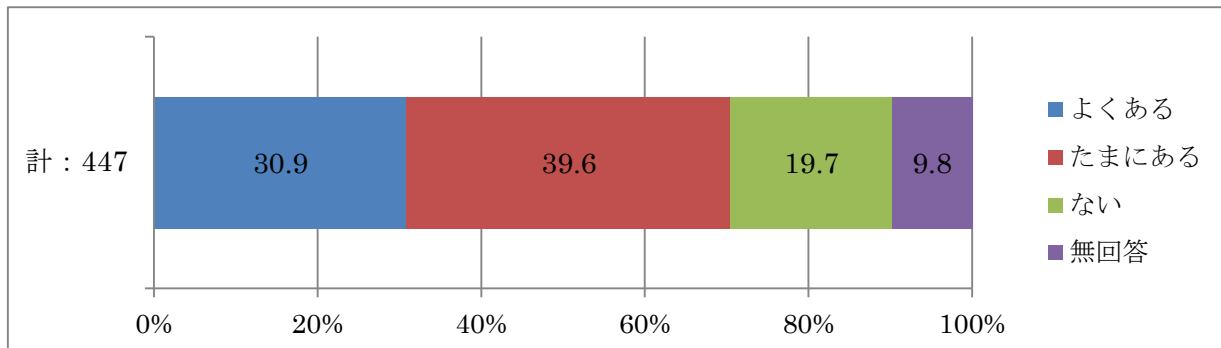


同居人数では「2人」が42.1%と最も多く、次いで「5人以上」(24.8%)、「3人」(19.7%)の順となっています。

同居者では「配偶者」が71.4%と最も多く、次いで「息子」(53.5%)、「子の配偶者」(41.6%)、「孫」(32.2%)の順となっています。

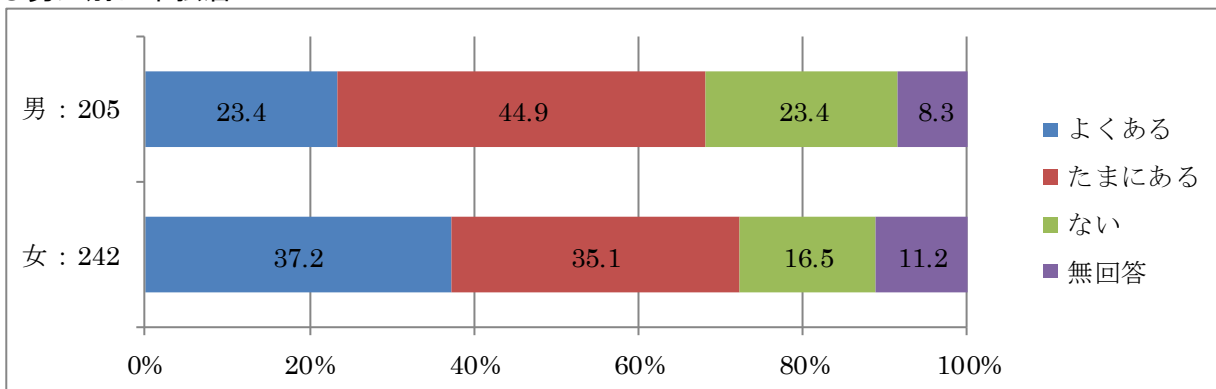
問 1-2. 日中独居

問 1 で「2. 家族などと同居（二世帯住宅を含む）」とお答えの方におたずねします。日中、一人になることがありますか

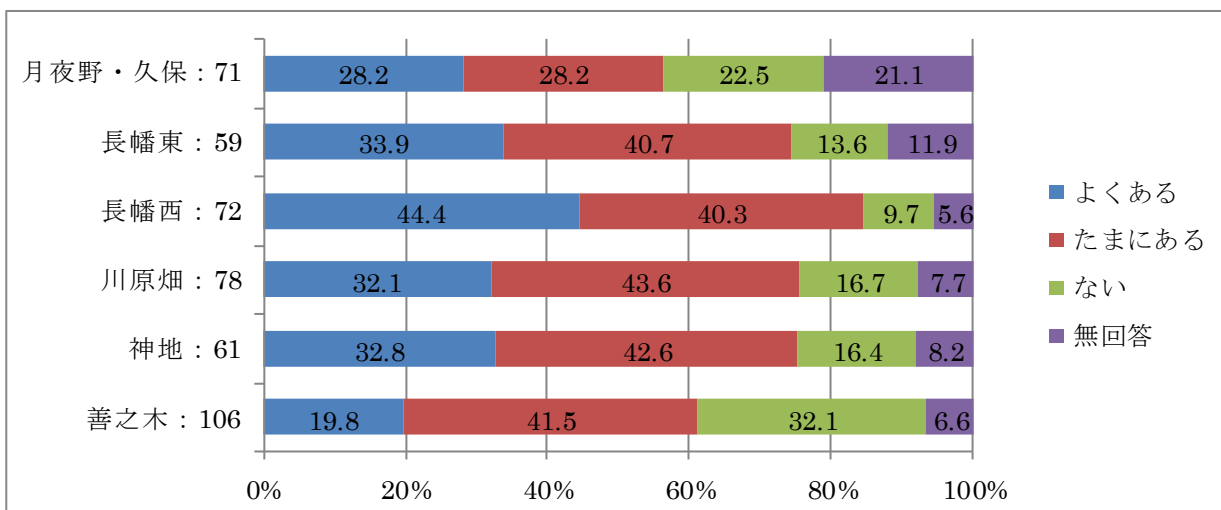


単身以外の世帯において、日中に高齢者 1 人だけになってしまう、いわゆる「日中独居」では、「よくある」(30.9%)と「たまにある」(39.6%)を合わせると 70%以上を占めています。地区別では、「長幡西」で「日中独居」が、およそ 85%の割合となっています。

●男女別日中独居

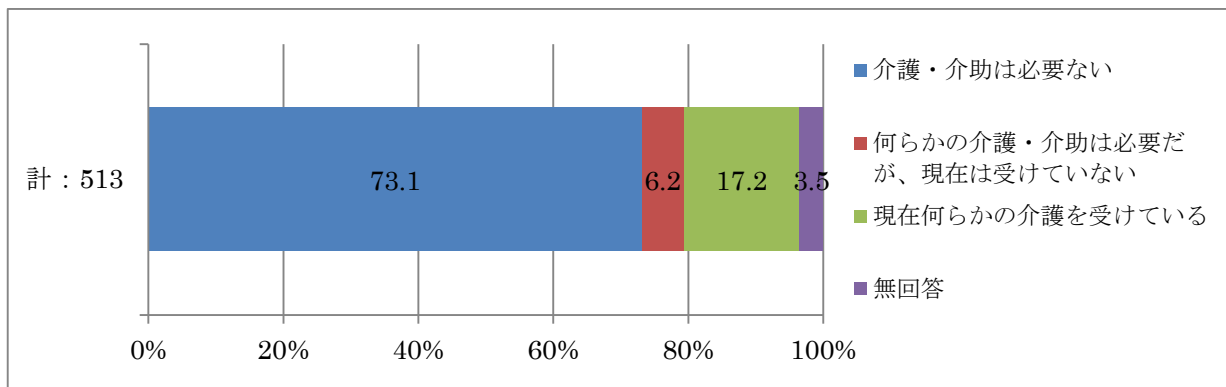


●地区別日中独居



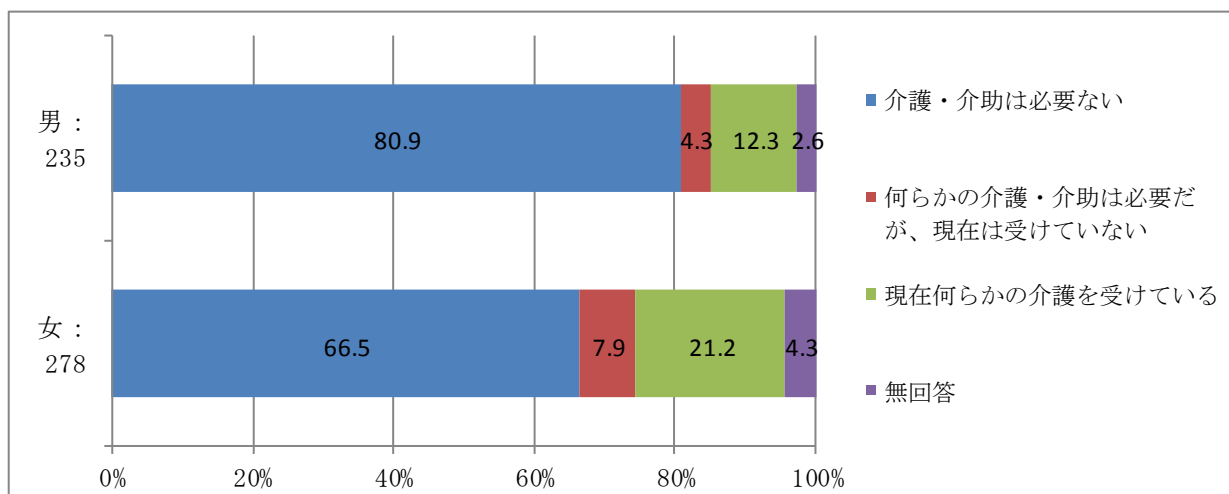
問2. 介護・介助の必要性

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

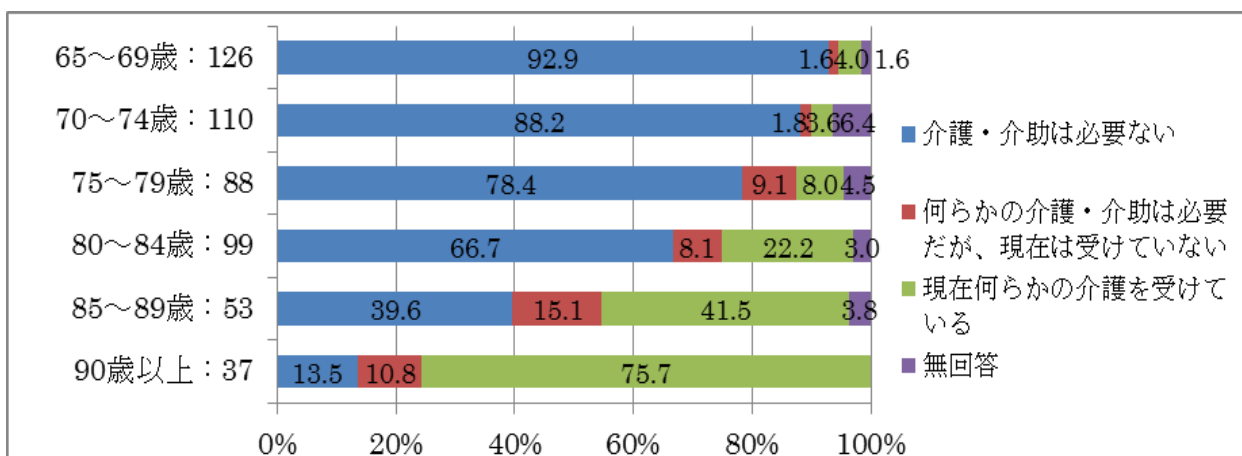


日常生活での介護・介助の必要性では、「介護・介助は必要ない」が7割以上を占めています。男女別では、8割以上の男性が「介護・介助は必要ない」と回答している一方で、女性の約8%が「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答しています。

●男女別介護・介助の必要性



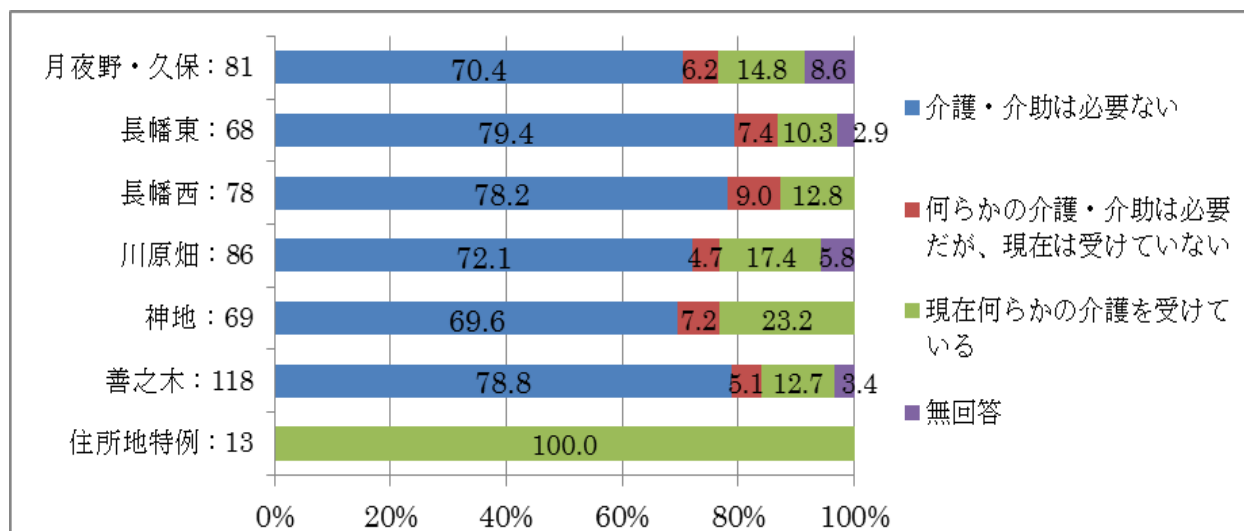
●年齢別介護・介助の必要性



年齢別に日常生活での介護・介助の必要性を見てみると、「85～89歳」で「介護・介助は必要ない」が4割となり、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在何らかの介護を受けている」が5割を超え、「90歳以上」では、85%を超える方が介護・介助を必要としています。

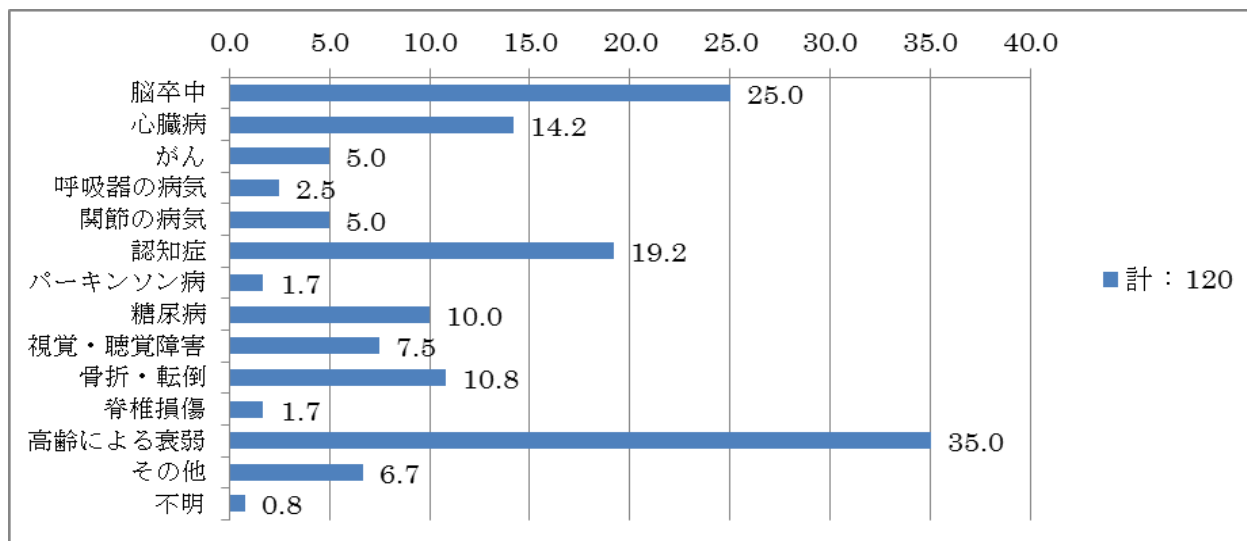
地区別では、「介護・介助は必要ない」の割合は「長幡東」が79.4%で最も多く、次いで「善之木」(78.8%)、「長幡西」(78.2%)の順となっています。

●地区別介護・介助の必要性



問 2-1. 介護・介助が必要となった原因

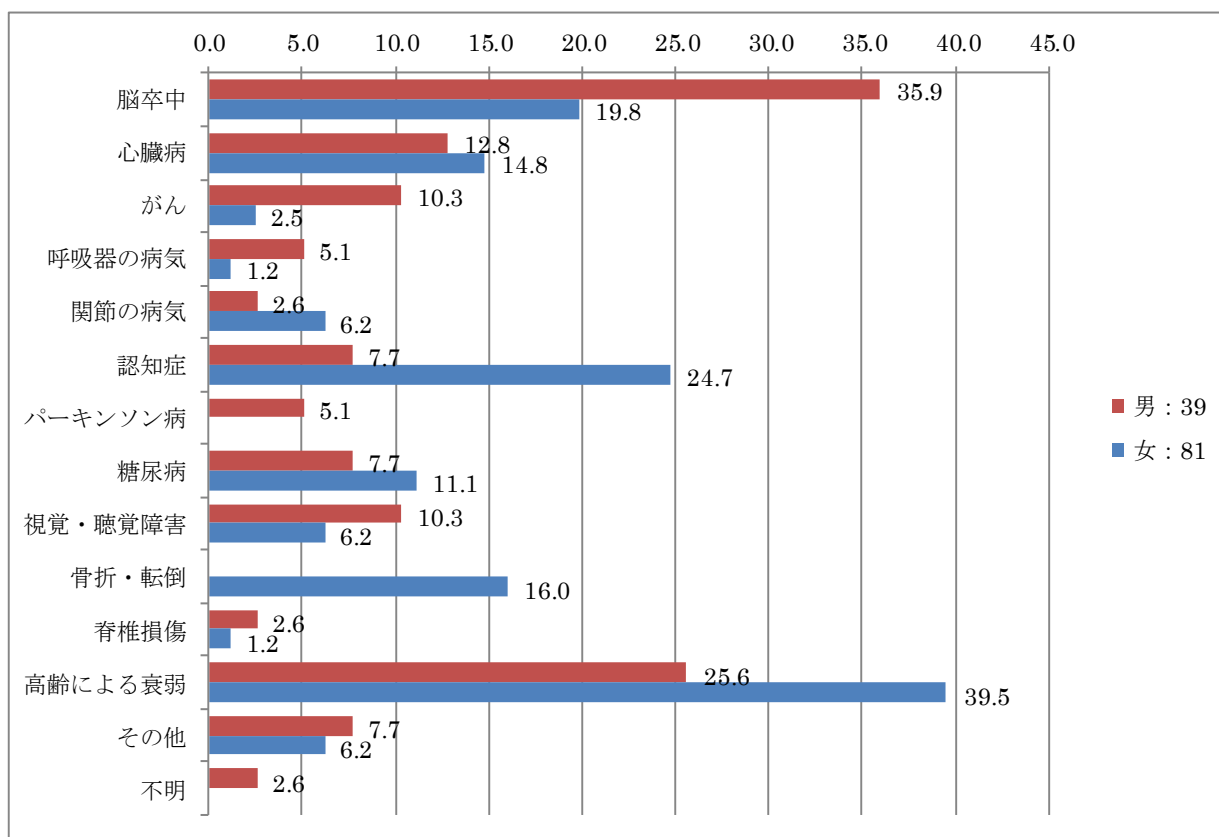
問 2 で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「3. 現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方にお聞きします。介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも)



介護・介助が必要になった主な理由では、「高齢による衰弱」が 35.0%と最も多く、次いで「脳卒中」(25.0%)、「認知症」(19.2%)、「心臓病」(14.2) となっています。

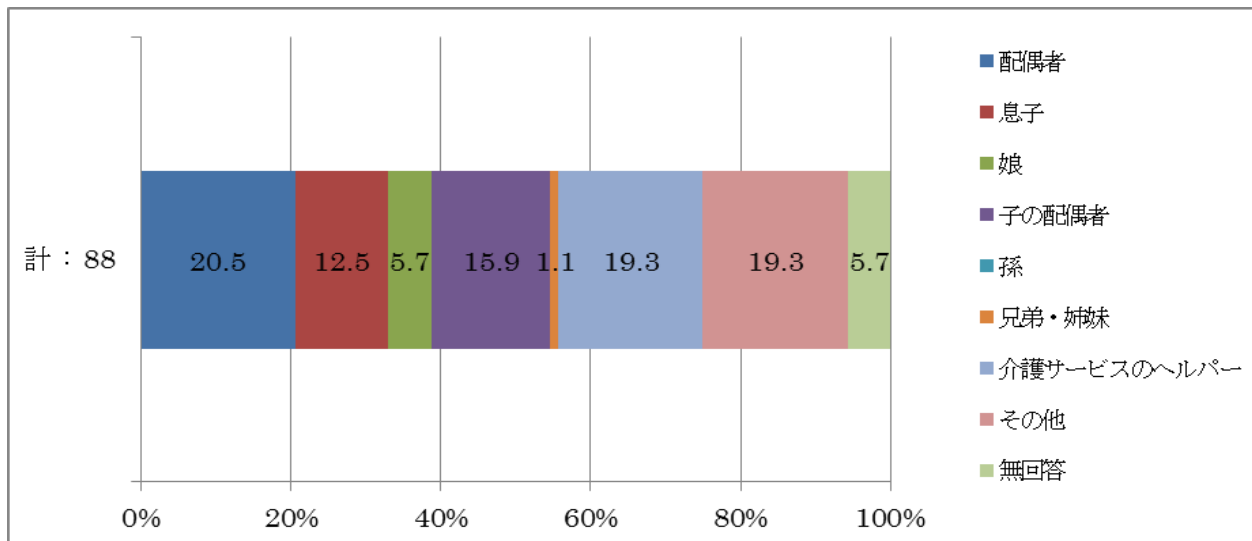
男女別に介護・介助が必要になった主な理由をみると、男性では「脳卒中」が 35.9%と最も多く、次いで「高齢による衰弱」(25.6%)、「心臓病」(12.8%)、「がん」及び「視覚・聴覚障害」(10.3%) の順となっています。また、女性では「高齢による衰弱」が 39.5%と最も多く、「認知症」(24.7%)、「脳卒中」(19.8%)、「骨折・転倒」(16.0%)、「心臓病」(14.8%) の順となっています。

●男女別介護・介助が必要となった原因



問 2-2. 主な介護者

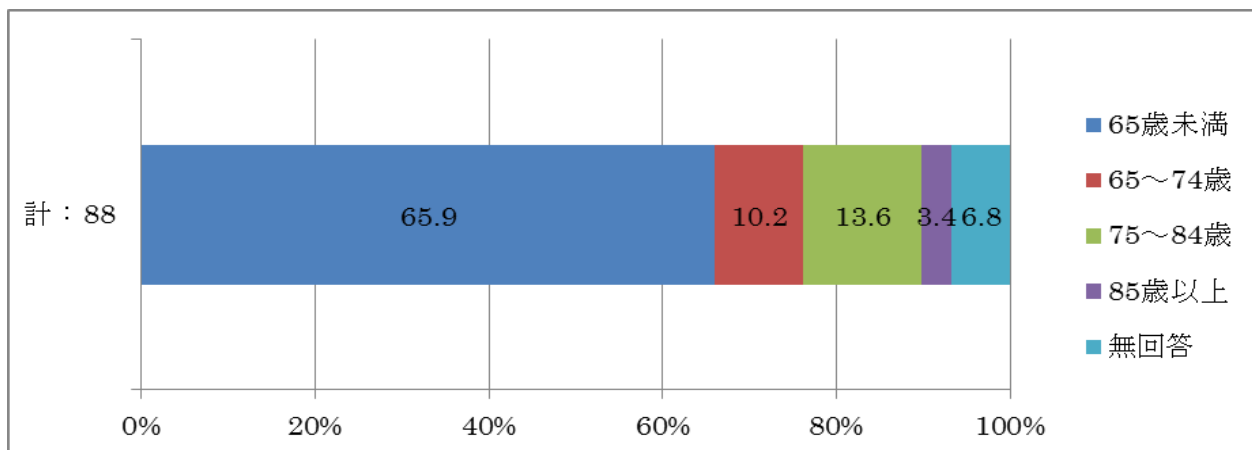
問 2 で「3. 現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方にお聞きします。主にどなたの介護・介助を受けていますか



介護・介助者では、「配偶者」が 20.5% で最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー」、「その他」がそれぞれ 19.3% で、「子の配偶者」(15.9%)、「息子」(12.5%) の順となっています。また、「その他」の内容としては、「施設職員」となっています。

問 2-3. 主な介護者・介助者の年齢

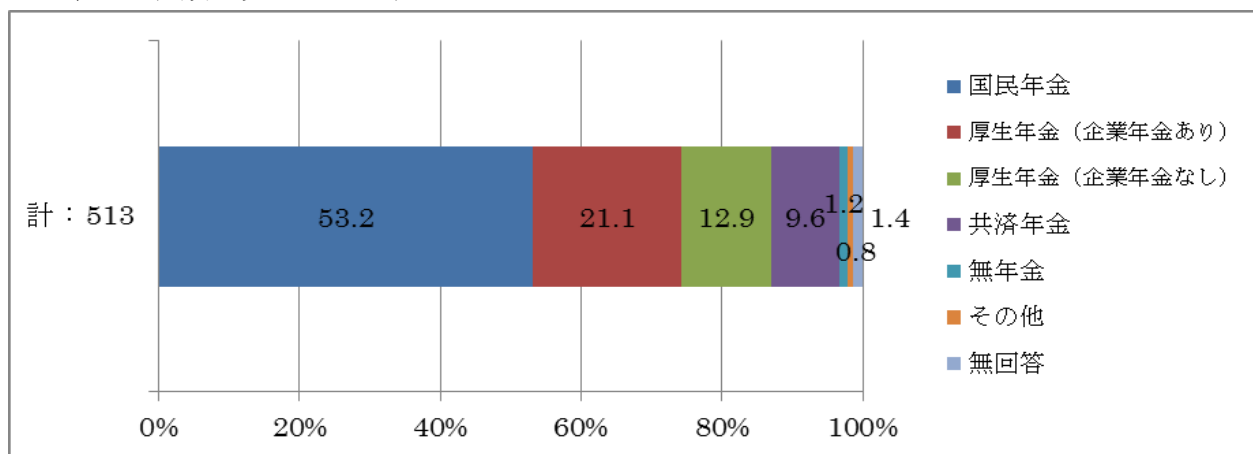
問 2 で「3. 現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方にお聞きします。主に介護・介助している方の年齢は、次のどれですか



介護・介助者の年齢では、「65歳未満」が 6 割以上を占めていますが、65 歳以上の割合も 27.2% と高いことがうかがえます。

問3. 年金の種類

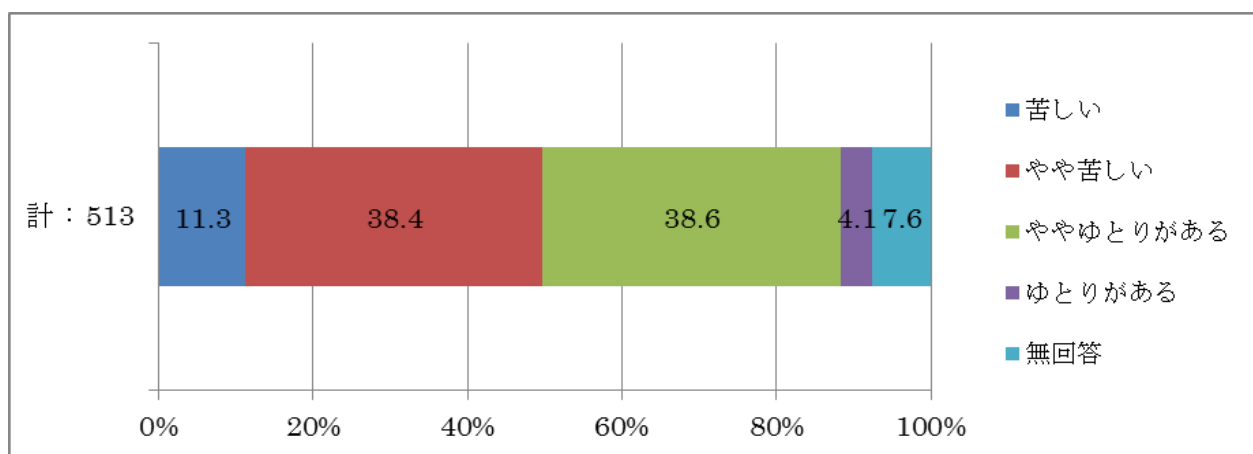
年金の種類は次のどれですか



受給されている主な年金では、「国民年金」が約5割を占めています。

問4. 現在の暮らしの経済的状況

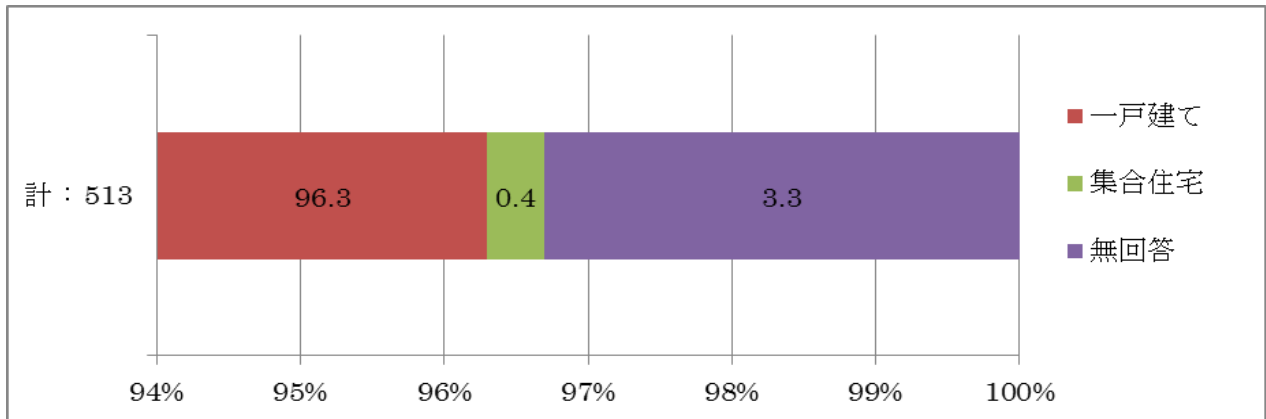
現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか



暮らしの経済状況では、苦しい（「苦しい」（11.3%）と「やや苦しい」（38.4%））と回答した割合が約5割を占めています。

問5. 住居形態

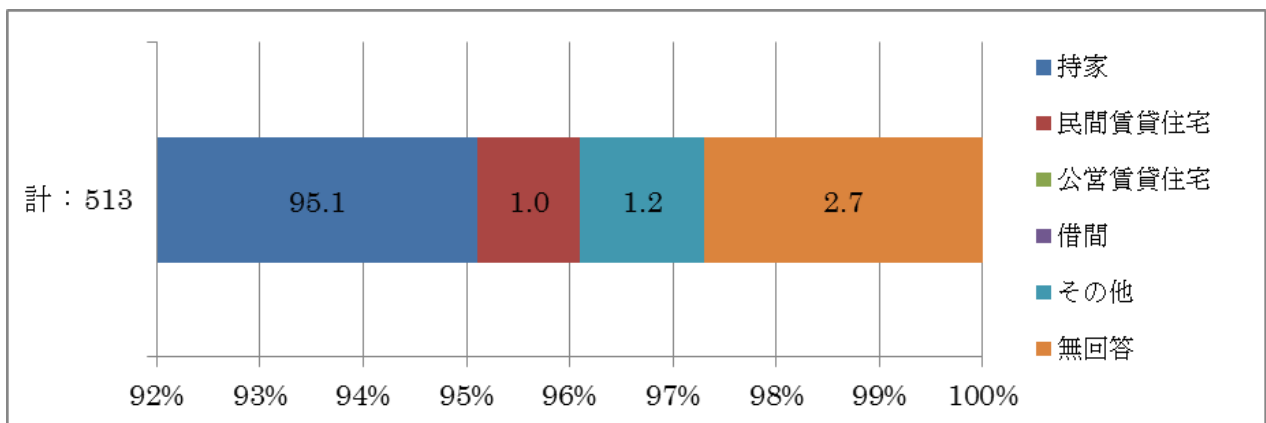
お住まいは、一戸建てまたは集合のどちらですか



居住環境では、ほぼすべてが「一戸建て」となっています。

問6. 住居の所有関係

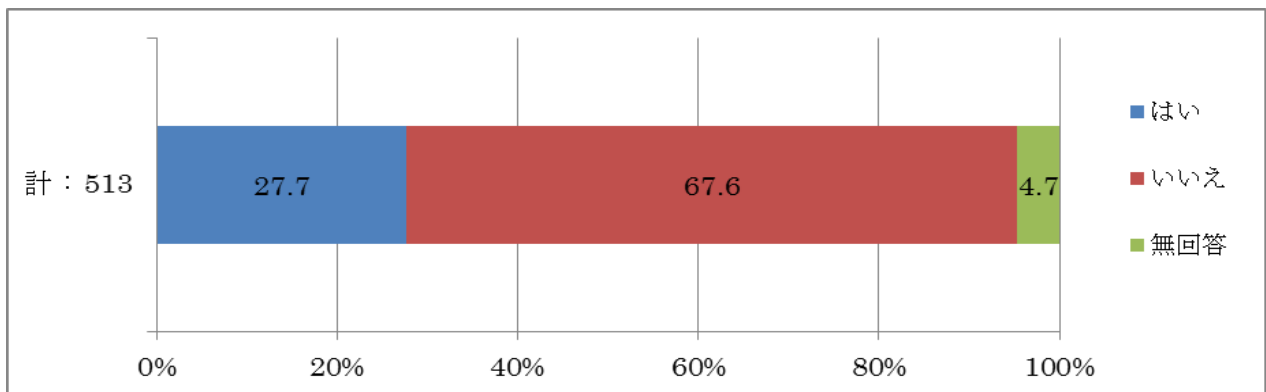
お住まいは、次のどれにあたりますか



住居の所有関係では、ほぼすべてが「持家」となっています。

問7. 居住階層（2階以上）

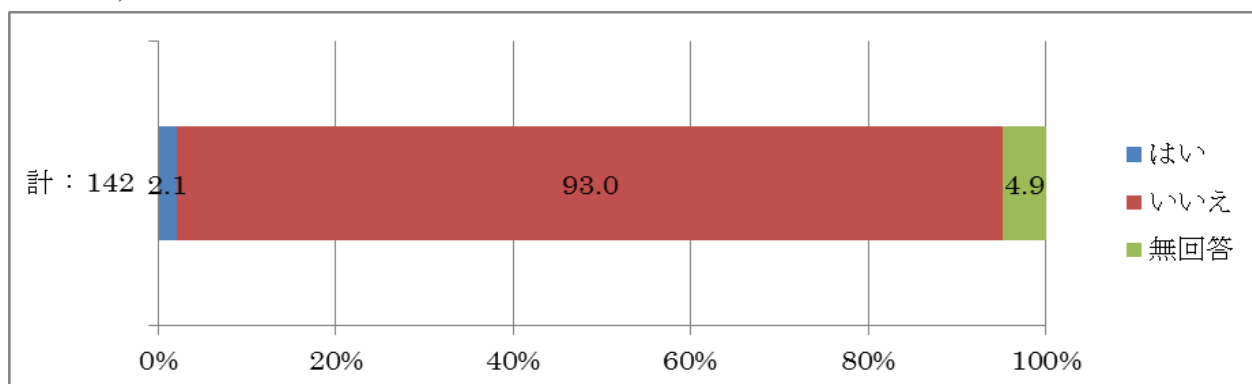
お住まい（主に生活する部屋）は2階以上にありますか



住んでいる建物または部屋が2階以上にあると回答したのは約3割です。

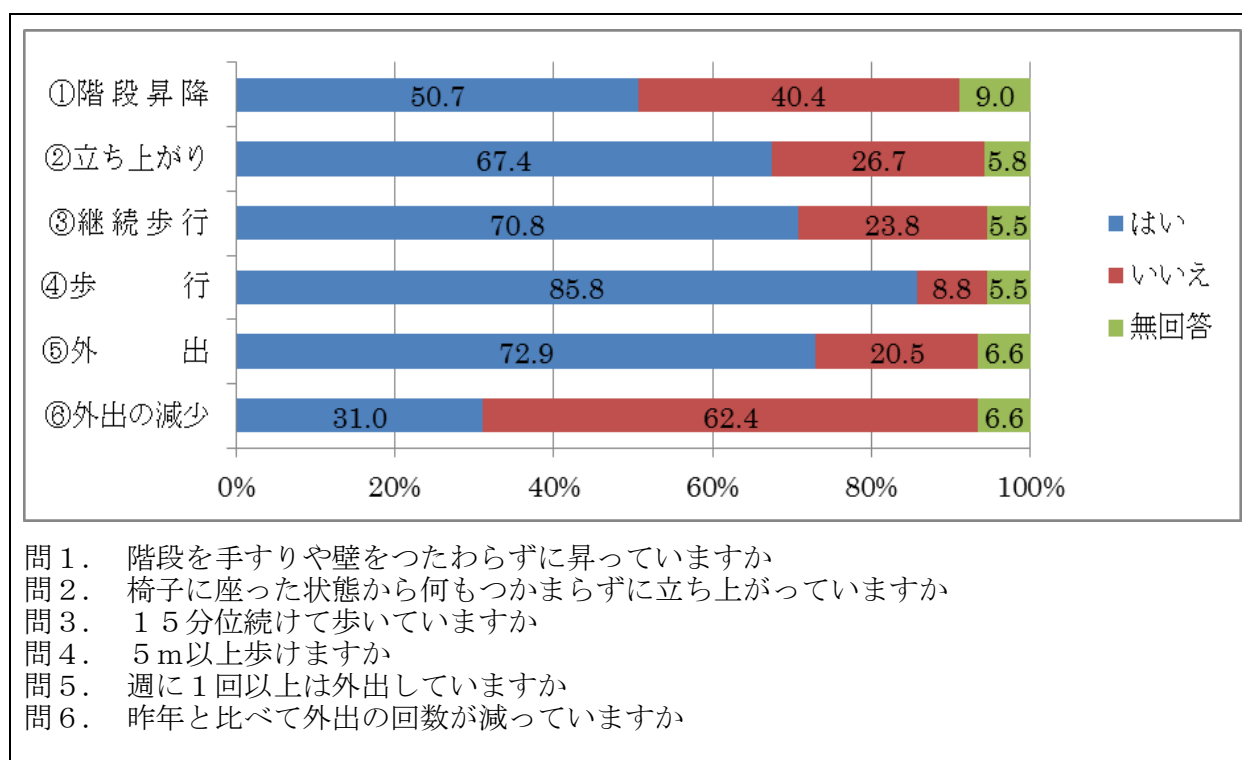
問 7-1. エレベーターの設置

問7で「1. はい」と答えた方におたずねします。お住まいにエレベーターは設置されていますか



2階以上の建物に住んでいる人にエレベーター設置の有無をたずねたところ、約9割以上が設置されていません。

3. 設問2 運動や閉じこもりについて

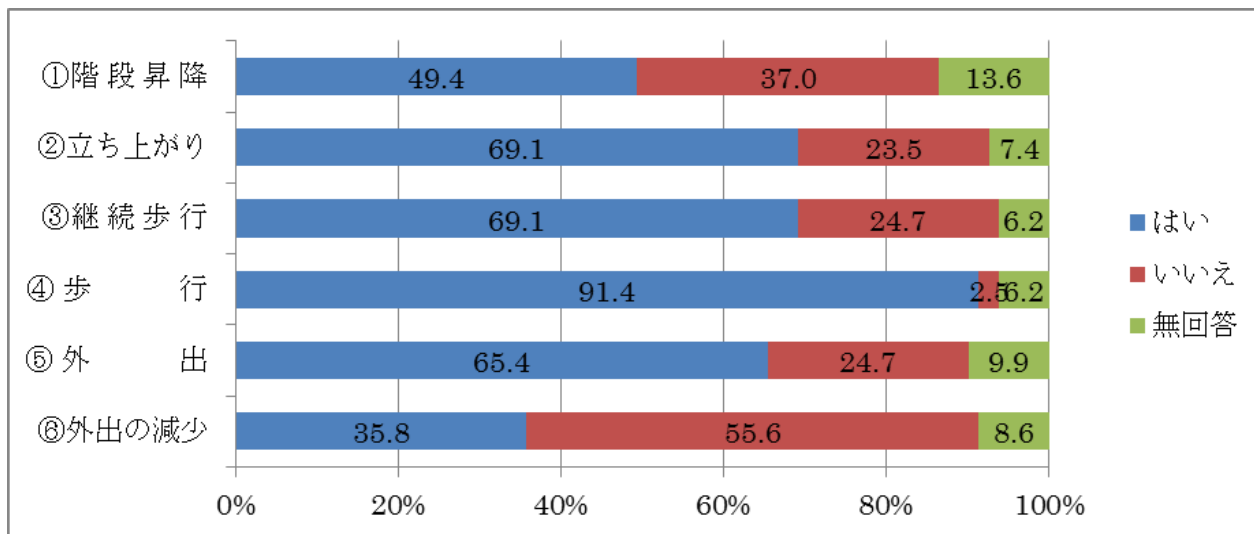


日常生活動作についての問いでは、「④歩行」で回答者の85.8%が「はい」と回答し、自立度の高い人が多い一方で、「①階段昇降」では「いいえ」の割合が高く、自立度の低い人が比較的多いことがわかります。また、3割以上の方が昨年と比べて外出の回数が減っています。

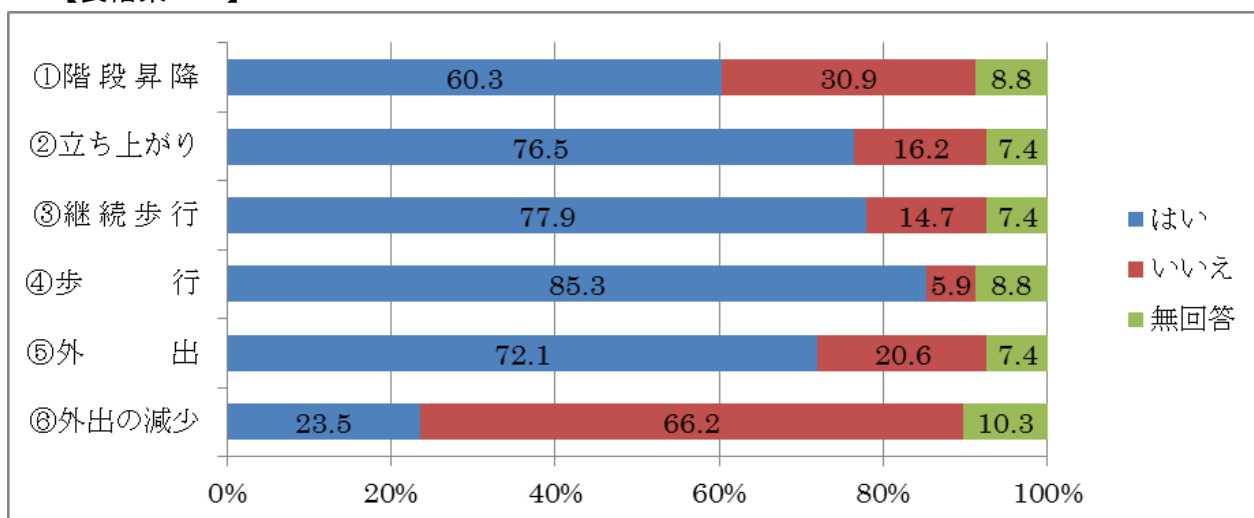
地区別で日常生活動作を比較すると、「長幡東」、「長幡西」は自立度が高く、「神地」、「川原畑」で自立度の低い方が比較的多いことがわかります。

● 地区別日常の生活動作

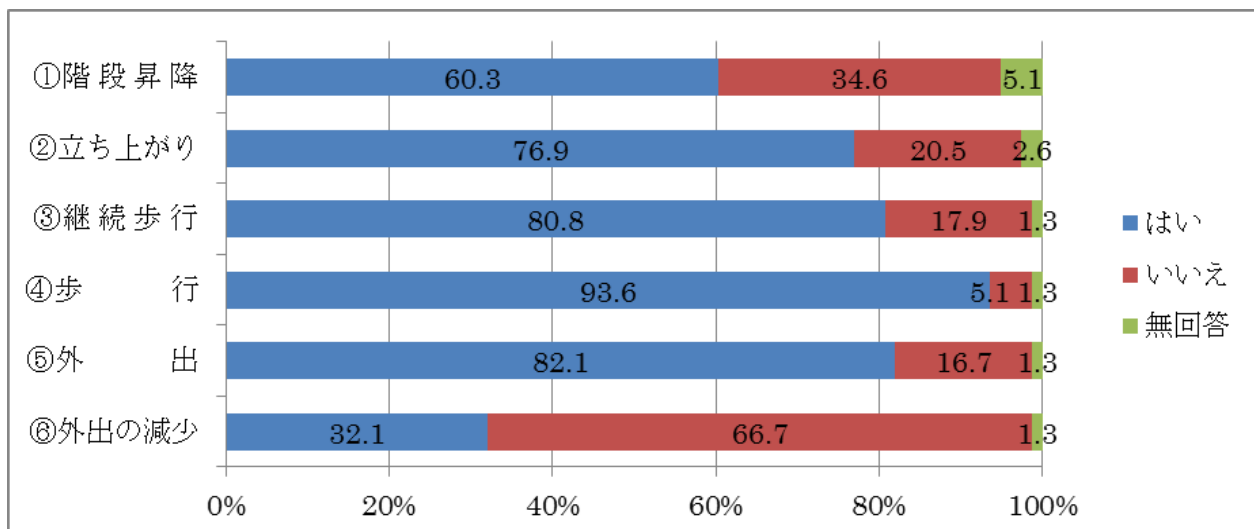
【月夜野・久保：81】



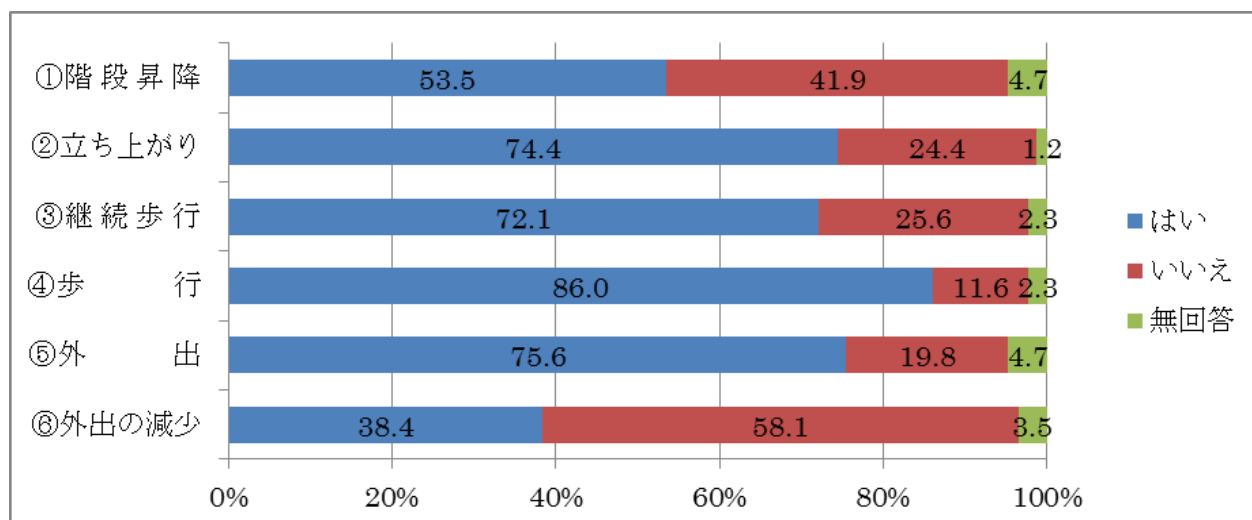
【長幡東：68】



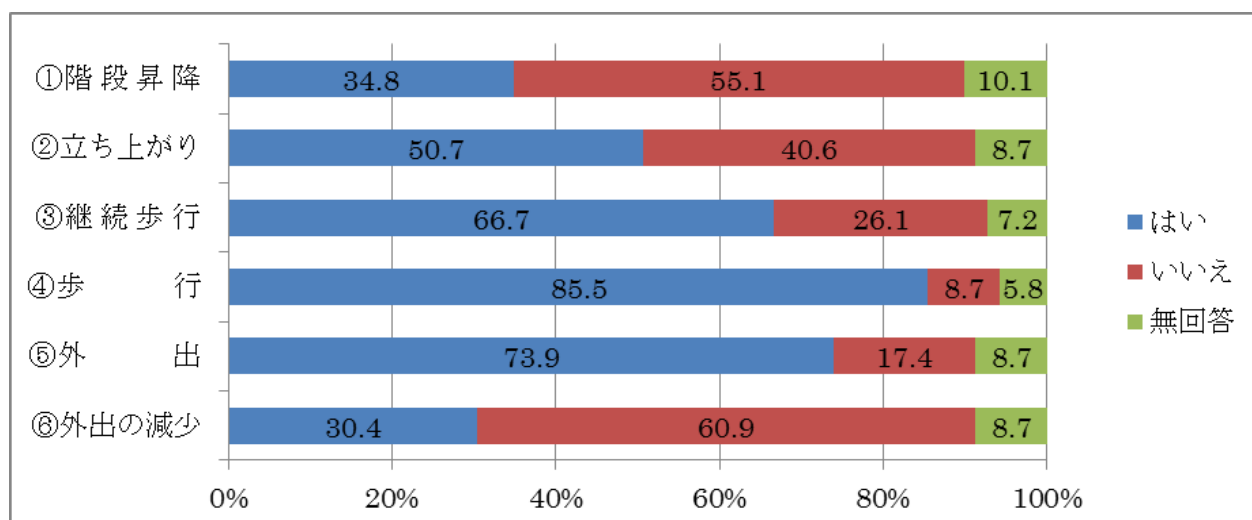
【長幡西：78】



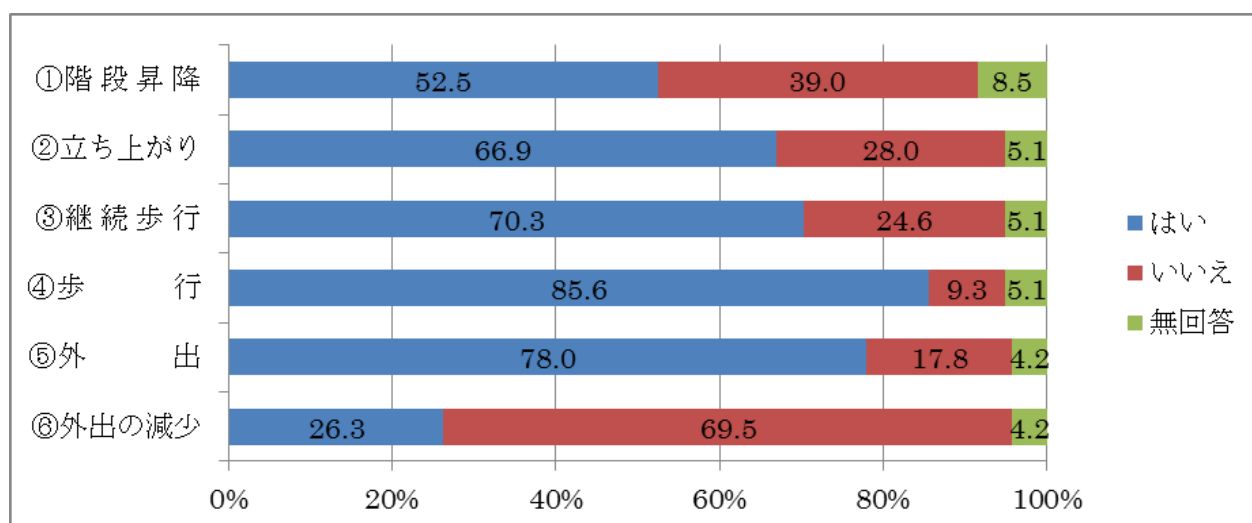
【川原畑：86】



【神地：69】

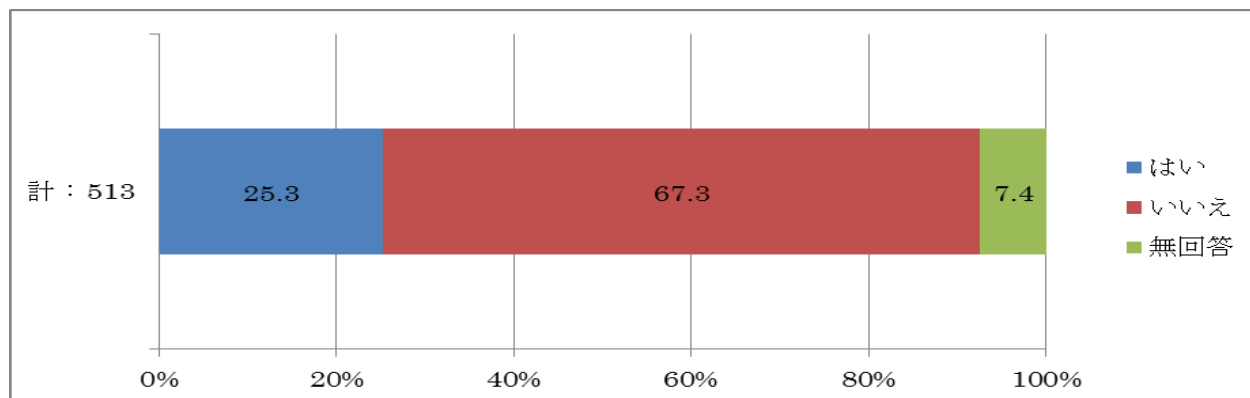


【善之木：118】



問7. 外出を控えている

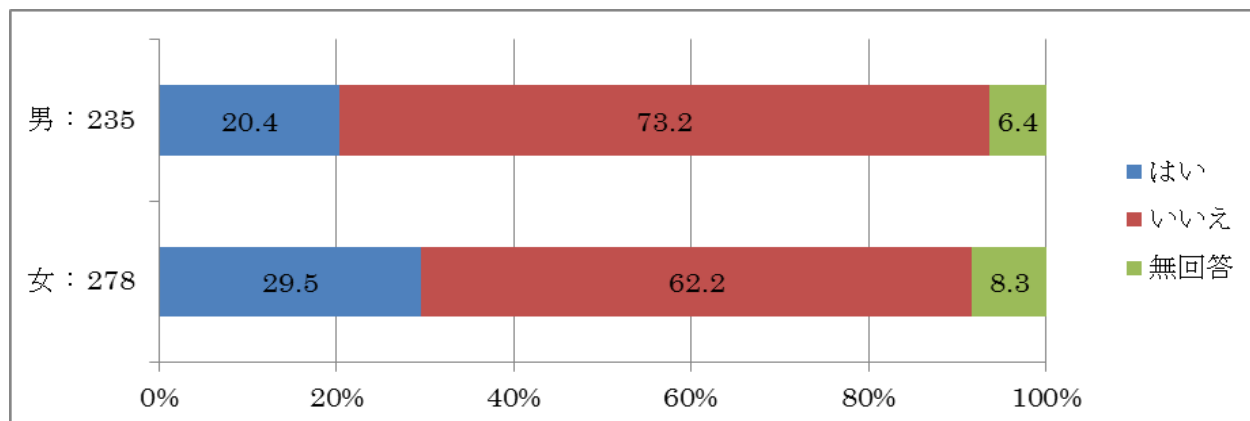
外出を控えていますか



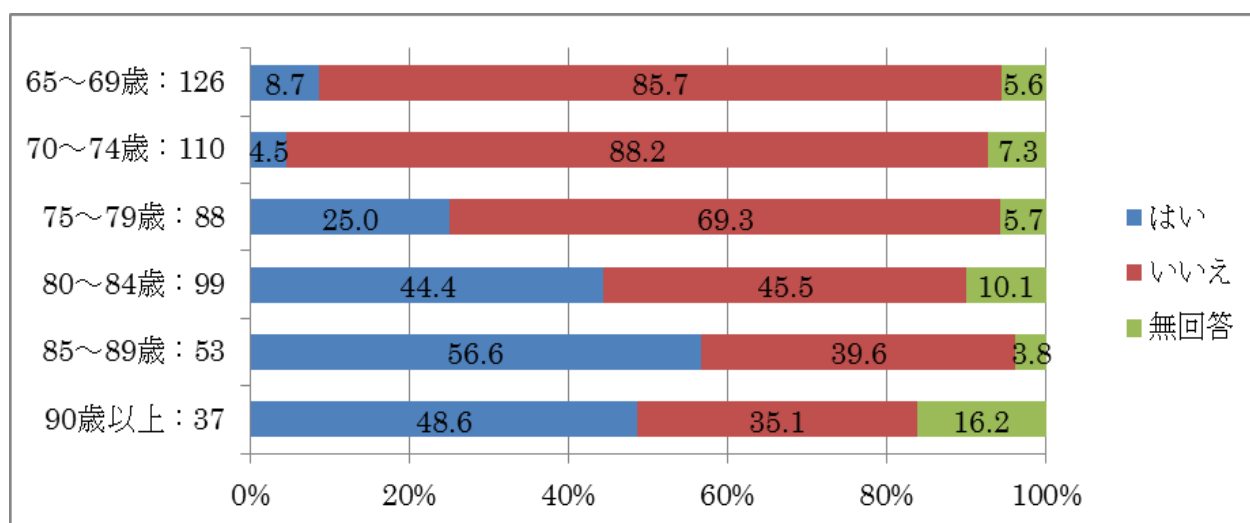
外出を控えているという人は全体の約25%です。

また、男女別では約3割の女性が外出を控えており、年齢別では80歳以上になると5割の方が外出を控えています。地区別では「川原畑」で外出を控えている方の割合が高くなっています。

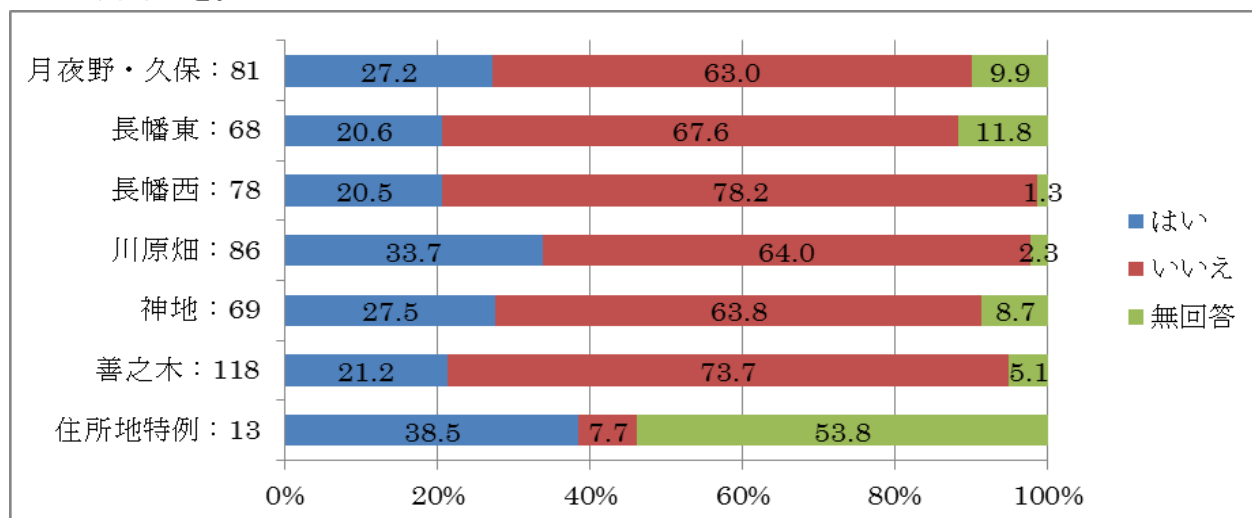
●男女別外出を控えている



●年齢別外出を控えている

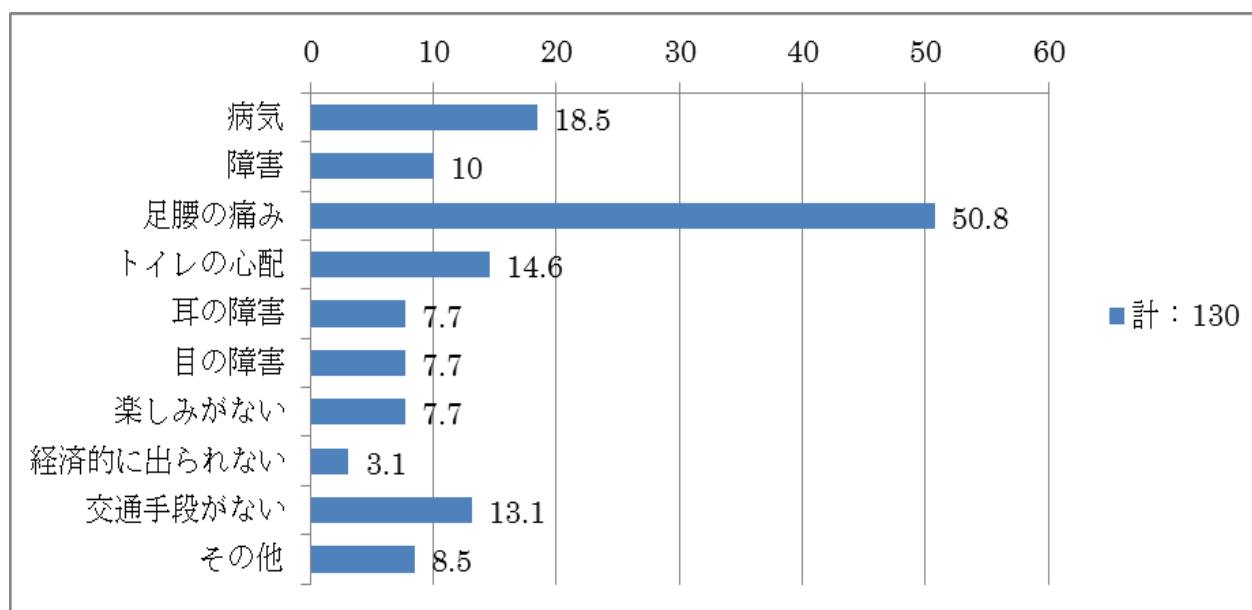


●地区別外出を控えている



問 7-1. 外出を控えている理由

問 7 で「1. はい」とお答えの方にお聞きします。外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

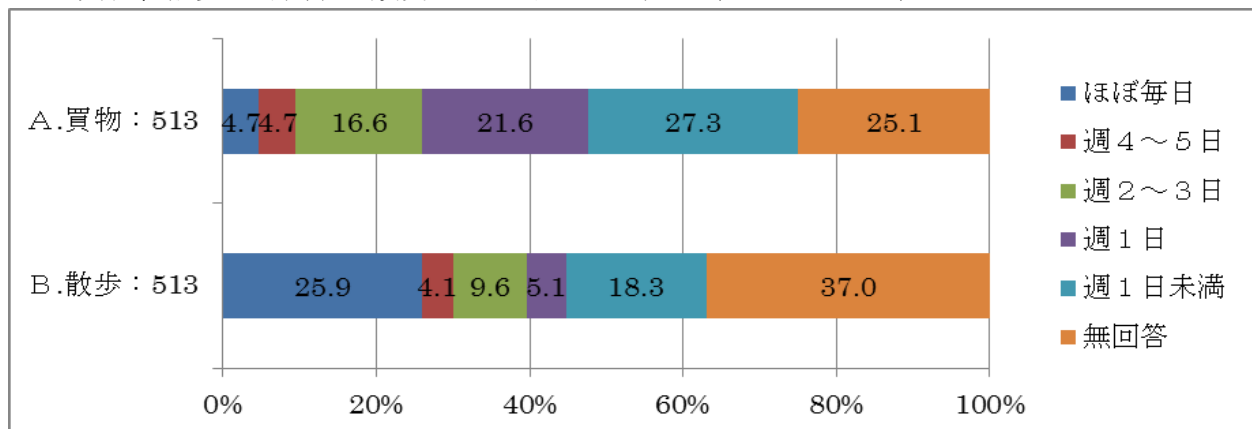


外出を控えている理由としては「足腰などの痛み」が 50.8% で最も多くなっています。

また、それ以外では「病気」(18.5%)、「トイレの心配」(14.6%)、「交通手段がない」(13.1%) などと続いています。その他には「入院・入所中」のほか、「認知症」などとなっています。

問8. 買物・散歩の外出頻度

買物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか（それぞれ1つ）

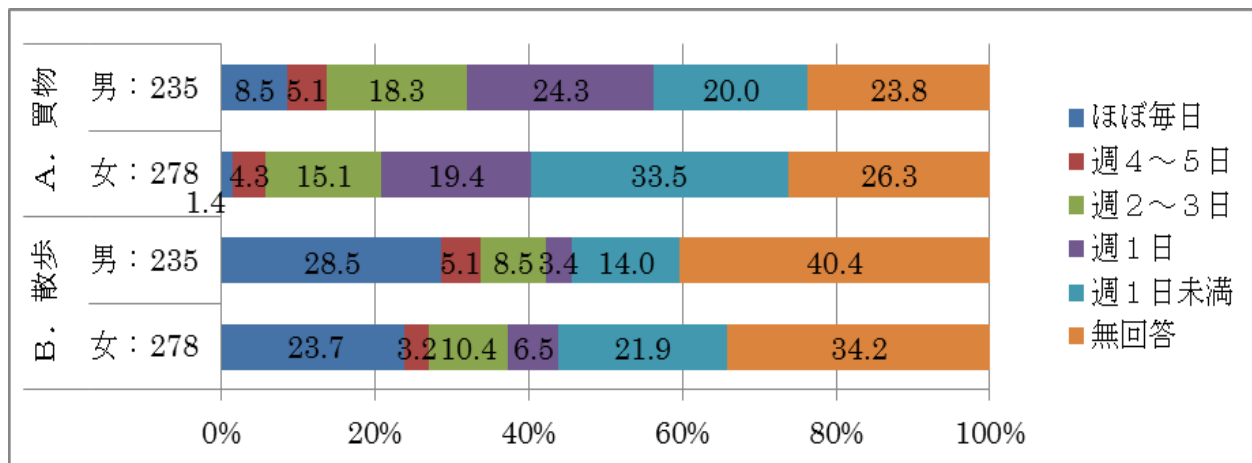


「A. 買物」では「週1日未満」(27.3%)、「週1日」(21.6%)、「週2～3日」(16.6%)の順、「B. 散歩」では「ほぼ毎日」(25.9%)、「週1日未満」(18.3%)、「週2～3日」(9.6%)の順となっています。

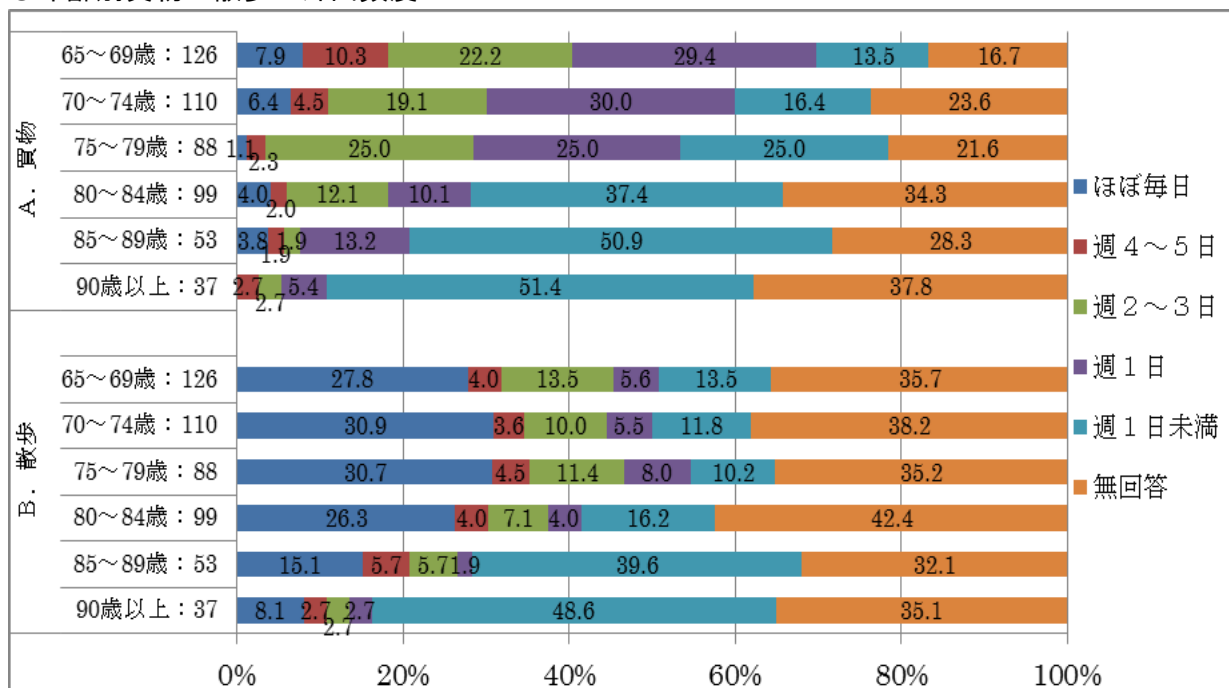
男女別では、56.2%の男性が週1日以上「買物」に外出するのに対し、女性は40.2%と低くなっています。

自治会別では、「長幡西」で60.2%が「買物」を週1回以上するのに対し、「久保・月夜野」は、34.6%と低くなっています。また、「長幡西」では、ほぼ毎日散歩をしている方が37.2%に対して、「神地」では17.4%と低くなっています。

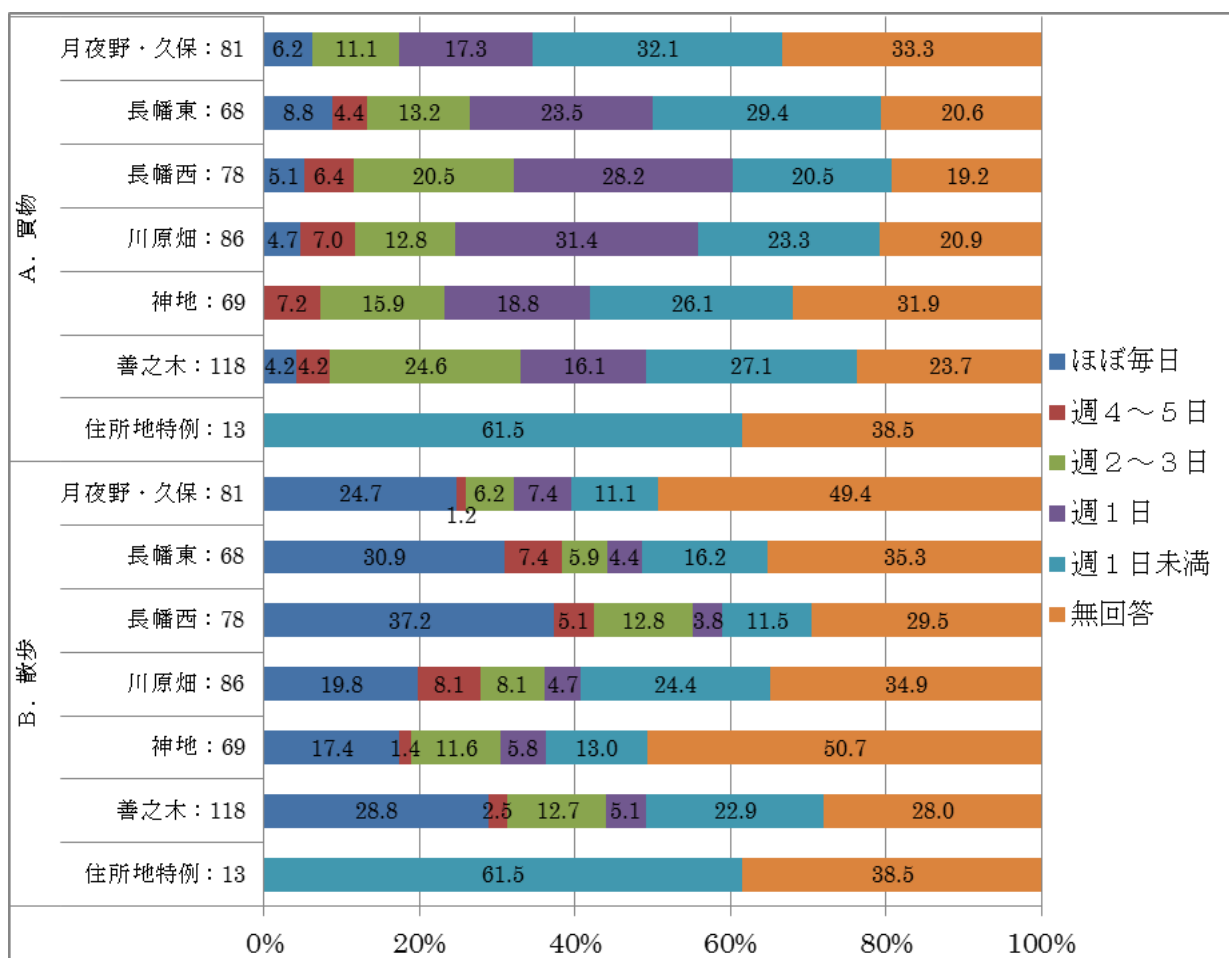
●男女別買物・散歩の外出頻度



●年齢別買物・散歩の外出頻度

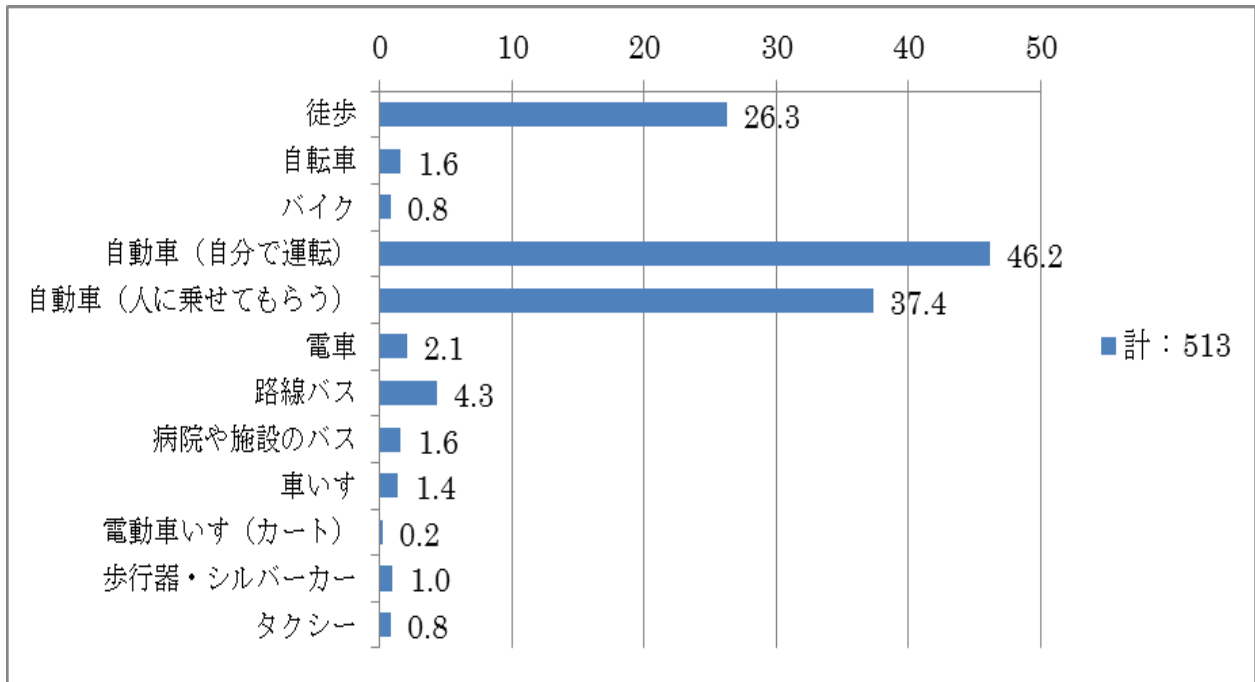


●地区別買物・散歩の外出頻度



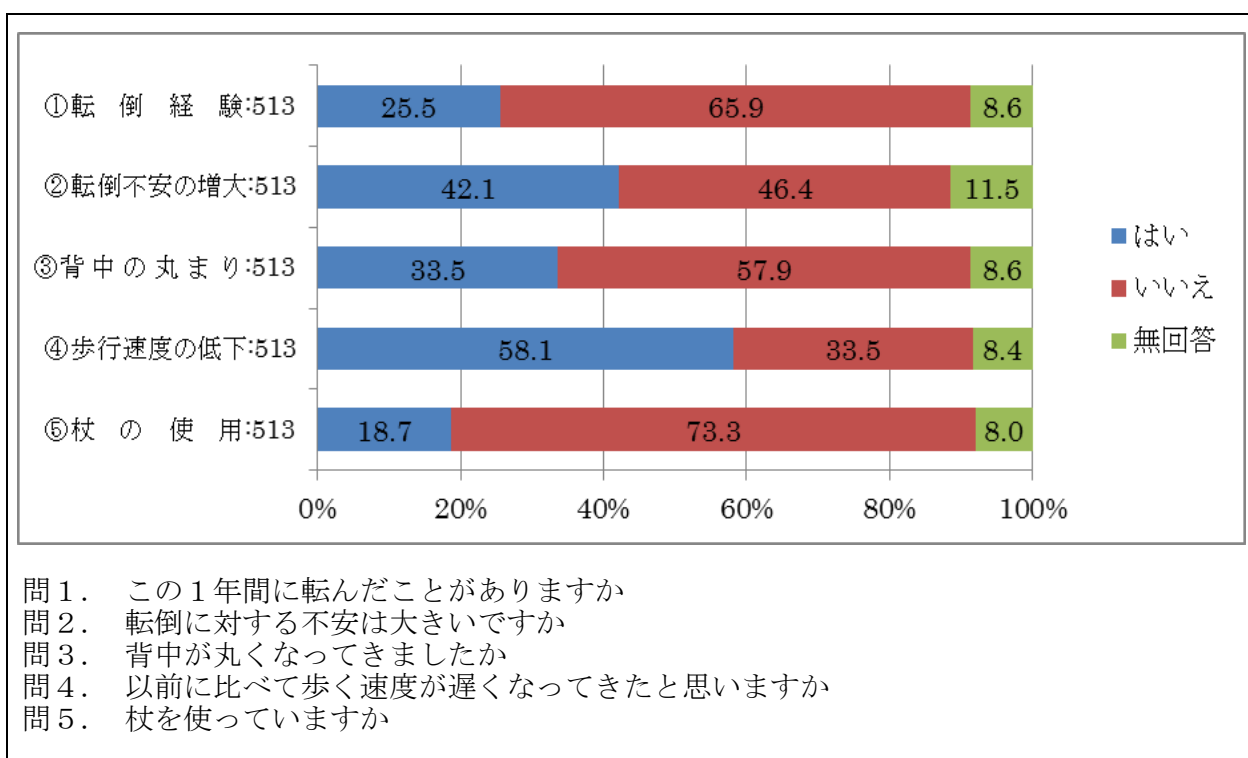
問9. 外出する際の移動手段

外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）



外出する際の移動手段では、「自動車（自分で運転）」が46.2%と最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」（37.4%）、「徒歩」（26.3%）などの順となっています。

4. 設問3 転倒について



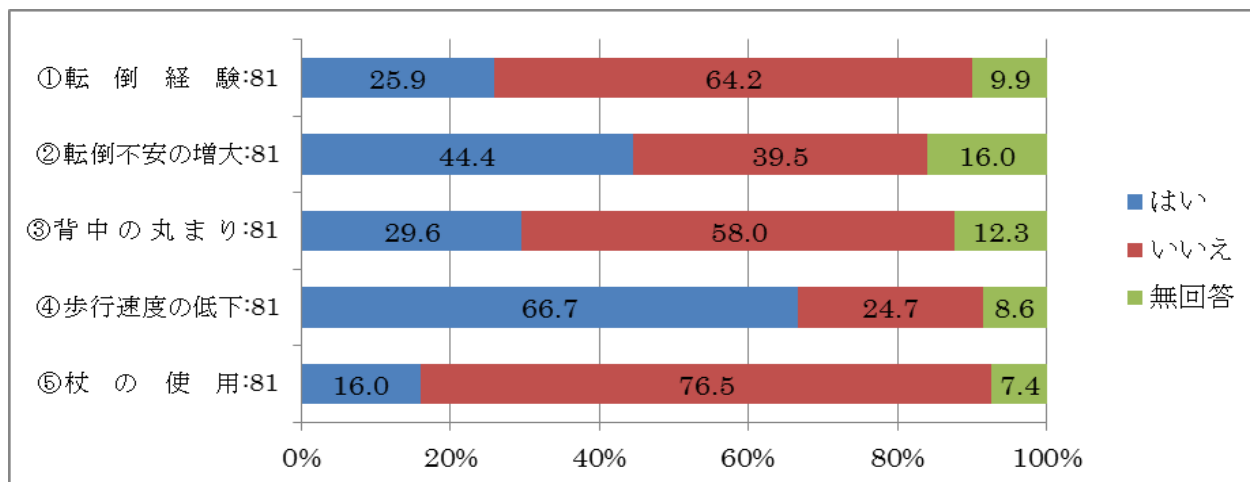
転倒に関する質問では、「④歩行速度の低下」で「はい」と回答した人が 58.1%と多くなっており、以前と比べて歩く速度が遅くなってきたと感じている人が多いことがわかります。

また、「②転倒不安の増大」で 42.1%の方が、転倒に対する不安を持っています。

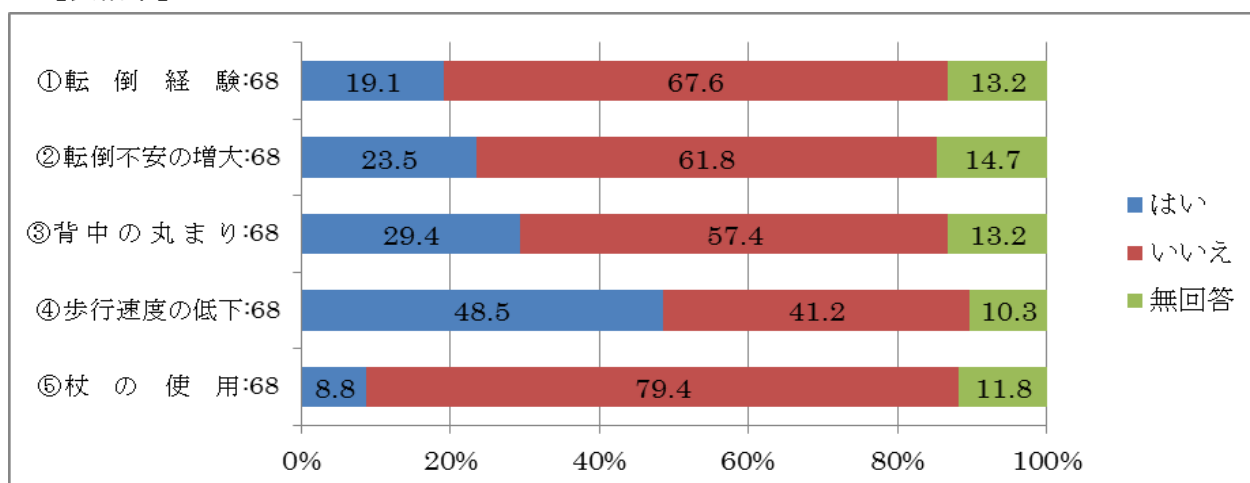
反対に、「⑤杖の使用」や「①転倒経験」では「はい」の割合がそれぞれ 18.7%、25.5%となっています。

地区別の転倒に関する状況をみると、「長幡東」が他の地区と比較して転倒の危険性の低い方が多く、反対に「神地」、「川原畑」では転倒の危険性が高い方が多くなっています。

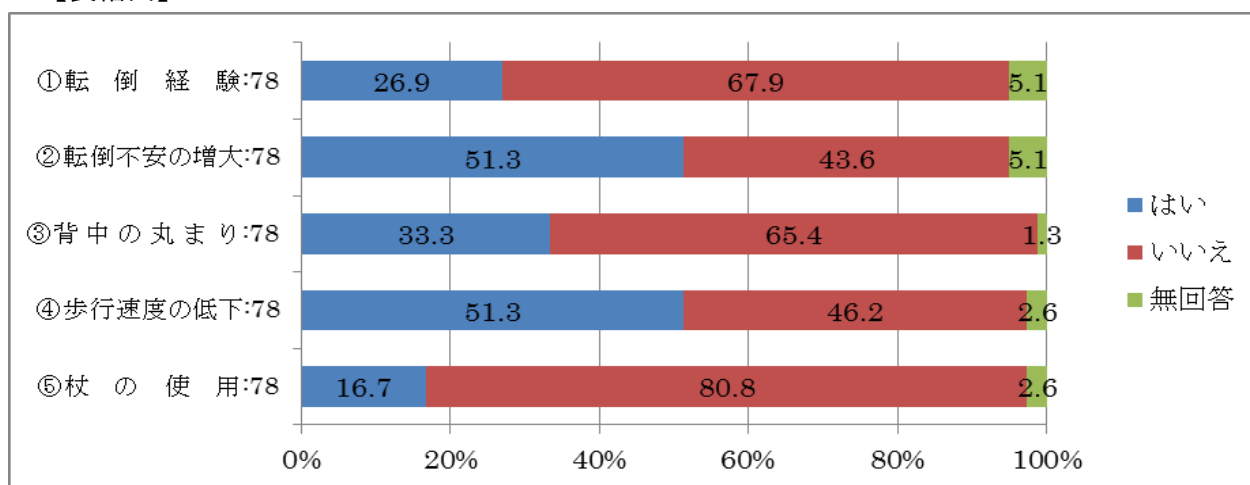
●地区別転倒予防
【月夜野・久保】



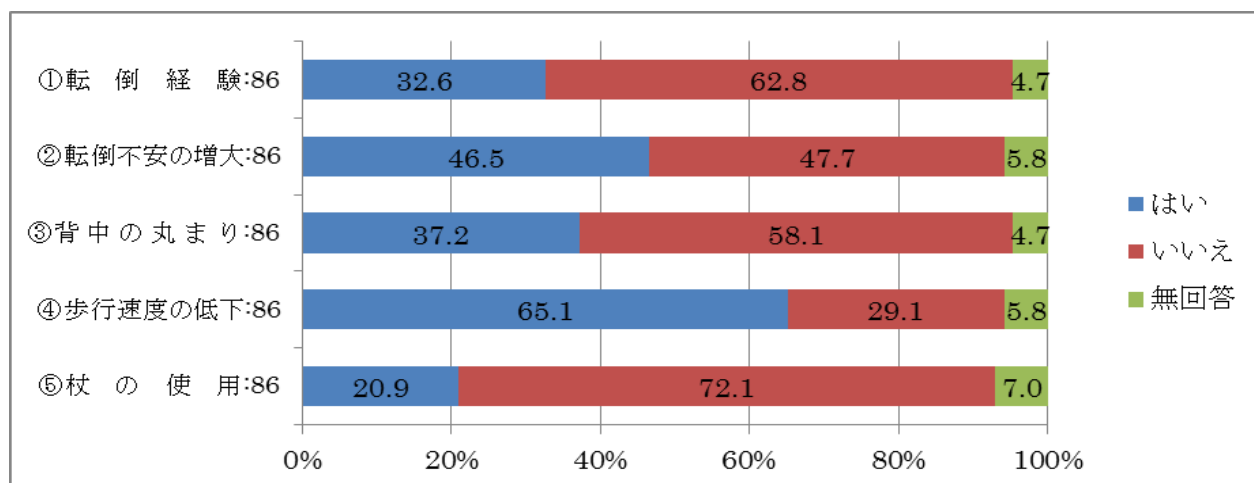
【長幡東】



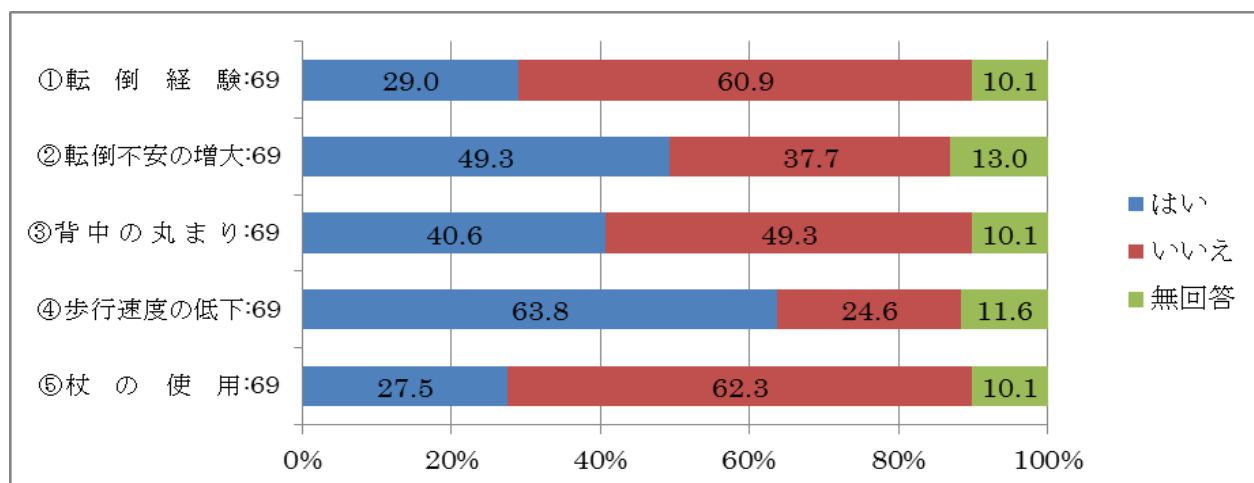
【長幡西】



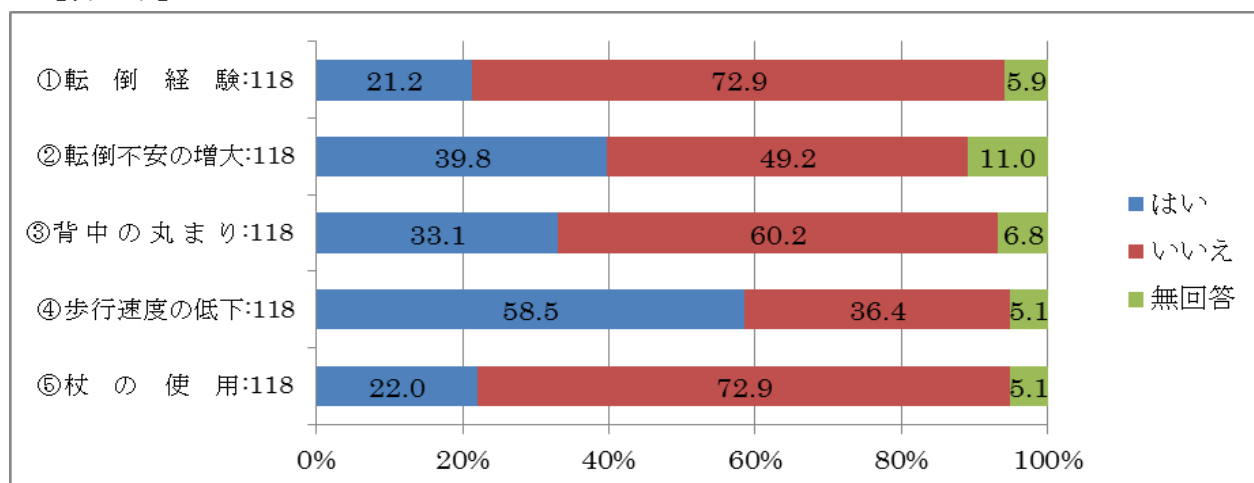
【川原畑】



【神地】



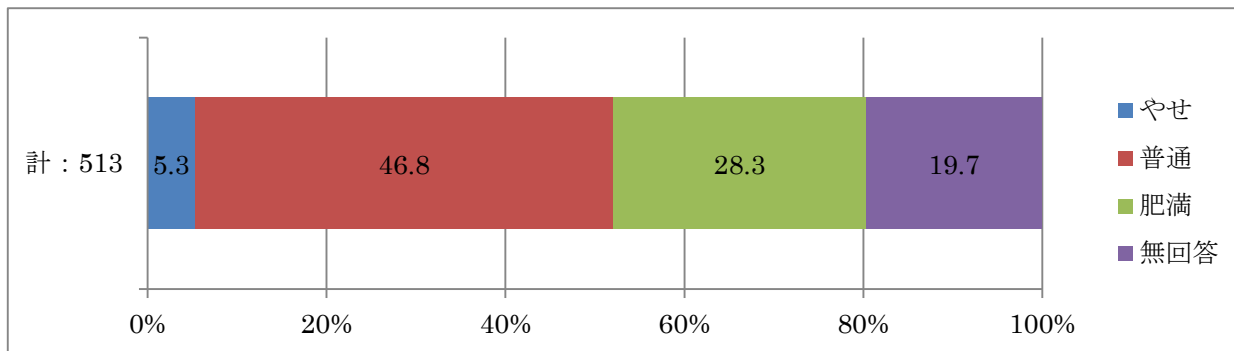
【善之木】



5. 設問4 口腔・栄養について

問2. 身長・体重（肥満度BMI = 体重/身長/身長）

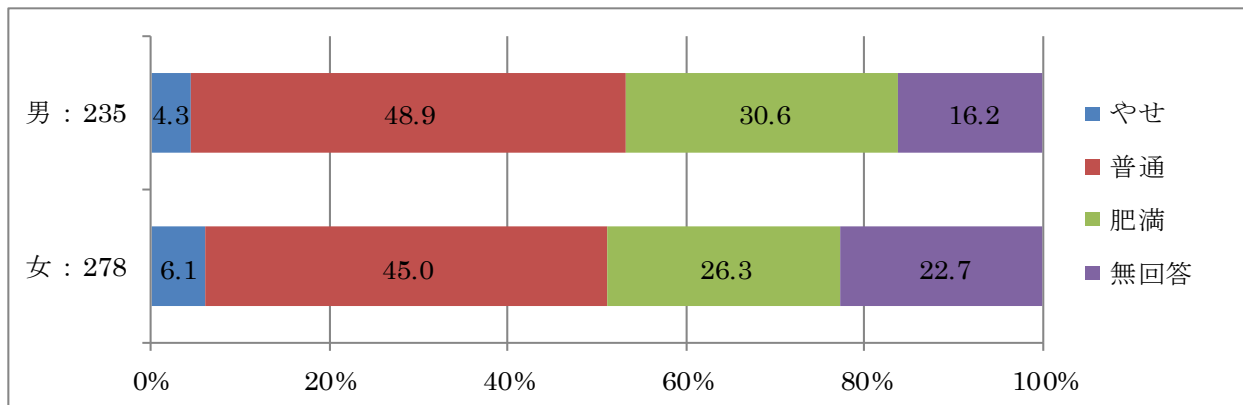
【BMI】



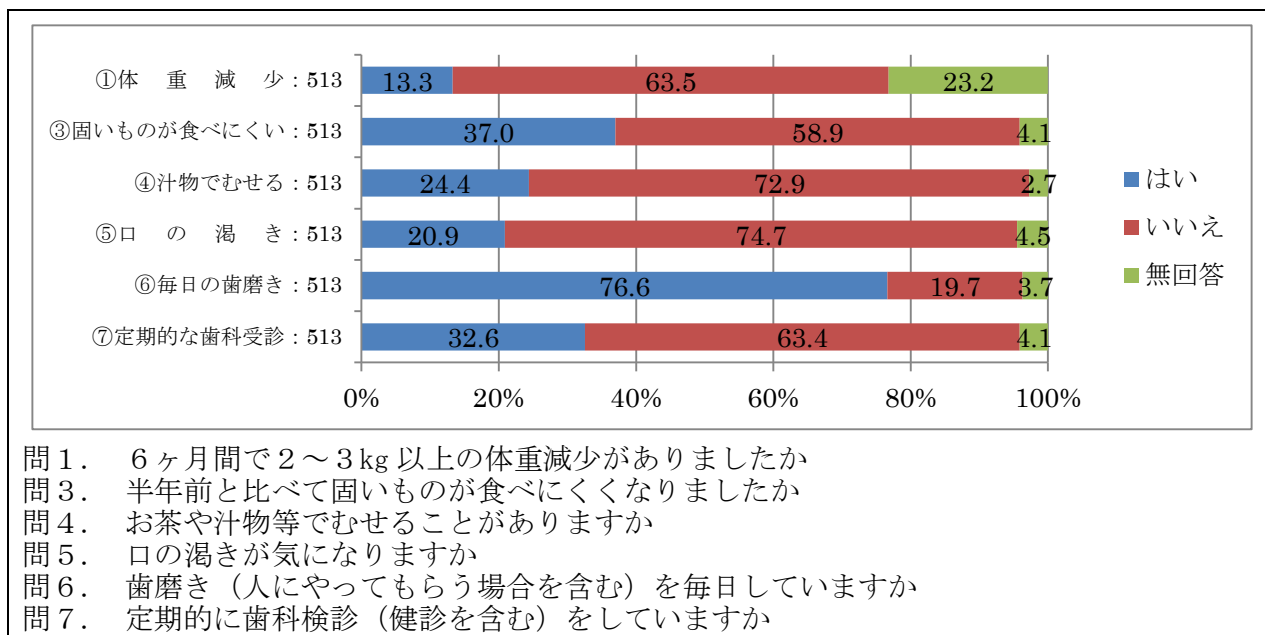
※やせ BMI < 18.5
 普通 18.5 ≤ BMI < 25
 肥満 25 ≤ BMI

身長と体重から算出したBMI (Body Mass Index) では、18.5 以上 25.0 未満の「普通」にあたる方が 46.8%を占めており、「肥満」にあたる 25.0 以上は 28.3%、「やせ」にあたる 18.5 未満は 5.3%となっています。BMI の男女別では、男性に「肥満」の割合が高いことがわかります。

●男女別BMI



口腔・栄養について

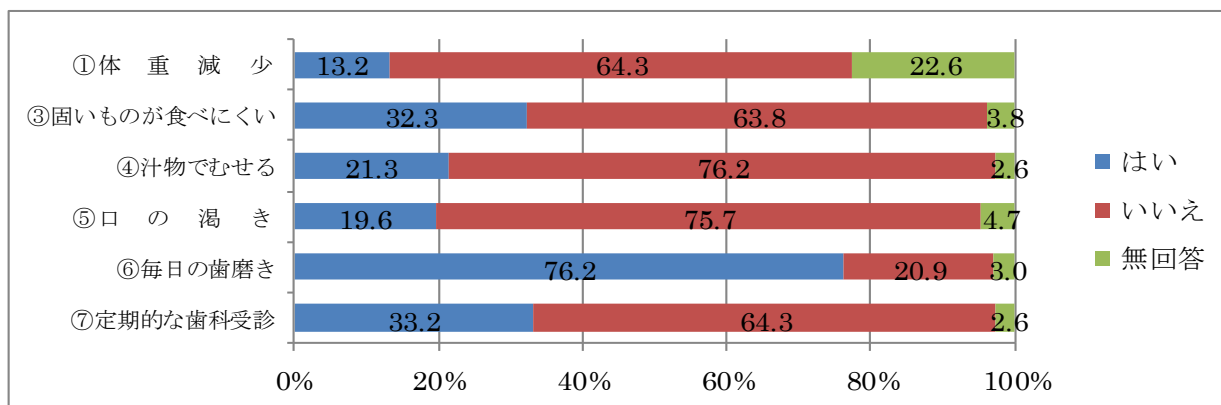


口腔や栄養に関する質問では、「⑤毎日の歯磨き」で「はい」と回答した人が76.6%を占めており、多くの人が毎日歯磨きをする習慣をもっていることがわかります。

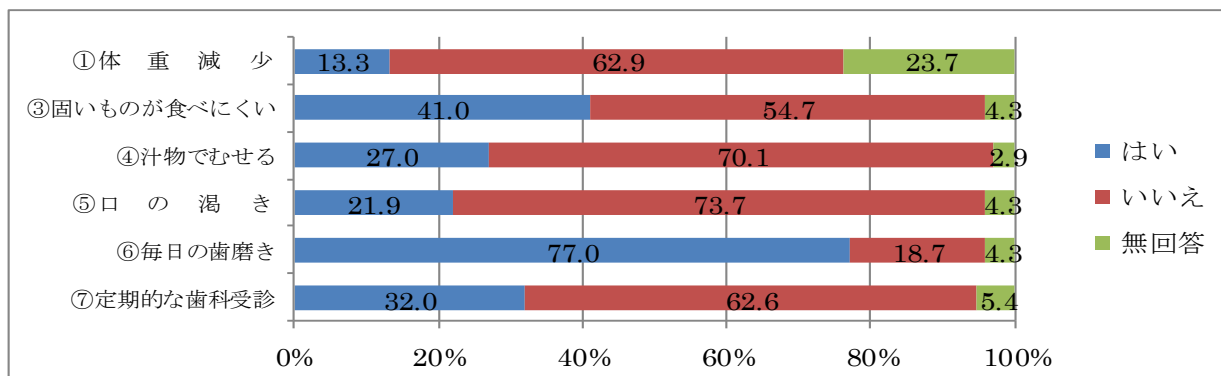
また、「③固いものが食べにくい」や「④汁物でむせる」、「⑤口の渇き」などで「はい」と回答した人はそれぞれ37.0%、24.4%、20.9%あり、口腔機能の低下がみられる人も現れています。

●男女別口腔・栄養

【男性：235】

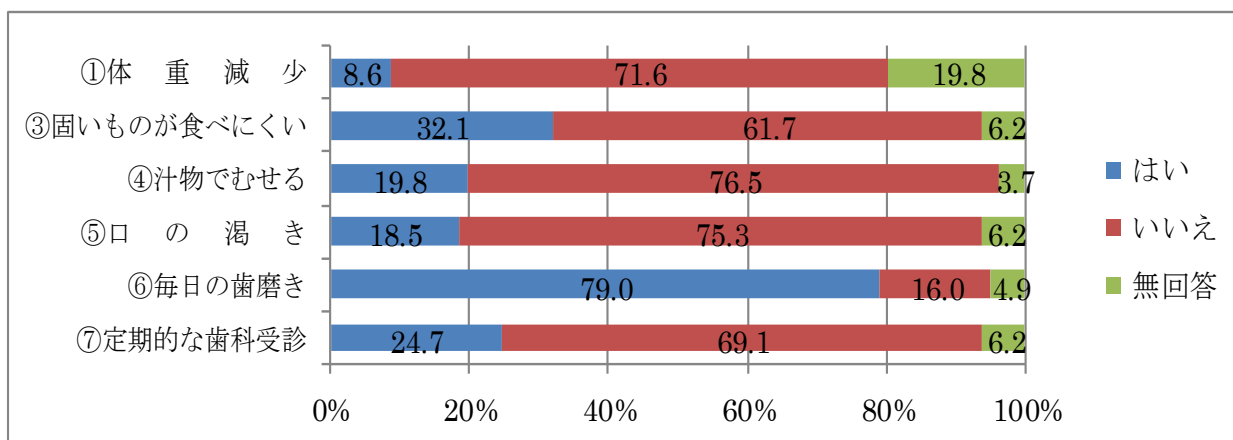


【女性：278】

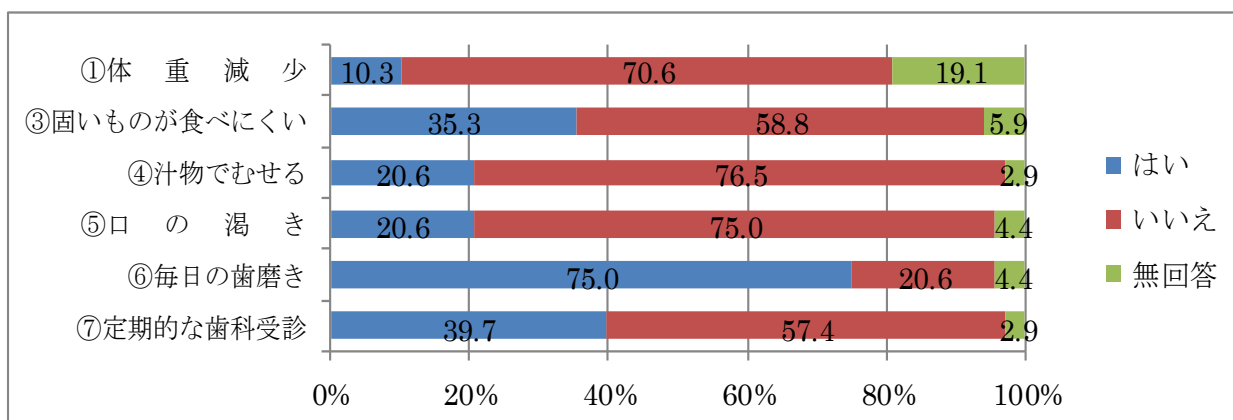


●地区別口腔・栄養

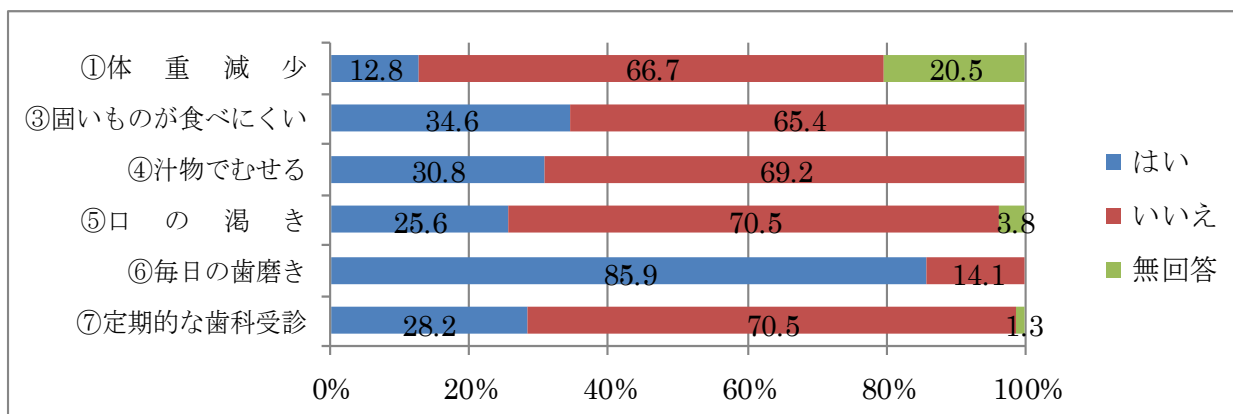
【月夜野・久保：81】



【長幡東：68】

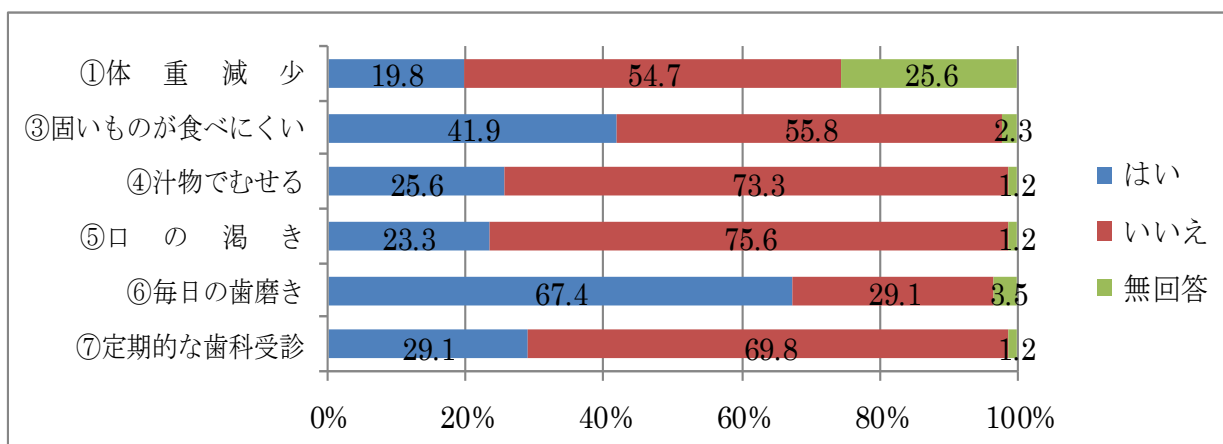


【長幡西：78】

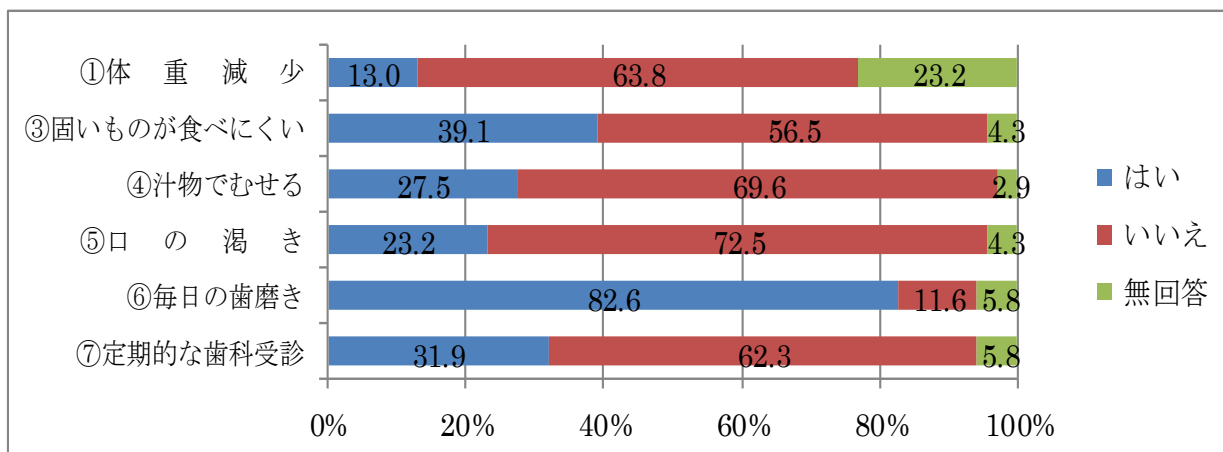


地区別に口腔・栄養について状況を見ると、「川原畑」で口腔機能の低下している方や低栄養の恐れのある方が多くなっています。

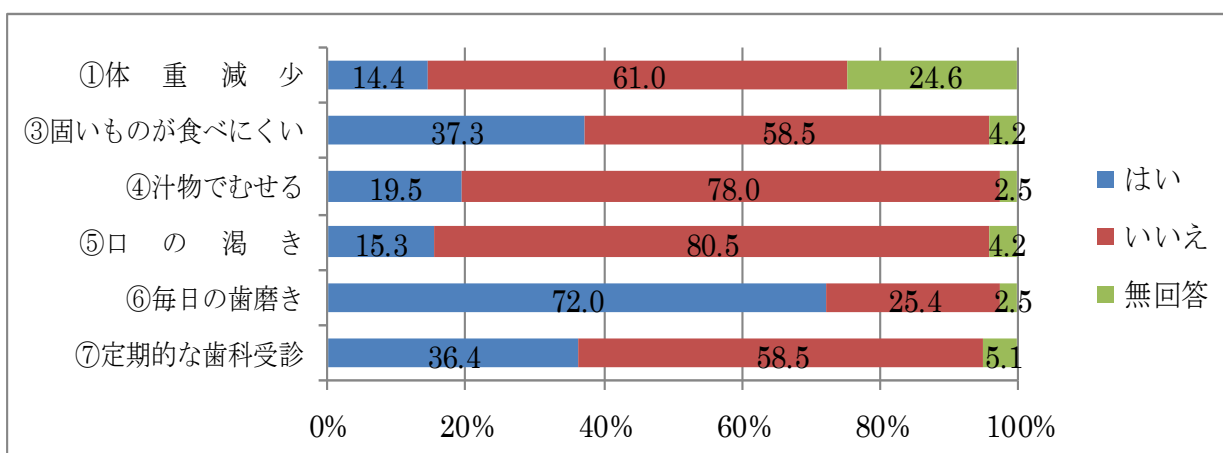
【川原畑：86】



【神地：69】

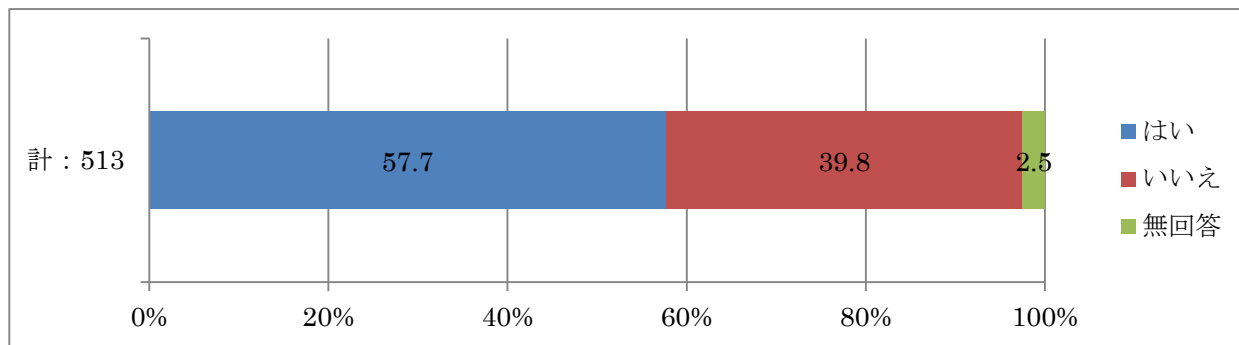


【善之木：118】



問8. 入れ歯の使用

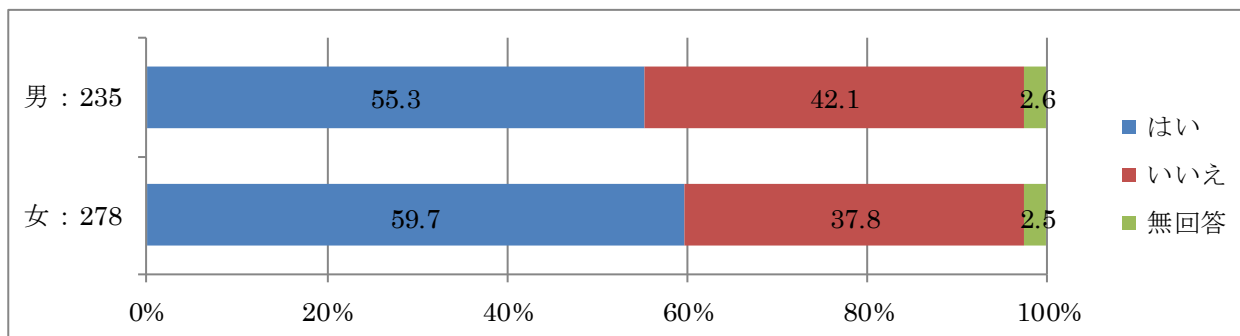
入れ歯を使用していますか



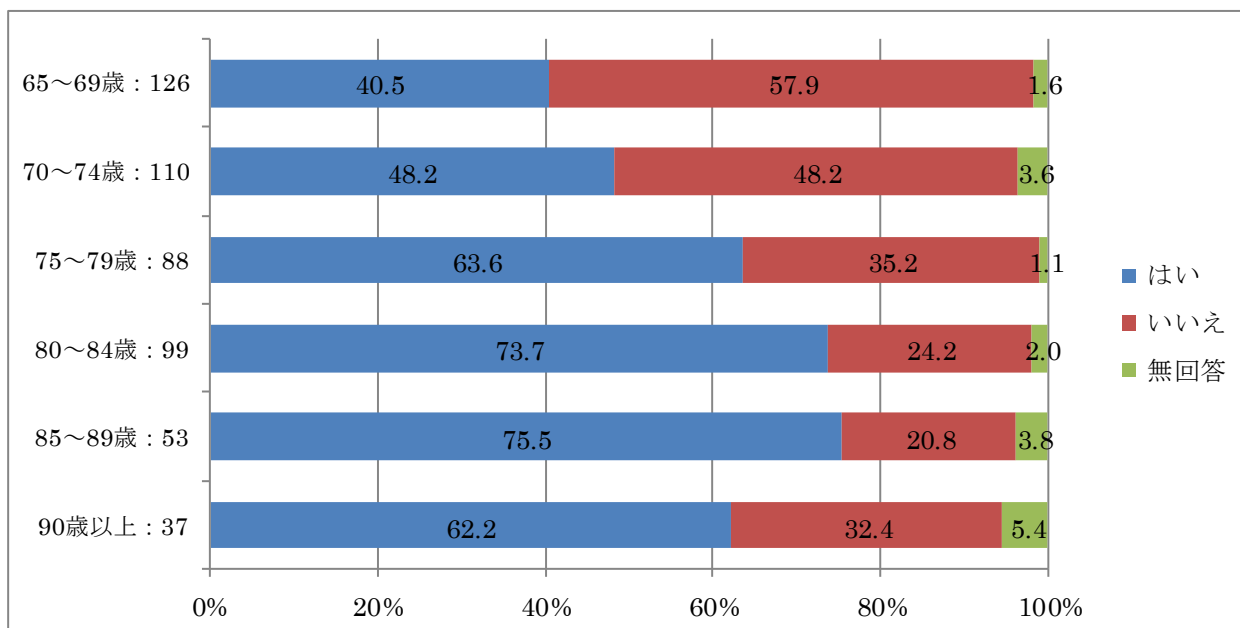
入れ歯を使用している人は57.7%です。

また、年齢別にみると、年齢が高くなるに連れて入れ歯を使用している割合も増加し、「85～89歳」では、75.5%の人が入れ歯を使用していることがわかります。

●男女別入れ歯の使用

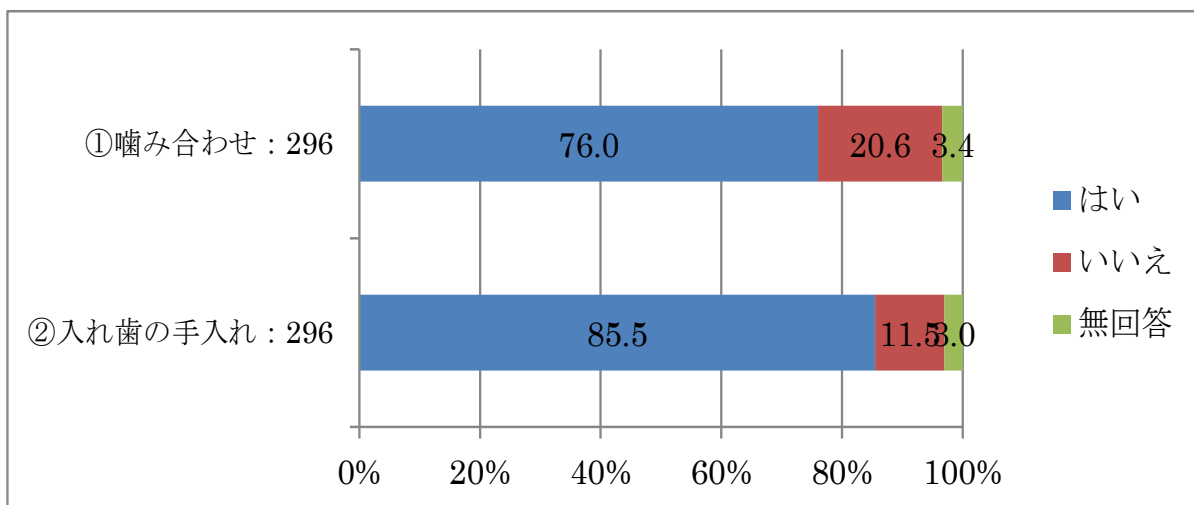


●年齢別入れ歯の使用



問 8-1. 問 8-2. 入れ歯の状況

問 8 で「1. はい」と回答した方にお聞きします。(それぞれ 1 つ)

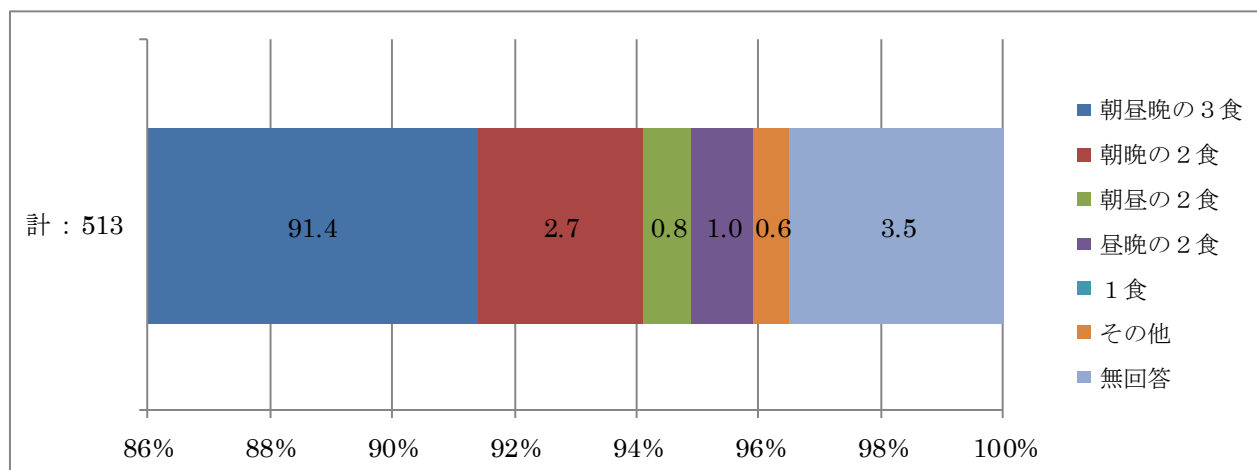


問 8-1 入れ歯の噛み合わせは良いですか
 問 8-2 毎日入れ歯の手入れをしていますか

入れ歯を使用している人に、入れ歯の使用状況について訪ねたところ、「問 8-1 噛み合わせ」では 76.0%が噛み合わせは良いと回答し、「問 8-2 毎日の手入れ」では 85.5%の人が毎日入れ歯を手入れしていると回答しています。

問 9. 1日の食事の回数

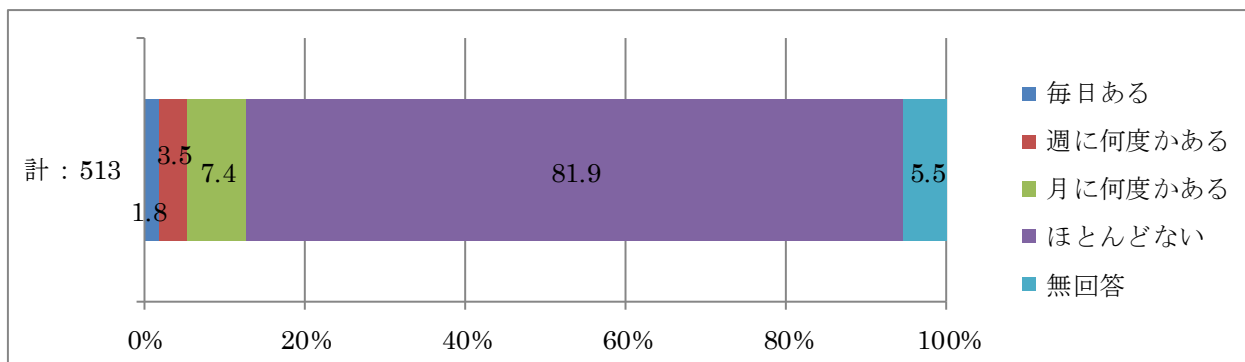
1日の食事の回数は何回ですか



1日の食事の回数は、9割を超える方が「朝昼晩の3食」と回答しています。

問10. 食事を抜くことがあるか

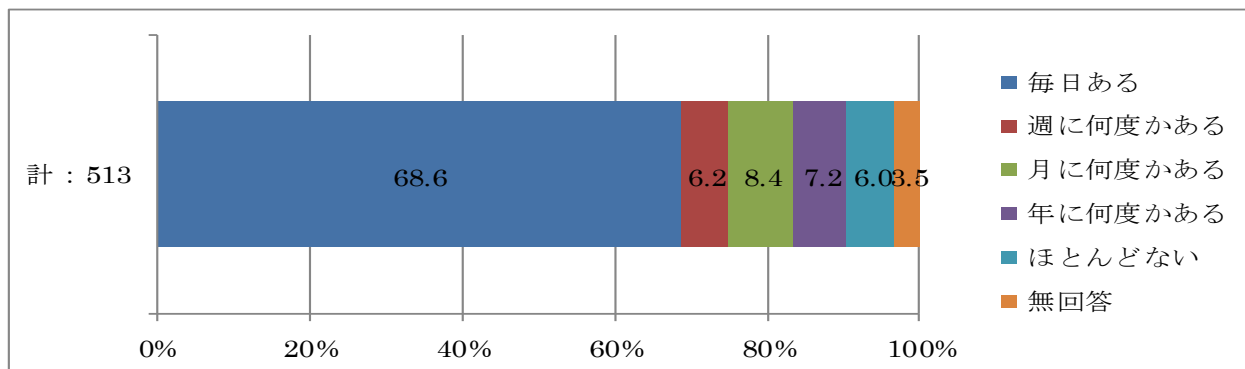
食事を抜くことがありますか



食事を抜くことが「ほとんどない」と8割を超える方が回答しています。

問11. どなたかと食事をともにする機会

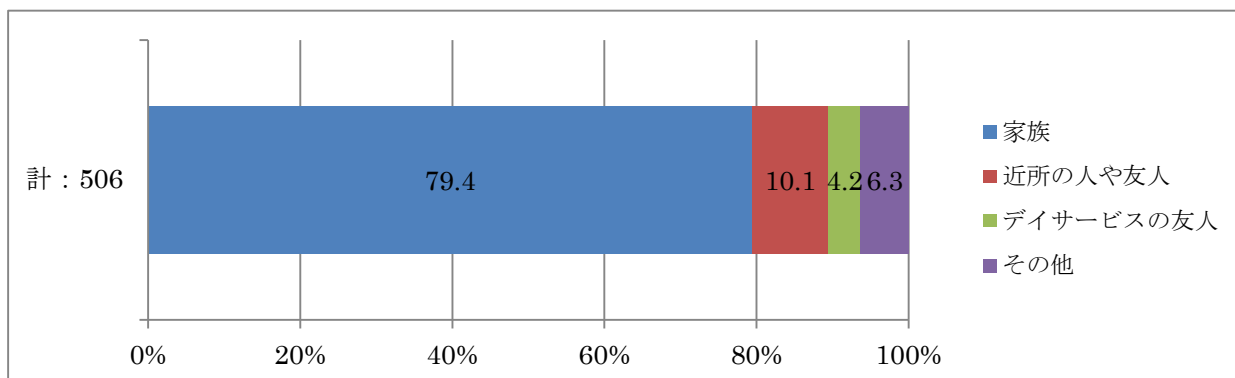
自分一人ではなく、どなたかと食事をともにする機会がありますか



およそ7割の方が、どなたかと食事をともにする機会が「毎日ある」と回答しています。

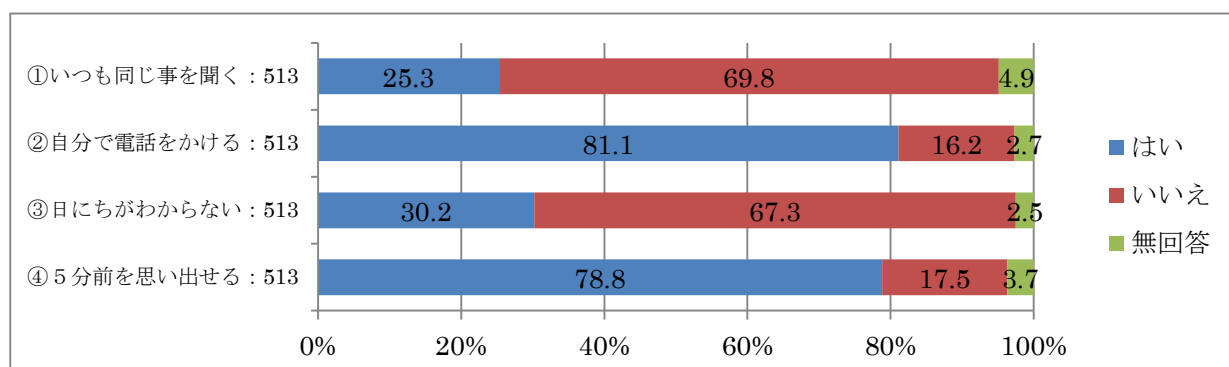
問11-1. 食事をともにする人

問11で「どなたかと食事をともにする機会がある」とお答えの方にお聞きします。食事をともにする人はどなたですか



食事をともにするのは、約8割が「家族」と回答しています。

6. 設問5 物忘れについて



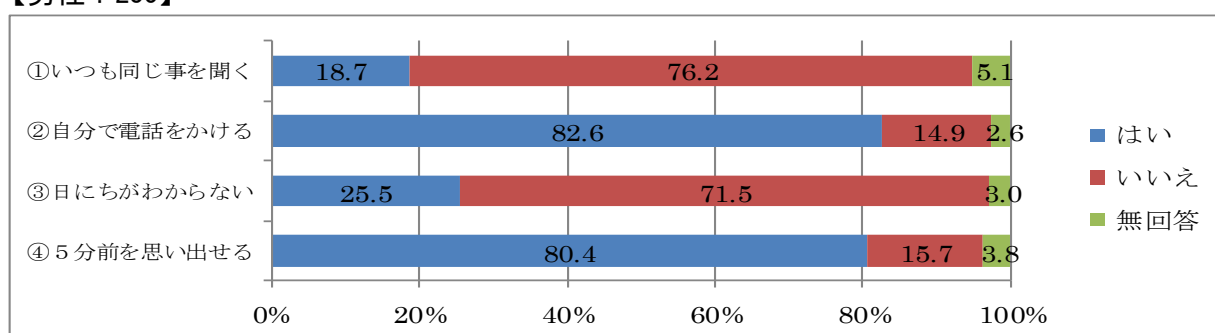
- 問1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか
 問2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか
 問3. 今日が何月何日かわからない時がありますか
 問4. 5分前のことが思い出せますか

物忘れに関する質問では、「②自分で電話をかける」と「④5分前のことが思い出せる」で「いいえ」と回答する人の割合が2割弱、また「①いつも同じ事を聞く」や「③今日の日付がわからない」に該当する人など物忘れの症状がみられる人はおよそ3割となっています。

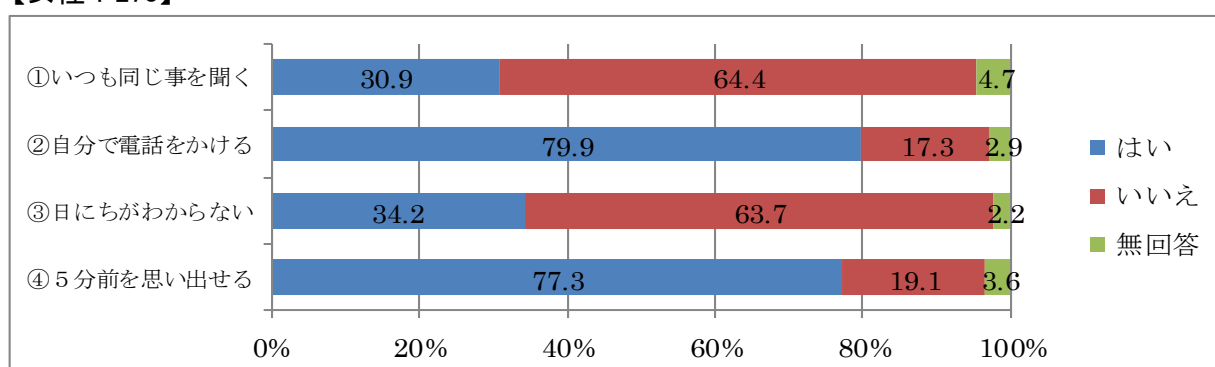
また、男女別では、女性に物忘れ症状が見られる割合が高く、特に「①いつも同じ事を聞く」(30.9%)や「③今日の日付がわからない」(34.2%)は、男性を大きく上回っています。

●男女別物忘れについて

【男性 : 235】

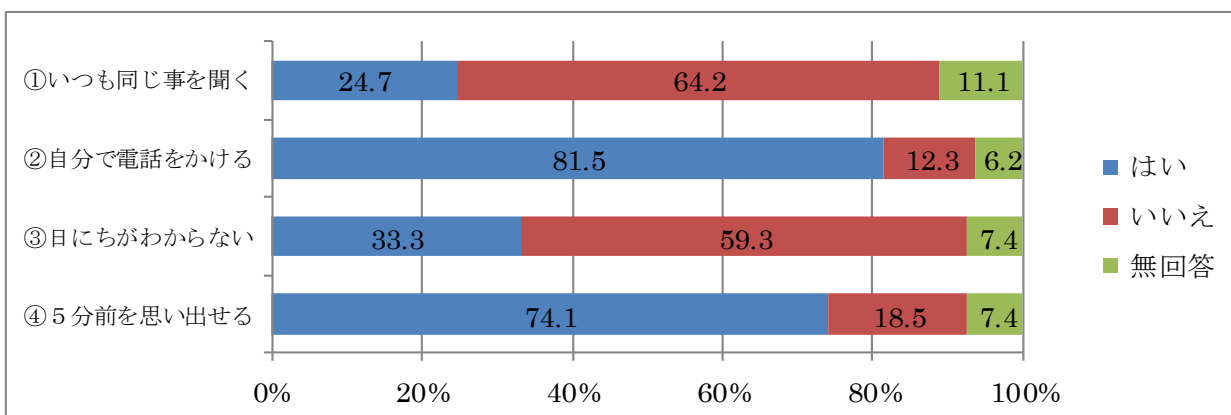


【女性 : 278】

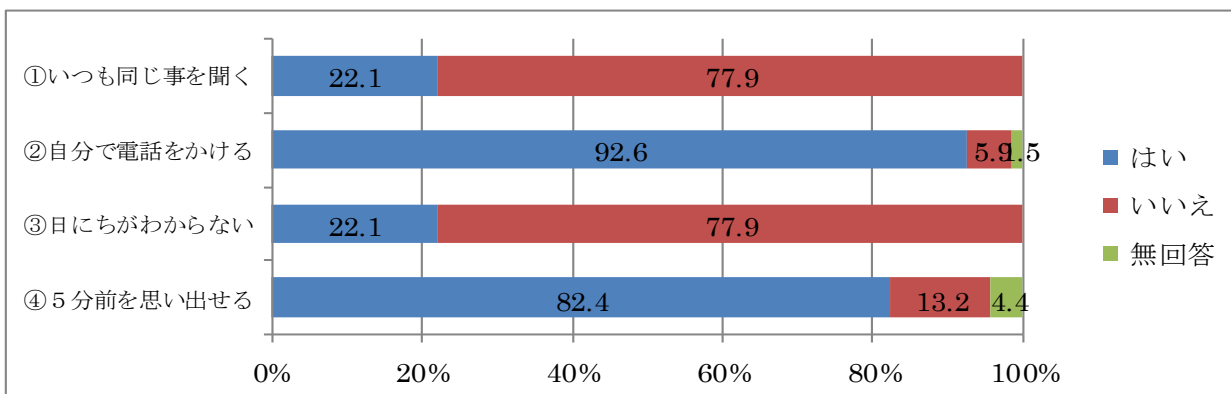


●地区別物忘れについて

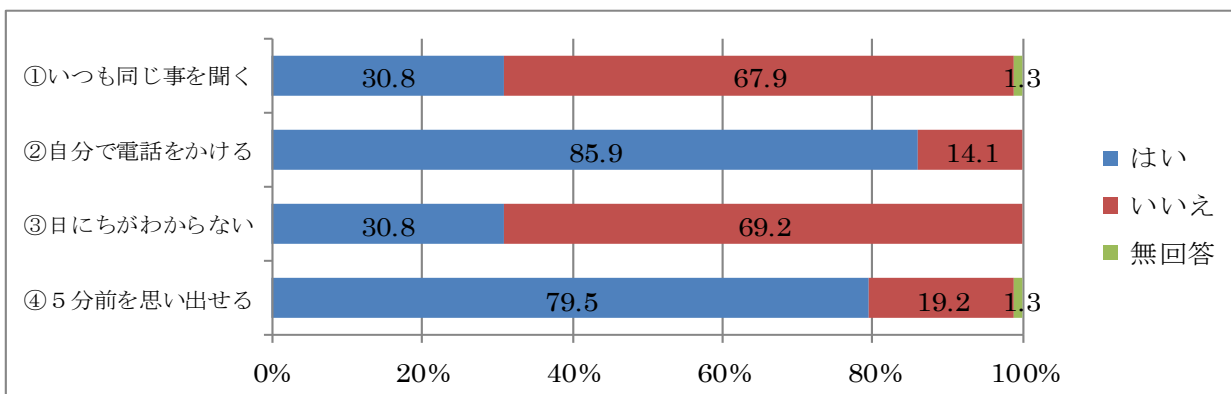
【月夜野：81】



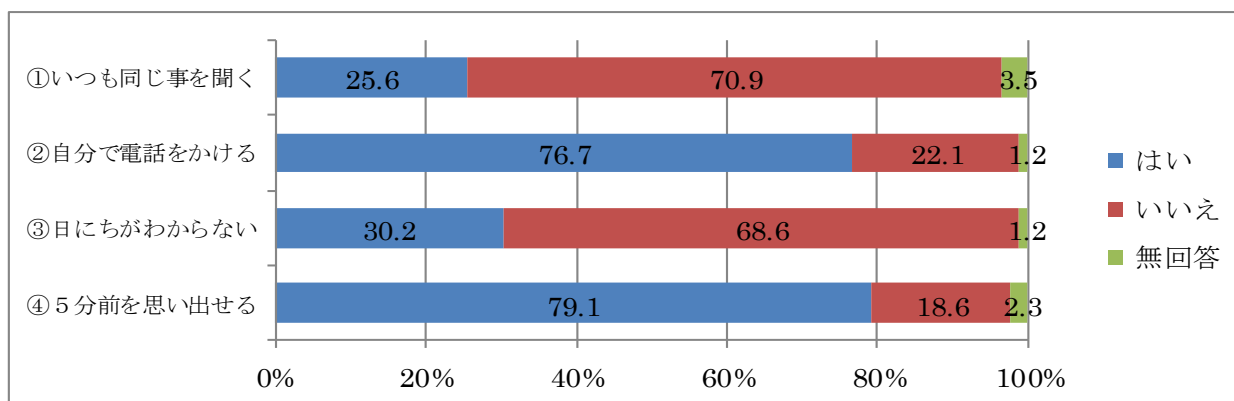
【長幡東：68】



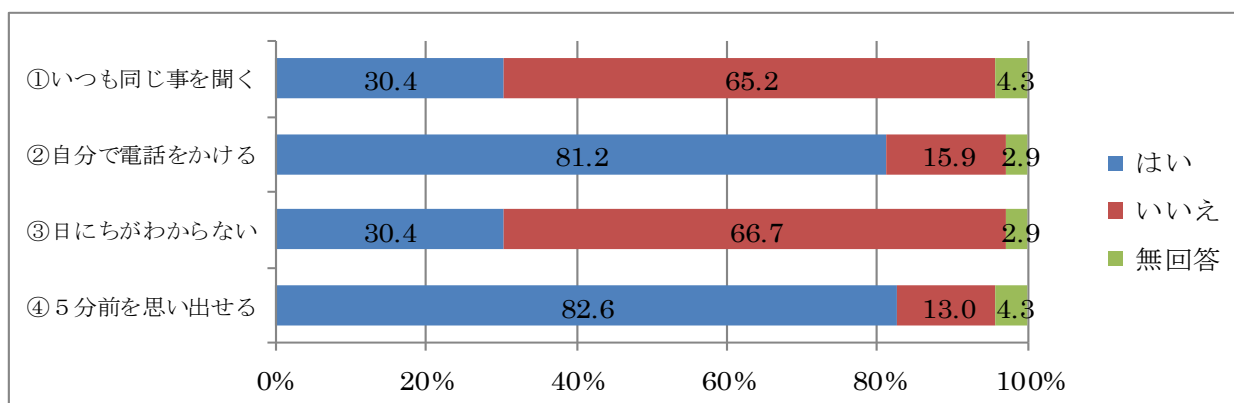
【長幡西：78】



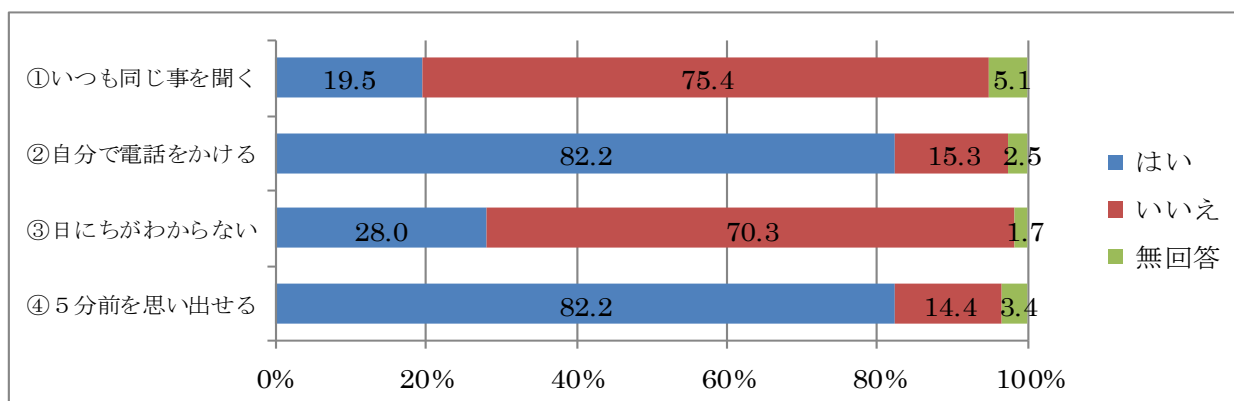
【川原畑：86】



【神地：69】



【善之木：118】

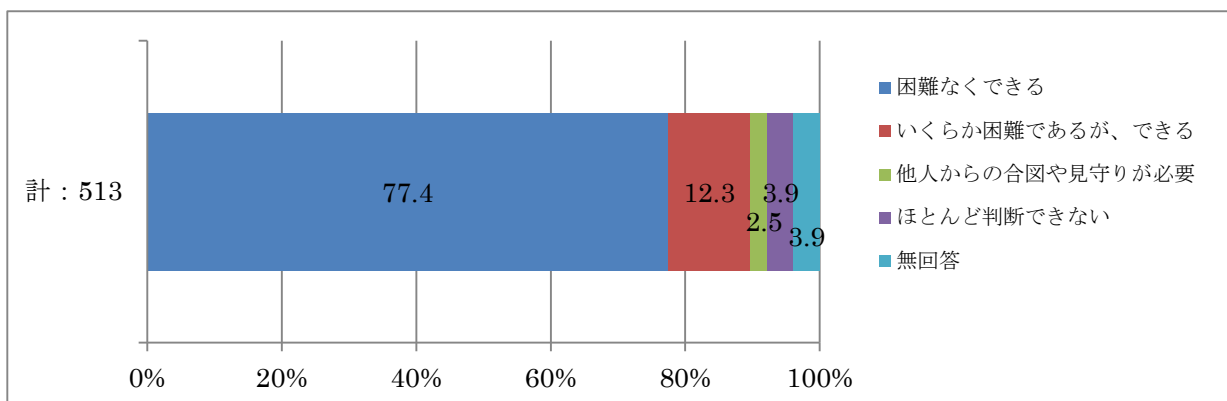


地区別の物忘れに関する質問では、「①いつも同じことを聞く」は、「長幡西」(30.8%)、「神地」(30.4%)で、「はい」と回答した人の割合が高くなっています。

「長幡東」で「②自分で電話をかける」を「はい」と回答した人は、92.6%おり、他の地区と比較して物忘れの低下している方が少ないことがわかります。

問5. その日の活動の(自分での)判断力

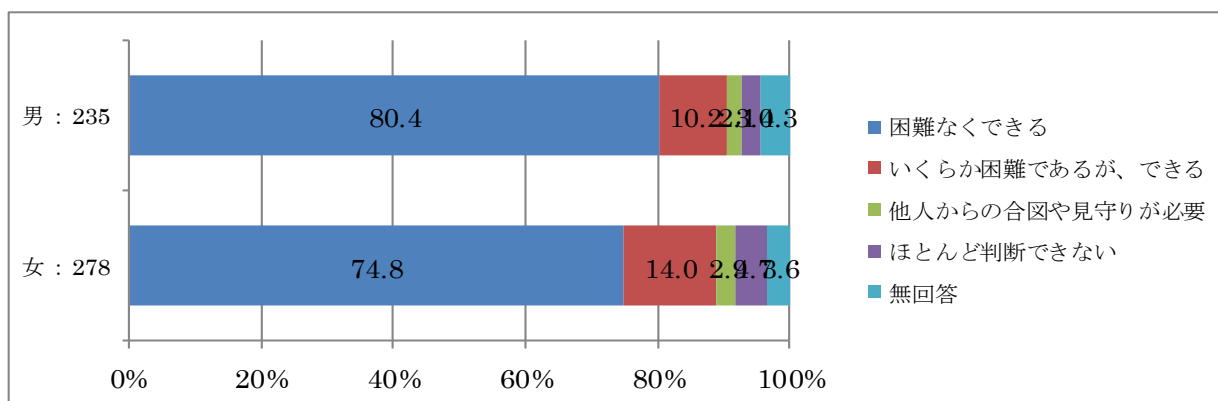
その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか



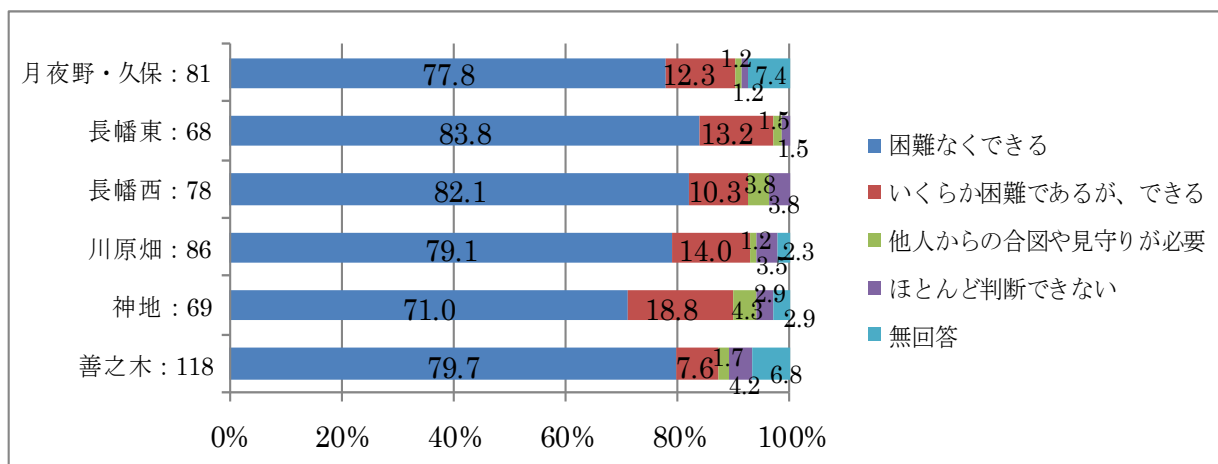
食事をするや衣服を選ぶなどの行動を自分で「困難なくできる」と回答した人が約8割を占めており、自立した人が多いことを示しています。

また、男女別、地区別にみた場合、ほとんど差はみられません。

●男女別その日の活動の(自分での)判断力

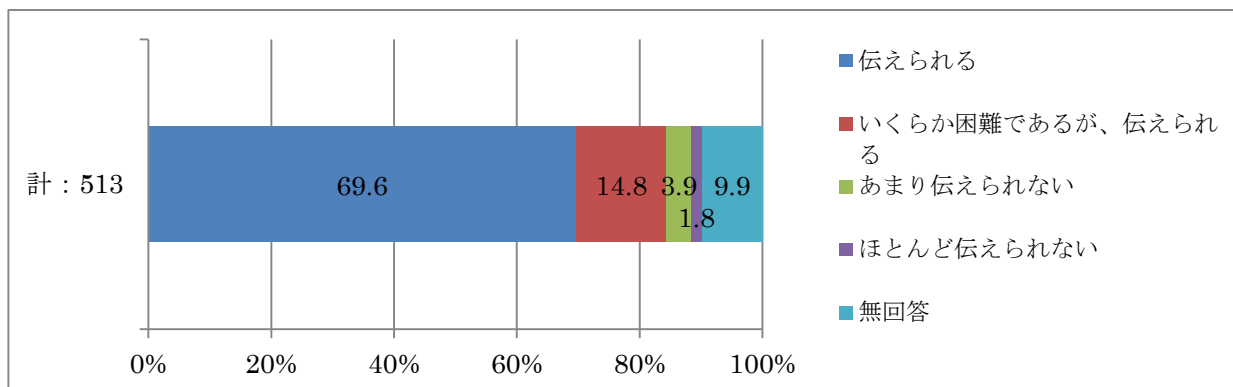


●地区別その日の活動の(自分での)判断力



問6. 自分の考えをうまく伝えられるか

人に自分の考えをうまく伝えられますか

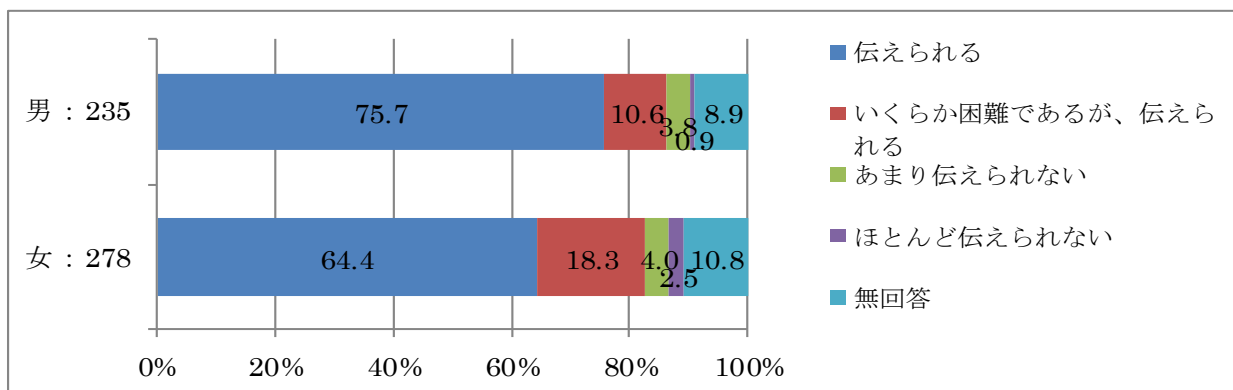


自分の考えを人に「伝えられる」と回答した人は69.6%です。

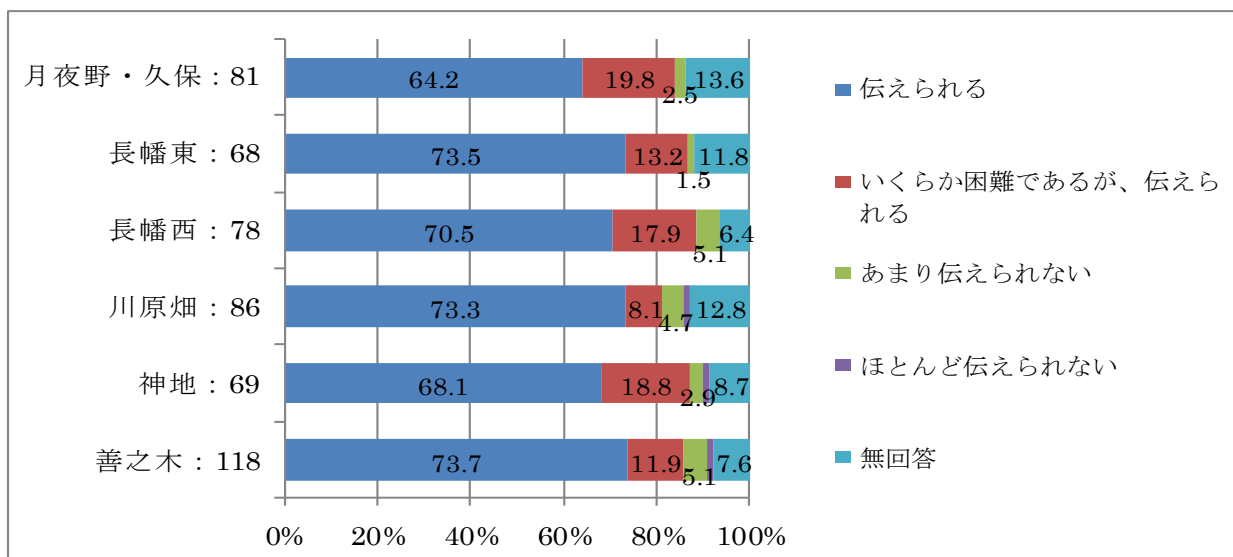
また、男女別では「伝えられる」が75.7%と女性を大きく上回っています。

地区別では下記のとおりとなっています。

●男女別自分の考えをうまく伝えられるか

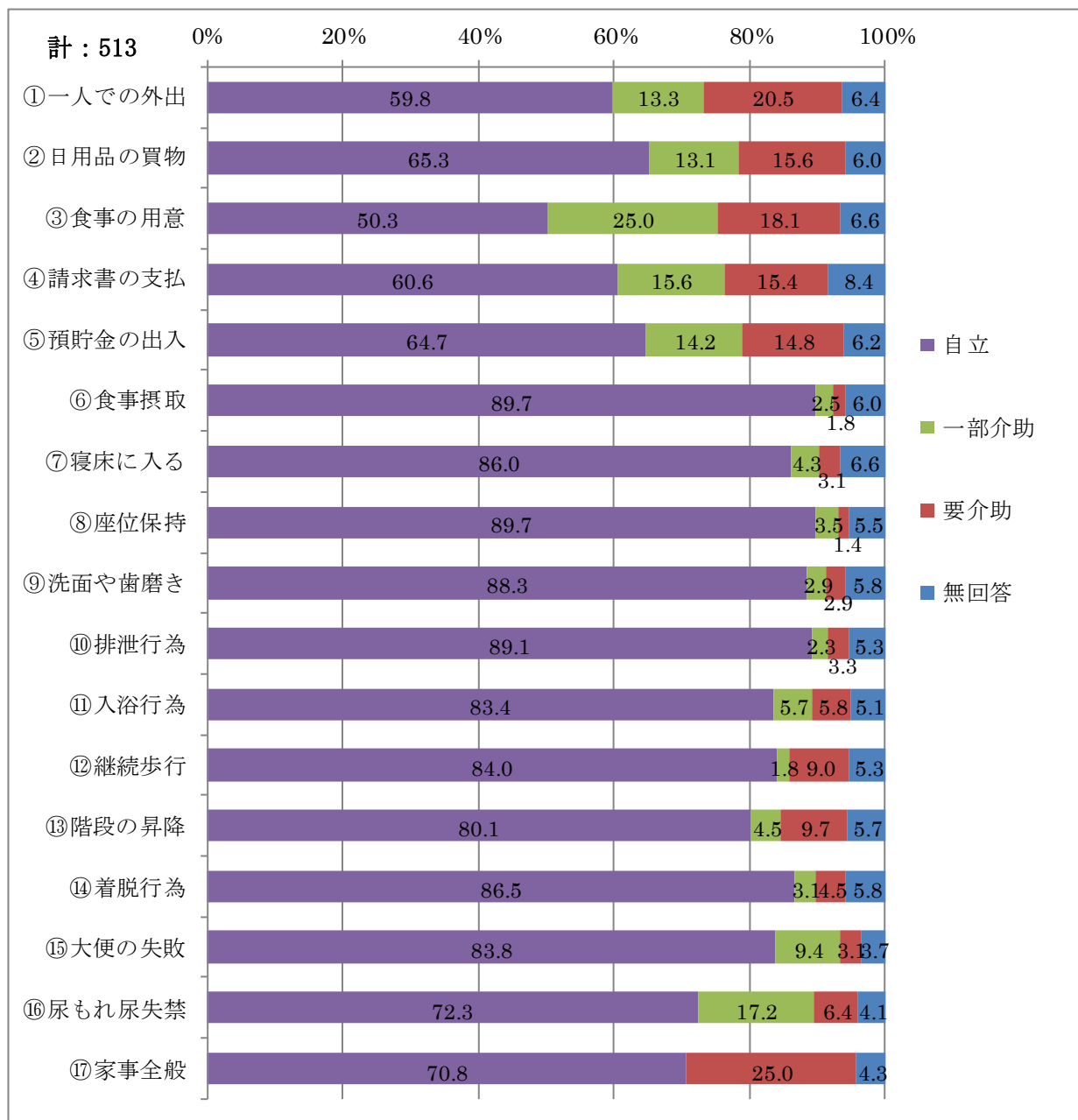


●地区別自分の考えをうまく伝えられるか



7. 設問6 日常生活について

あなたの日常生活についてうかがいます

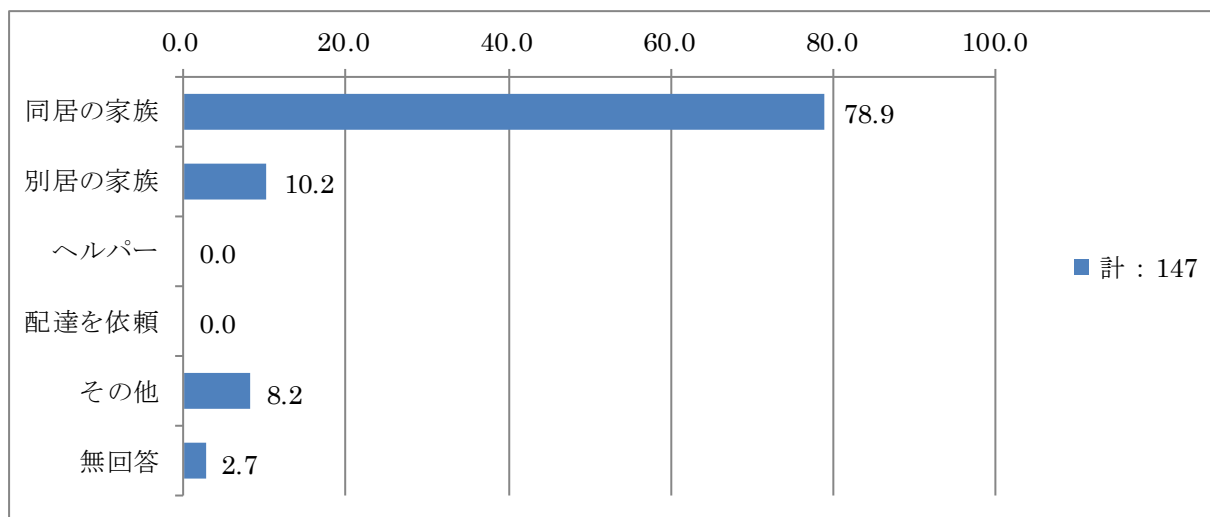


※各項目は省略表示しています。また、選択肢も項目によって異なります。正しくは巻末資料の調査票をご参照下さい。

日常生活の状況に関する質問では、ほとんどの項目で8割以上の方が自立していると回答していますが、「①一人での外出」や「②日用品の買物」などといった外出を伴う行動や、「③食事の用意」、「④請求書の支払」、「⑤預貯金の出入」、「⑯尿漏れ尿失禁」、「⑰家事全般」などでは自立度は低くなっており、一部または全面的な介助を必要とする人の割合が比較的高くなっています。

問 2-1. 日用品の買物

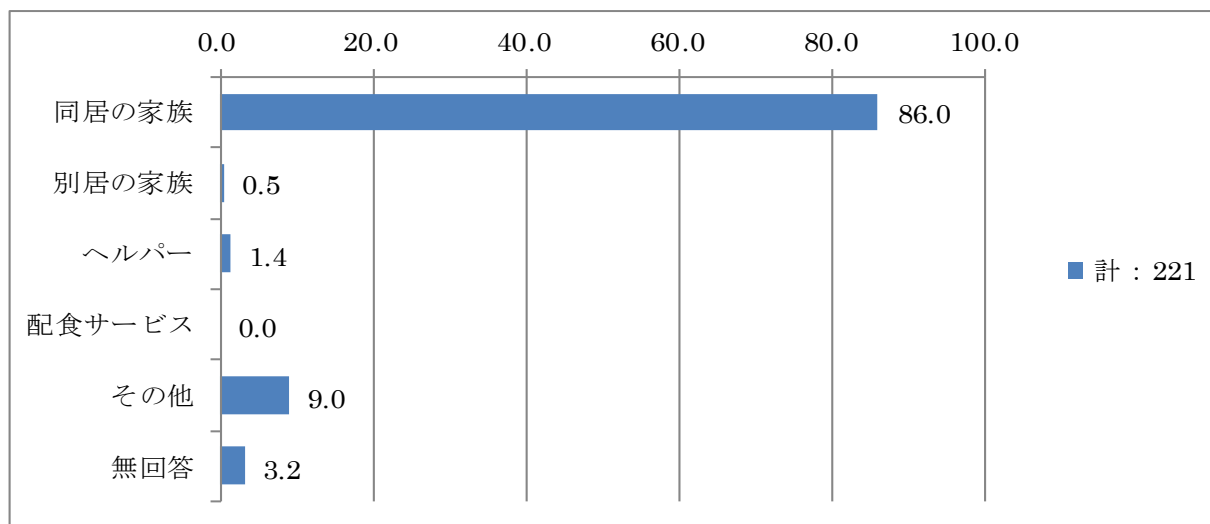
問 2 で「2. できるけどしていない」か「3. できない」とお答えの方におたずねします。
日用品の買物をする人は主にどなたですか



日用品の買物は、「同居の家族」(78.9%)が最も多く、次いで「別居の家族」(10.2%)となっています。

問 3-1. 食事の用意

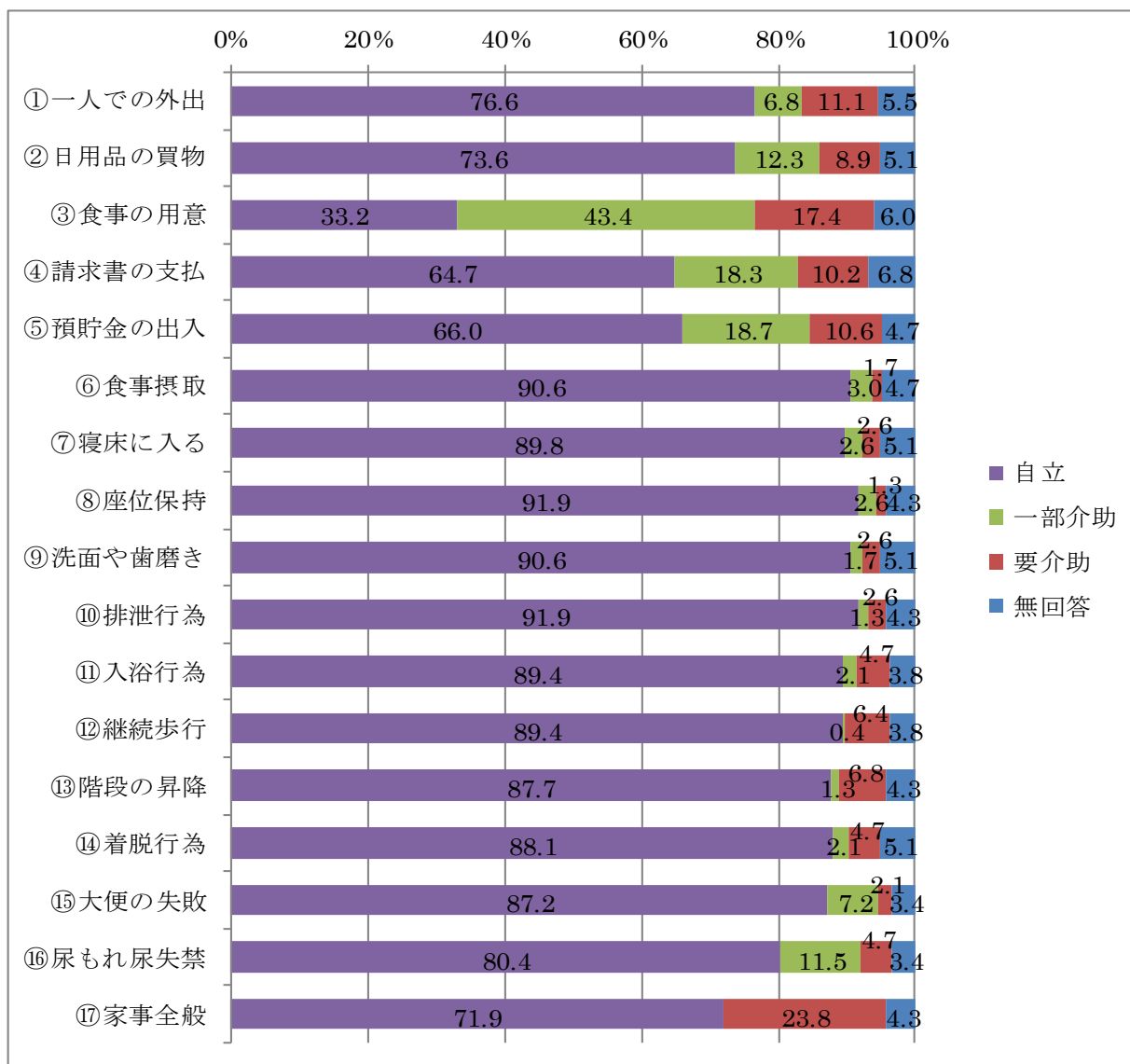
問 3 で「2. できるけどしていない」か「3. できない」とお答えの方におたずねします。
食事の用意をする人は主にどなたですか



食事の用意は、「同居の家族」(86.0%)が大きな割合となっています。

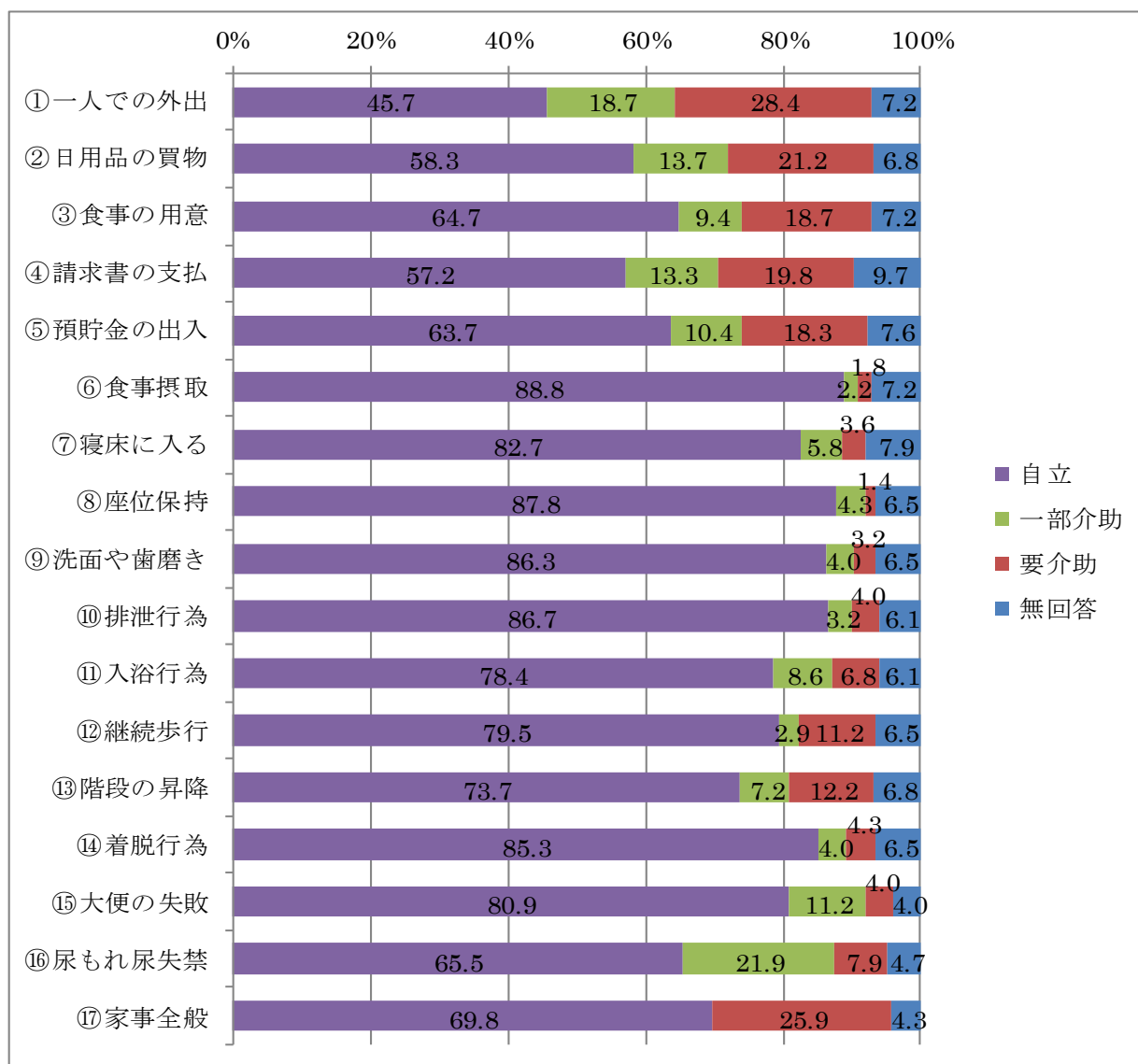
●男女別日常生活

【男性：235】



男性の日常生活の状況に関する質問では、ほとんどの項目で8割から9割の人が自立していると回答していますが、「③食事の用意」(33.2%)は極めて自立度が低くなっています。また、「④請求書の支払」(64.7%)、「⑤預貯金の出し入れ」(18.7%)などの自立度は低くなっており、「できるけどしていない」の割合が比較的高くなっています。

【女性：278】

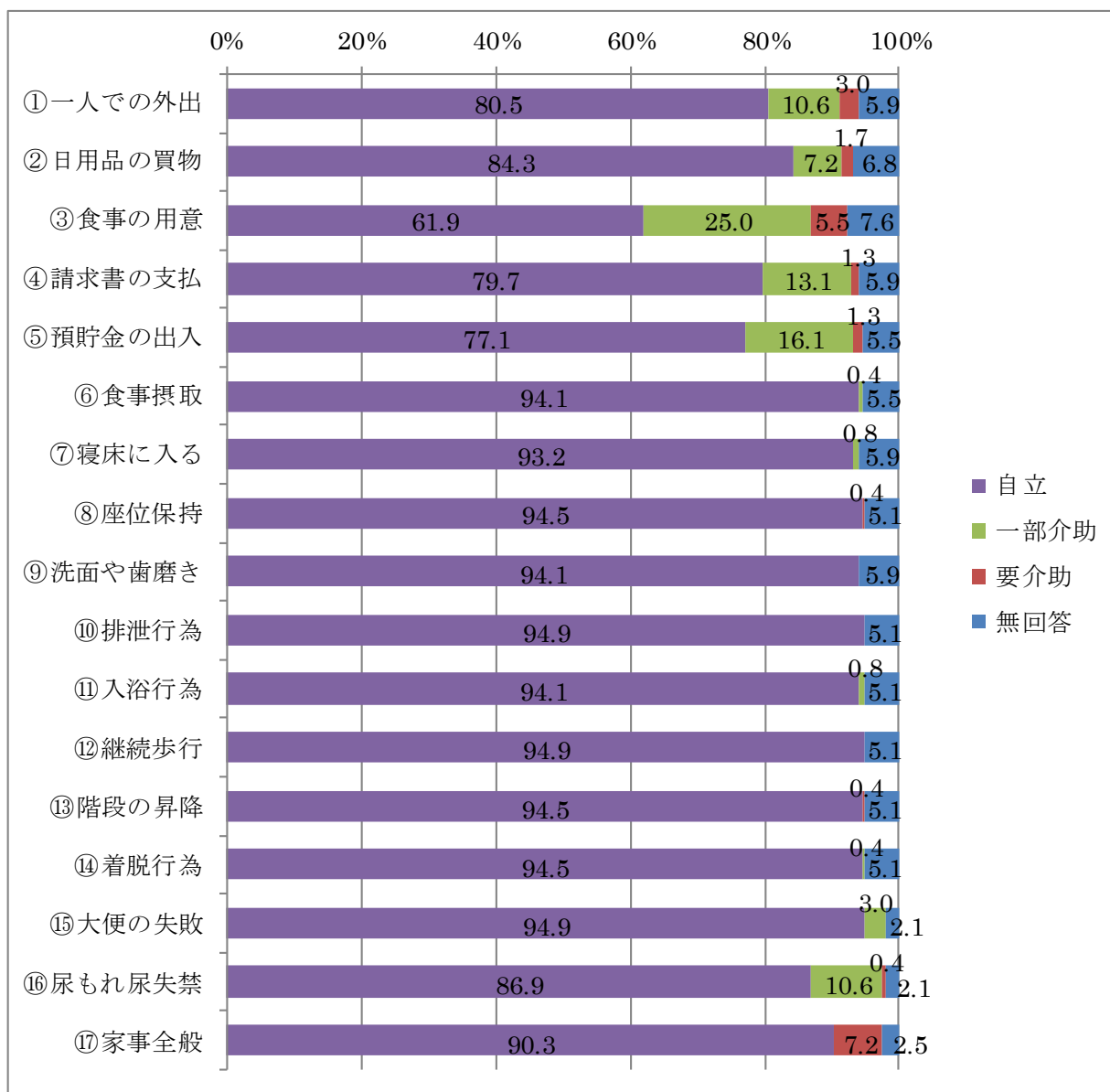


女性の日常生活の状況に関する質問では、ほとんどの項目で8割程度の方が自立していると回答していますが、「①一人での外出」(45.7%)は極めて自立度が低くなっています。また、「②日用品の買物」(58.3%)、「④請求書の支払」(57.2%)、「⑤預貯金の出し入れ」(63.7%)、「⑯尿漏れ尿失禁」(65.5%)、などの自立度は低くなっており、「できるだけしていない」または「ときどきある」の割合が比較的高くなっています。

男女別に比較すると、男性の自立度が高いことがわかります。男性は、「②日用品の買物」、「③食事の用意」、「④請求書の支払」、「⑤預貯金の出し入れ」といった家事や生活支援を伴う行為に自立度が低くなっています。一方で、女性は、「①一人での外出」、「②日用品の買物」、「④請求書の支払」、「⑤預貯金の出し入れ」といった外出を伴うものにおいて自立度が低くなっています。

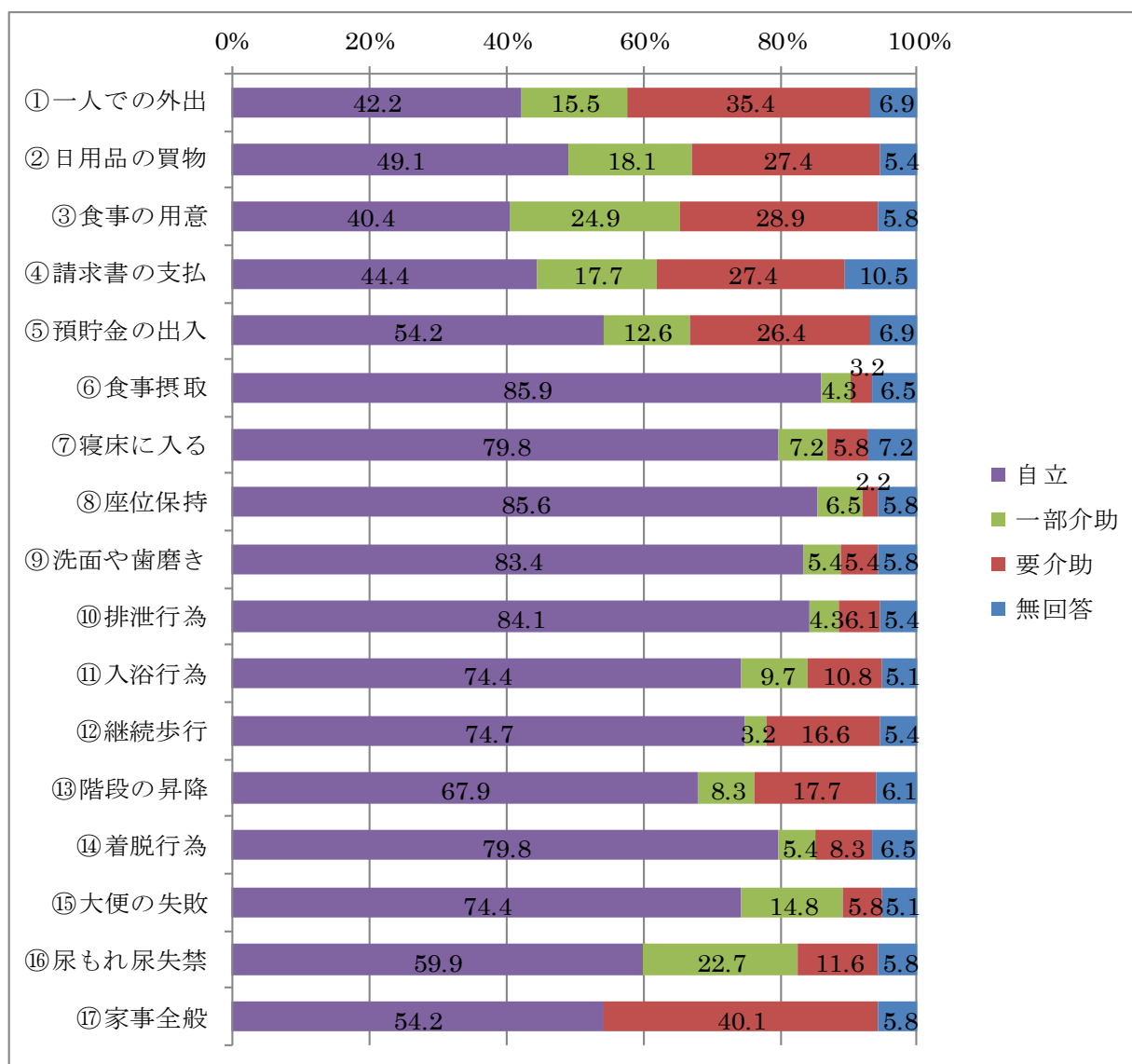
●年齢別日常生活

【前期高齢者：236】



前期高齢者は、日常生活自立度の高い状況であることがわかります。

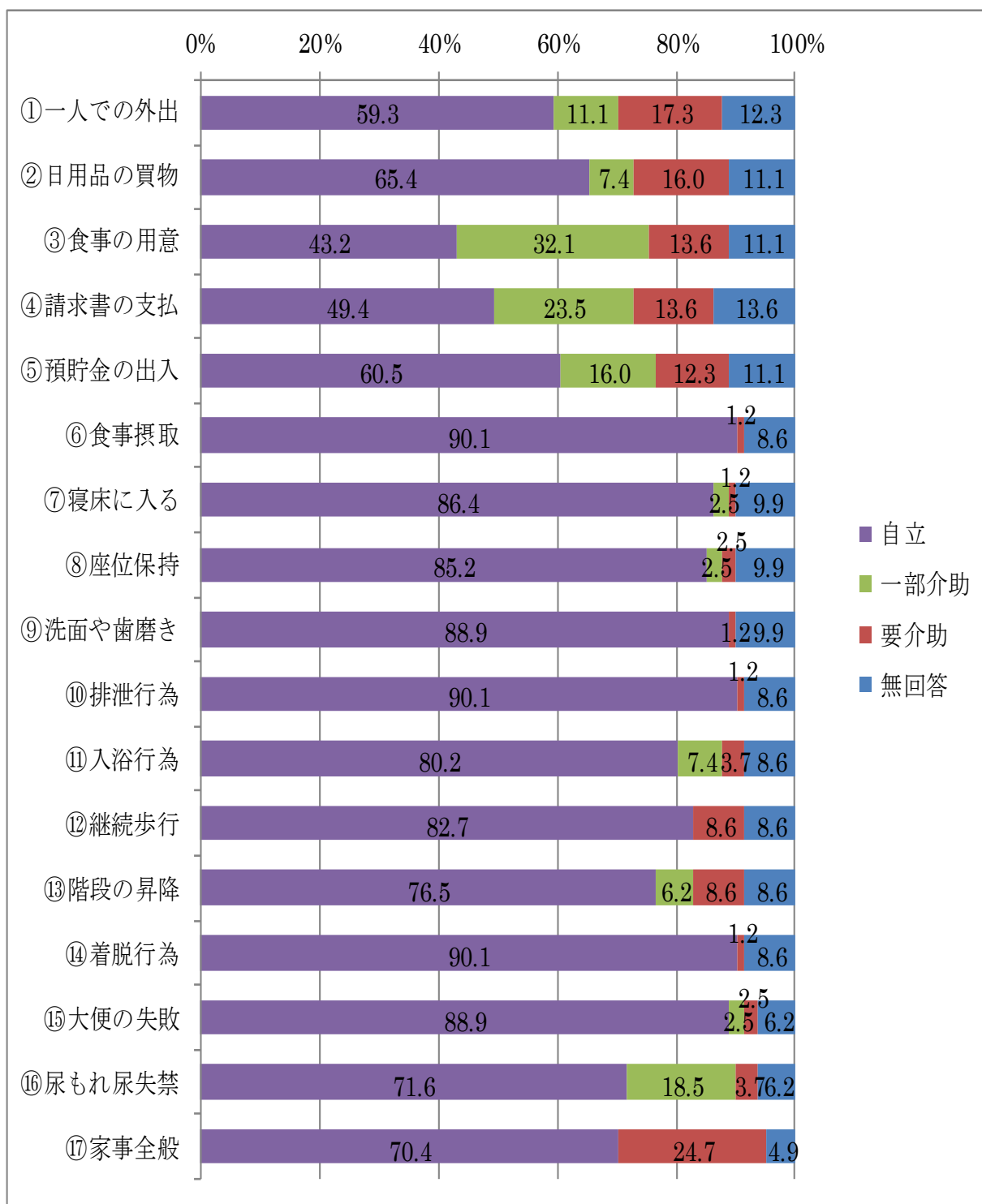
【後期高齢者：277】



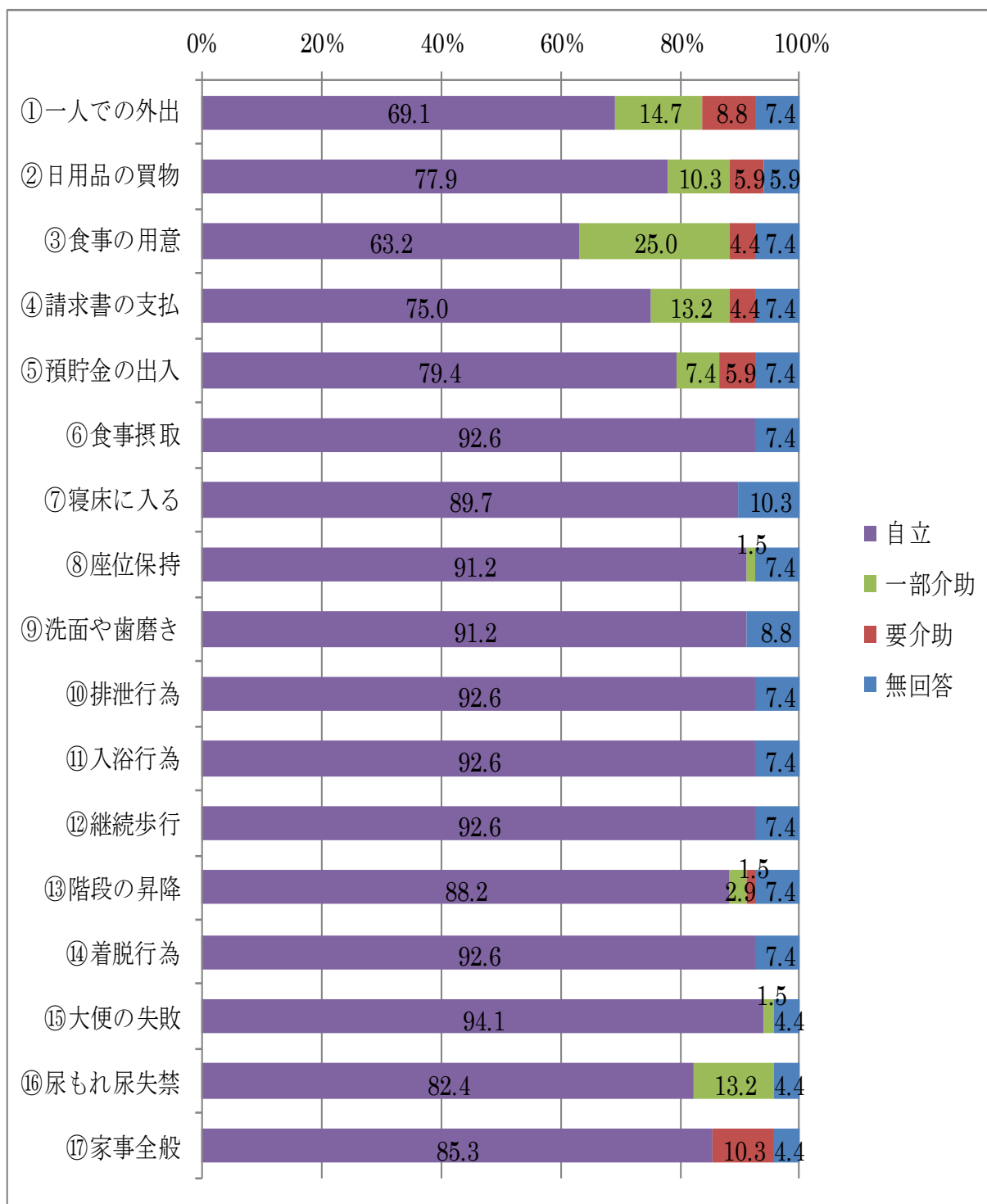
後期高齢者になると、介助の必要性が高くなっています。「①一人での外出」、「②日用品の買物」、「④請求書の支払」、「⑤預貯金の出し入れ」、「⑰家事全般」といった家事や生活支援、外出を伴うもののほか、「⑫継続歩行」や「⑬階段昇降」などの歩行を伴う行為において、介助の必要が高くなっています。

●地区別日常生活

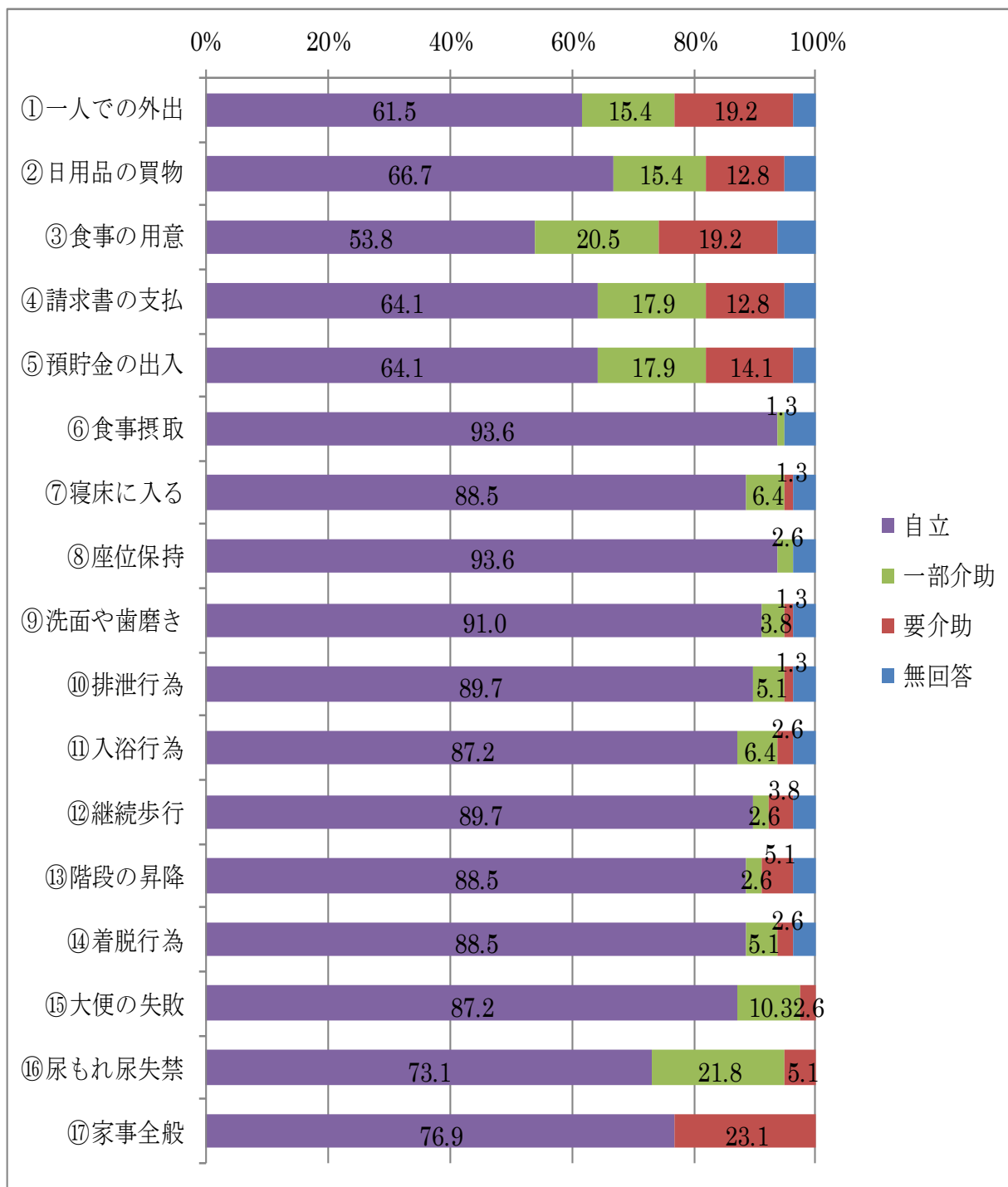
【月夜野・久保：81】



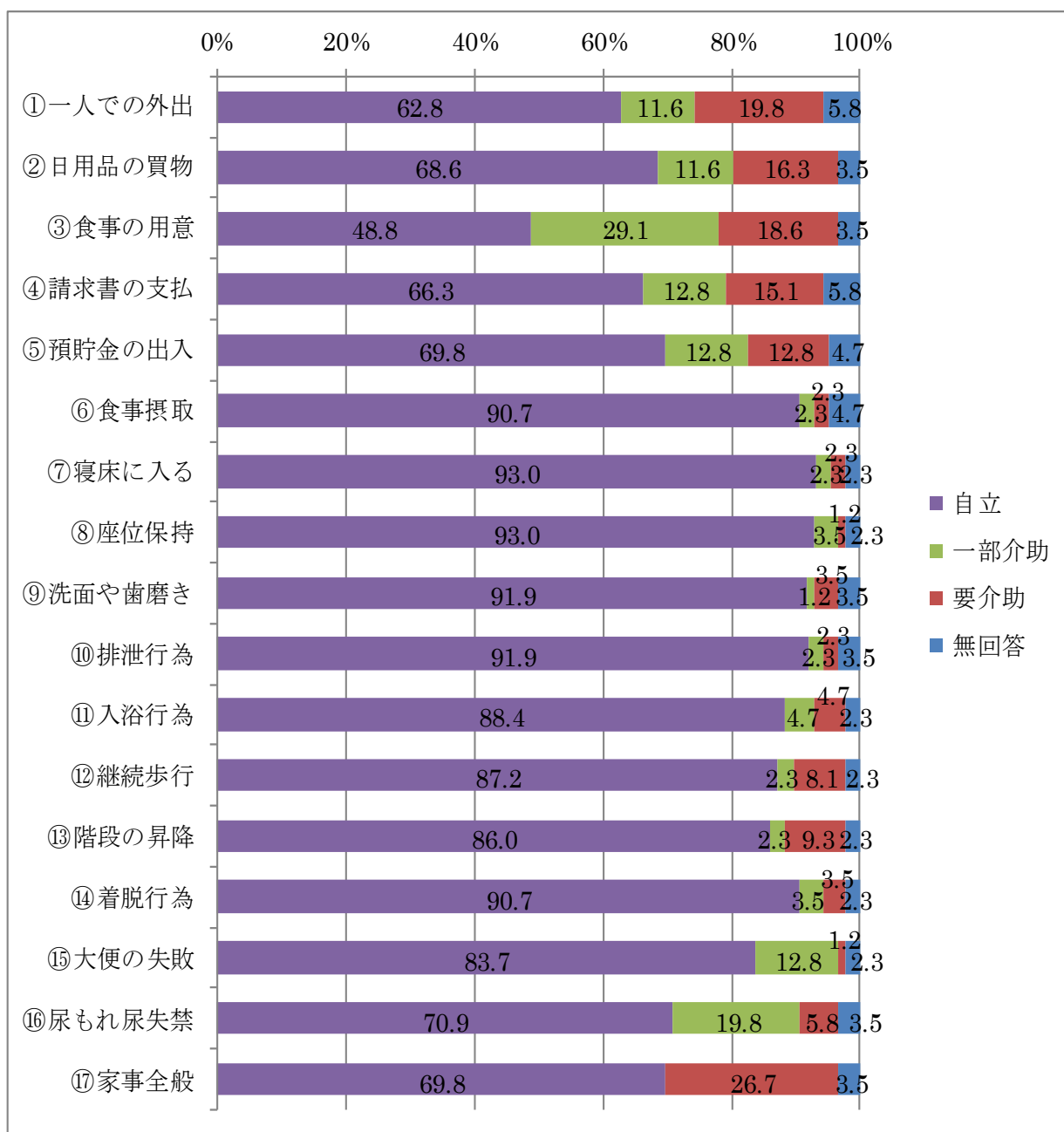
【長幡東：68】



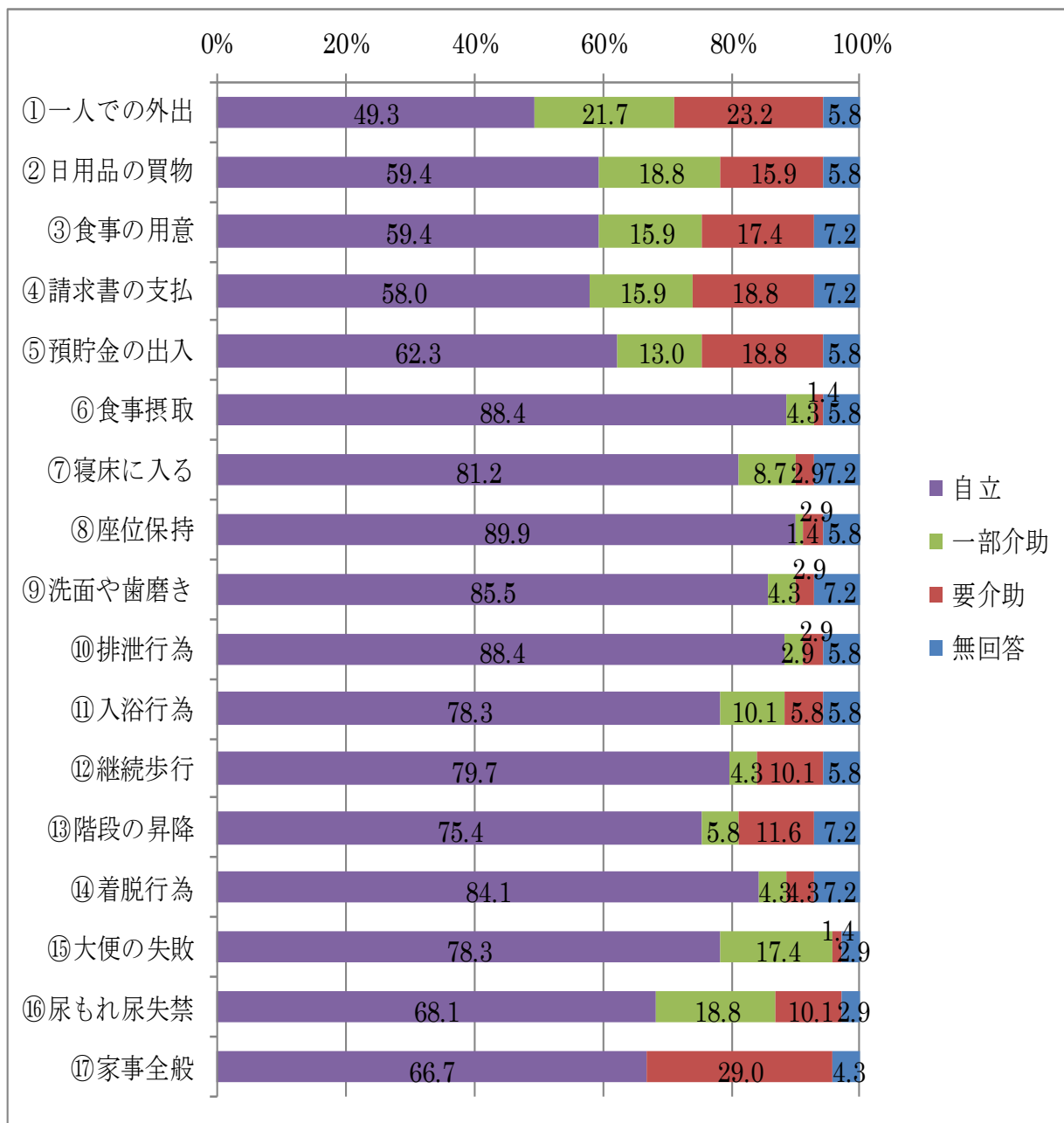
【長幡西：78】



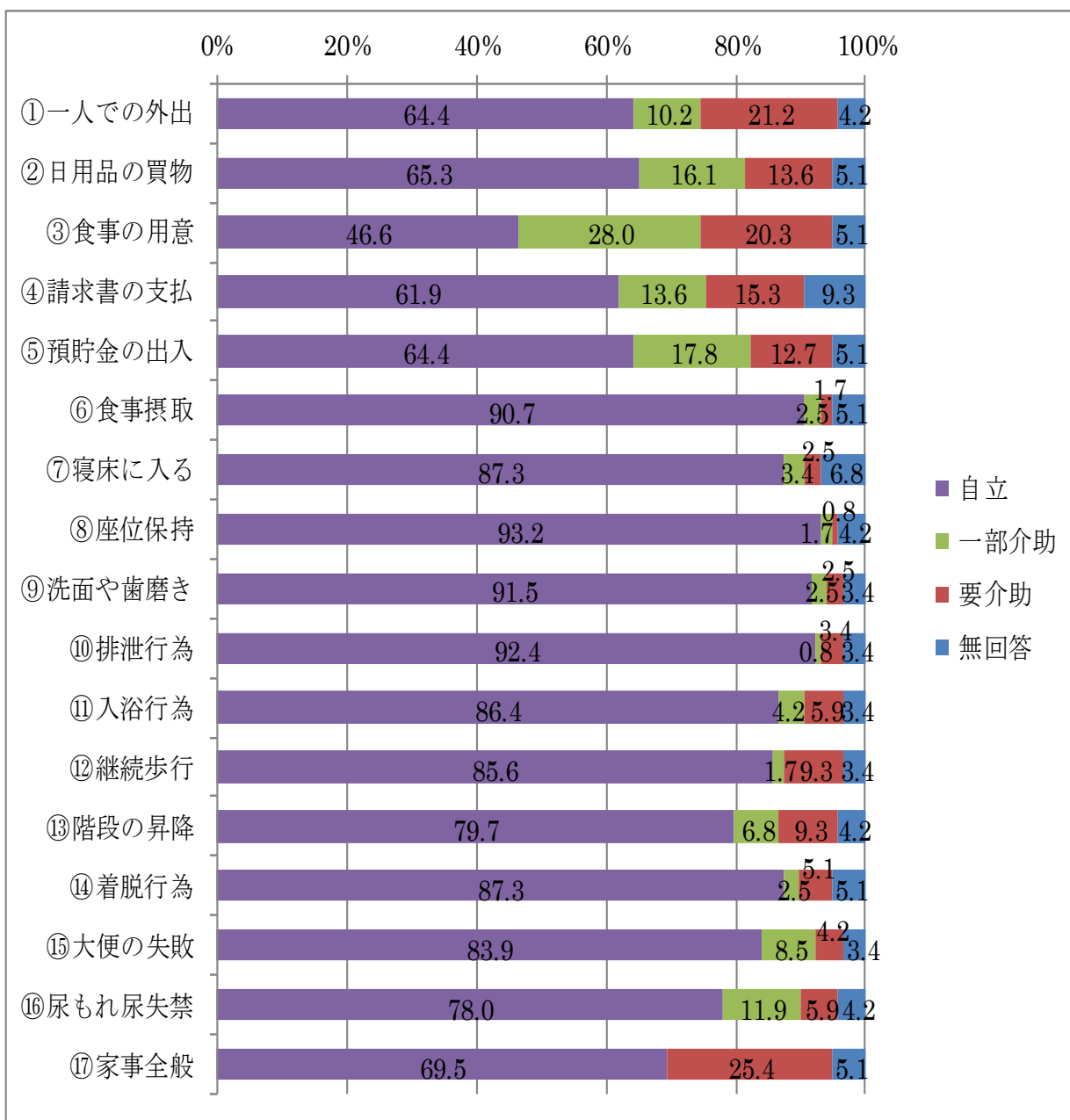
【川原畑：86】



【神地：69】

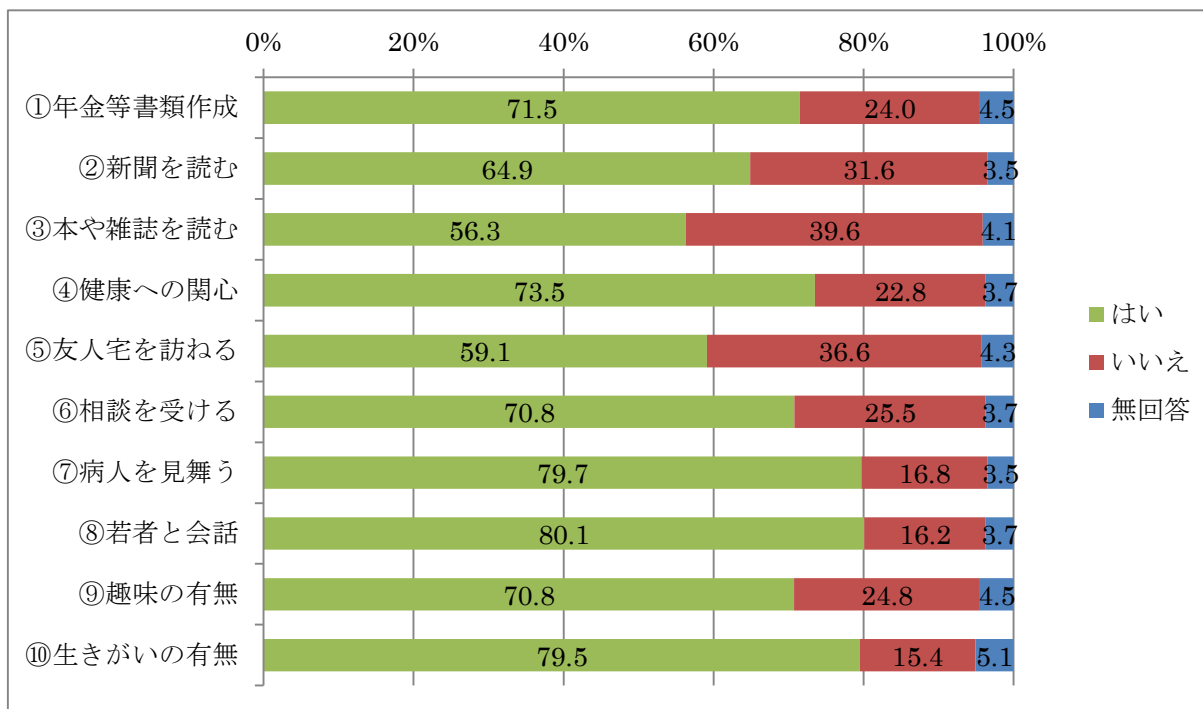


【善之木：118】



8. 設問7 社会参加について

あなたの社会参加についてうかがいます



- 問1. 年金などの書類（役場や病院等に出す書類）が書けますか
- 問2. 新聞を読んでいますか
- 問3. 本や雑誌を読んでいますか
- 問4. 健康についての記事や番組に関心がありますか
- 問5. 友人の家を訪ねていますか
- 問6. 家族や友人の相談にのっていますか
- 問7. 病人を見舞うことができますか
- 問8. 若い人に自分から話しかけることがありますか
- 問9. 趣味はありますか
- 問10. 生きがいはありますか

社会参加の状況に関する質問では、全体的に7割以上の方がそれらの行動をできると回答していますが、「②新聞を読む」（64.9%）、「③本や雑誌を読む」（56.3%）、「⑤友人宅を訪ねる」（59.1%）などに関する項目では、その割合が低くなっています。

男女別に社会参加の状況に関する質問をみてみると、全ての問において男性の方が「はい」と回答する割合が高くなっています。

●男女別日常生活

【男性：235】



【女性：278】



●地区別日常生活

【月夜野・久保：81】



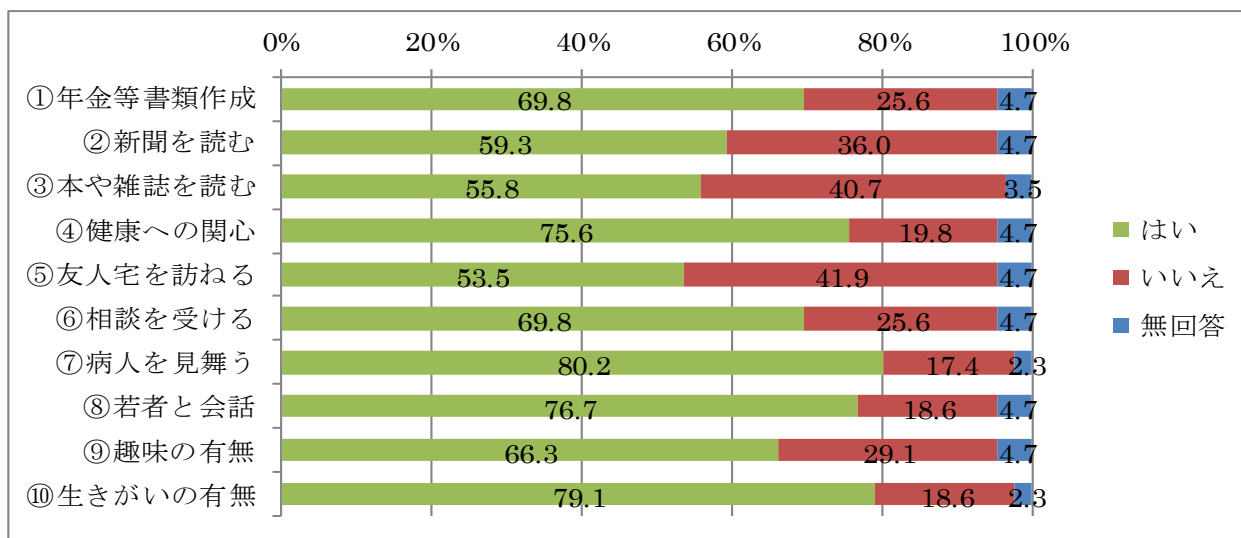
【長幡東：68】



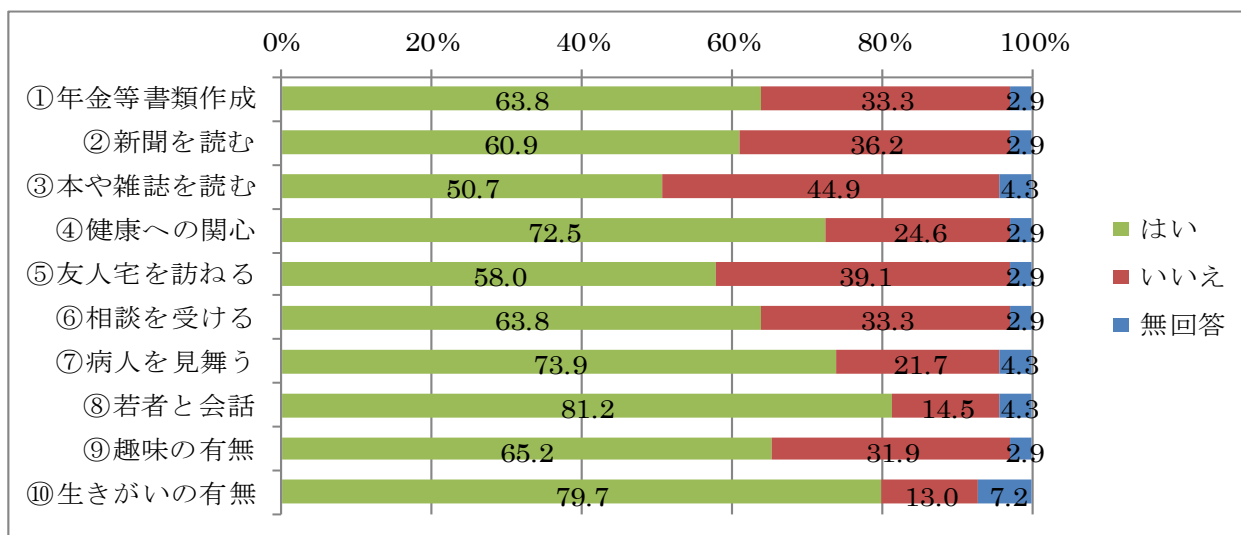
【長幡西：78】



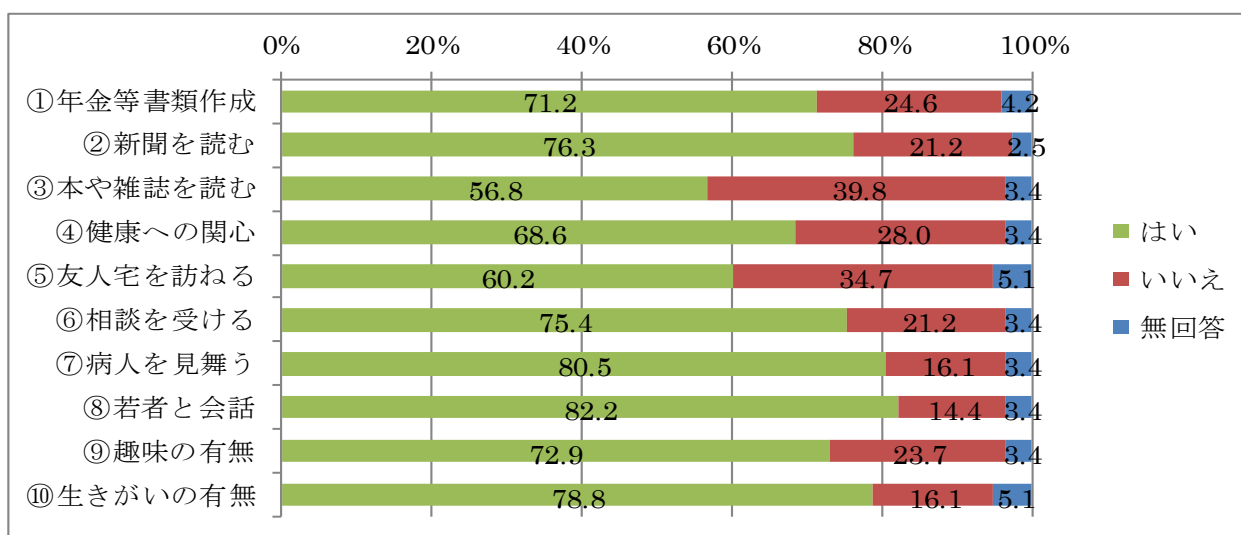
【川原畑：86】



【神地：69】

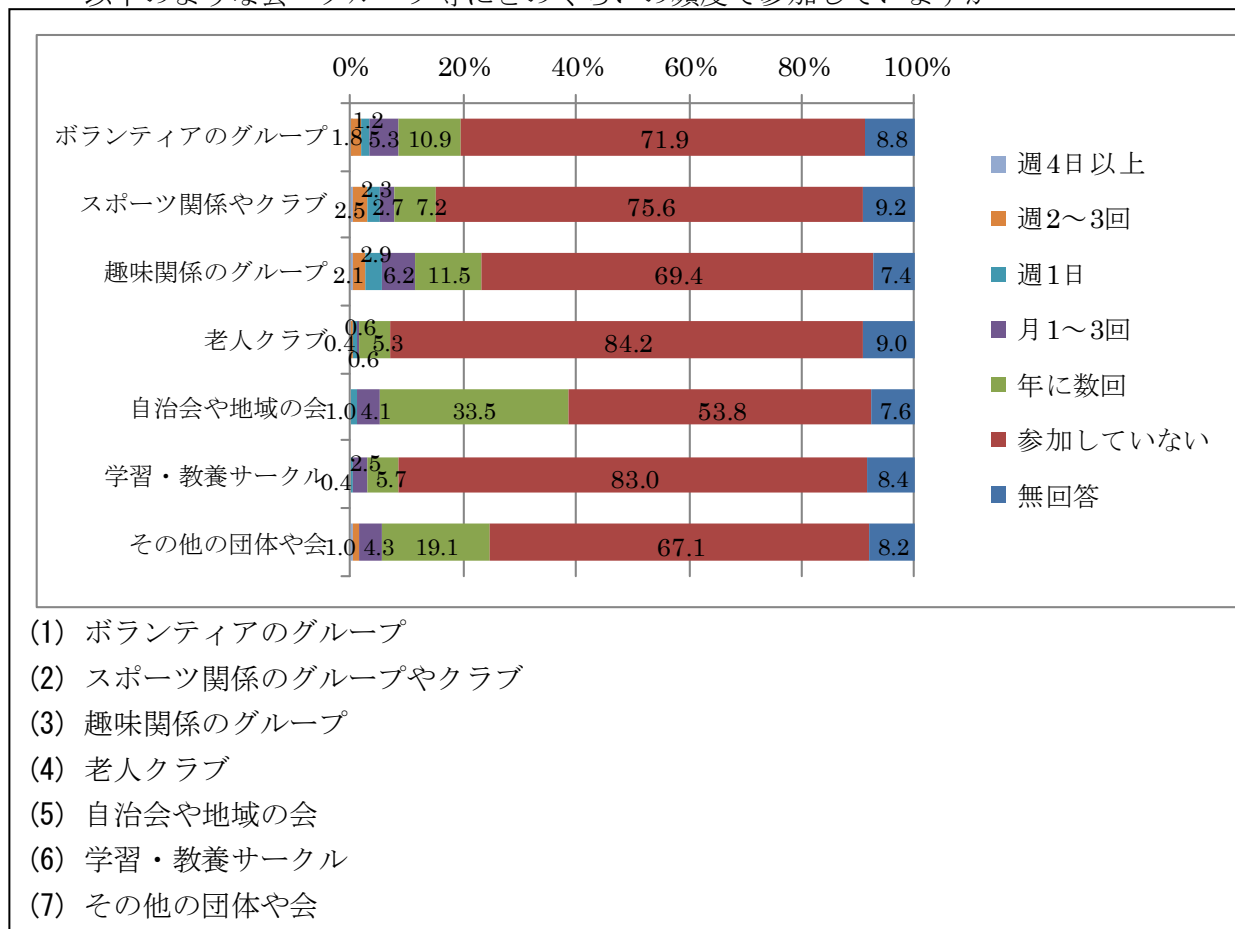


【善之木：118】



問 11. 地域活動への参加状況

以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

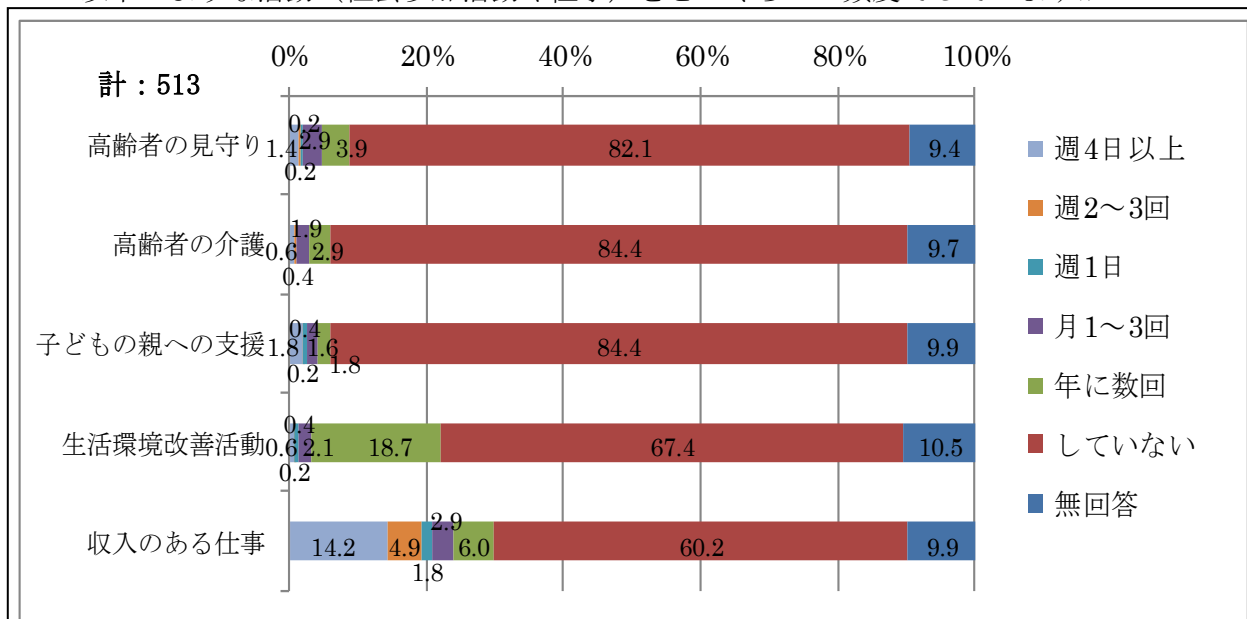


地域活動への参加状況では、全ての問いで「参加していない」が5割から8割を超える割合であり、回答者の多数が地域活動には参加していないことがわかります。

また、参加している地域活動としては、「祭・行事」、「自治会」などで、その頻度も年に数回となっています。

問 12. 社会参加活動や仕事の頻度

以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか



- (1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動
- (2) 介護が必要な高齢者を支援する活動
- (3) 子どもを育てている親を支援する活動
- (4) 地域の生活環境の改善（美化）活動
- (5) 収入のある仕事

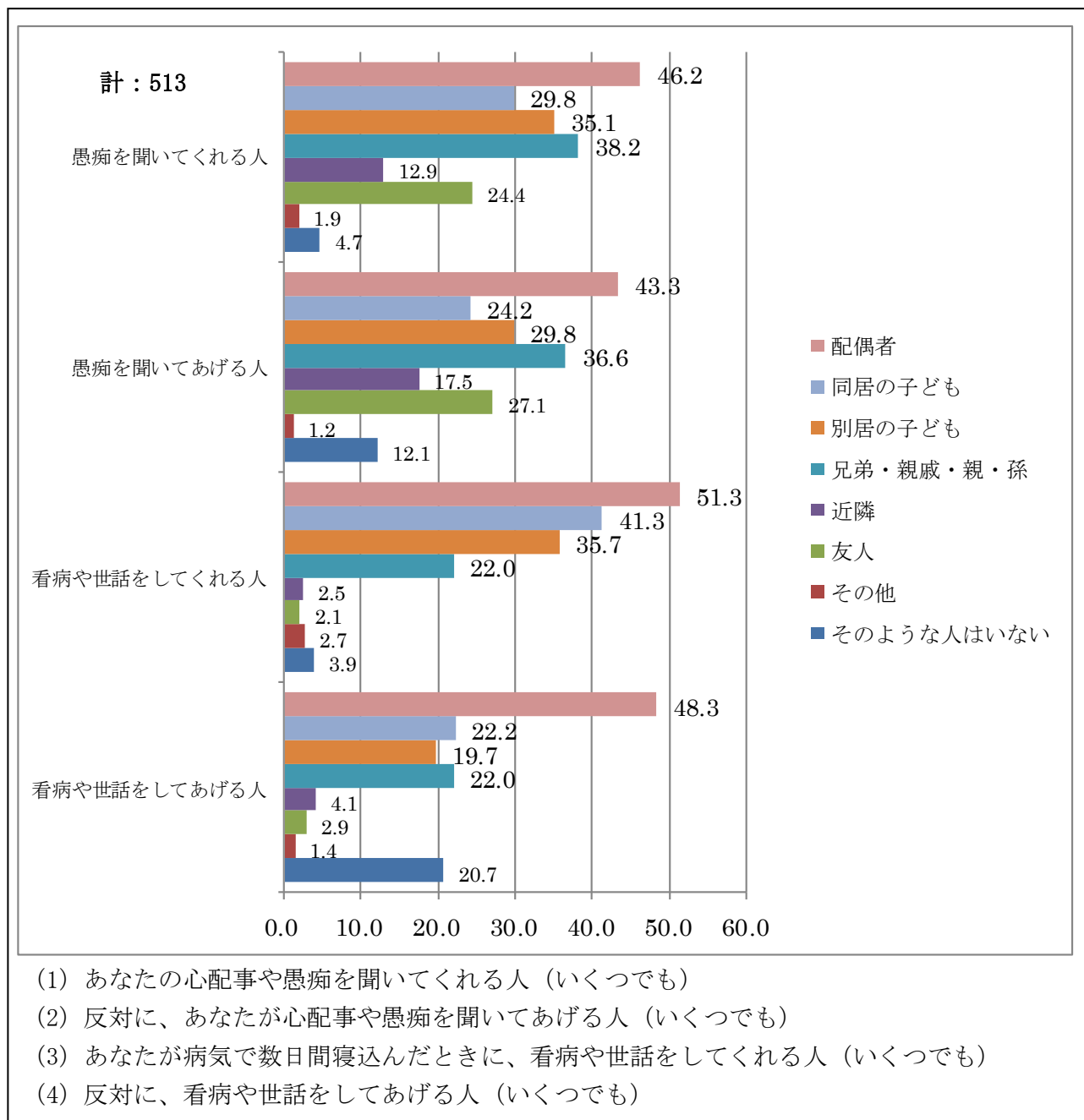
社会参加活動や仕事の頻度に対する質問では、全ての問いで「参加していない」が6割から8割を超える割合であり、回答者の多数が社会参加活動や仕事をしていないことがわかります。

また、している社会参加活動としては、「地域の生活環境（美化）活動」で22.0%の方が年に数回以上の頻度で参加していると回答しています。「収入のある仕事」は概ね3割の方が年に数回以上でしていると回答しています。

問 13. 「たすけあい」について

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。

あてはまるすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

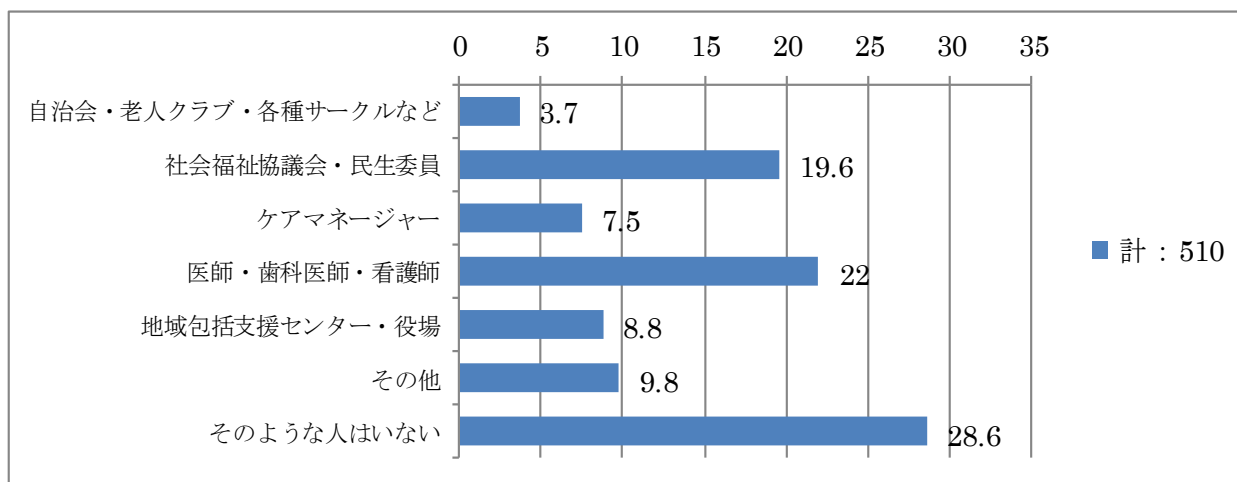


「愚痴を聞いてくれる、愚痴を聞いてあげる人」や「看病や世話をしてくれる、看病や世話をしてあげる人」では、いずれも「配偶者」が最も多く、「同居の子ども」、「別居の子ども」、「兄弟・親戚・親・孫」など家族が上位を占めています。

一方、愚痴を聞いてあげる人や看病や世話をしてあげる人では、「そのような人はいない」と回答している方も多くなっています。

問 14. 相談相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

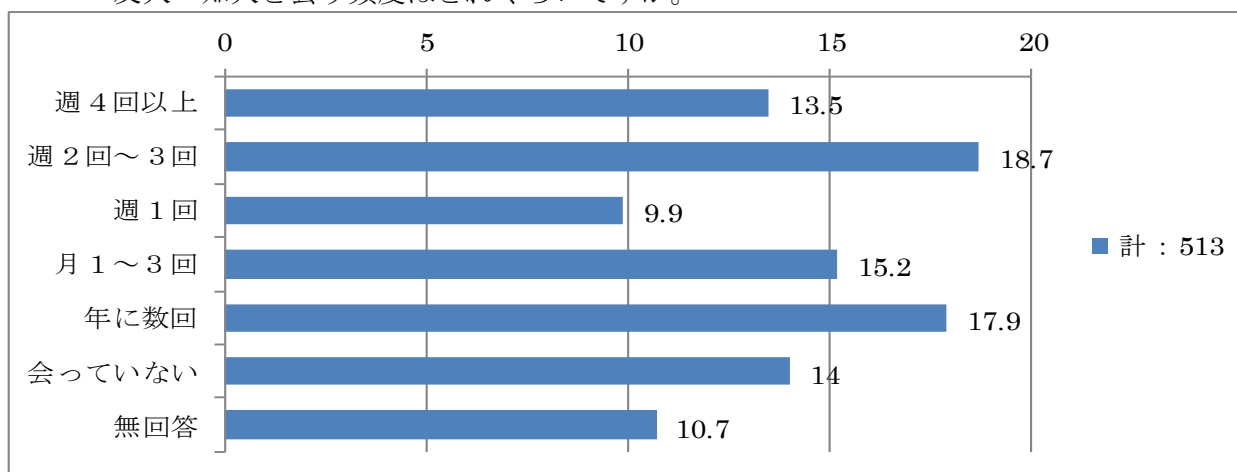


相談相手では、「そのような人はいない」が 28.6%で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(22.0%)、「社会福祉協議会・民生委員」(22.0%)などと続いています。「地域包括支援センター・役場」(8.8%)や「ケアマネージャー」(7.5%)などの身近にいる専門的な人への相談は低い割合となっています。

問 15. 友人関係

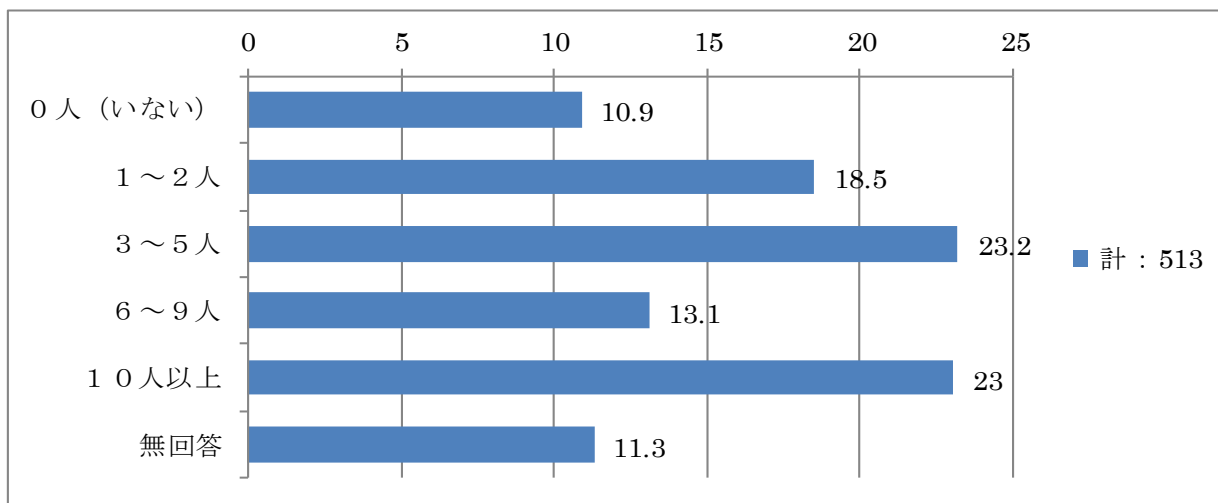
(1) 友人関係についておうかがいします。

友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。



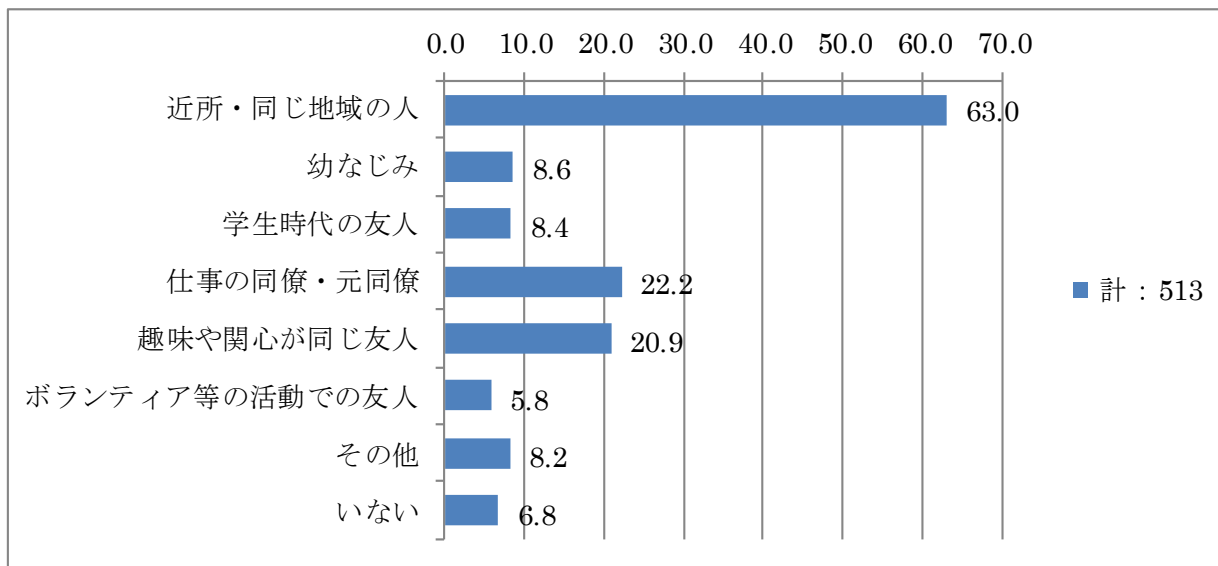
友人・知人と会う頻度で最も多い回答は、「週 2～3 回」(18.7%)、次いで「年に数回」(17.9%)、「月 1～3 回」(15.2%)と続いています。「会っていない」(14.0%)も高い割合となっています。

(2) この1ヶ月間、何人の友人・知人と会いましたか。
 同じ人には何回会っても1人と数えることとします。



この1ヶ月間で何人の友人・知人と会ったかの問いでは、「3～5人」(23.2%)で最も多く、次いで「10人以上」(23.0%)、「1～2人」(18.5%)となっています。一方で「0人(いない)」が10.9%、「1人～2人」が18.5%あり、回答者の3割が1月間に会う友人・知人の数は2人以下であることがわかります。

(3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)

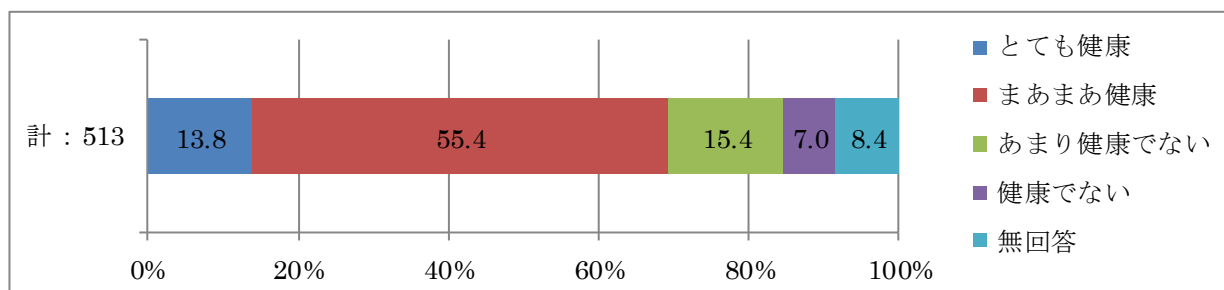


よく会う友人・知人の関係は、「近所・同じ地域の人」(63.0%)が突出して高くなっています。次いで「仕事の同僚・元同僚」(22.2%)、「趣味や関心が同じ友人」(20.9%)となっています。

9. 設問8 健康について

問1. 健康状況の自覚

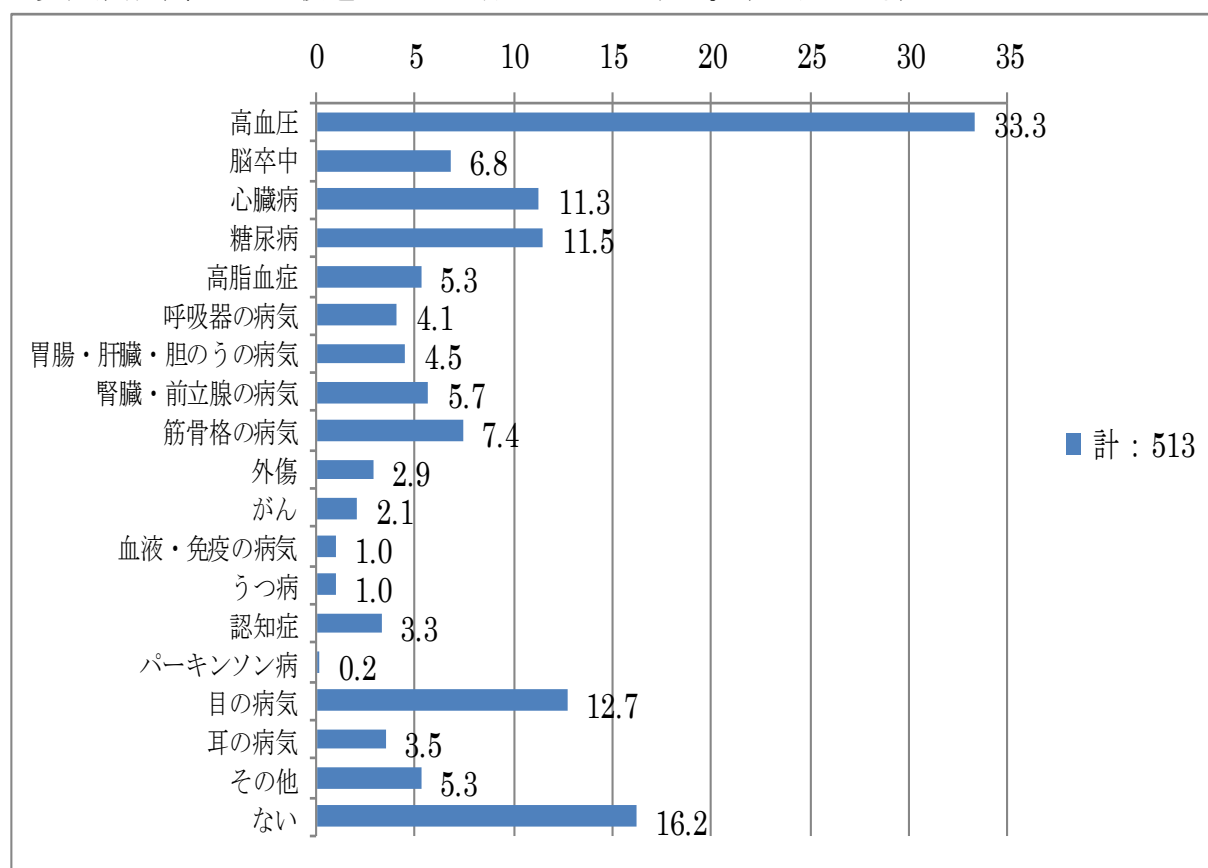
普段、ご自分で健康だと思えますか



自分の健康状況について健康(「とても健康」と「まあまあ健康」の合計)と感じている人は69.2%を占めています。

問2. 病気の有無

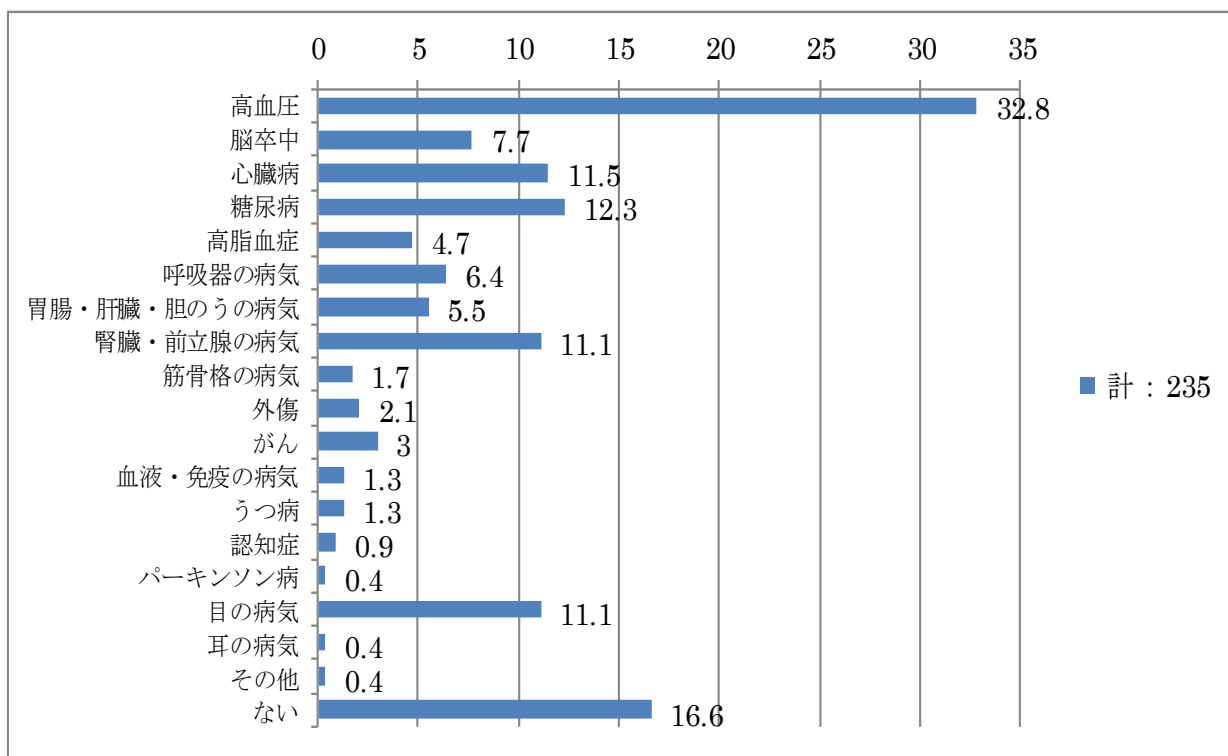
現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)



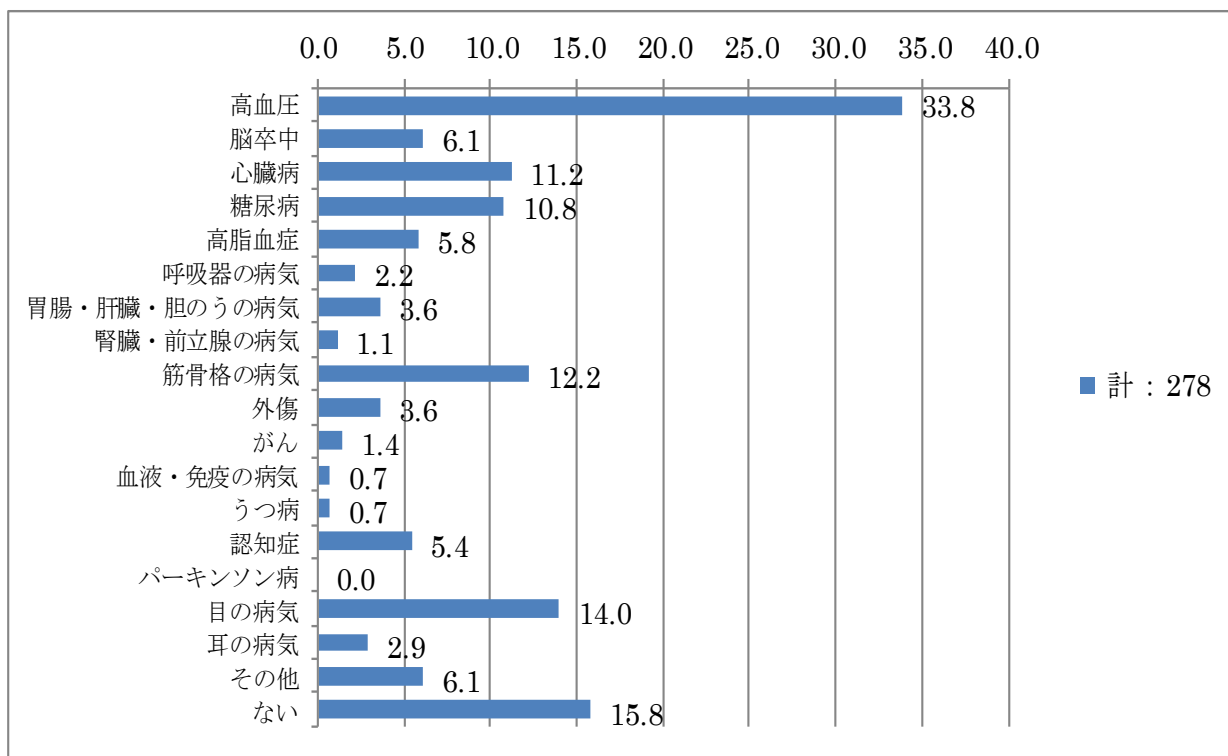
現在治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」(33.3%)が最も多く、次いで「ない」(16.2%)、「目の病気」(12.7%)、「糖尿病」(11.5%)、「心臓病」(11.3%)の順となっています。

●男女別病気の有無

【男性：235】

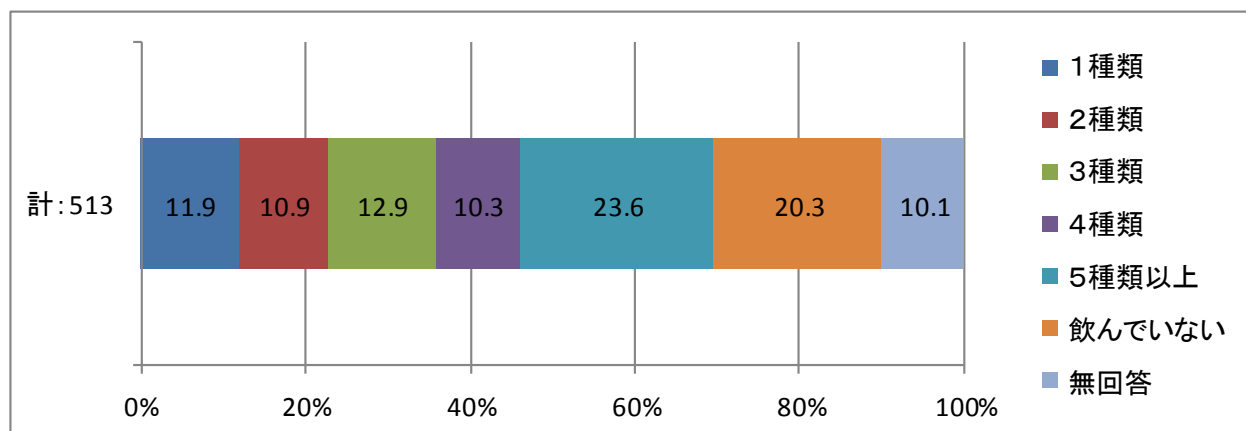


【女性：278】



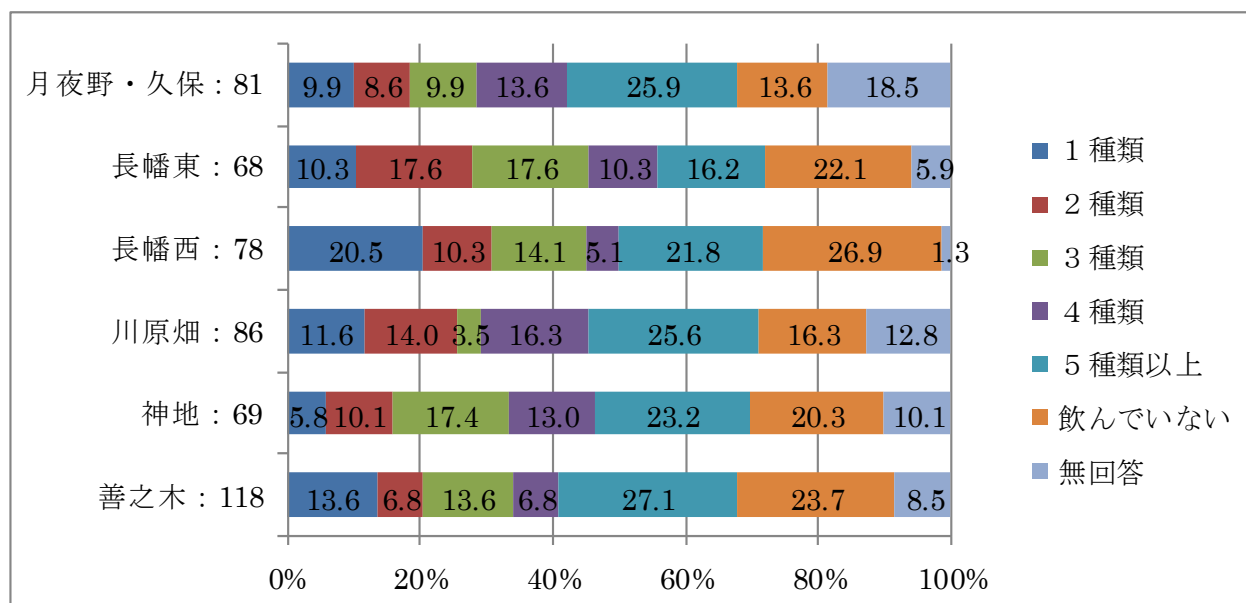
問3. 飲んでいる薬の数

現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか



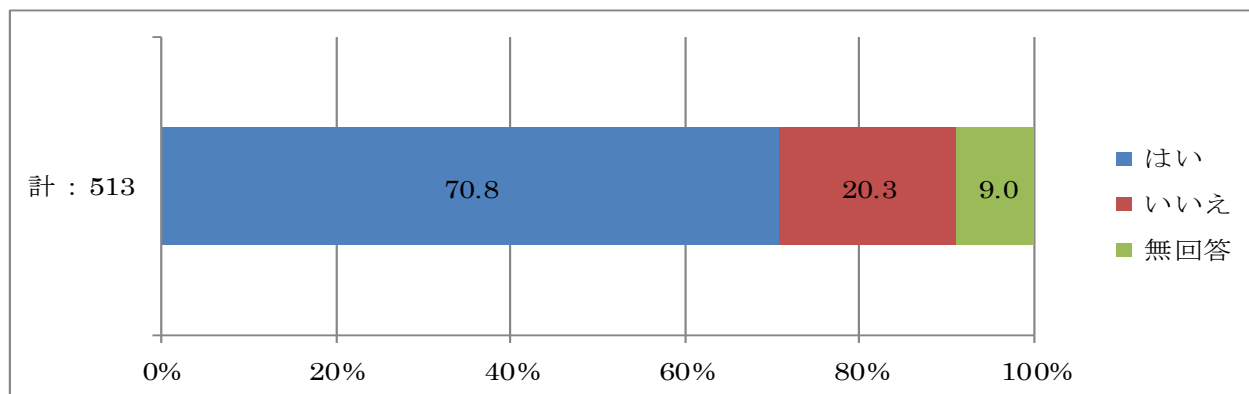
現在飲んでいる薬の数では、「5種類以上」が23.6%を占め最も多く、複数の薬を常用している人が多いことを示しています。

●地区別飲んでいる薬の数



問4. 通院状況

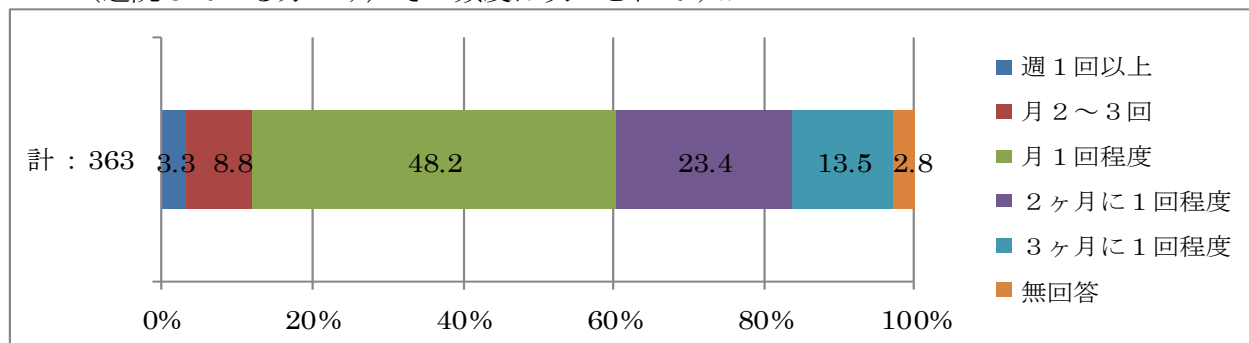
現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか



現在通院している人は回答者の約7割を占めています。

問4-1. 通院頻度

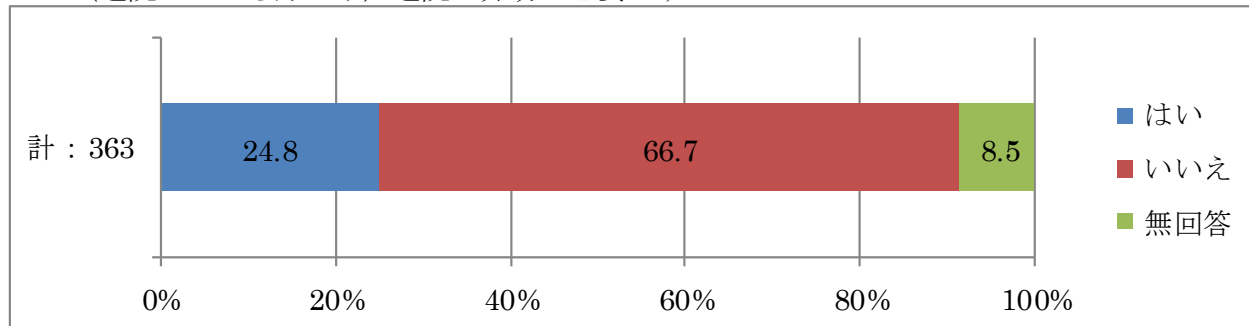
(通院している方のみ) その頻度は次のどれですか



通院している人の頻度は、「月1回程度」が最も多く、48.2%と概ね半数を占めています。

問4-2. 通院での介助の必要性

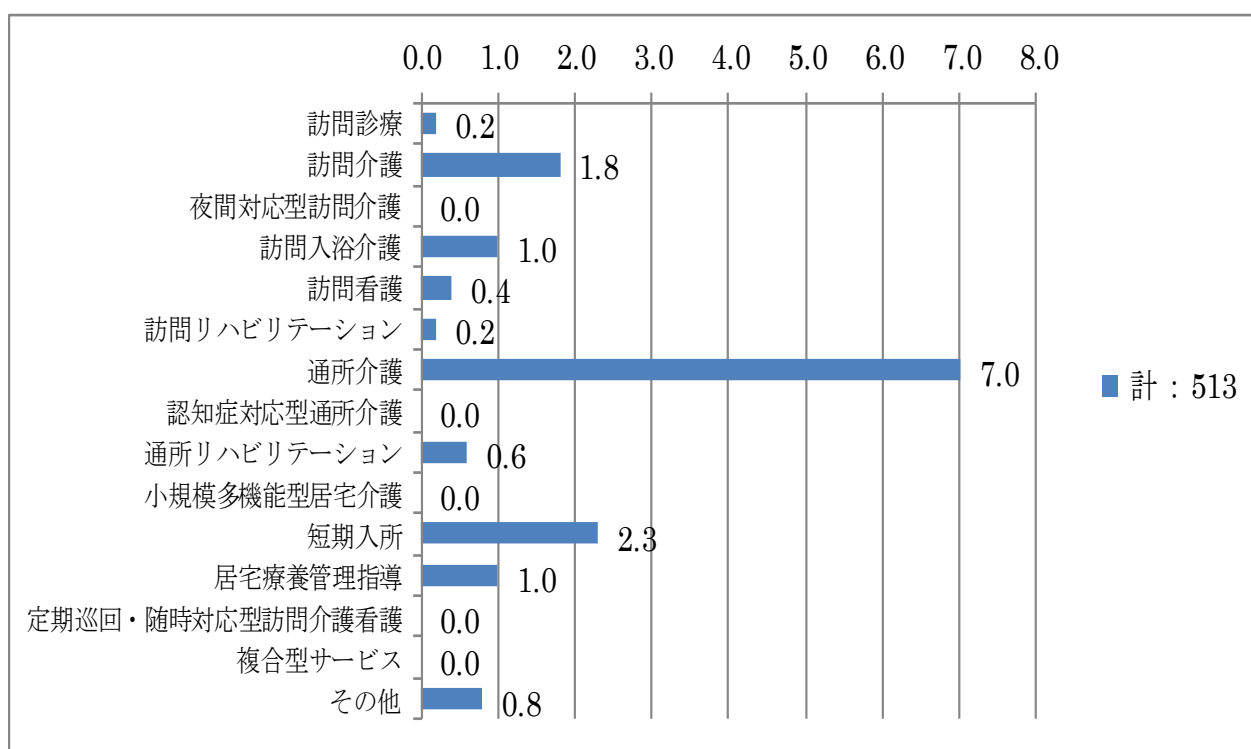
(通院している方のみ) 通院に介助が必要ですか



通院に伴う介助の必要性では、通院している人の約6割以上が「いいえ」と回答しており、通院時に介助が必要な人は24.8%となっています。

問5. 在宅サービスの利用の状況

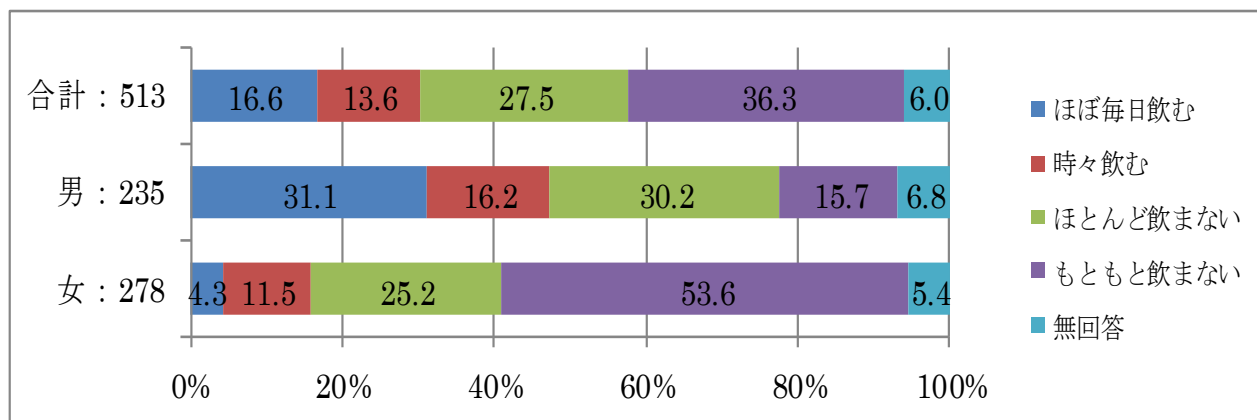
以下の在宅サービスを利用していますか（いくつでも）



在宅サービスの利用状況では、「通所介護」(7.0%)や「短期入所」(2.3%)、「訪問介護」(1.8%)などが上位となっています。

問6. 飲酒習慣

お酒は飲みますか

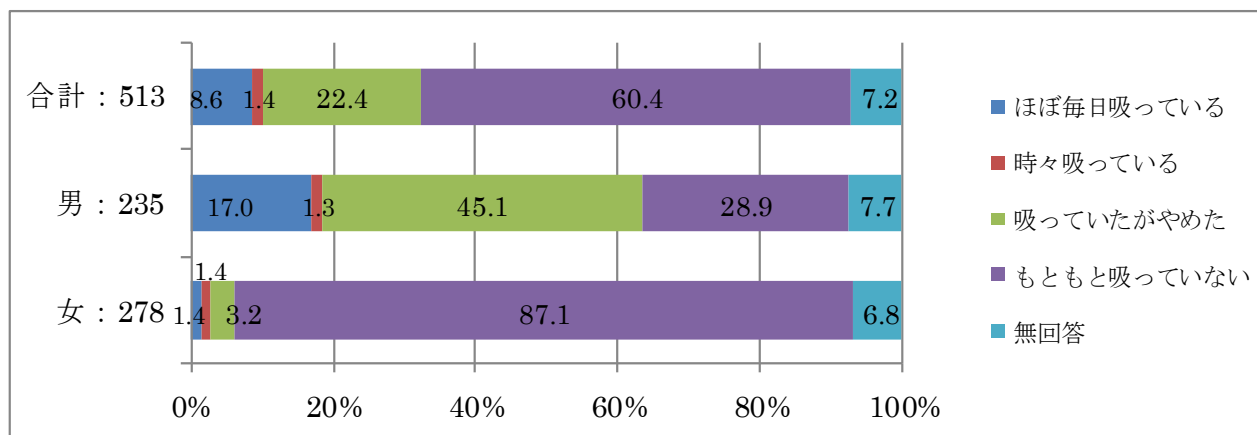


飲酒習慣に関する質問では、「もともと飲まない」が 36.3%で最も多く、続く「ほとんど飲まない」(27.5%)を合わせて、飲酒習慣のない人が約6割強を占めています。

また、男女別でみると、男性では「ほぼ毎日飲む」が31.1%を占めているのに対し、女性では「もともと飲まない」が53.6%を占めています。

問7. 喫煙習慣

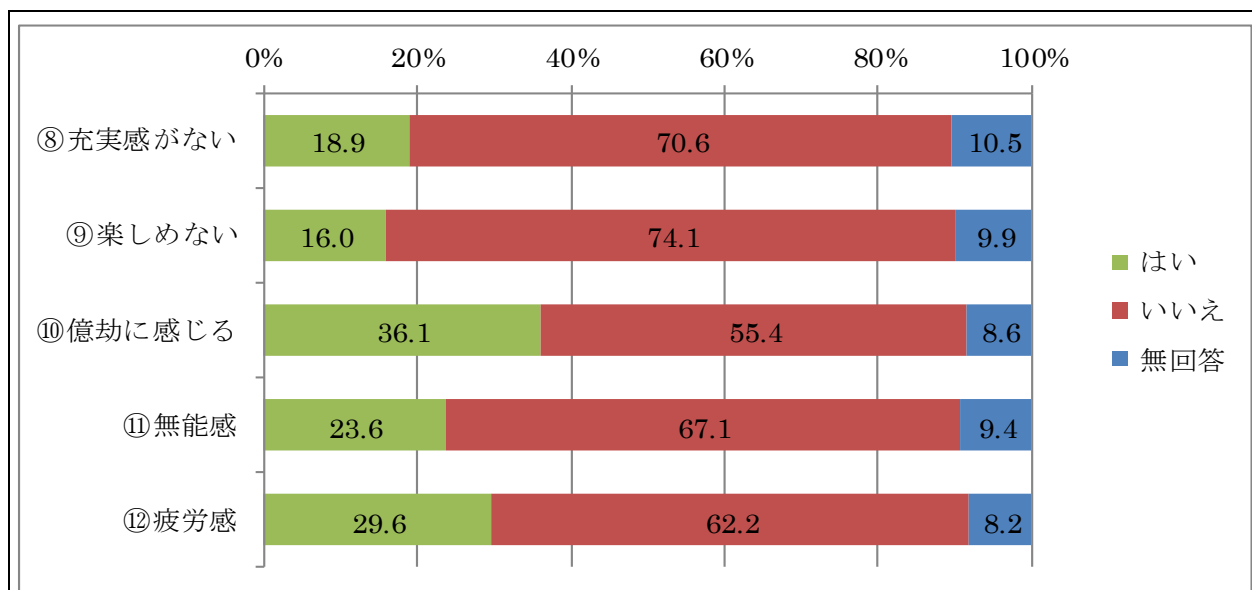
タバコは吸っていますか



喫煙習慣に関する質問では、「もともと吸っていない」が 60.4%で最も多く、続く「吸っていたがやめた」(22.4%)を合わせて、喫煙習慣のない人が8割以上を占めています。

また、男女別でみると、男性では「吸っていたがやめた」が45.1%を占めているのに対し、女性では「もともと吸っていない」が87.1%を占めています。

ここ2週間の状況についてうかがいます



問 8. 毎日の生活に充実感がない

問 9. これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった

問 10. 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる

問 11. 自分が役に立つ人間だと思えない

問 12. わけもなく疲れたような感じがする

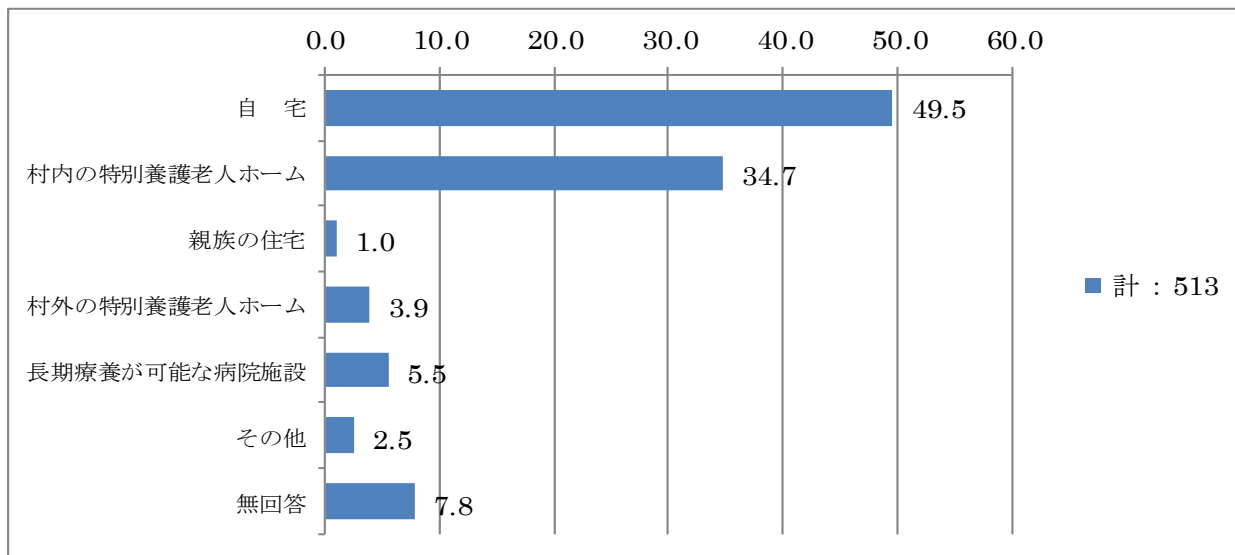
ここ2週間の状況に関する質問については、「⑩億劫に感じる」で「はい」の回答が36.1%、「⑫疲労感」で「はい」の回答が29.6%を占めています。

また、地区別にみると、第2自治会では、⑧から⑫のいずれの項目でも「はい」の割合が低く、生活に充実感のない人の割合は他の自治会よりも比較的低くなっています。

10. 設問9 介護保険施設（特別養護老人ホーム）の計画について

問1. どこで過ごしたいか

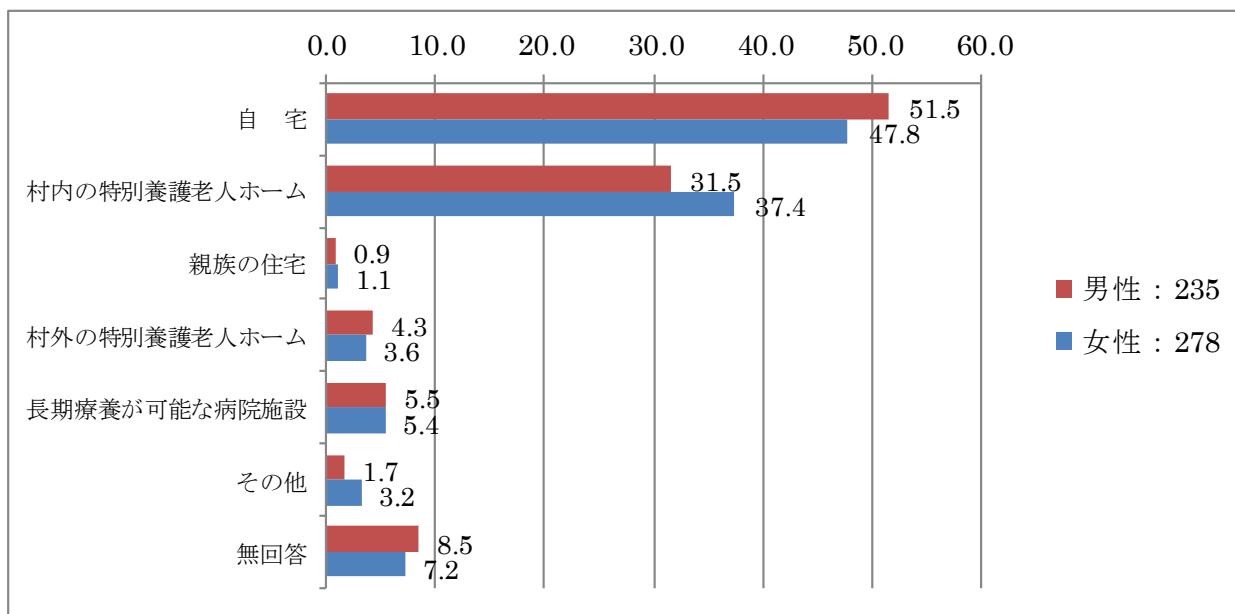
介護・介助が必要になったら、どこで過ごしたいですか。



介護・介助が必要になったときでも、回答者の5割が「自宅」で暮らしていきたいと望んでいることがわかります。一方、「村内の特別養護老人ホーム」で過ごしたいと回答している方は、34.7%です。

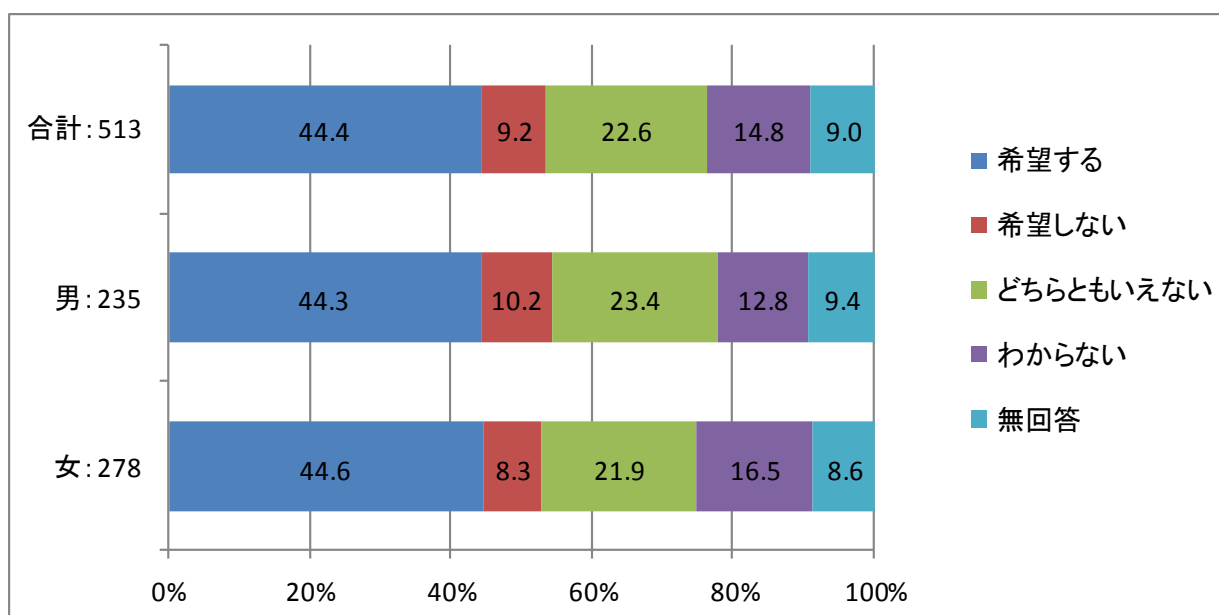
男女別にどこで過ごしたいかを比較すると、「自宅」では男性（51.5%）が女性（47.8%）を上回り、「村内の特別養護老人ホーム」では女性（37.4%）が男性（31.5%）を上回っています。

●男女別どこで過ごしたいか



問2. 村内の特別養護老人ホームへの入所希望の有無

村内に小規模な特別養護老人ホームがあった場合、入所を希望したいですか。

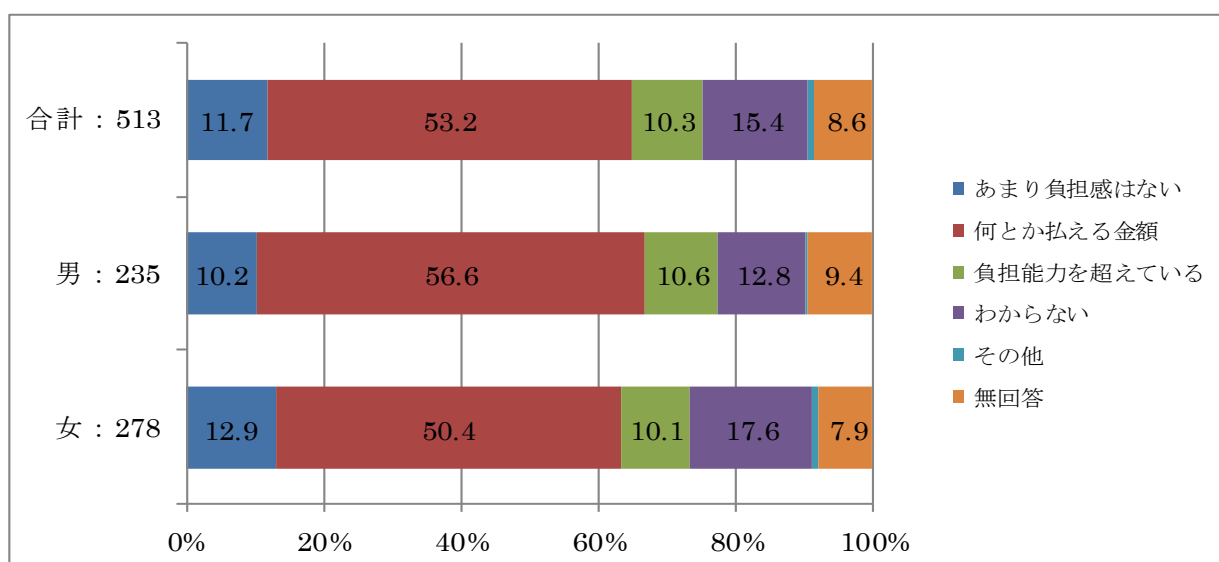


村内に小規模な特別養護老人ホームがあった場合、入所を「希望したい」と回答した方は、44.4%を占めています。

男女別の入所希望の有無については、概ね同じ割合の回答となっています。

問3. 現在の介護保険料

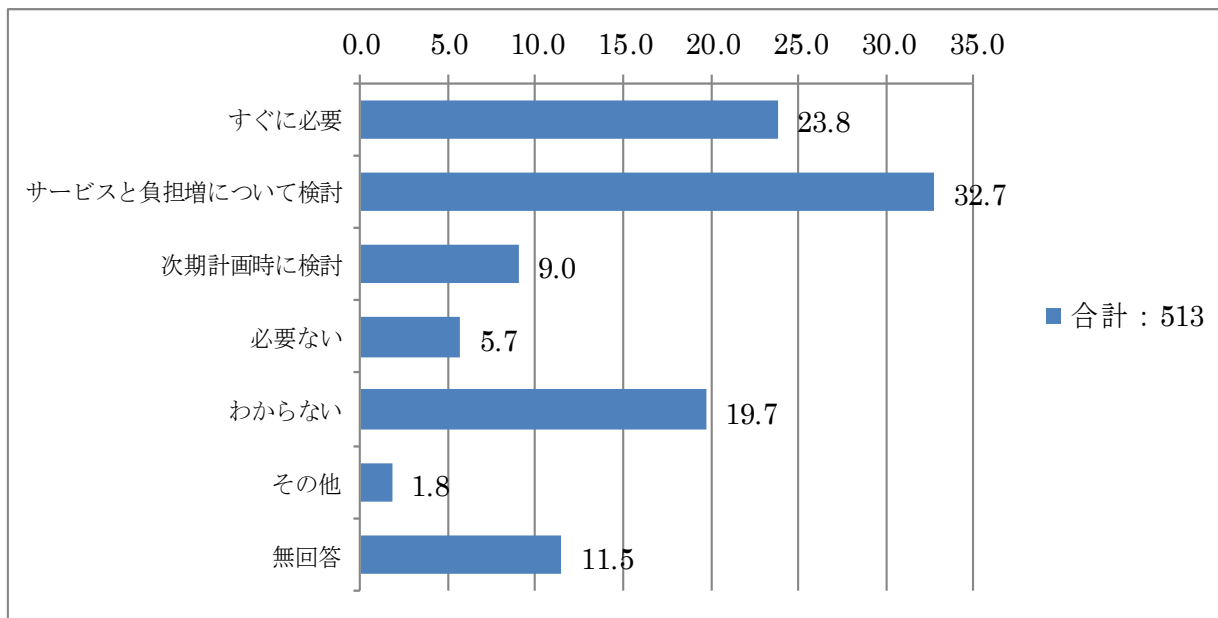
現在の介護保険料についてどう思われていますか。



現在の介護保険料について、「負担感はあるが、何とかやりくりして払える金額である」(53.2%)が最も多くの回答となっています。また、回答者の1割が「負担能力を超えている」と回答しています。

問4 施設の必要性

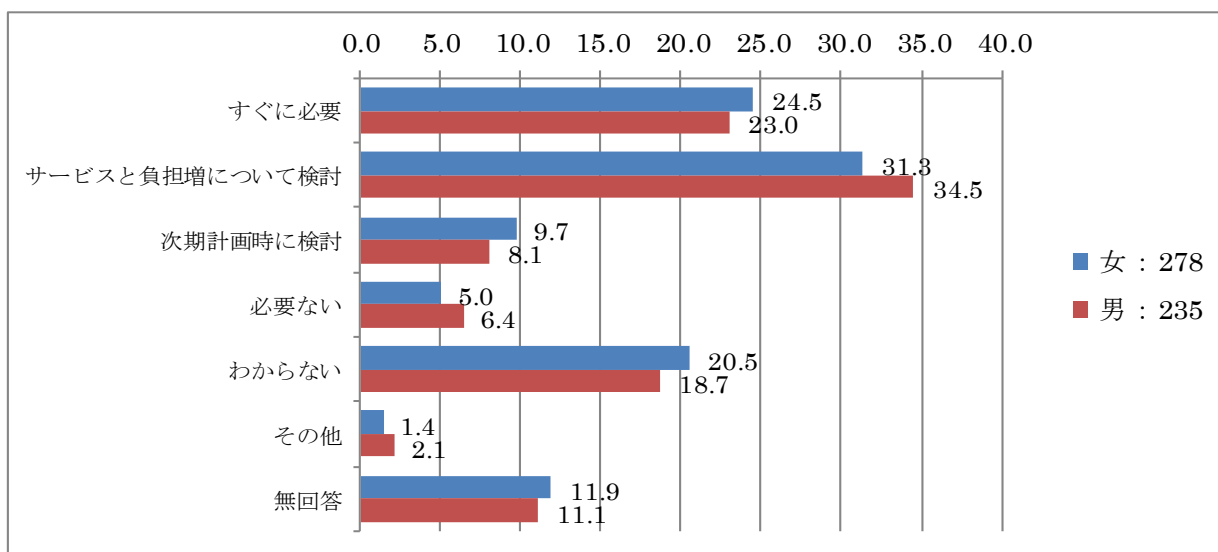
村内に小規模な特別養護老人ホームを設置するためには、現在計画策定中の第6期介護保険事業計画に位置付けることが大前提となります。この施設が設置された場合の主な長所と短所を参考に、施設の必要性についてお聞きします。



村内に小規模な特別養護老人ホームの設置について、回答者の65.5%がその必要性を感じており、うち32.7%が「サービスの充実と負担増について検討が必要」と回答し、9.0%が「次の第7期介護保険事業計画策定時に検討するべき」と回答しています。

その他の回答では、「村内に高齢者が多いため必要」、「病院と連携できるような施設であってほしい」といった施設の必要性について肯定的なもののほか、「特養より在宅サービスの充実を、建てるなら小規模でなく大規模を」、「人口規模から無理がある」や「人口が減っているので他市町村の施設利用を検討するべき」といった要検討や否定的と思われる内容となっています。

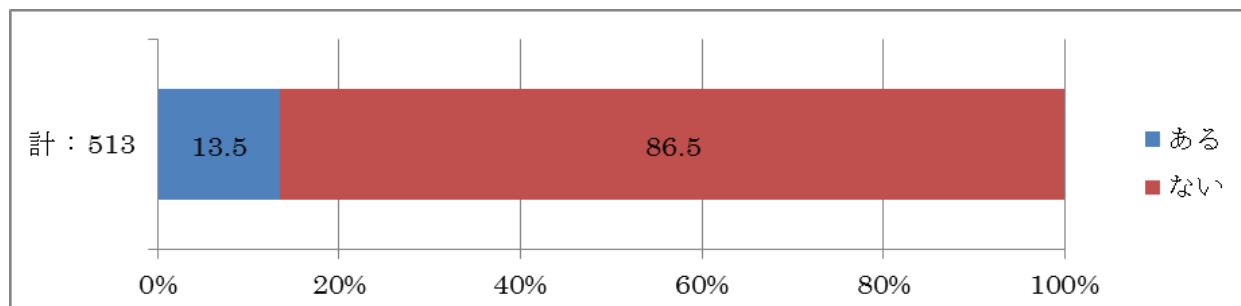
●男女別施設の必要性



自由記述

問5 自由記述

高齢者保健福祉に関することや介護保険制度についてご意見やご要望がございましたら、ご自由にご記入ください。



自由記述へは69人(13.5%)から85件の回答があり、うち、56件(65.9%)は特別養護老人ホームの整備に関する内容です。結果を項目別にまとめると以下のようになります。

■自由記述内容

分類	内容
介護保険制度全般	介護保険は必要だと思います。
	介護保険制度に対してやや満足。
	用事が急にでき、家族がどうしても介護できない日があります。その様なときにショートステイが利用できれば峠越えをしなくてもよいので利用したいです。
	介護保険料がうなぎ昇りの割に、介護認定がゆっくりで、知人の母は認定がでない。間に合わず、あの世に行った例もあるようです。
	道志茶屋がどんなことをしているのかわからない。
	介護保険料が高いのでもう少し少額にしてもらいたい。
	色々な保険料を上げるべきでない。
保健・福祉サービス	本村で高齢者を対象にした健康教室がいくつかもたれている。健康体の維持は今後一層一人ひとりの村民にとって重大関心事だと思う。今後もっと活性化するために、告知端末に練習風景の動画、参加者の声などより村民に身近なオリエンテーションがあつてよいと思う。
	テレビで見たのですが介護、介助が必要にならないように専門家の人たちが考えて作った体操を音楽に合わせてやっていました。杖を使っていた人が使わなくなっていました。道志村にはTV電話があるのでそれで流せばいいと思います。
	本村の医療費を含めた社会保障費を少なくするため、食育を見直してほしい。できれば相談協議をしたい。
	人間ドックの補助については大変良いことなので継続してください。

特別養護老人ホーム整備については、問4と併せて標記します。

1. すぐに必要
2. すぐに必要であると思うがサービスの充実と負担増について要検討
3. 必要であると思うが、次の第7期介護保険事業計画策定時に要検討
4. 必要性は感じない
5. わからない
6. その他

分類	問 4	内 容
特別養護 老人ホーム 整備	1	ぜひ作って欲しい
	1	特別養護老人ホームの早期完成を願っています。
	1	特別養護老人ホームを早期に設置して下さるようお願いいたします。
	1	特別養護老人ホームの早期実現を切望いたします
	1	道志村内への特別養護老人ホームを設置することを希望する
	1	村内に介護保険施設の建設が早急に実現されることを望みます。
	1	多くの村民が望んでいる事業だと思しますので、その実現に向けて頑張っていたきたい。
	1	子どもと別居なのですぐにでも作ってほしいと思います。
	1	子供に迷惑はかけたくないので、村内に特別養護老人ホームが欲しいです。
	1	道志村でもこれから老人が多くなりますから、村外でなく村内に欲しいです。
	1	後継ぎがないため一人になることを考えるとやはり施設があった方が心安らぐ。
	1	高齢化が増加する社会で是非とも早急の設置が必要。他市町村の施設入所と比較しても経費が安く家庭の負担も少なくなると思う。
	1	高齢者夫婦の世帯が増加する中、配偶者が介護することは困難なので、介護施設に世話になると思う。早急な設置を望む。
	1	村内にどうしても施設を考えてほしいです。保険料の負担はどうしても避けられないと思うが、村外に入所しても多額なお金はかかり、どこかでお金の問題は考えなければならない。だったら、村内に施設ができれば入所したいと思う。
	1	高齢者や一人暮らしが増えていくと思われるこの村に介護施設ができるのは大変良い。他の施設に入るのも順番が来ないため大変なことである。施設が近いことで家族が何度も足を運べることもよいことである。入所している人たちは家族に会いたい気持ちがある。働いている家族も遠くにはなかなか行けないので近くにぜひ施設は欲しいと思う。
1	特別養護老人ホーム建設は、村長の公約であり、既に村長就任後1年が経過している。これまで何を検討し、どんな努力をしてきたかについて、村長としての報告が住民に示されることが必要と考える。直近の広報誌などで見解を示されることを希望します。	

1	年を取って体が自由にならなくなったらとても辛い。村内で顔見知りの方たちと暮らせたらどんなに良いでしょう。91歳の母を見ていて心からそう思います。村外へショートステイしている母が帰って来ると「知っている人は誰もいない」と言っています。淋しいでしょうね。知らない人の中で話すこともなく過ごしているのでしょう。これを思うと村にできれば最高です。1日も早くできますように。
1	いろいろ作ってもらいたいけど、今の道志の状況では無理だと思う。
1	今まで道志村が何かを作っても、後になって持ちきれなくなる。そんな気がする。
1	定員29名までというところがどうかと思う。村の中で全員受け入れられますか？
2	早急に計画を進めてもらいたい
2	村内に介護施設を欲しいのでよろしくお願ひします。
2	終の住まいとして道志村に転入し、何不自由なく過ごしているが、年を重ねるごとに将来への不安があるため、できることなら特別養護老人ホームのお世話にいずれなりたいと思う。子も配偶者もそれぞれの生活があり、遠方なので頼みにはならないと思っている。
2	少子高齢化は本村のみならず、グローバルな傾向といえる。特に本村にとって総人口の減少は真に将来に対する懸念材料と言わざるを得ない。小規模特別養護老人ホームの設置は人口減少への歯止めになりえることを重視して歓迎したい。
2	福祉の基盤整備を。 施設、人的要員を含めて年毎に整備することをお願いしたい。 自前で施設を設置運営することだけでなく、幅広く知恵を出してもらいたい。
2	間もなくお世話になる年齢になり、利用できる施設があることはいいことだと思う。施設を利用する人の負担額、若くて働いている人の負担額詳しい数字はわからないが、やはり経済的なことがきがりです。村内に働く場所もできるわけですのでいいことと思います。
2	道志村に特養誘致は賛成。高齢者の入所不足が少しでも緩和されることと、村民の雇用の道が開かれ、活性化されることを望みます。
2	私自身自営業と介護施設勤務にて生活での自立を目指すところですが、特養誘致の折にはぜひ村内において働き、自立したいと考えている。その節はよろしくお願ひします。
2	特養を作ることに賛成ですが短絡的に入所するのではなく、自立して生活できる年齢を引き上げる工夫をすべきで、行政としてもそこに力を注いでほしい。
2	村長の公約である「福祉村構想」の実現に向けて特別養護老人ホームの建設計画を掲げて1年が経過、喜ばしいがもっと早くアンケートを実施すべき。結果は村民に十分周知させるとともに明確な介護保険事業計画を進めてほしい。
2	地域密着型特養ホームが可能とのことだが、初めて聞く村民はこのシステムの情報が十分に伝わっていないと思うがいかがか？また、なぜ多種のサービス事業の中でこのシステムがいいのか？事業計画を知りたい。

2	地域密着型介護老人福祉施設 29 床以下の特養では道志村の維持費が多額となり大変。横浜市と話し合い、大型特養を誘致し、道志村枠を確保してはいかがか？
2	村内で短期入所ができることはよいと思いますが、保険料の問題があります。あまり高くなると不平不満が出ると思います。国・県の補助金を頼むようお願いします。
2	村内に特別養護老人ホームがあれば必要とする方は安心できると思いますが、定員 29 名という数は、今後ますます増える高齢者に対処できるのか？また、現在の介護保険料よりどれくらいの額が負担増となるか心配です。
2	必要性は感じるが保険料の増は問題である
2	老人ホームも若い方が生活の糧を得る場所となるだろうか。
3	若い人のためにできればいいと思う。
2,3	施設整備について数度のアンケートを計るべきと考える。ビジョンと現実の狭間は何の事業にもつきものであり、広報にて計画を数度発表して、確信のある説明を期待している。頑張ってください。
4	ホームを作っても定員 29 名では村内ほとんどの人が入れない。不公平感が増すだけ。介護保険も他所と比べて高いと思う。本当に入所が必要な人を見分けるべきだ。
4	施設をつくるのではなく、老後を安心して暮らせるようにしてほしい。
4	時間差はあれ誰もが迎える重大な課題である。道志村で人生を終える全ての住民に公平なサービスを受けられるよう、緻密な計画（財源、村にあった魅力的なもの、村民として誰一人も排除しない透明性のあるもの）を期待したい。そのためには行政がリーダーシップを発揮し、村民有志とで構成するプロジェクトチームの結成が求められる。（他人任せでなく、自分の課題として意識的になるためにも。）
4	小規模施設だと、村民の介護保険料の負担増となるので、施設を利用する人も気が引けるのではないか
4	人口の少ない村で特養をつくと個々の負担は大きいはず。現在の算出で 1～5 万円の負担が将来に渡って変動し、負担は大きくなるでしょう。国は在宅看護を進めています。老人ホーム等へ預けている人は納めるお金を稼ぐのに大変です。村でもその施設にお金を納めています。在宅看護を進めるなら、在宅で看護する家族に生活費を出してあげたらいいと思いますが・・・。国や県へ提案できる道志村をつくってください。
4	小規模自治体の利点を生かすこと。村民みんな”知人”である。社協、役場のマンパワーを充実させ福祉センター、診療所などの運営を機能的に連携させる。困っているケースの調査を十分にしておこなって個々に対応していく仕組みができないか。都留市などと広域的に手を結び、今ある福祉施設の活用を図る。独自の小規模施設では介護がパンクする。

4	介護が必要となったとき、家族は毎日24時間家を空けることができなくなる。特養の入所は若い人たちに迷惑をかけたくないとか本来自分が望むことではないと思う。介護する側にしても息抜くときがないなど問題点は多々あるが、村内に設置することで自宅があるのに、その場所に住むという状況になるなら、在宅介護か短期入所で十分だと思う。土日、若い人たちが出かけるときや病気などの大変な時に村として何ができるか。それが手助けであり、温もりある村づくりだと思う。箱モノをつくるのが全てではありません。別のことにもっと考えるべき方向があるはずで
4	介護の状態になったときにデイサービスなどの在宅サービスを利用しながら家で過ごせればそれに越したことはない。家で過ごせない事情があるなら村内の特養に入所を希望する。もし村に特養ができれば村外に利用している人や在宅サービスを利用している人も入所を希望し、30人では少ないと思う。特養の建設より在宅で受けられる支援を充実してもらいたい。デイサービス、お泊りデイサービスなど。
4	特養の建設より在宅で受けられる支援を充実してもらいたい。
4	若い人たちの仕事がなく、大事な家族が他所に住んでしまうのは淋しい。トンネルでもできてくれるといいが、思うように進まず、人口も増えていない。介護施設も大事だが、家族の減少を止め、安心して仕事ができる村になって欲しい。
4	在宅介護では、医療介護の連携は必須。本来の福祉村とは、特養をつくるのではなく、自分の家で充実したサービスを受けることができる村づくりだと考える。
4	福祉村構想の全貌が見えてこない。そもそも職員は福祉村構想を理解しているのか。村長の独り言ではないか。今やるべきは施設よりも在宅重視である。
4	このアンケートのみで施設の計画を進めることは絶対にやってはいけない。もっとじっくり考えてメリットとデメリットをよく考えてのちに計画をするべきだ。恐らく多くの方は左側(施設設置に伴う長所と短所)を読んでいない。保険料の負担増について多くの方が知るべきだ。若い方の保険料にも影響することを村民はきっと知らないはず。若い人に迷惑をかけるから特養ではなく、特養をつくることで若い方に迷惑がかかる(負担増につながる)。本当のことを村民が知るべきだ。
4	これだけの人口に40人の役場の職員がいて、社協もいろいろ取り組んでくれている。一人の職員が600世帯のうち、地域の15、16軒に目配りをすれば行き届いた行政ができる。もうそれは始まっている。介護施設に入っている人の実態を掴んで対応を個別に相談にのれるように。していれば施設はいらない。自由に自立して生活できることが大事。
5	村民になって間がないため、村の老人ホームと必要な村民の関係がわからない。老人ホーム…それに伴う財源と費用の負担等いろいろ学んで考えたいと思う。

5	村民が安心して生活できるよう介護保険事業を充実していただけるとありがたいが、特養などの施設を村で運営していくうえで、持続可能な形をしっかりと検討してほしいです。年額5万円程度の負担で長期間持続できるのであればできるだけ早く設置するのが良いと思うが、設置によって村財政の負担が大きくなると思う。バランスを考えた導入が必要と思う。よく熟考して上でよろしく申し上げます。
6	特養は必要と思うが人口規模から無理がある。まずは人口減少に歯止めをかけることが先決。
無回答	施設入所しているのでわからない

分類	内容
行政	いろいろ大変だと思いますがよろしく申し上げます。
	大変だと思いますが期待しています。よろしく申し上げます。
	新しい事業等取り組まれている役場の皆様本当にご苦労様です。私にもお手伝いできることが何かあるでしょうか。お役にたてることがあるでしょうか。そんなことを考える今日この頃です。
	都会から考えると高齢者に対する意識がとてもきめ細かく活動されていて精神的に有りがたい。
	道志村は高齢者に対する福祉がとても充実している。
	アンケートに対する回答に沿う色々な政策を行ってください。
	アンケートに書いた人がわかると意見は書きにくいものです。
その他	私は自分の息子が透析治療を受けて2年目になり、国や村のお世話になっていると思うと申し訳ない毎日です。今自分にできることは何か・・・考える毎日です。
	寒さが厳しい冬、暑さが厳しい夏、一人で住んで暖房・冷房するより、朝10時ころから夕方まで過ごせる冷暖房のある集会場や公共施設があるといい。まったく無料ではなく、少額の有料なら弁当持って出かけ、簡単な手芸をやりながら、親しく話し合いながら1日を過ごしたい。
	東京から60歳を過ぎてから住民として村へ来たのに、村にお世話になれることに申し訳なく、有りがたくも思っております。昔からの友人とはお互い年を取り会えないのが残念ですが、電話でおしゃべりしています。娘や孫も東京住まいです。70歳になり行く末に不安もあります。どうかよろしく申し上げます。
	若い人にも定着してもらって少し活気のある村になって欲しい。
	ちょっと閉鎖的な村民もこの頃はかなり心を開いてくれているように感じる。できればあまり皆さんの負担をかけることなく道志村に住んで終わりたいと思っている。
	道志村の環境(自然)は精神的にも身体的にも程がいい。ある高齢のお母さんが畑仕事をしながら「楽しいよー」としみじみ言っていた。自由に暮らしが出来るのがいい。

公共交通など自由に移動できる条件を充実させることも自立を図る上で大切ではないか。
通院の時に利用する公共バスはいつも元気な高齢者で社交の場になっている。4月から11月の増便のことなどもっと広報して欲しい。利用が増えるのでは・・・。
散歩が危険なくできるような、公園などの施設があれば嬉しいです。
道志の湯の入浴料を70歳以上になるともう少し安くしてほしい。
考えると不安になることはあるが、あまり先のことは考えず、今日できることをしながら生きています。

第 4 部 評価結果

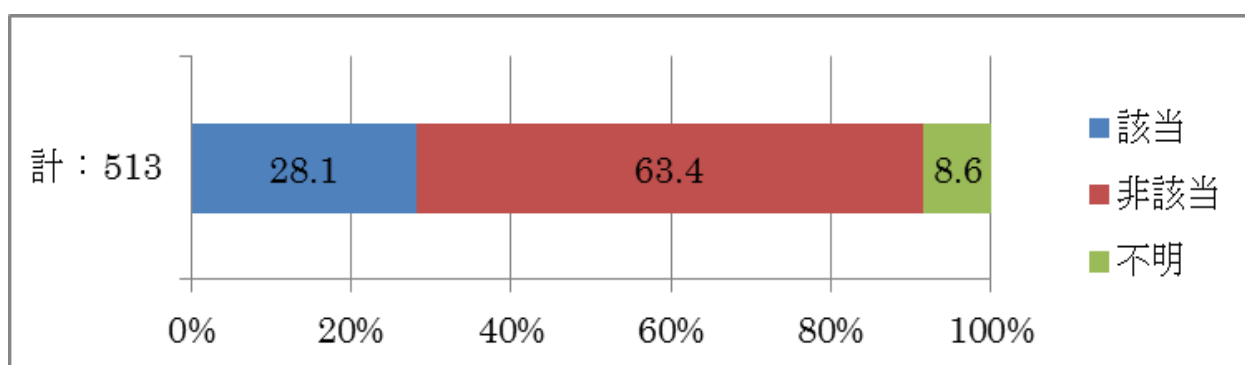
第4部 評価結果

I. 機能

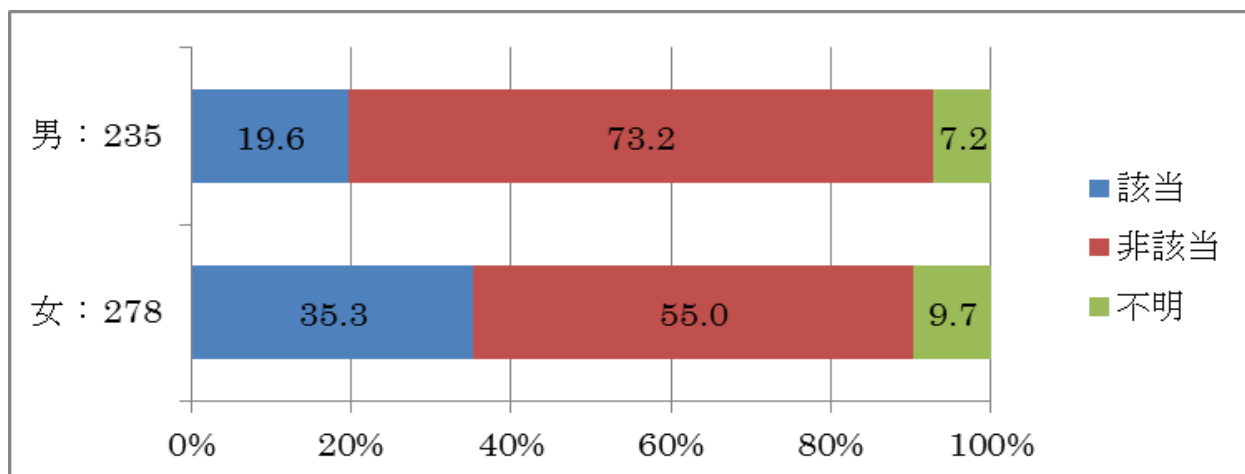
1. 運動リスク

運動リスク該当者は28.1%で、男女比では男性19.6%、女性が35.3%となっています。

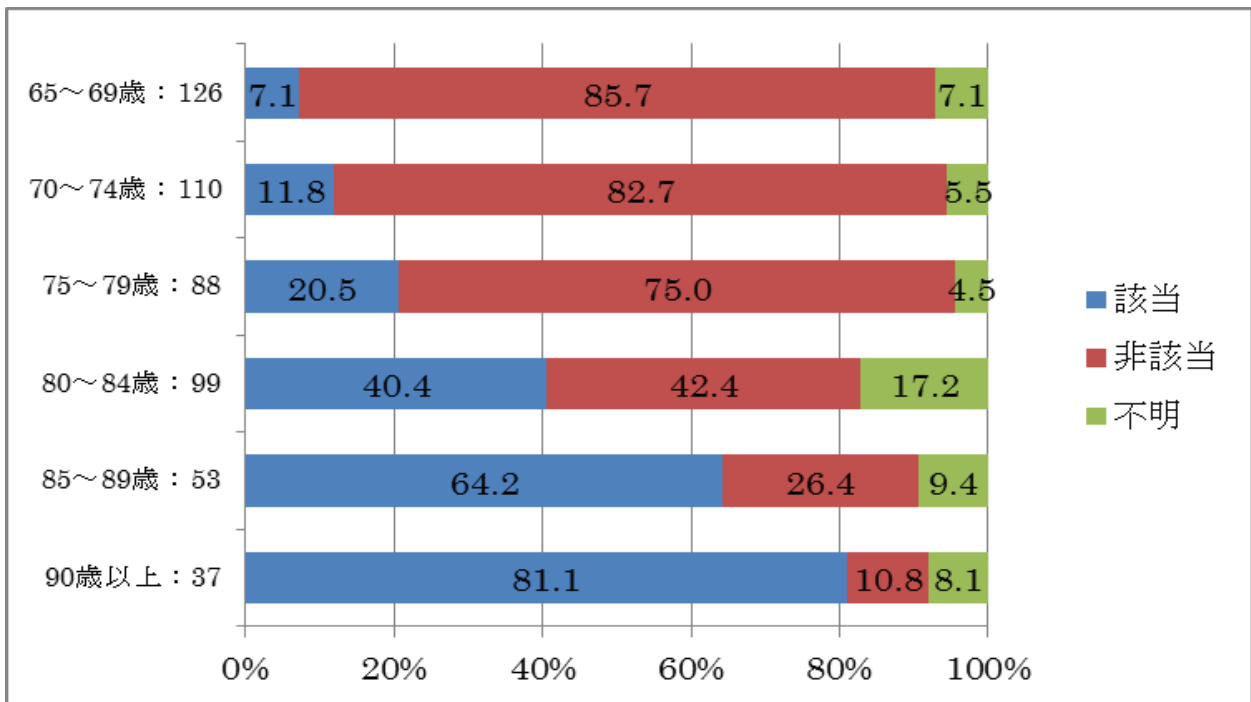
年齢が上がるほど出現率は高くなり、地区別にみると、神地（40.6%）、善之木（29.7%）、川原畑（29.7%）の順となっています。



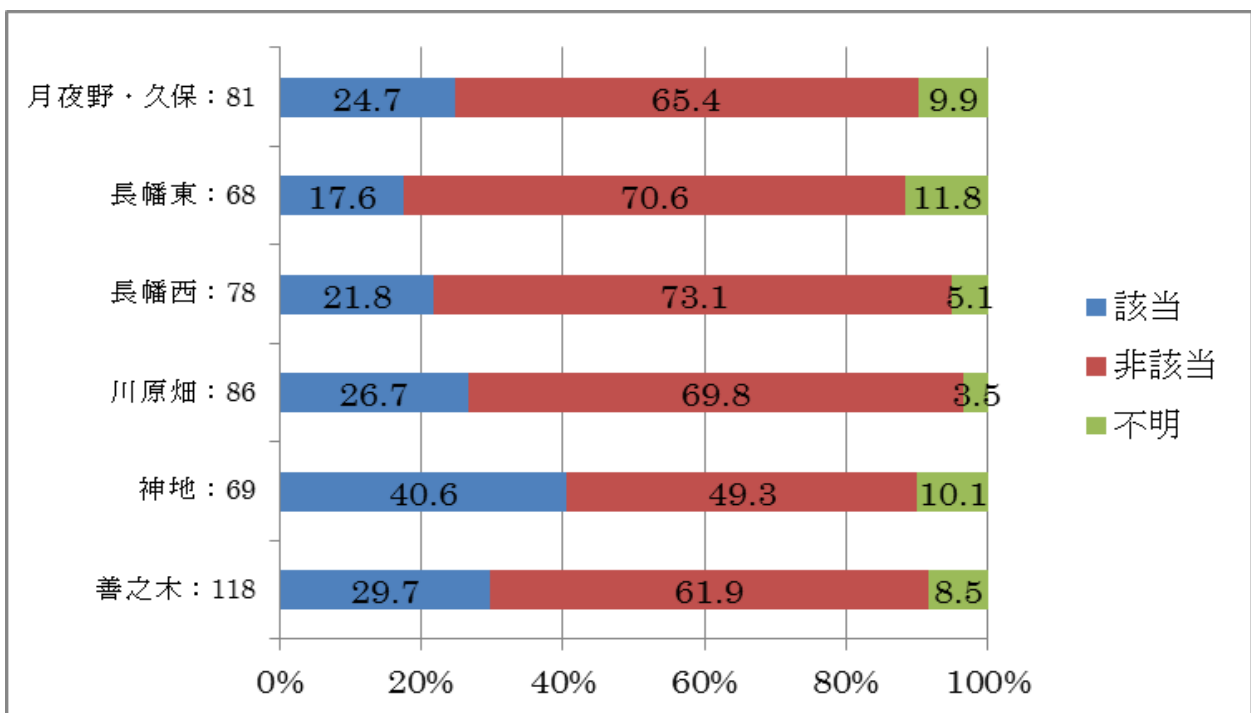
●男女別運動リスク



●年齢別運動リスク



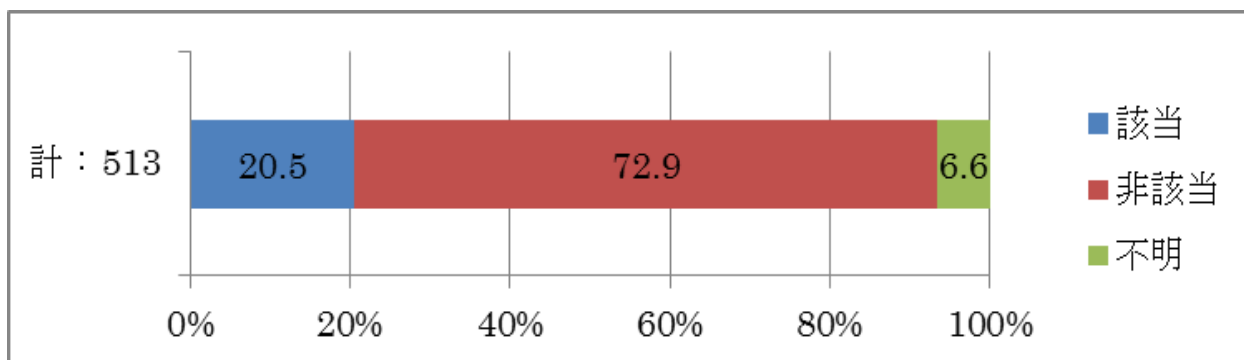
●地区別運動リスク



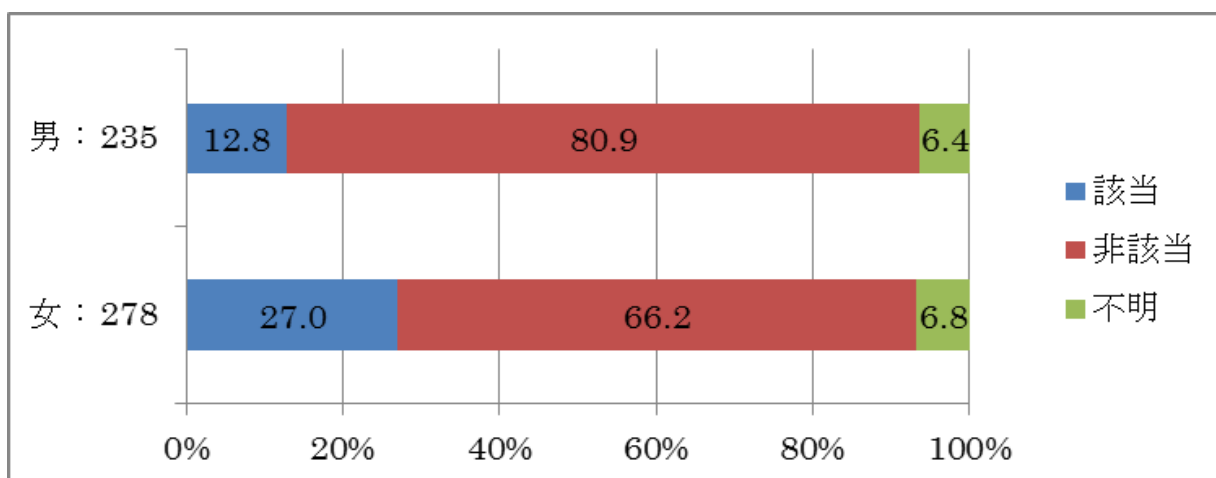
2. 閉じこもりリスク

閉じこもりリスク該当者は20.5%で、男女比では男性12.8%、女性が27.0%となっています。

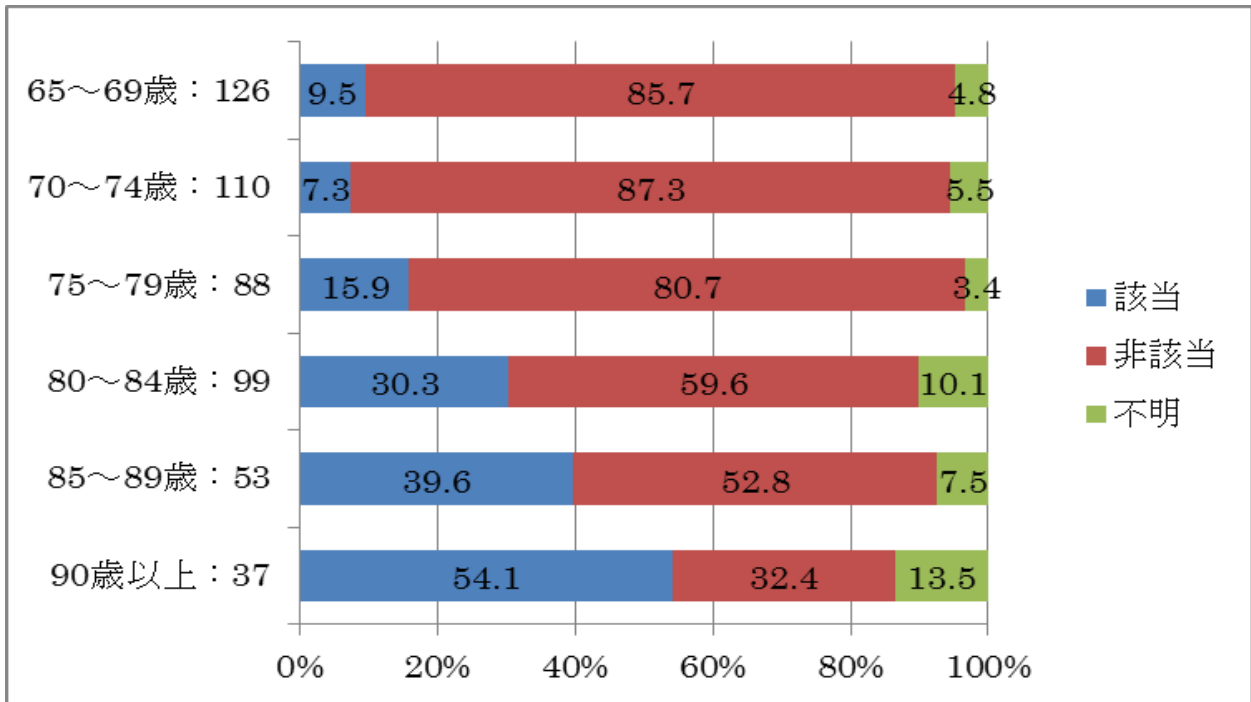
年齢が上がるほど出現率は高くなり、地区別にみると、月夜野・久保（24.7%）、長幡東（20.6%）、川原畑（19.8%）の順となっています。



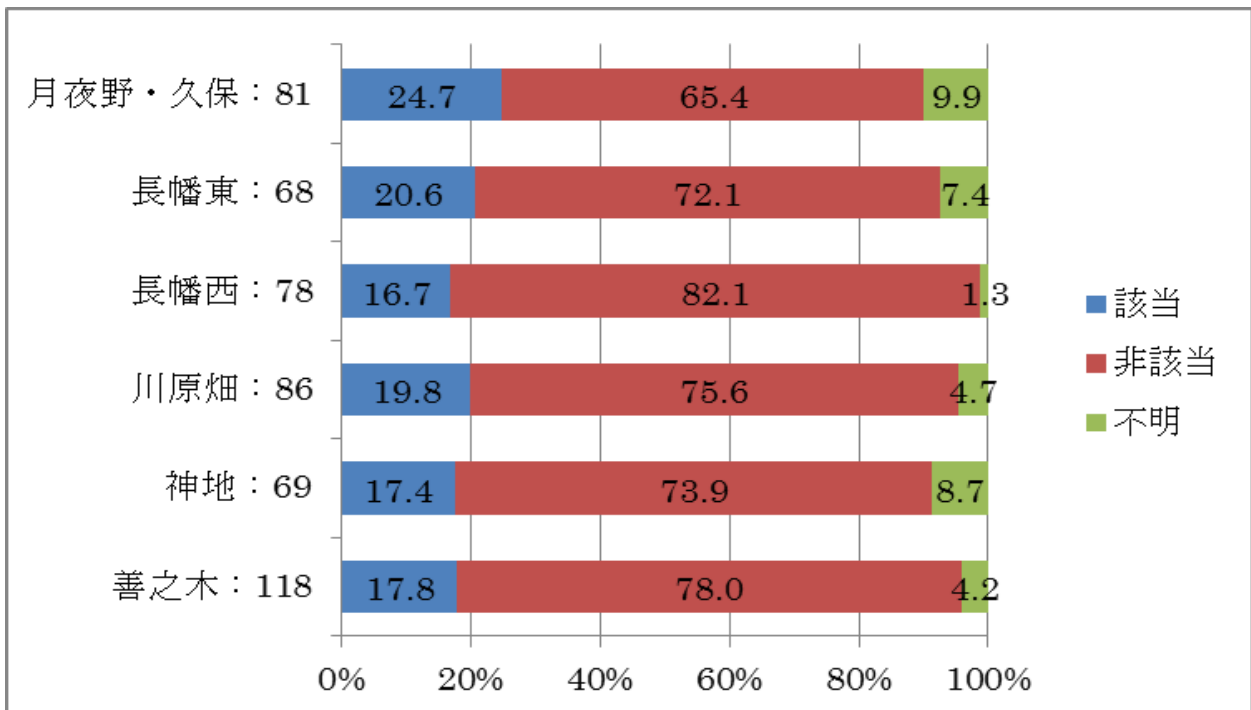
●男女別閉じこもりリスク



●年齢別閉じこもりリスク



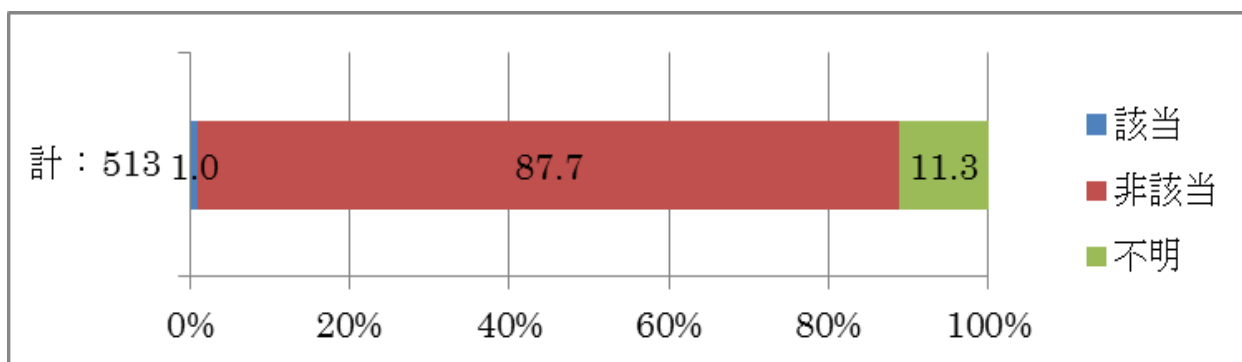
●地区別閉じこもりリスク



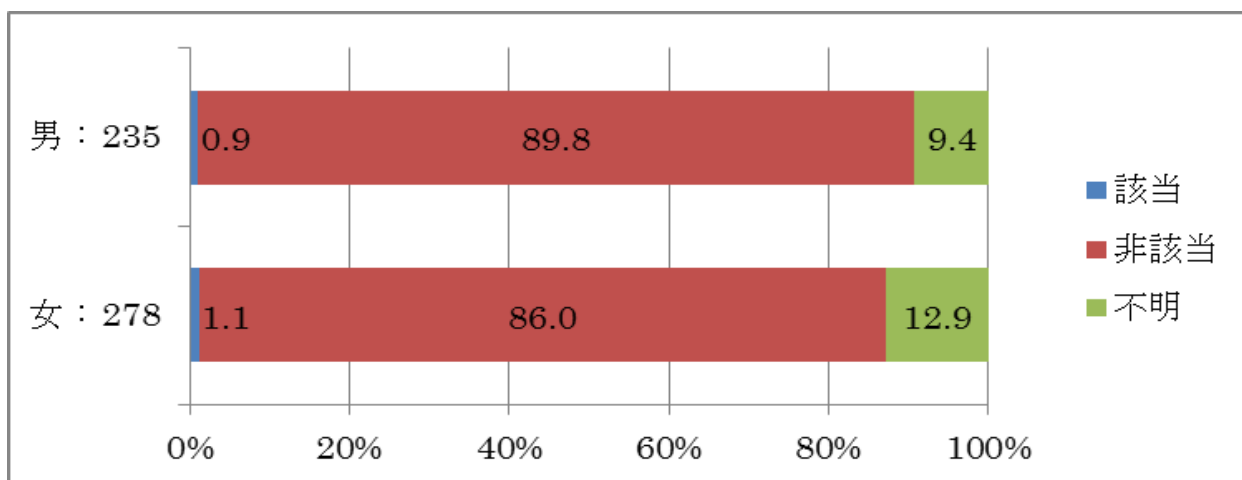
3. 栄養リスク

栄養リスク該当者は1.0%です。男女比では男性0.9%、女性が1.1%となっており、年齢層による大きな差はみられません。

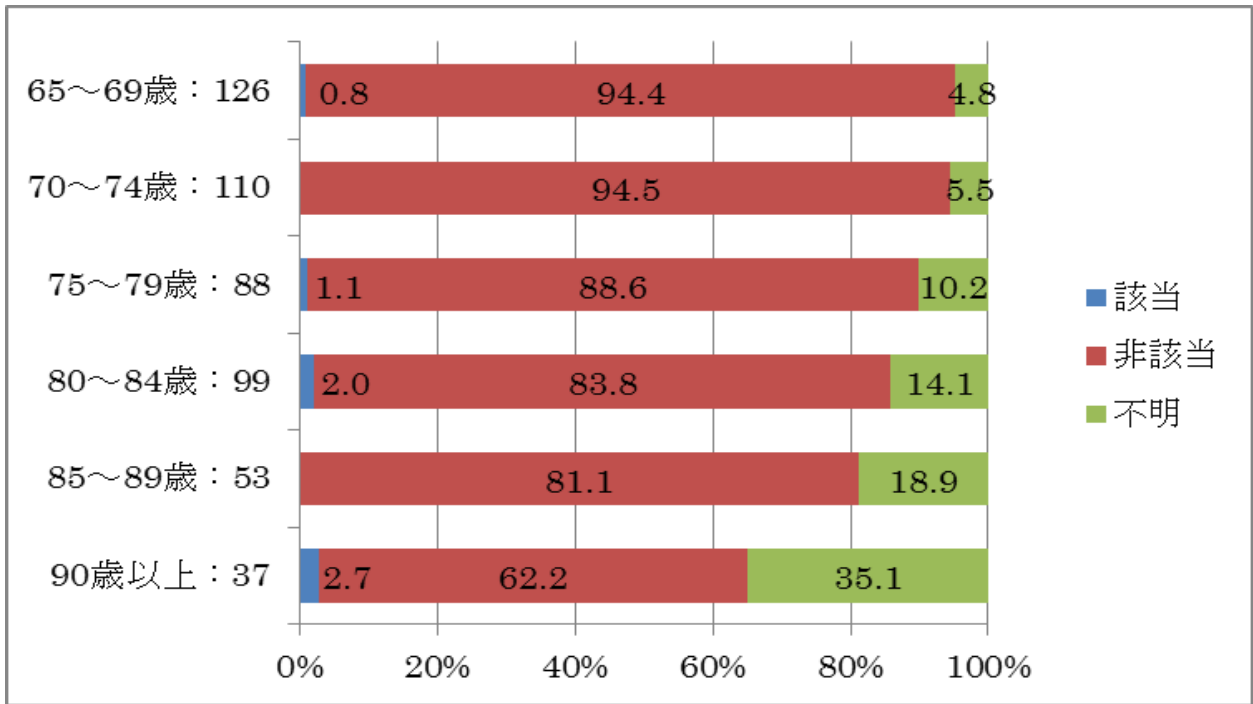
地区別にみると、長幡東（2.9%）、神地（1.4%）、善之木（0.8%）の順となっています。



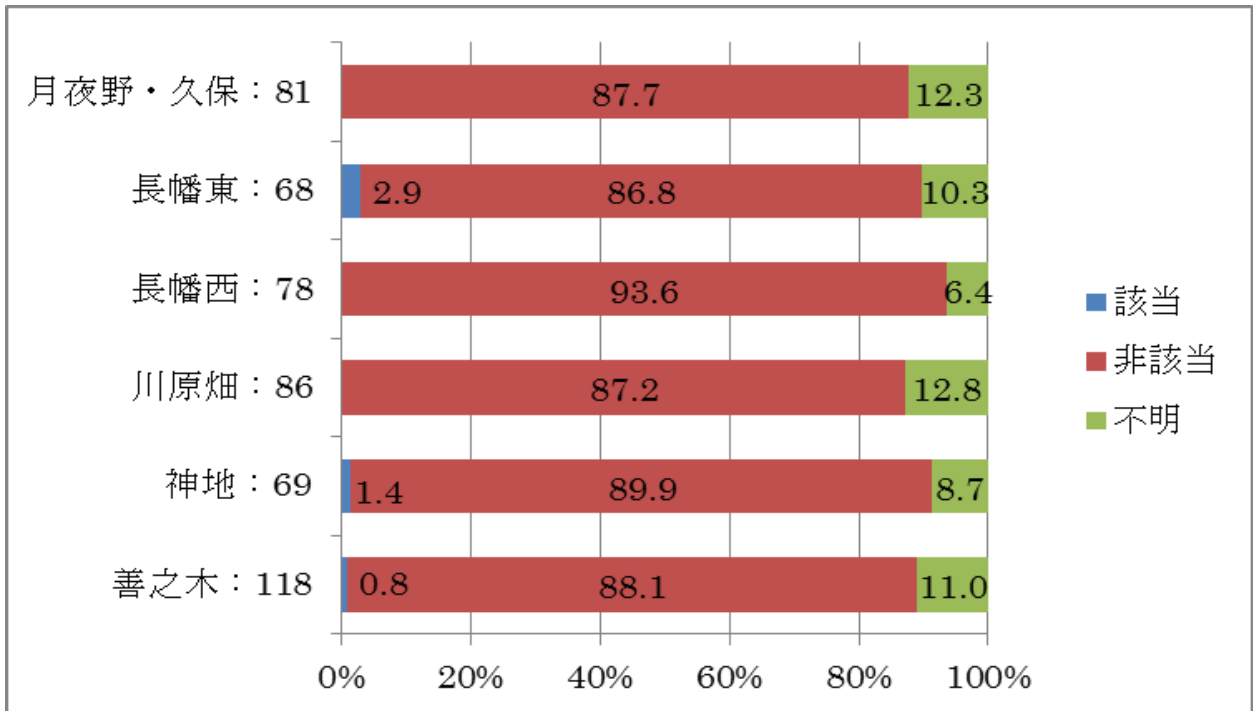
●男女別栄養リスク



●年齢別栄養リスク



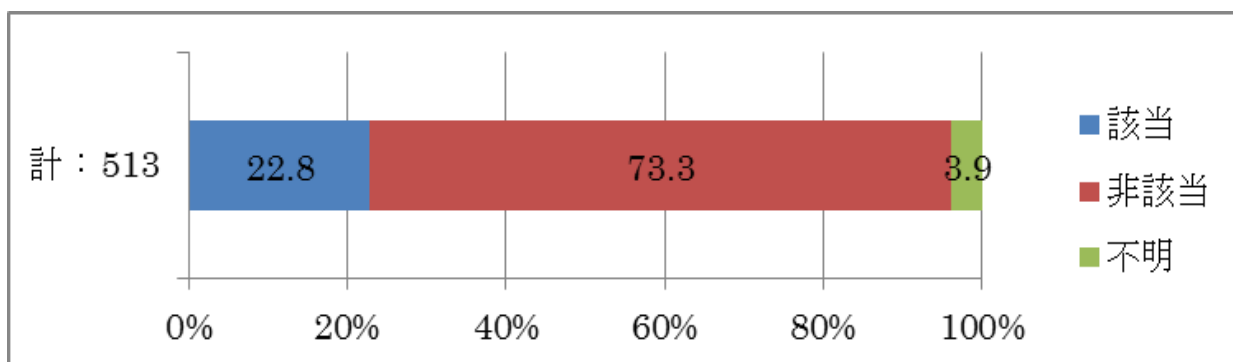
●地区別栄養リスク



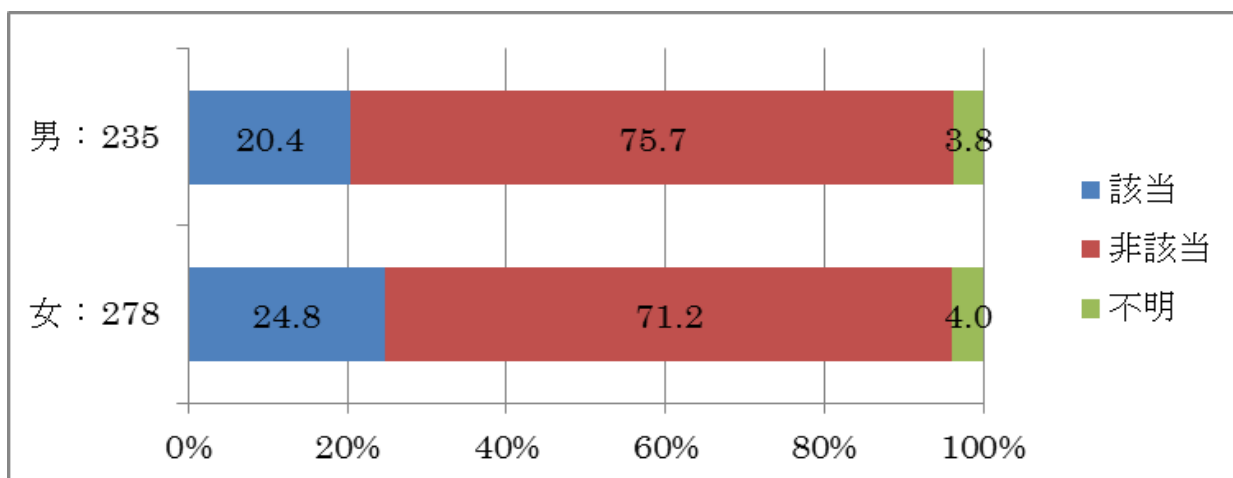
4. 口腔リスク

口腔リスク該当者は22.8%で、男女比では男性20.4%、女性が24.8%となっています。

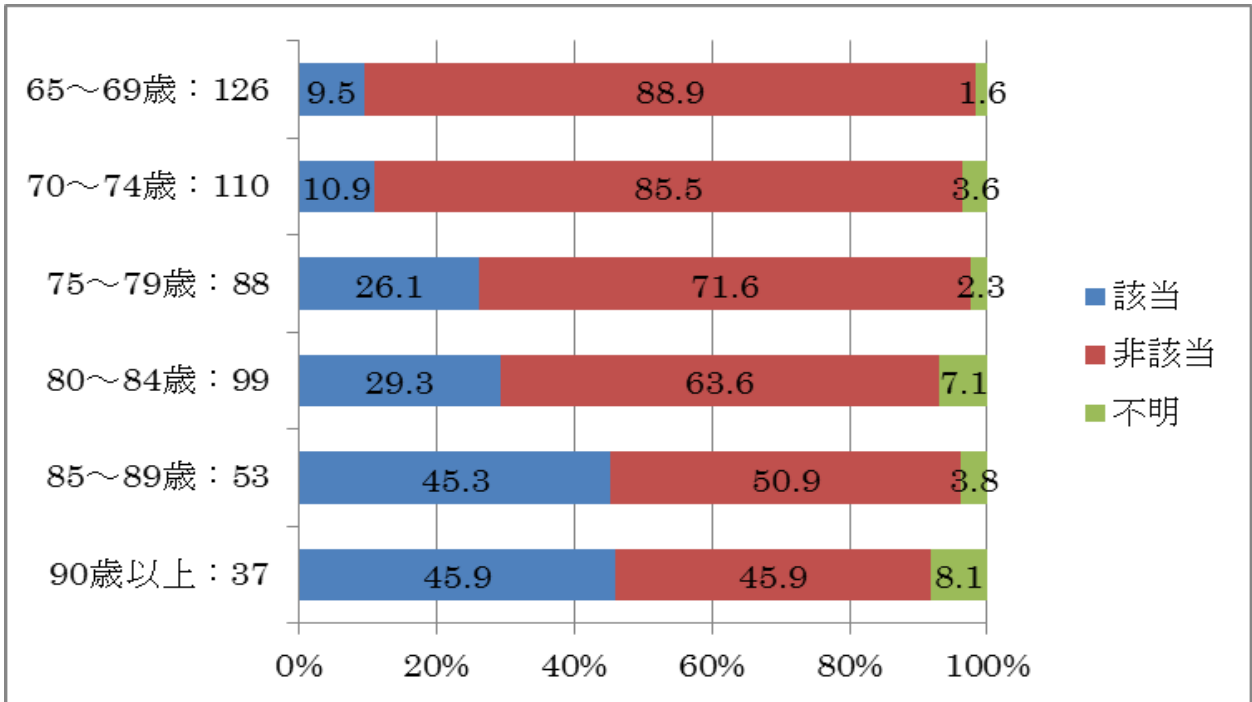
年齢が上がるほど出現率は高くなり、地区別にみると、神地（29.0%）、川原畑（26.7%）、長幡西（24.4%）の順となっています。



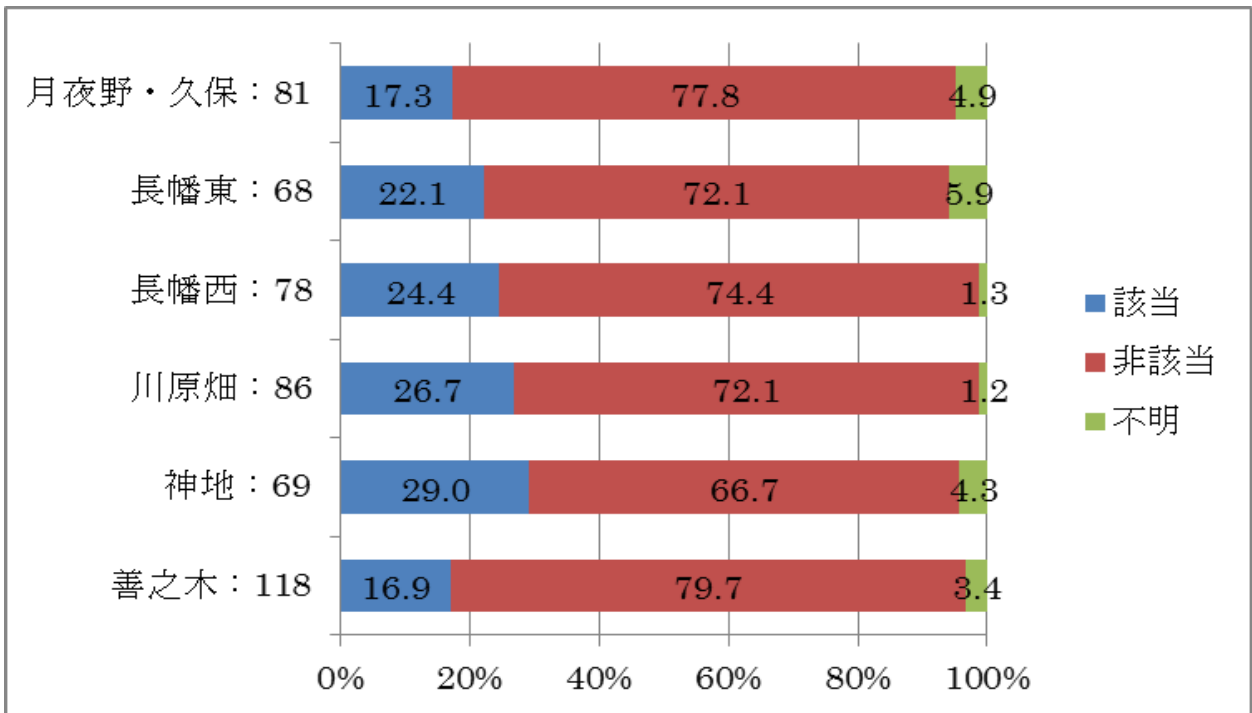
●男女別口腔リスク



●年齢別口腔リスク



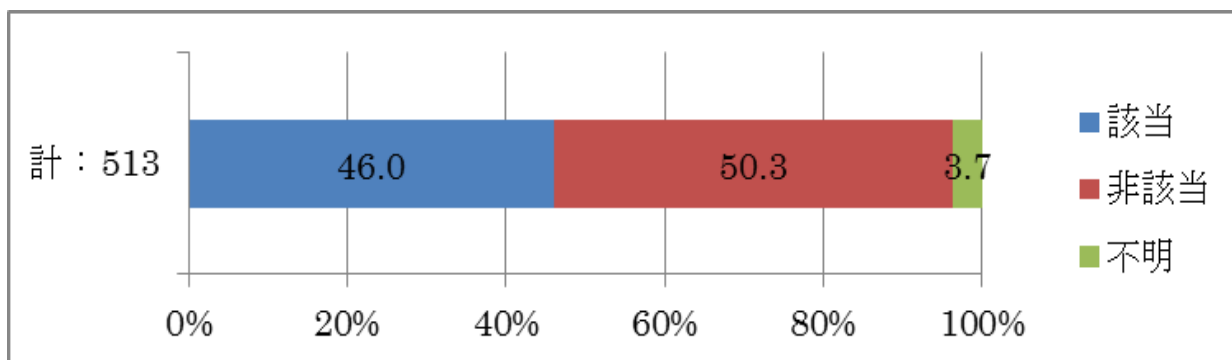
●地区別口腔リスク



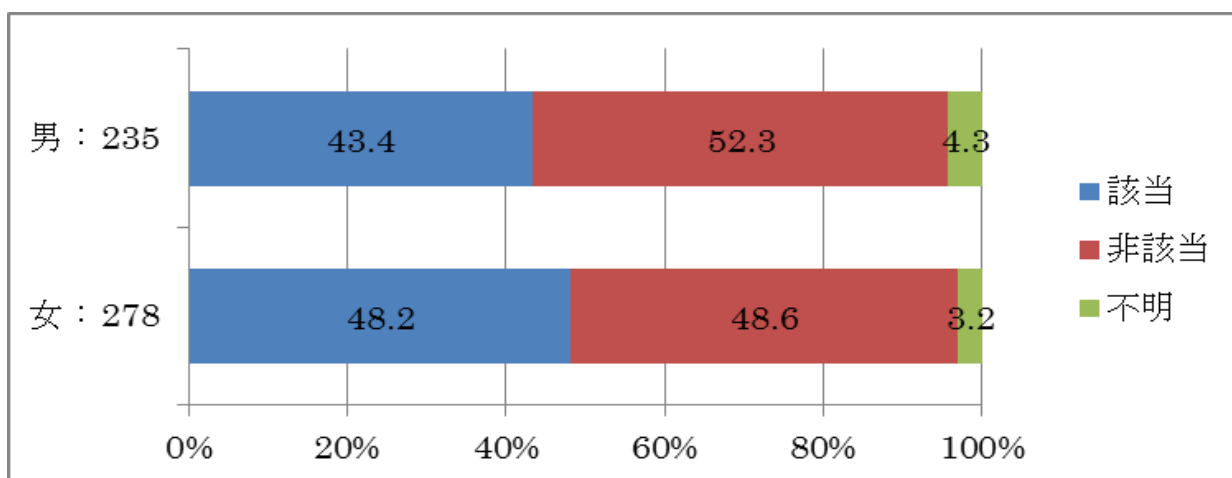
5. 認知症リスク

認知症リスク該当者は46.0%で、男女比では男性43.4%、女性が48.2%となっています。年齢が上がるほど出現率は高くなり、90歳以上では9割を超えています。

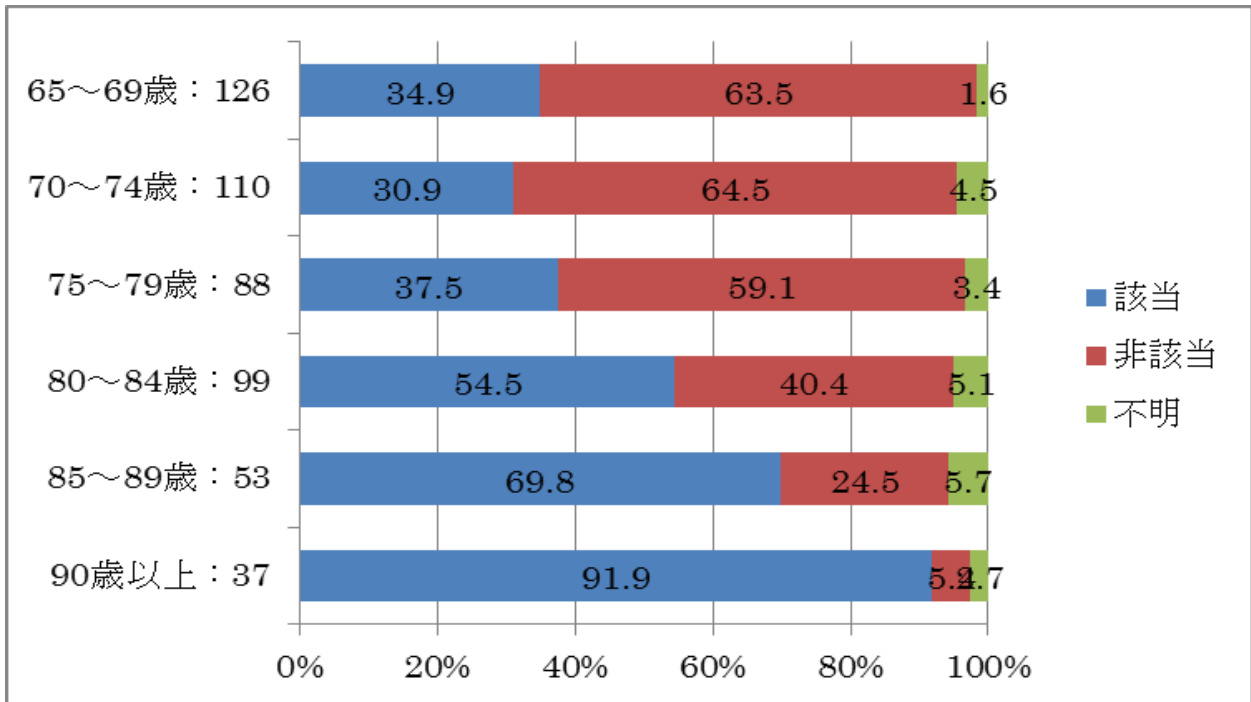
地区別にみると、月夜野・久保（49.4%）、長幡西（47.4%）、神地（46.4%）の順となっています。



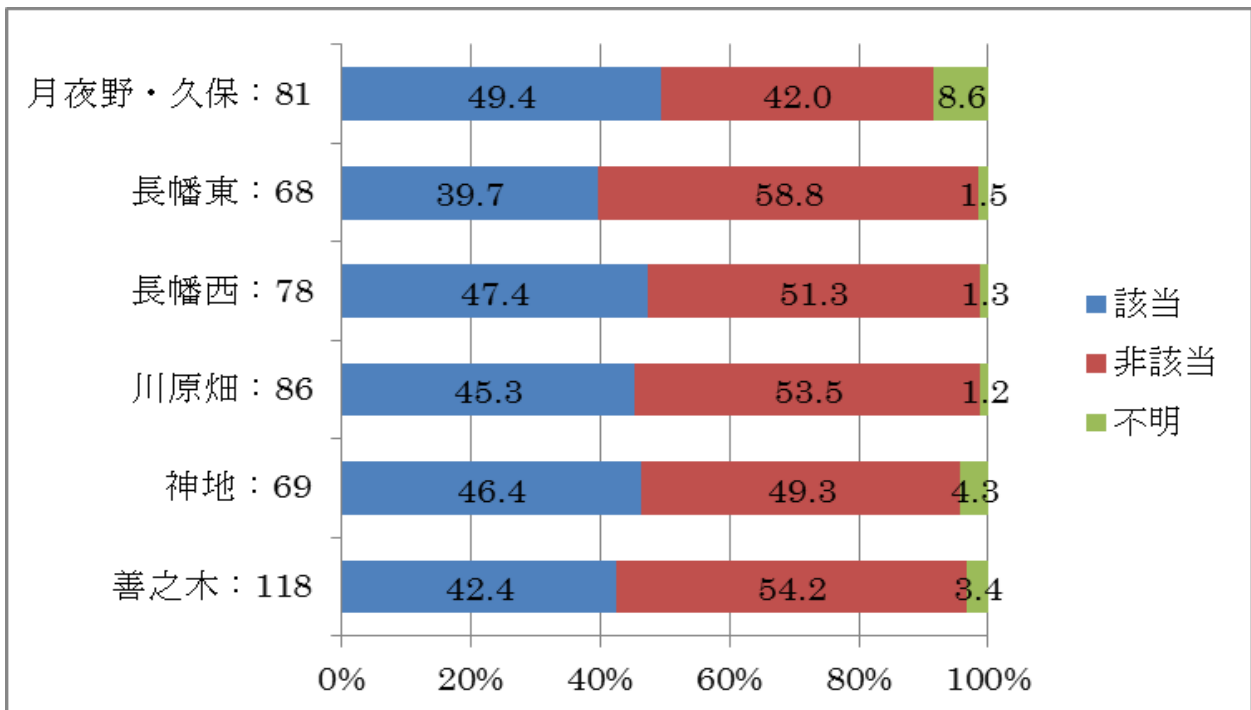
●男女別認知症リスク



●年齢別認知症リスク



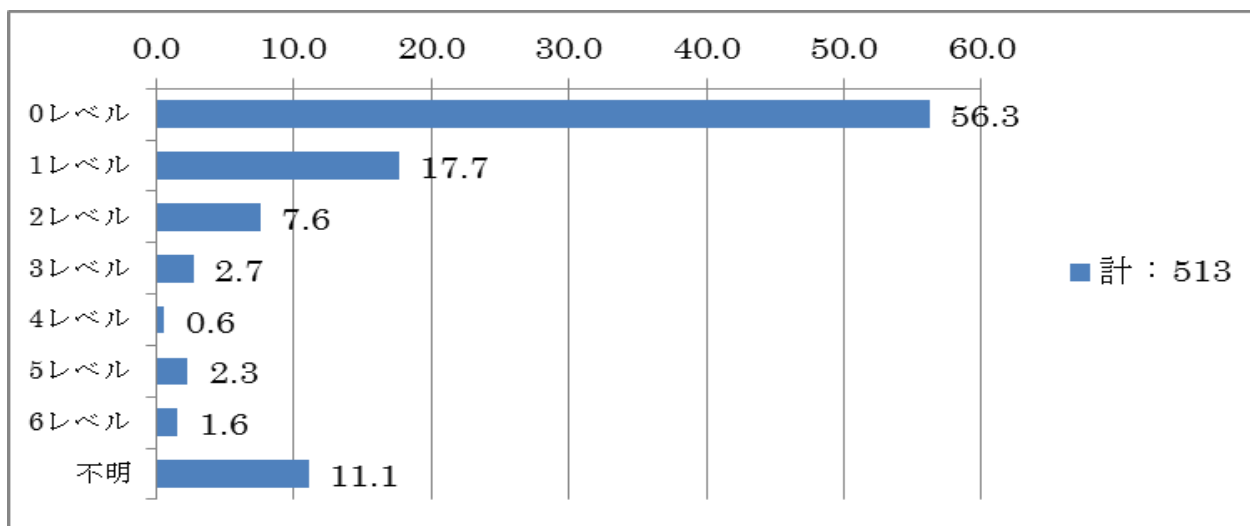
●地区別認知症リスク



6. 認知機能障害程度

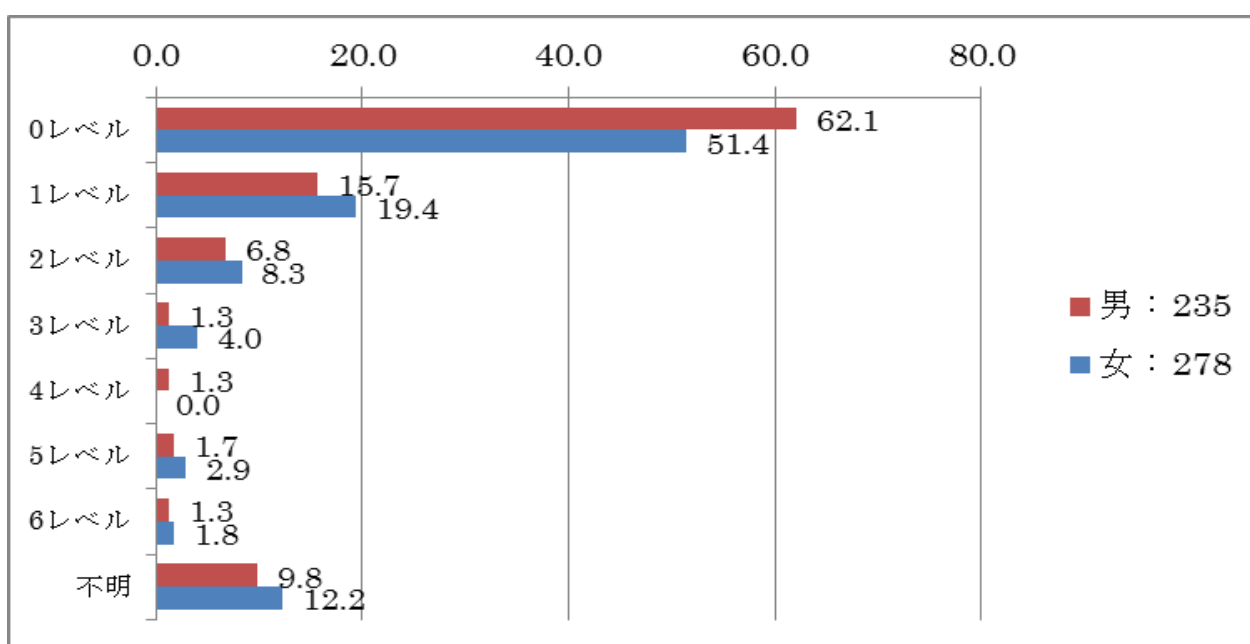
認知機能障害程度は0レベル（障害なし）が56.3%、1レベル（境界的）が17.7%、2レベル（軽度の障害）が7.6%で、男女比では男性28.1%、女性が36.4%の割合で1レベルから6レベルの認知機能障害をもっています。

年齢が上がるほどレベルは高くなり、90歳以上ではレベル5、6が32.4%となっています。地区別による大きな差はみられません。

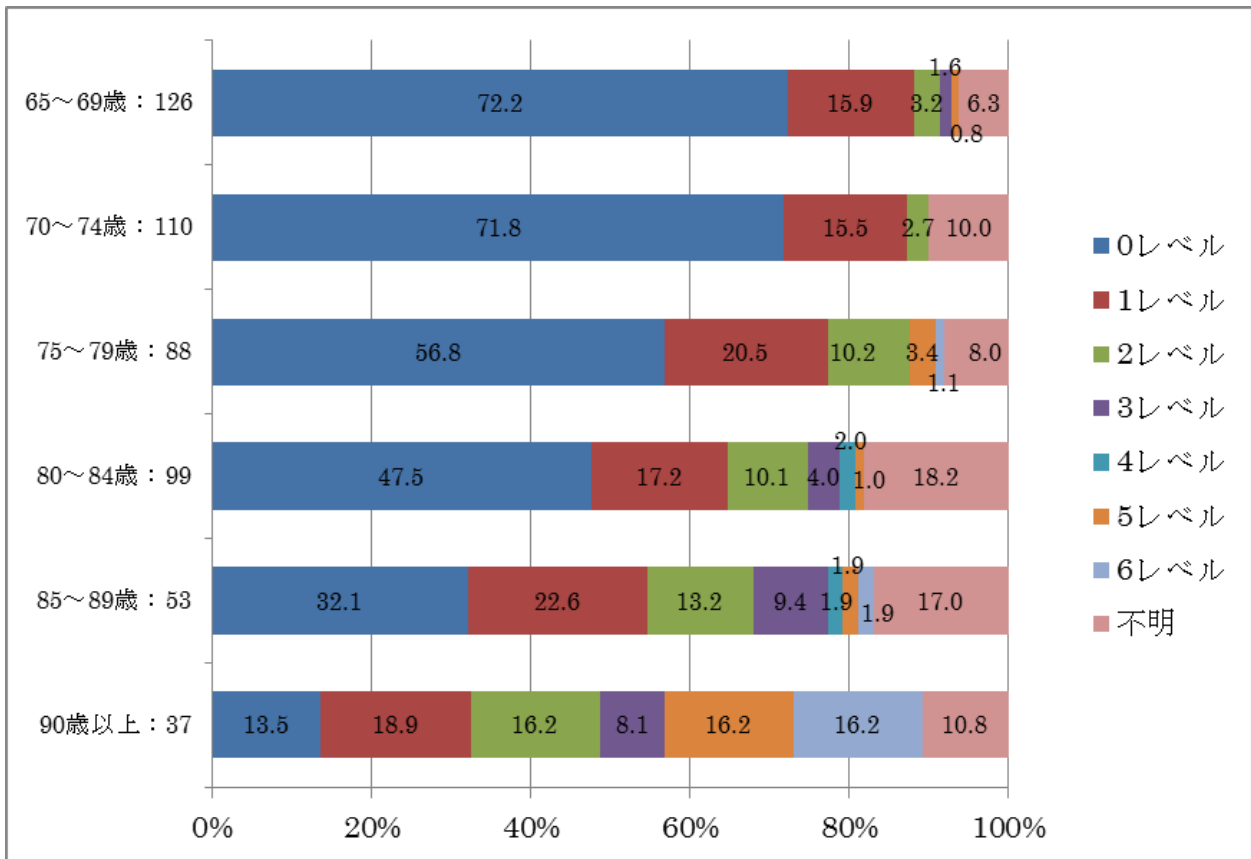


※0レベル…障害なし 1レベル…境界的 2レベル…軽度の障害
 3レベル…中等度の障害 4レベル…やや重度の障害 5レベル…重度の障害
 6レベル…最重度の障害

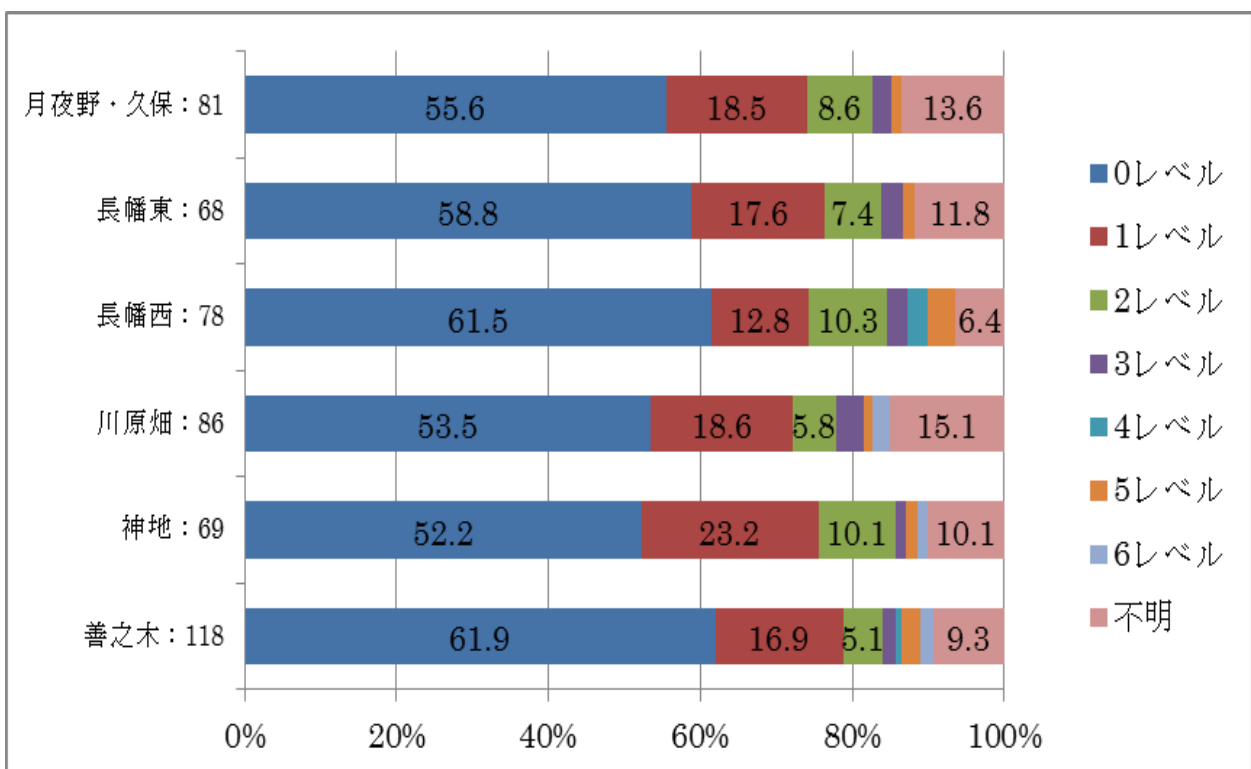
●男女別認知機能障害程度



●年齢別認知機能障害程度



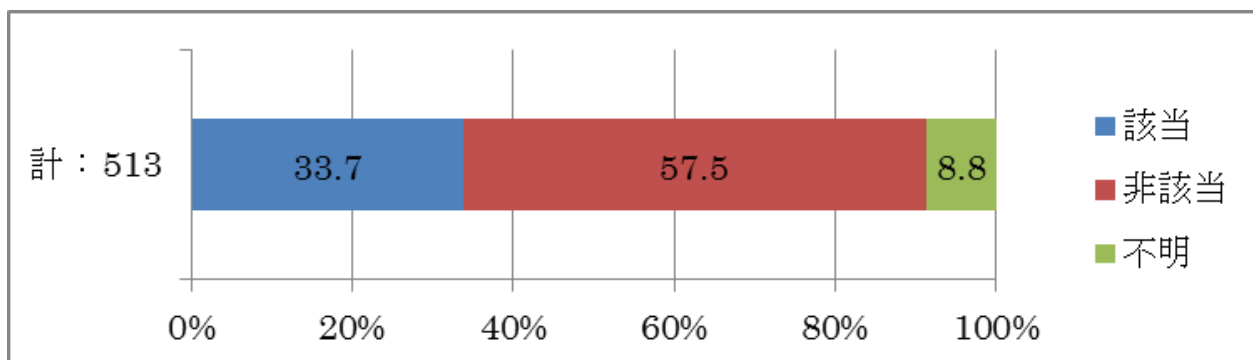
●地区別認知機能障害程度



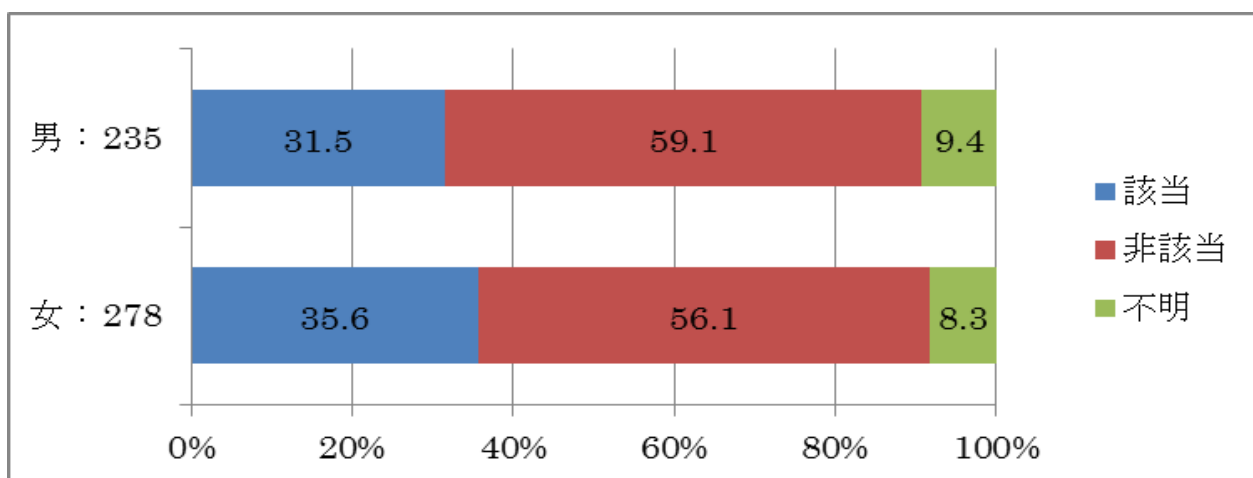
7. うつ病リスク

うつ病リスク該当者は46.0%で、男女比では男性43.4%、女性が48.2%となっています。年齢が上がるほど出現率は高くなり、90歳以上では9割を超えています。

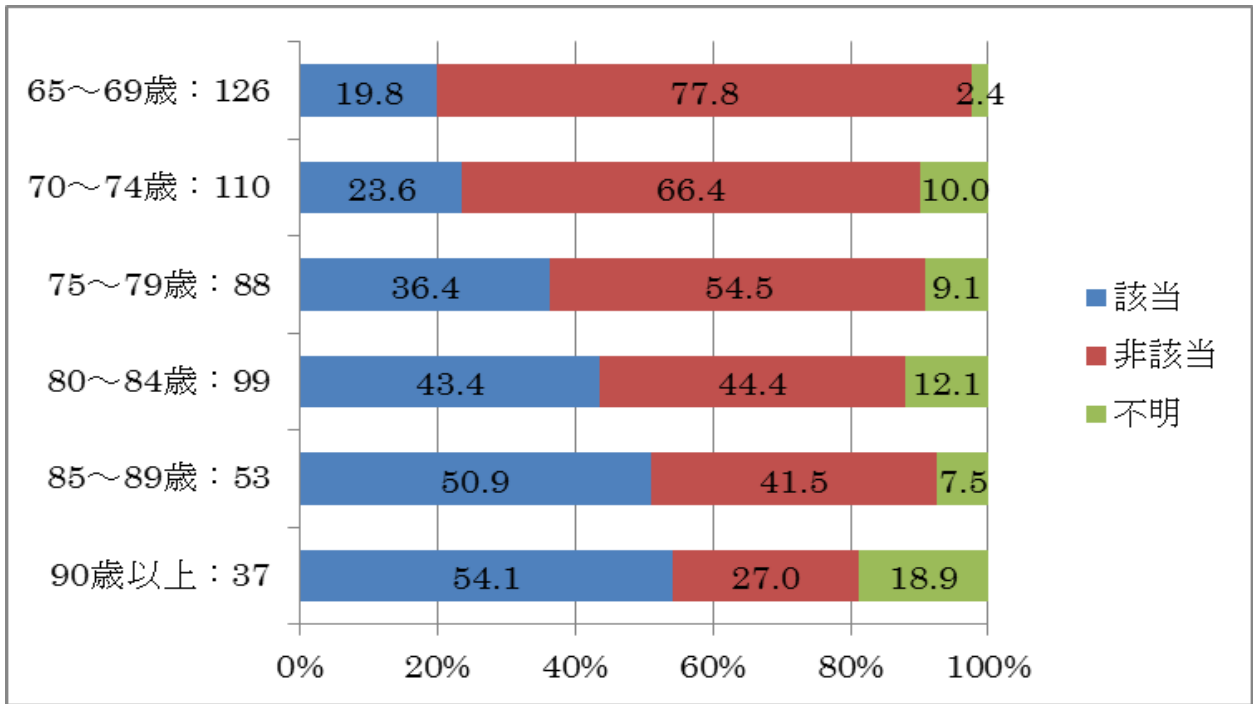
地区別にみると、月夜野・久保（49.4%）、長幡西（47.4%）、神地（46.4%）の順となっています。



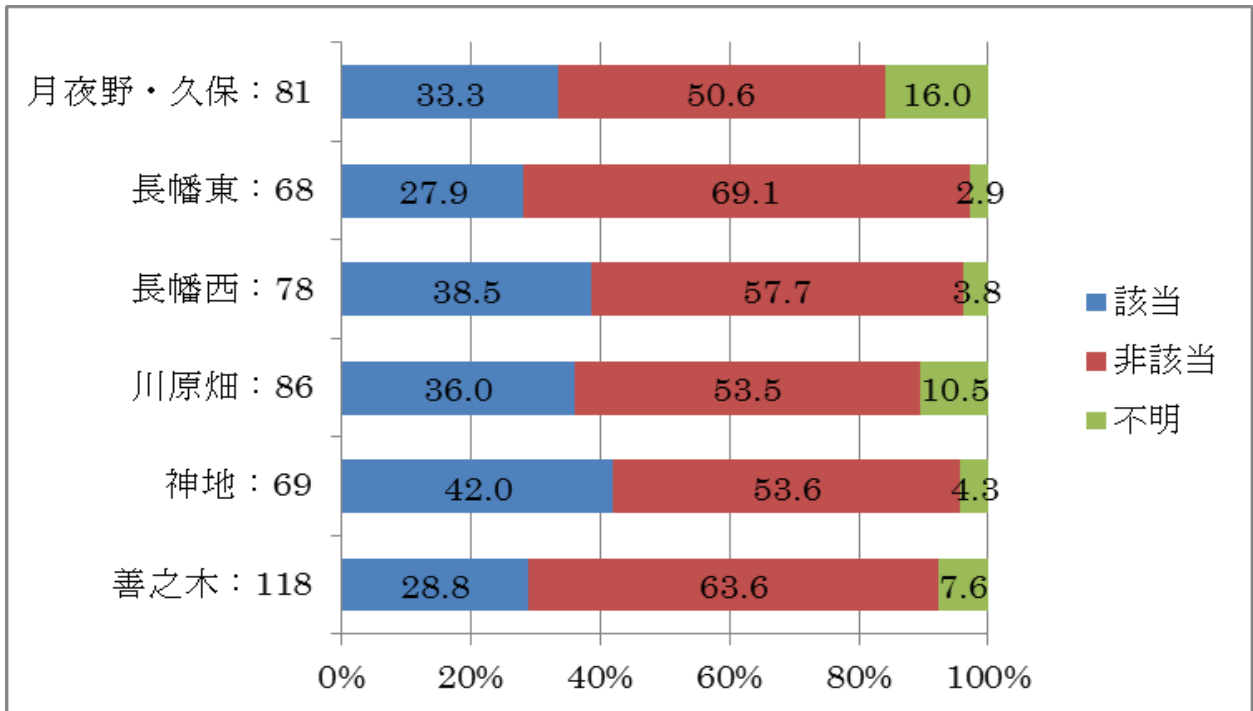
●男女別うつ病リスク



●年齢別うつ病リスク



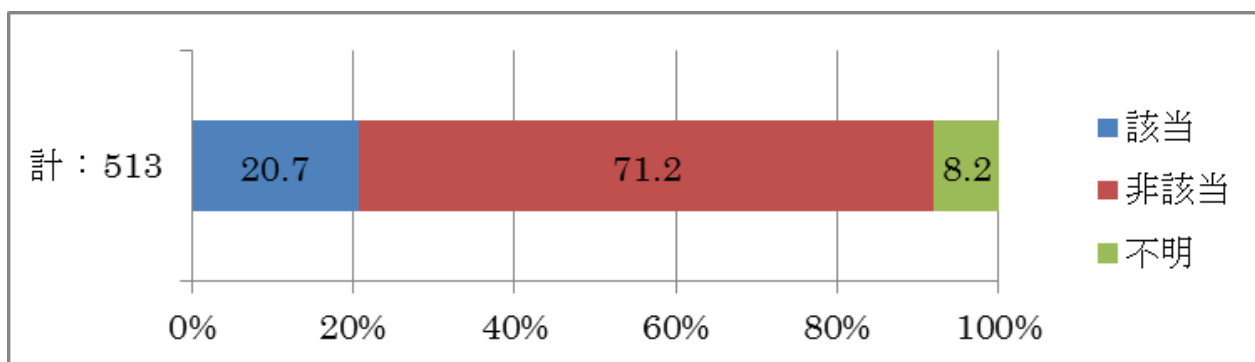
●地区別うつ病リスク



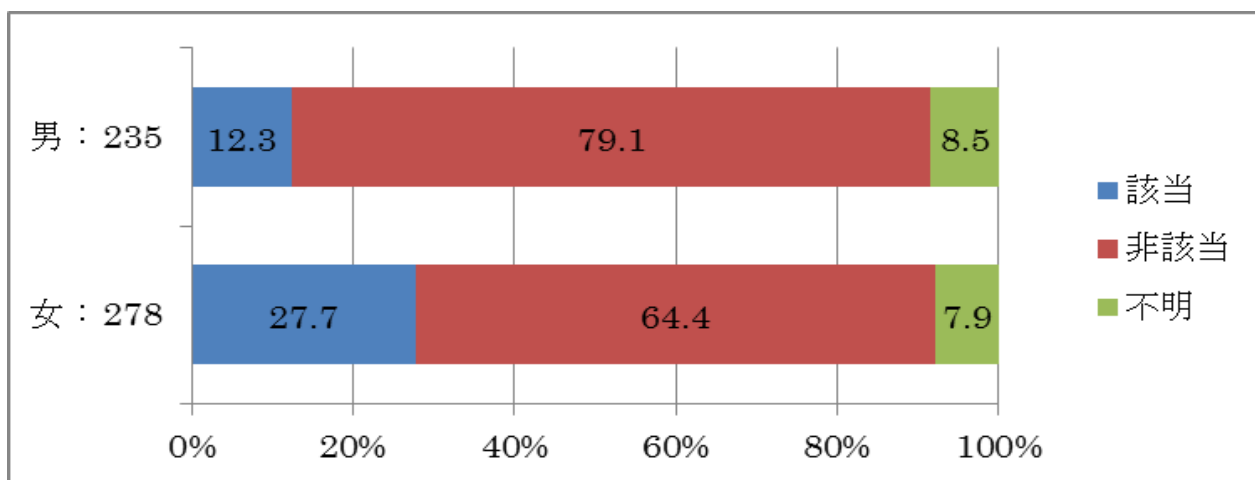
8. 虚弱リスク

虚弱リスク該当者は20.7%で、男女比では男性12.3%、女性が27.7%となっています。
年齢が上がるほど出現率は高くなり、90歳以上では約8割を占めています。

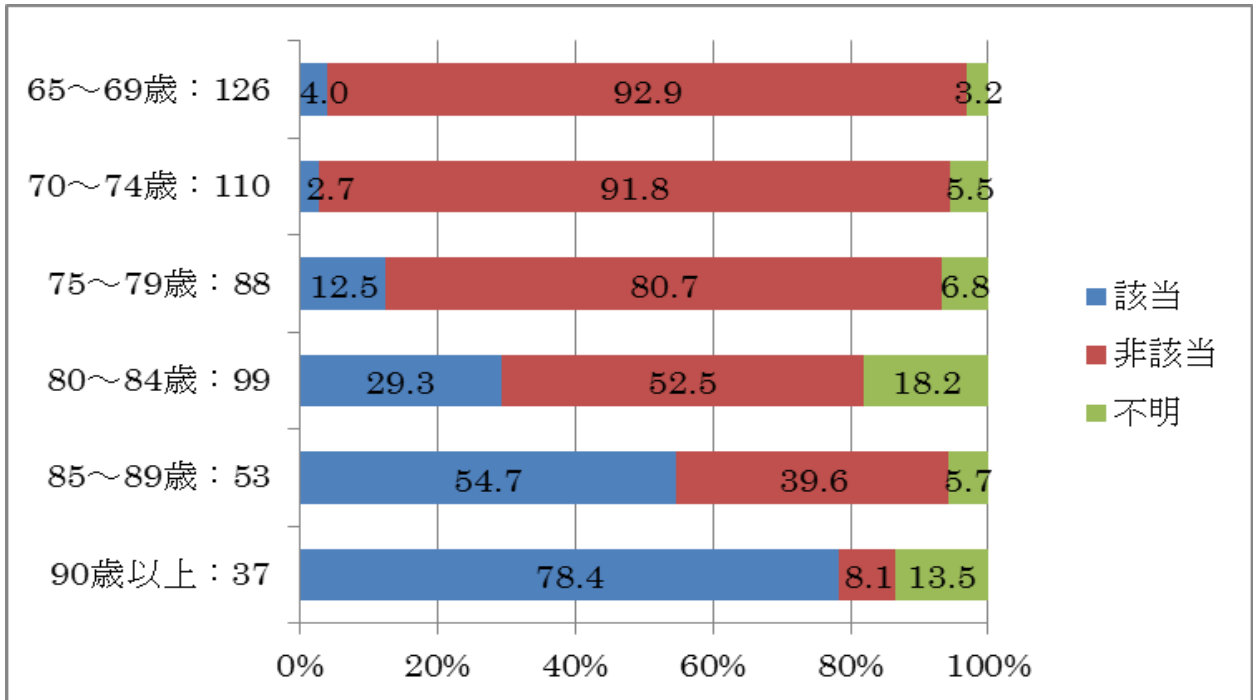
地区別にみると、神地(30.4%)、善之木(21.2%)、長幡西(19.2%)の順となっています。



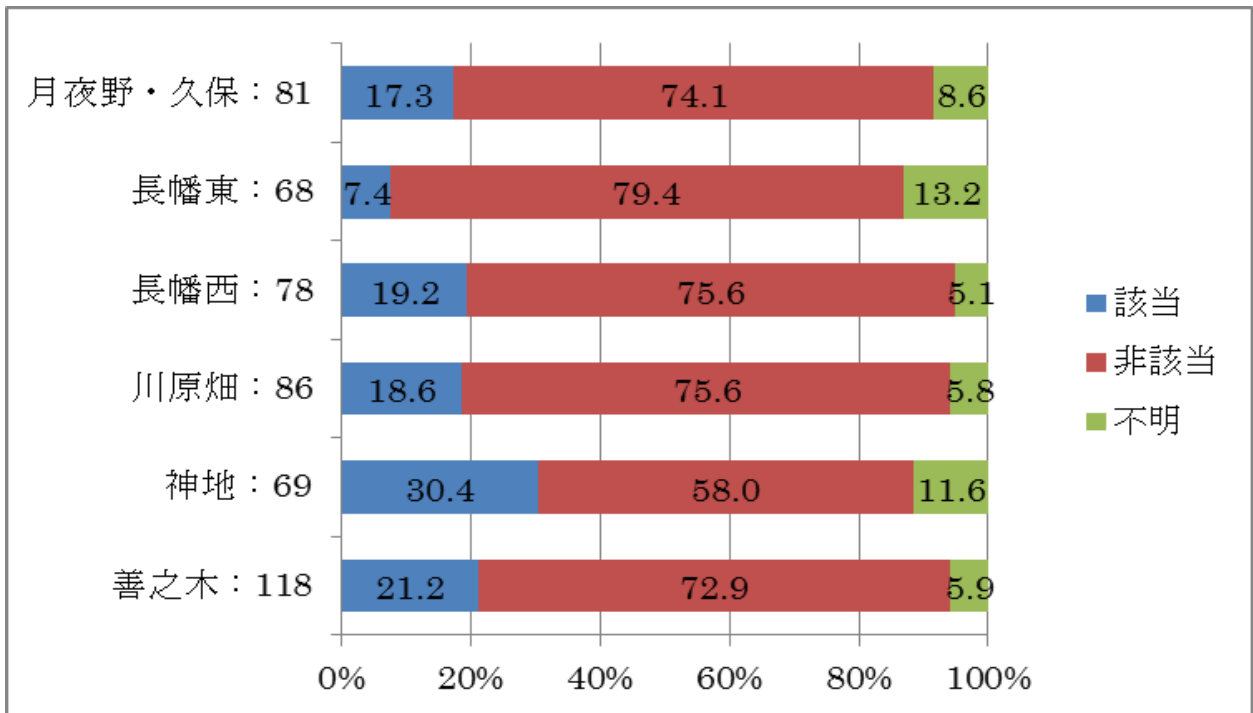
●男女別虚弱リスク



●年齢別虚弱リスク



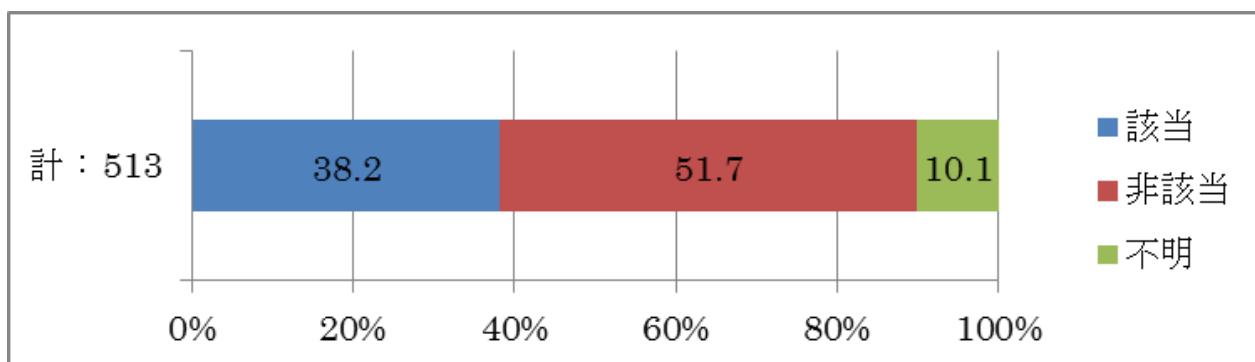
●地区別虚弱リスク



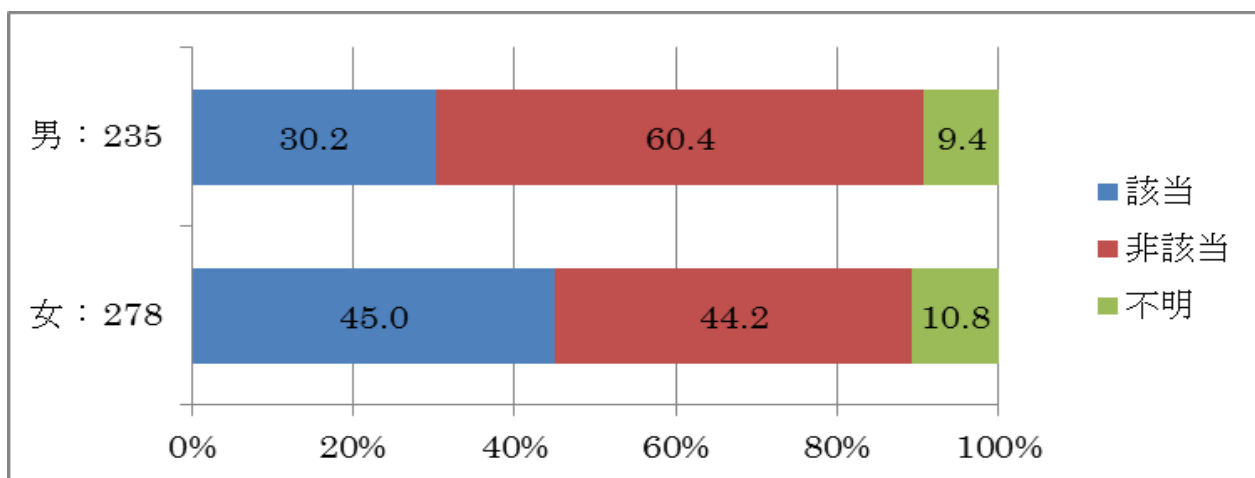
9. 二次予防対象者

二次予防対象者は、38.2%で、男女比では男性30.2%、女性が45.0%となっています。
年齢が上がるほど出現率は高くなり、90歳以上では約9割を占めています。

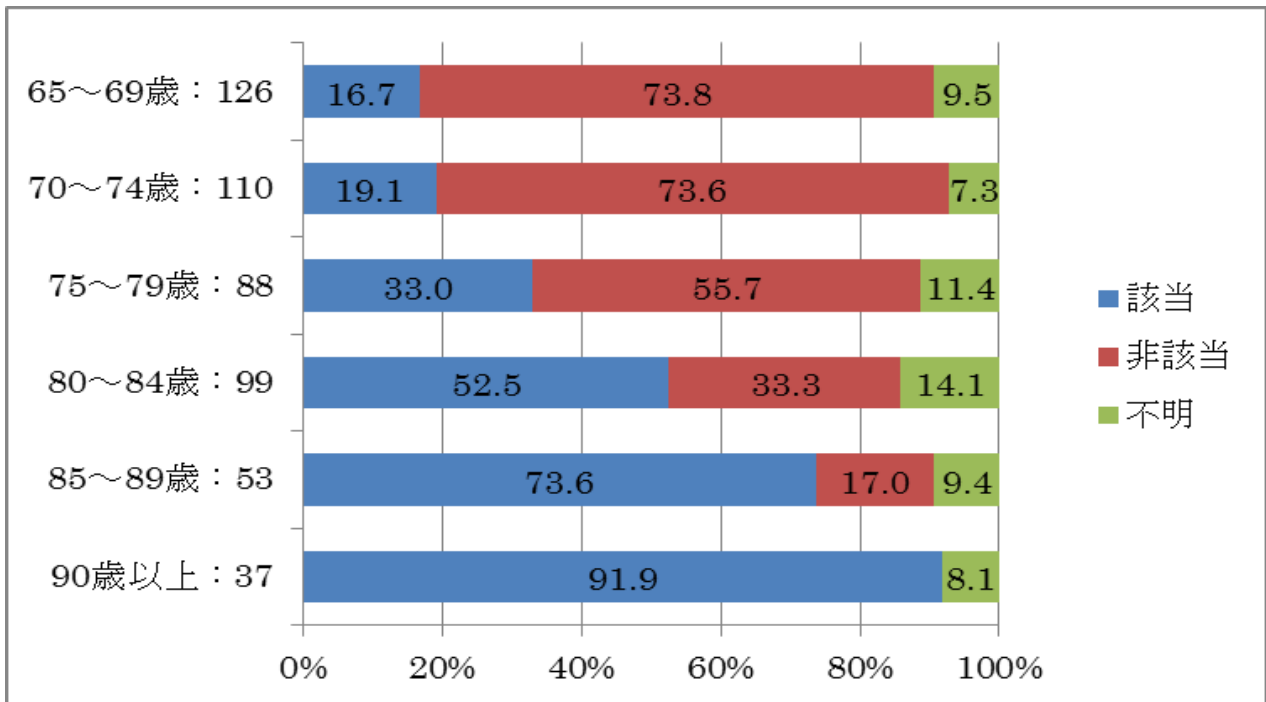
地区別にみると、神地（53.6%）、川原畑（40.7%）、善之木（34.7%）の順となっています。



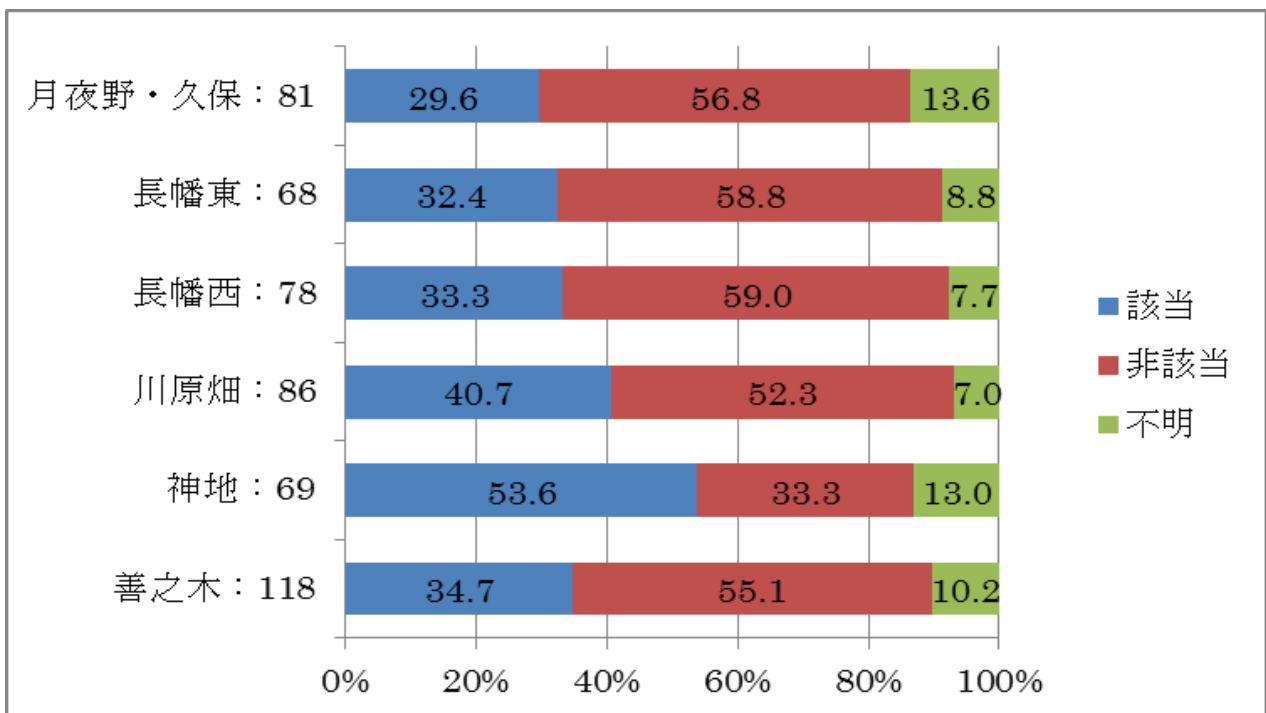
●男女別二次予防対象者



●年齢別二次予防対象者



●地区別二次予防対象者

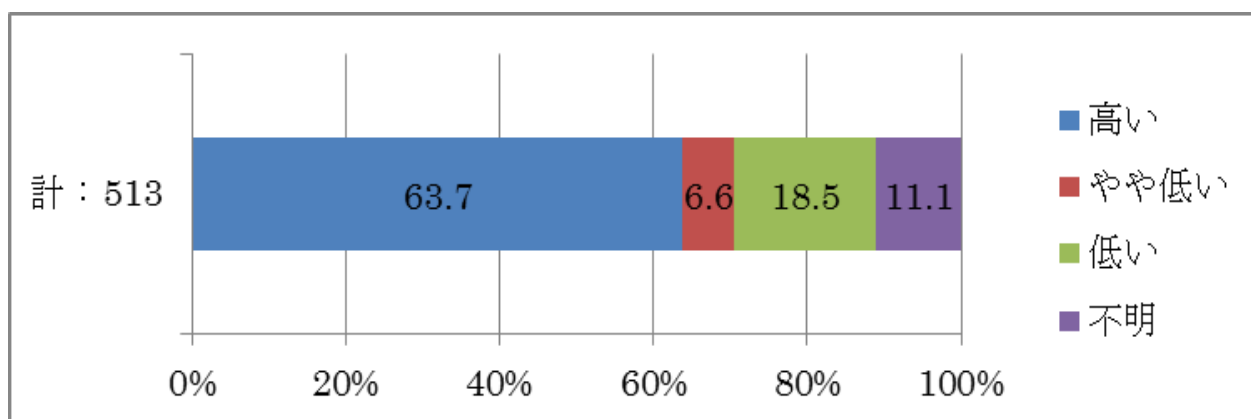


Ⅱ. 日常生活

1. 手段的自立度（IADL）

手段的自立度（IADL）は、高い（5点）が63.7%、やや低い（4点）が6.6%、低い（3点以下）が18.5%で、男女比では男性20.0%、女性が29.5%の割合でやや低いから低いIADLとなっています。

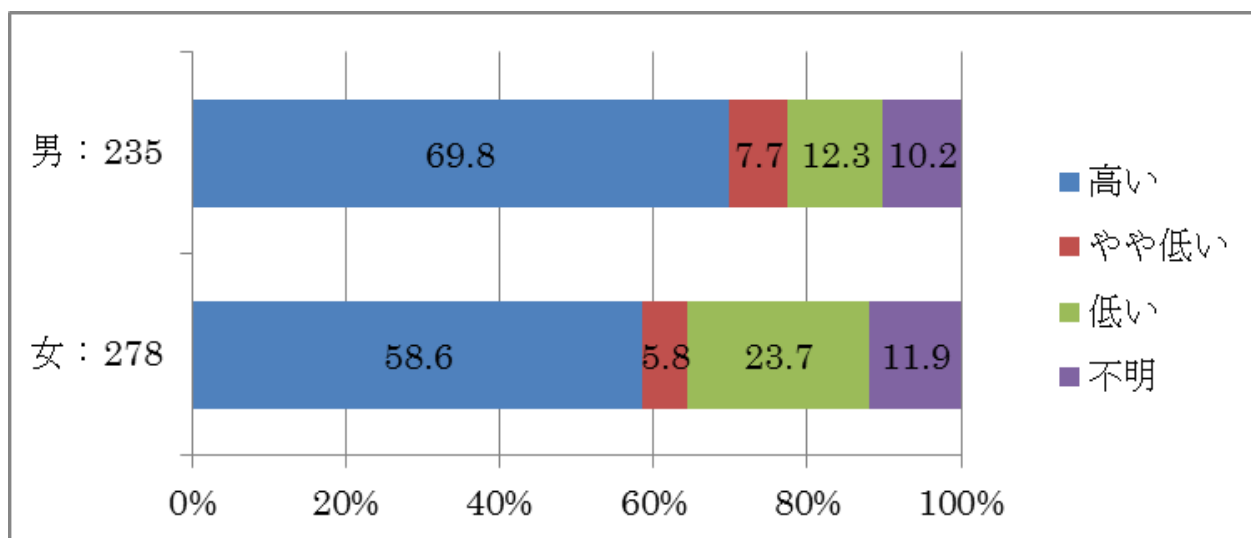
年齢が上がるほどレベルは低くなり、90歳以上ではやや低い、低いのが約8割を占めています。地区別にみると、神地（30.4%）、善之木（28.8%）、長幡西（24.3%）の順となっています。



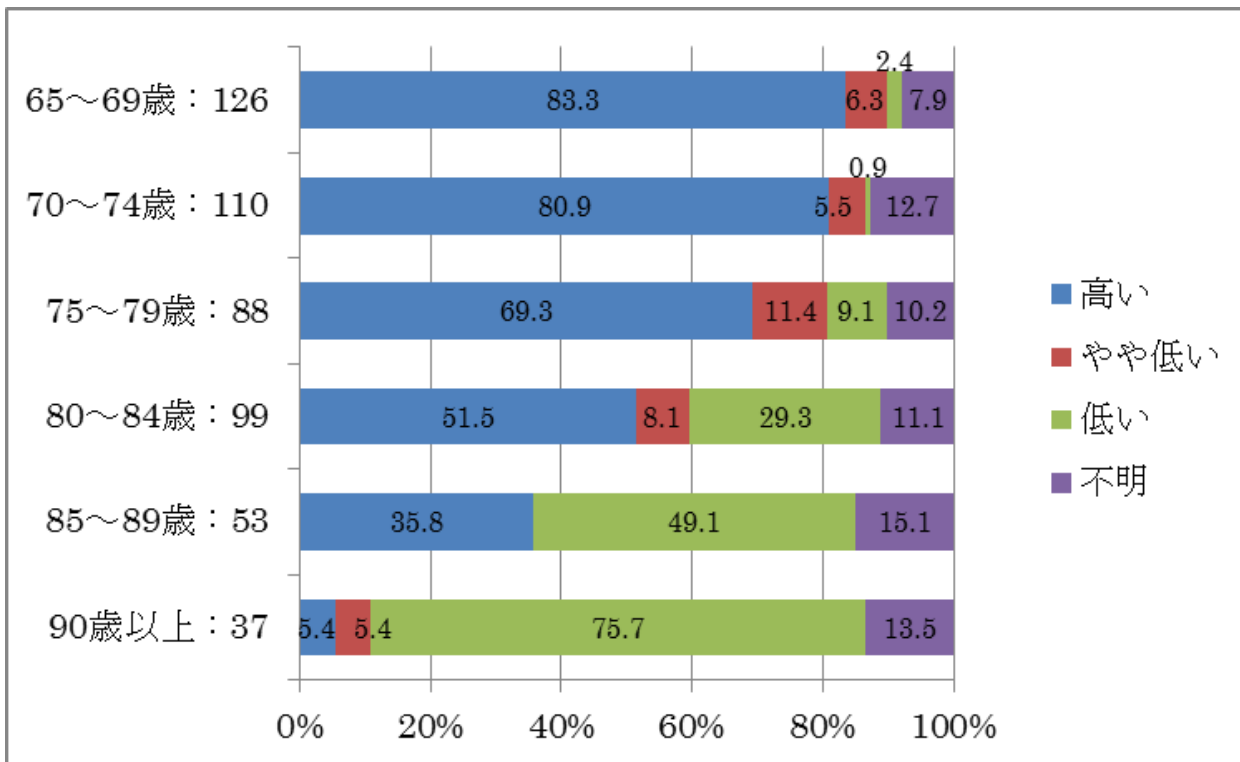
※高い…5点 やや低い…4点 低い…3点以下

IADL…手段的日常生活活動に関する設問を【手段的自立度（IADL）】として尺度化している。（バスや電車で一人で外出、日用品の買物、食事の用意、請求書の支払、預貯金の出入）

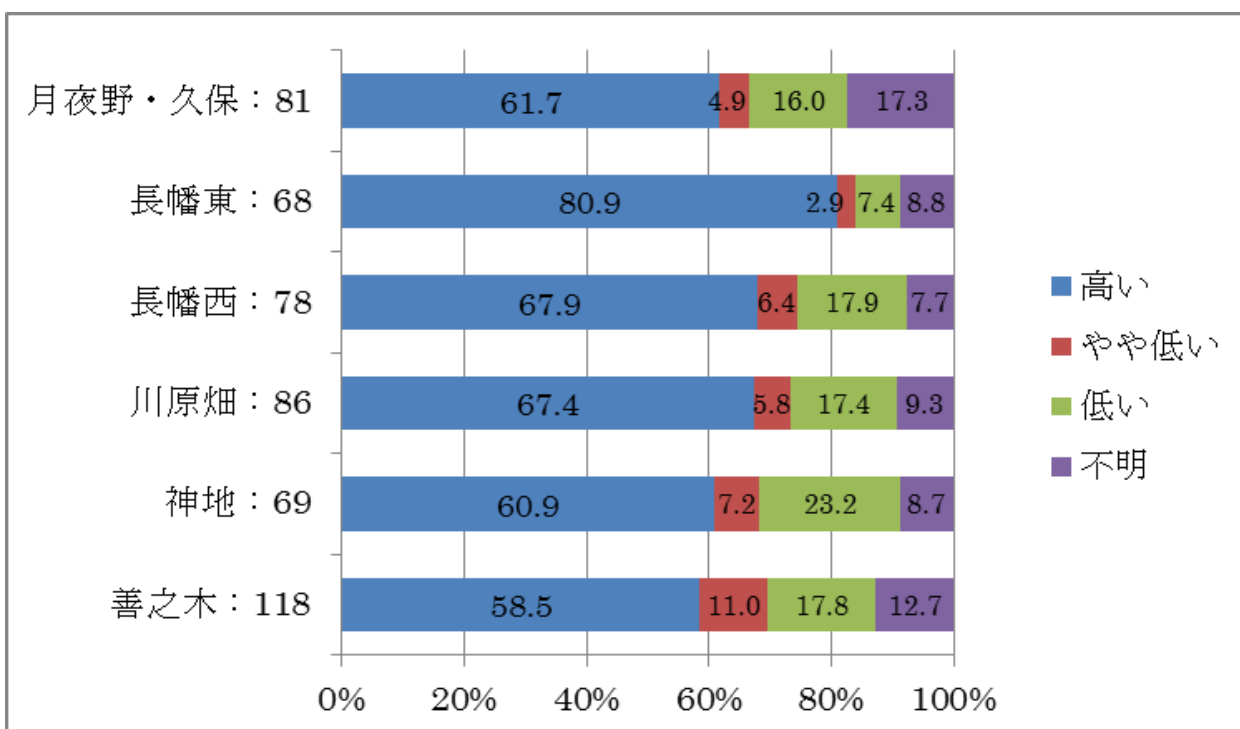
●男女別手段的自立度（IADL）



●年齢別手段の自立度（IADL）



●地区別手段の自立度（IADL）

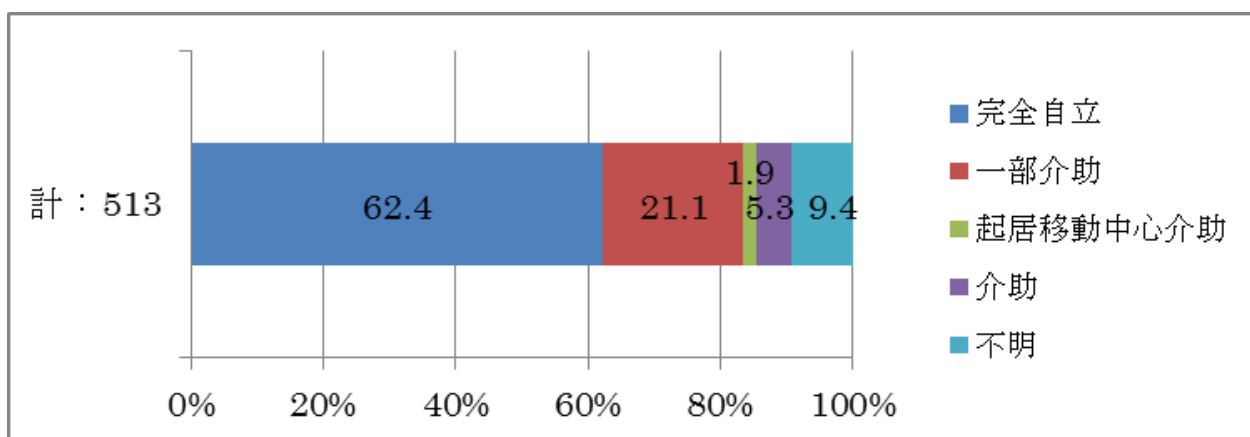


2. ADL

ADLは、完全自立（100点）が62.4%、一部介助（65～95点）が21.1%、起居移動中心介助（45～60点）が1.9%、介助（40点以下）5.3%で、男女比では男性21.3%、女性が34.2%の割合で何らかの介助が必要な状態となっています。

年齢が上がるほどレベルは低くなり、90歳以上では何らかの介助を必要とする方が約7割を占めています。

地区別にみると、神地（36.2%）、長幡西（33.3%）、月夜野・久保（27.2%）の順で何らかの介助を必要とする方が存在します。



※完全自立…100点

一部介助…65～95点

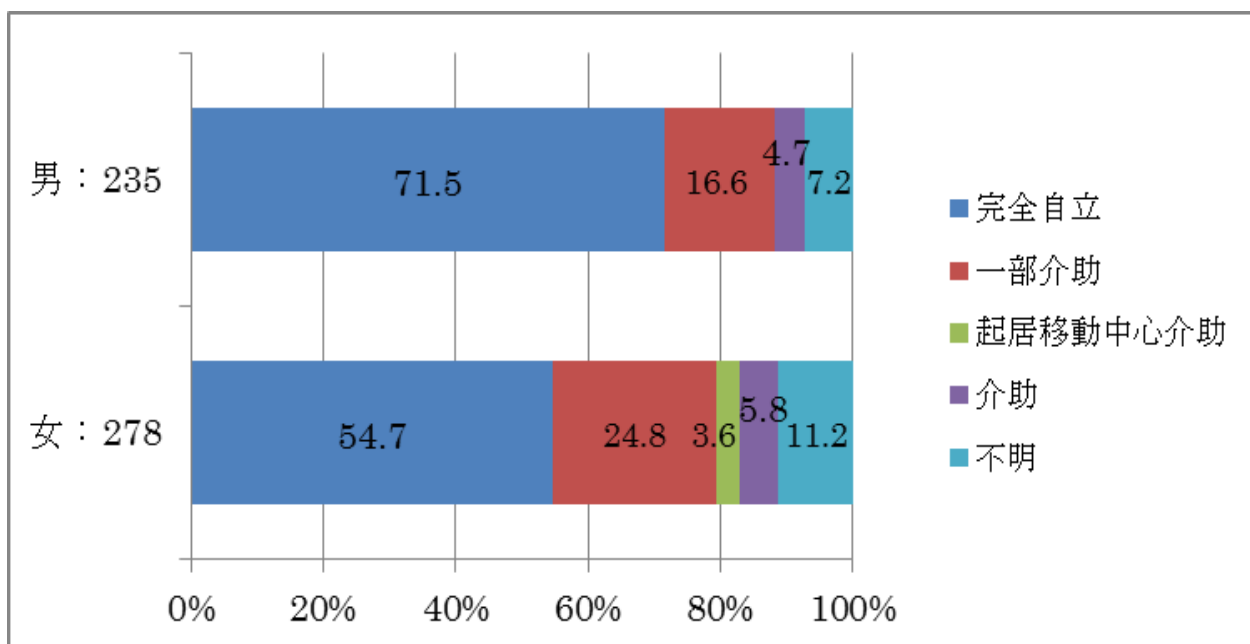
起居移動中心介助…45～60点

介助…40点以下

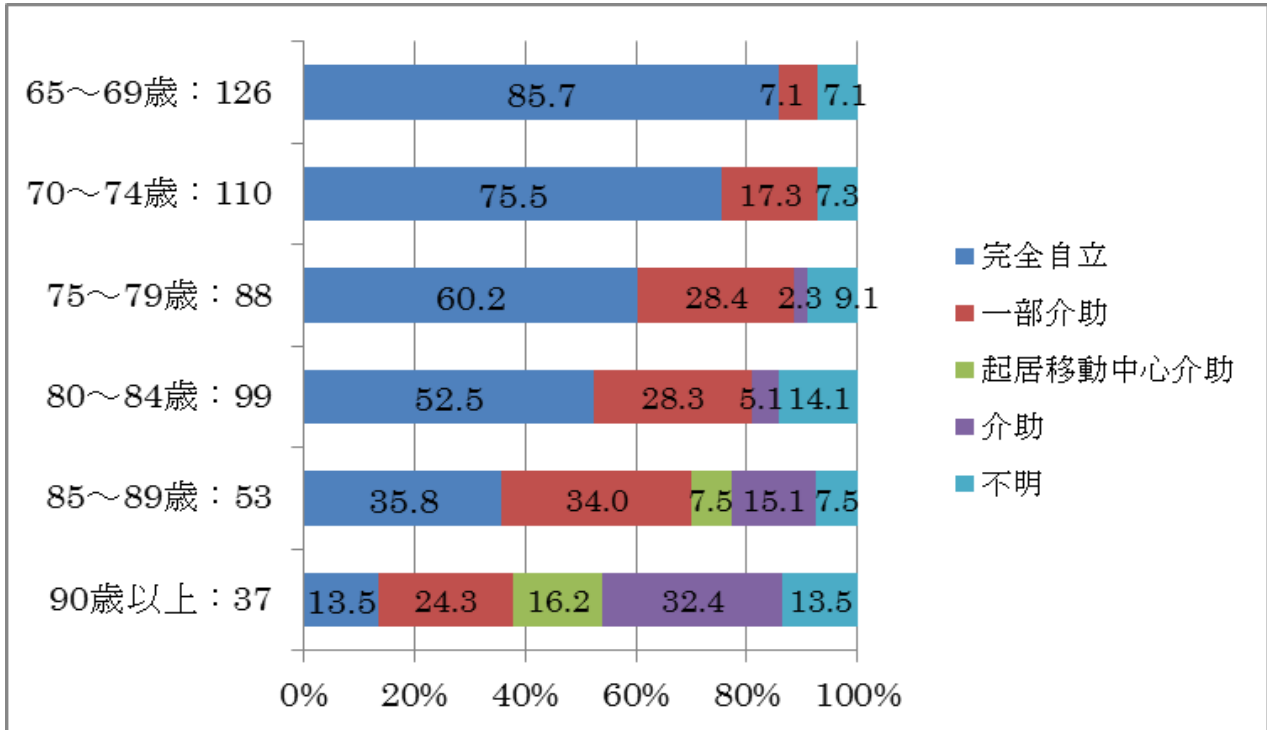
ADL…日常生活動作に関する設問を【ADL】として尺度化している。

（食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目）

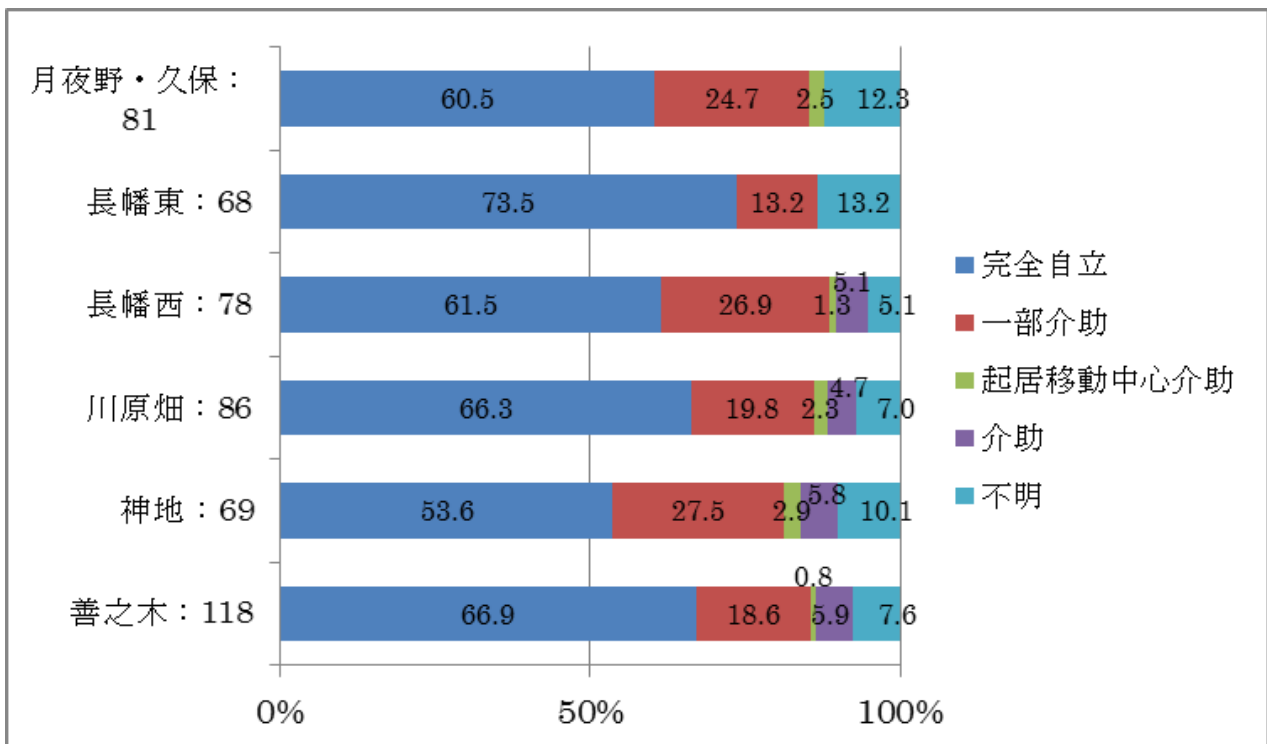
●男女別ADL



●年齢別ADL



●地区別ADL



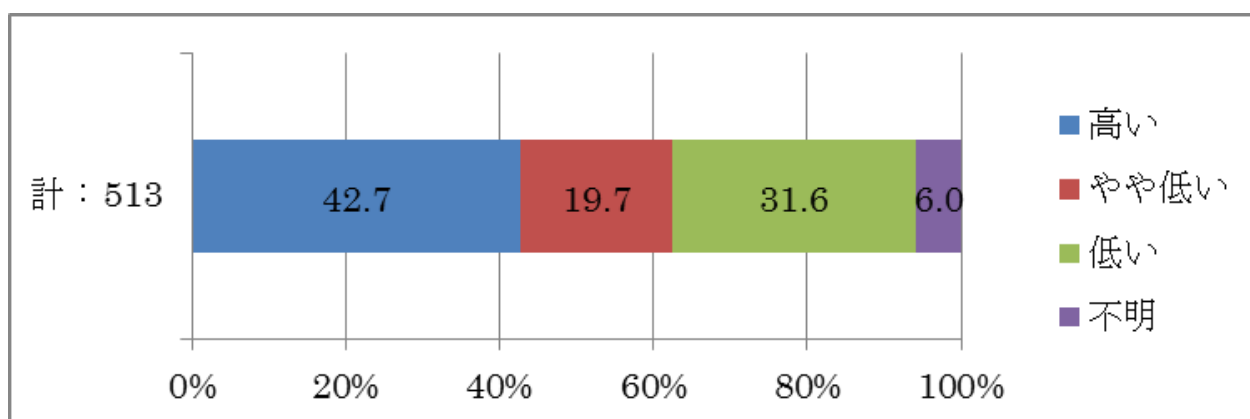
Ⅲ. 社会参加

1. 知的能動性

知的能動性は、高い（4点）が42.7%、やや低い（3点）が19.7%、低い（2点以下）が31.6%で、男女比では男性45.1%、女性が56.4%の割合で知的能動性が低下していることがわかります。

年齢が上がるほど知的レベルは低くなり、90歳以上ではやや低い、低いのが約9割を占めています。

地区別にみると、月夜野・久保（55.6%）、神地（55.1%）、川原畑（51.2%）の順となっています。

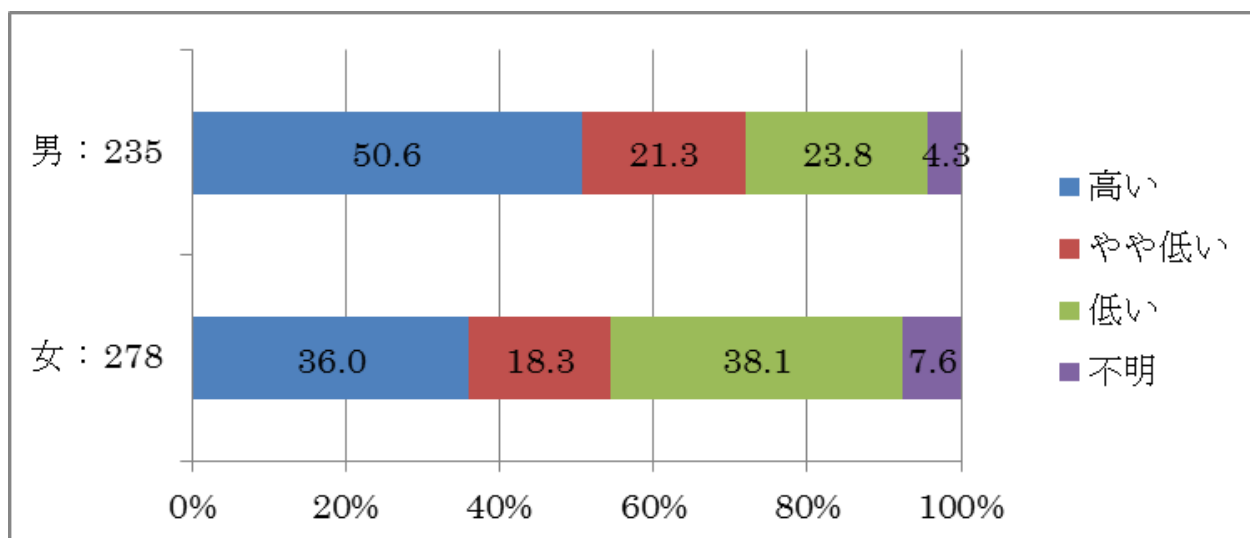


※高い…4点 やや低い…3点 低い…2点以下

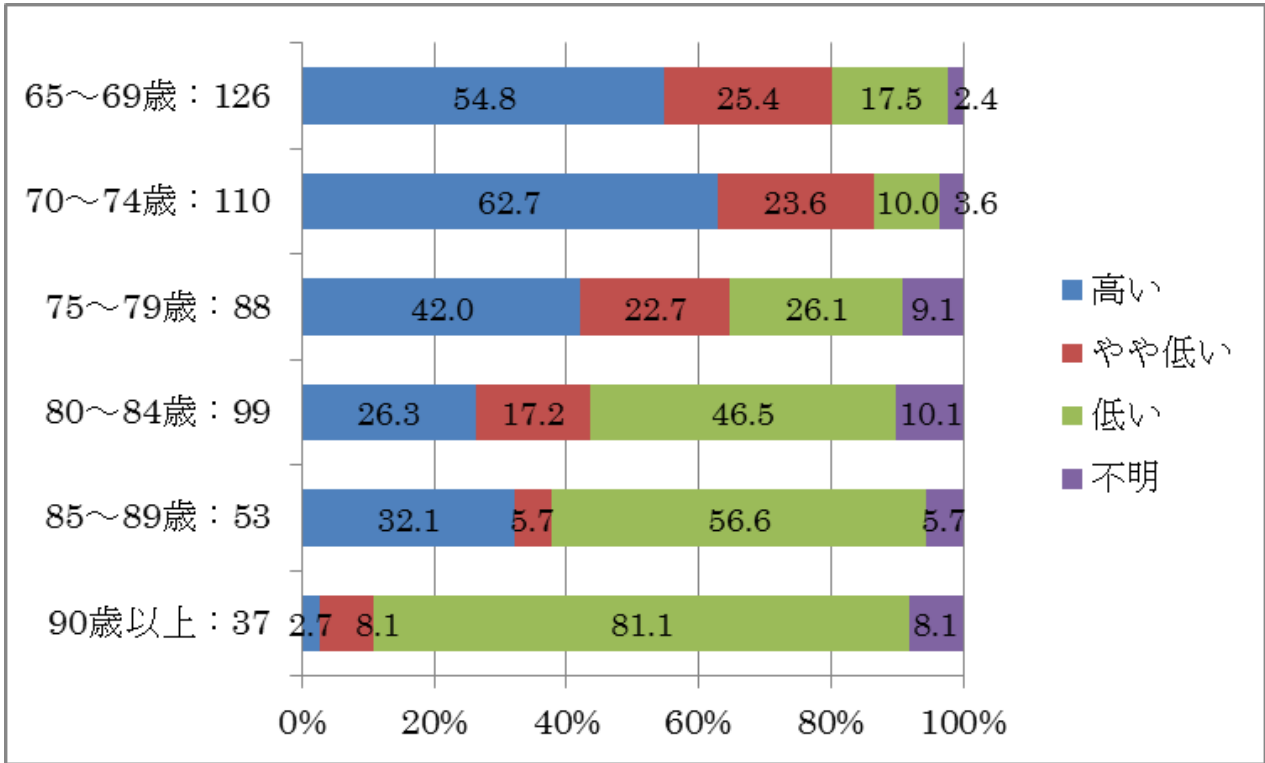
知的能動性…知的活動に関する設問を【知的能動性】として尺度化している。

（年金の書類が書ける、新聞を読む、本や雑誌を読む、健康についての記事や番組に関心）

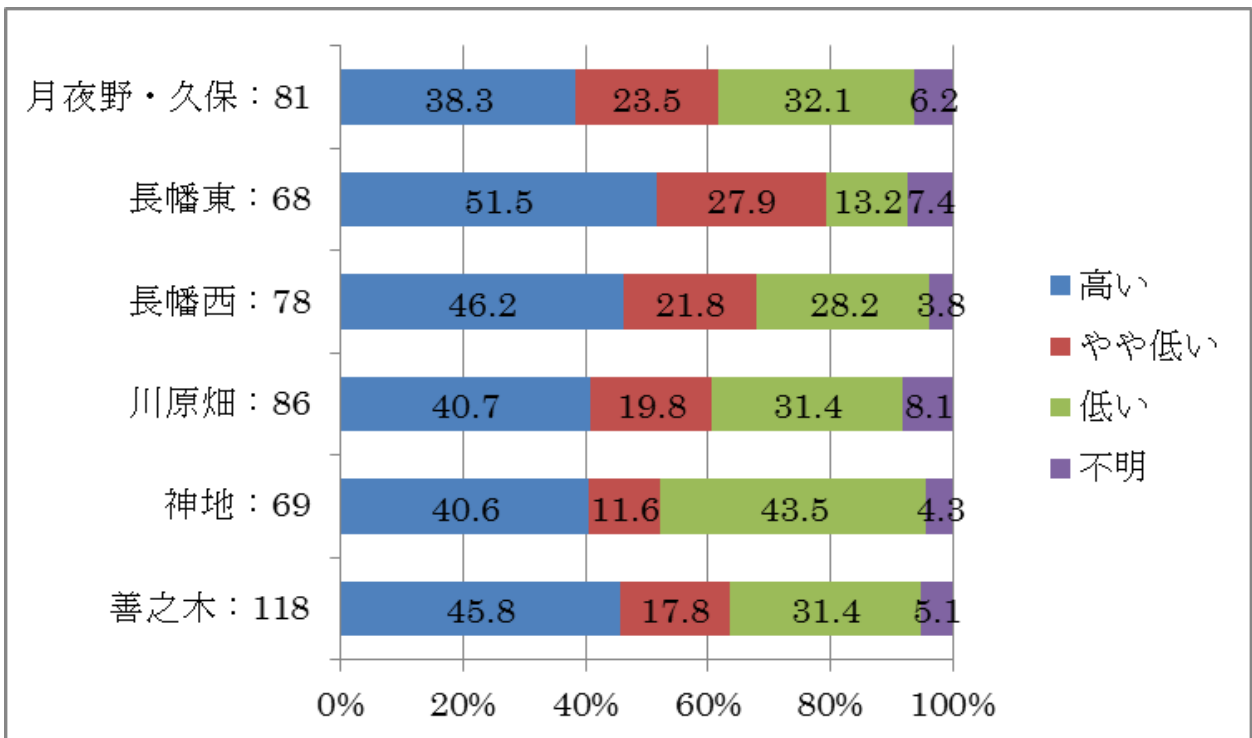
●男女別知的能動性



●年齢別知的能動性



●地区別知的能動性

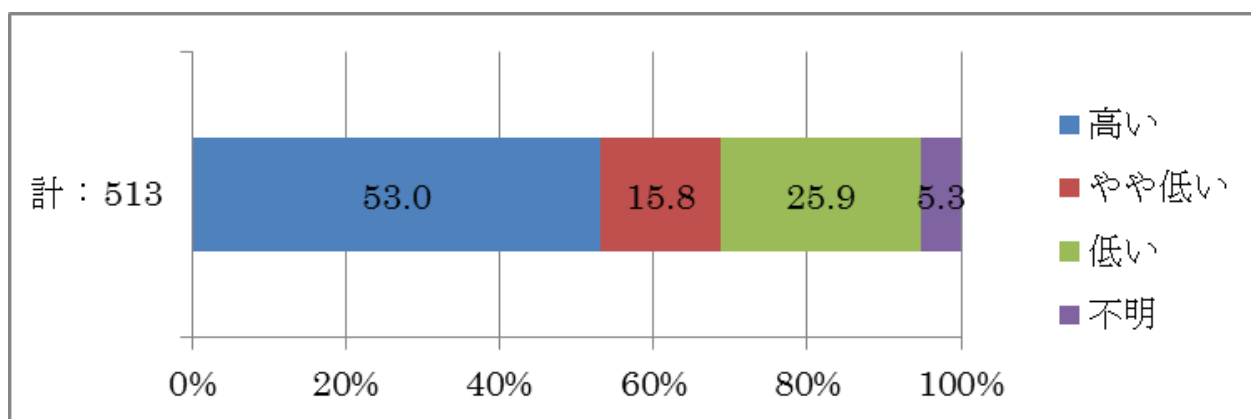


2. 社会的役割

社会的役割は、高い（4点）が53.0%、やや低い（3点）が15.8%、低い（2点以下）が25.9%で、男女比では男性40.9%、女性が42.5%の割合で社会的役割が低下していることがわかります。

年齢が上がるほど社会的役割のレベルは低くなり、90歳以上ではやや低い、低いのが約9割を占めています。

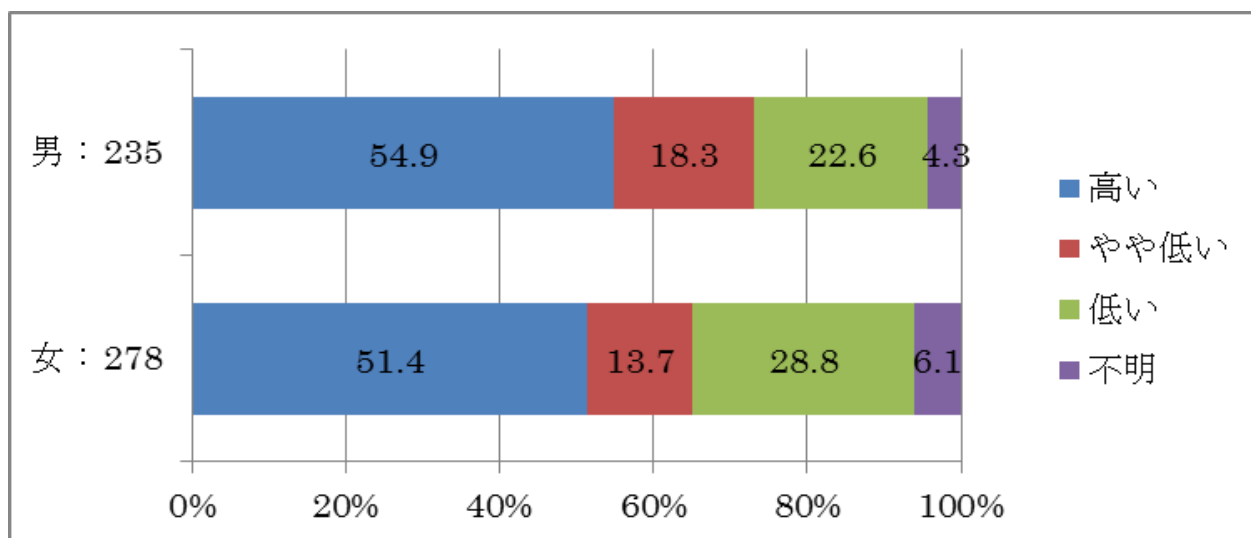
地区別にみると、神地（47.8%）、川原畑（44.2%）、長幡西（41.1%）の順で社会的役割のレベルの低下がみられます。



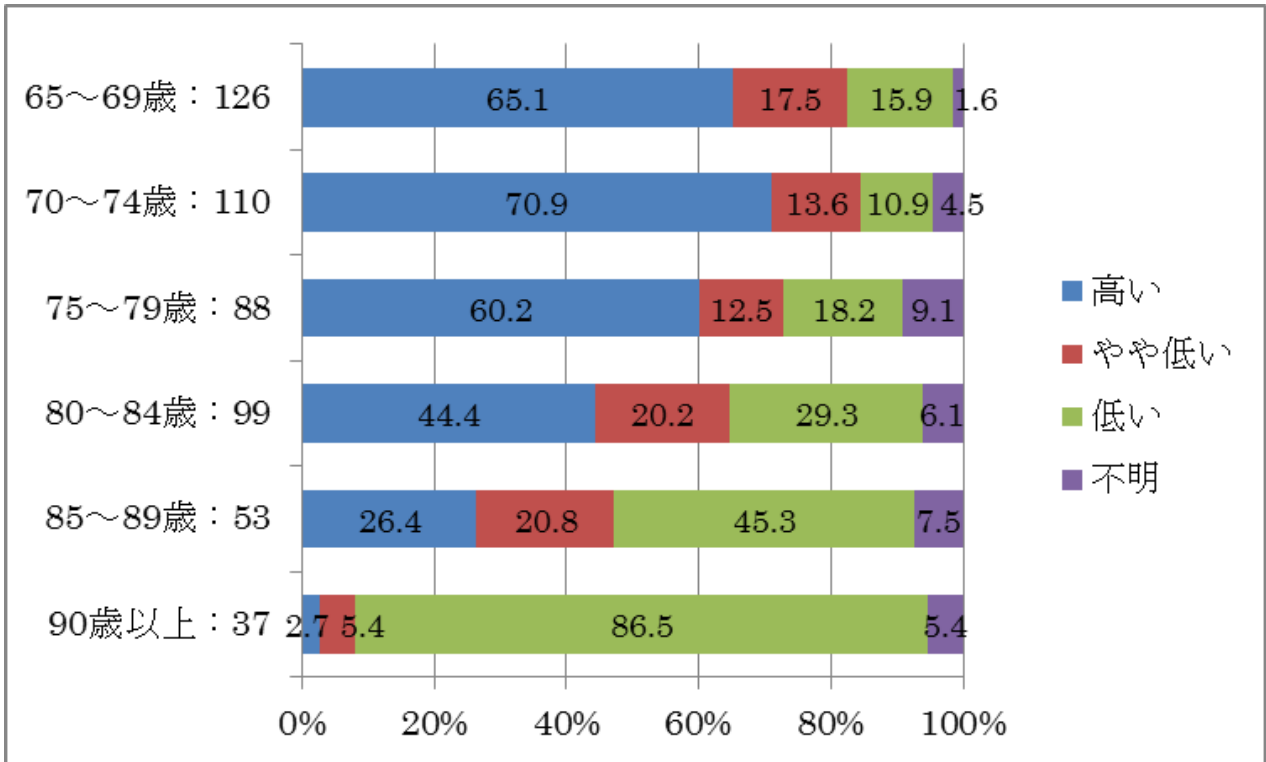
※高い…4点 やや低い…3点 低い…2点以下

社会的役割…高齢者の社会活動に関する設問を【社会的役割】として尺度化している。
（友人の家を訪ねる、家族や友人の相談にのる、病人を見舞う、若い人に話しかける）

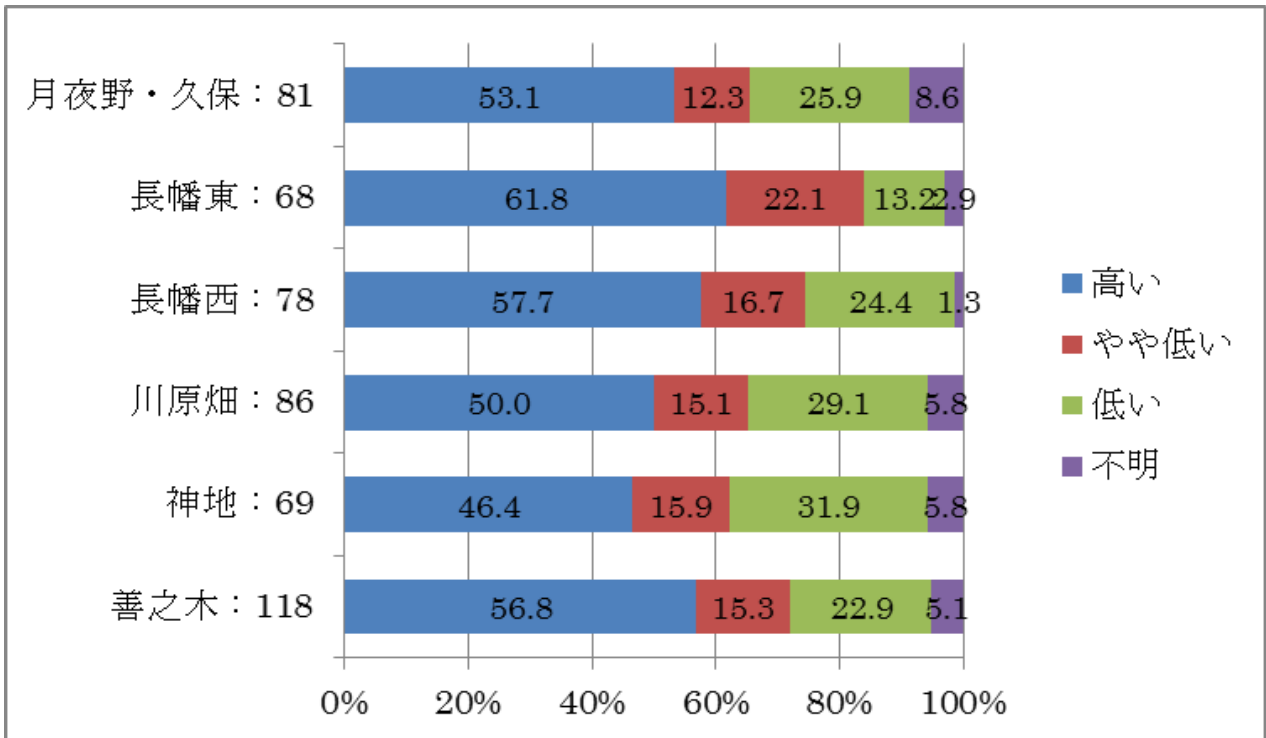
●男女別社会的役割



●年齢別社会的役割



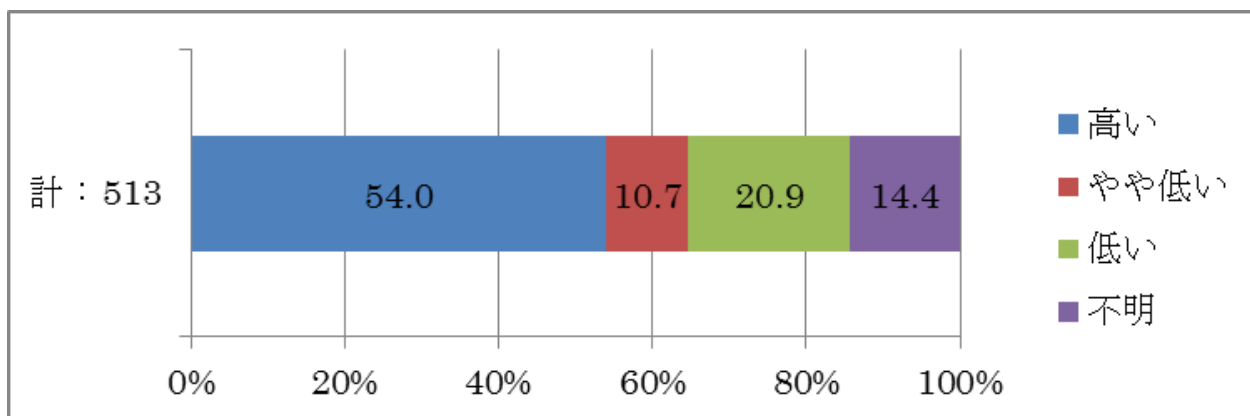
●地区別社会的役割



3. 老研指標総合評価

老研指標総合評価は、高い（11点以上）が54.0%、やや低い（9～10点）が10.7%、低い（8点以下）が20.9%で、男女比では男性27.2%、女性が35.3%の割合で低下していることがわかります。

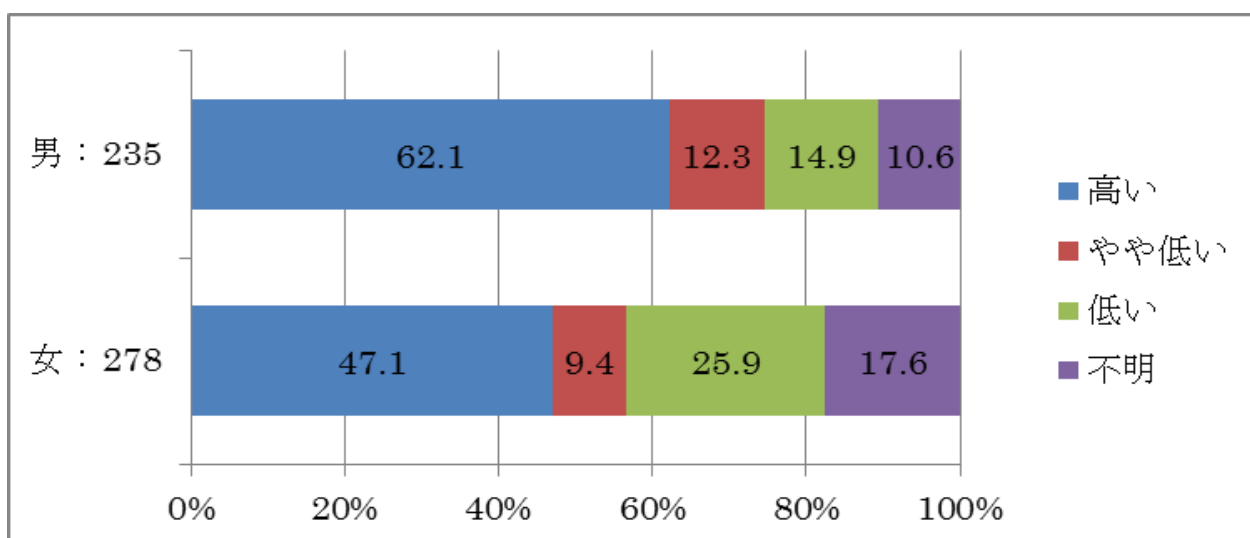
年齢が上がるほどそのレベルは低くなり、地区別にみると、神地（42.0%）、月夜野・久保（32.1%）、川原畑（31.4%）の順でレベルの低下がみられます。



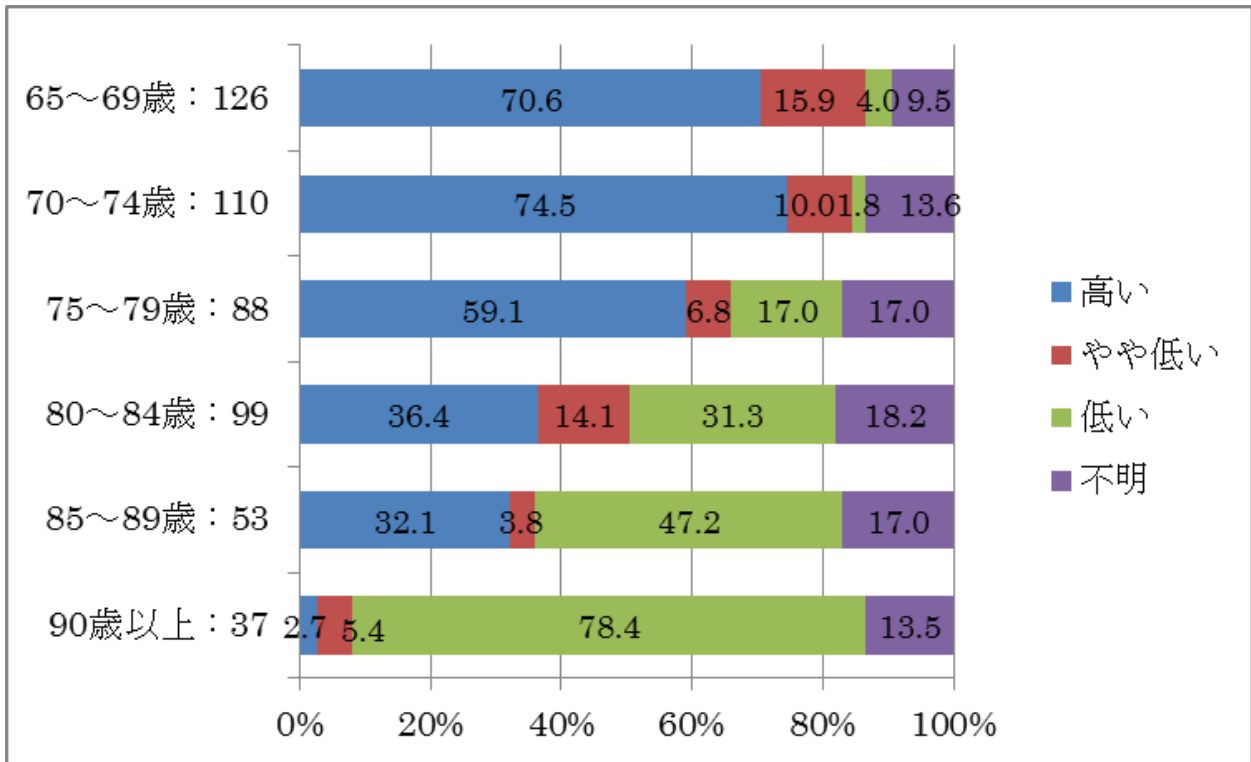
※高い…11点以上 やや低い…9点～10点 低い…8点以下

老研指標総合評価…IADL、知的能動性、社会的役割の3つ（老研式活動能力指標）に関する設問を【老研指標総合評価】として尺度化している。

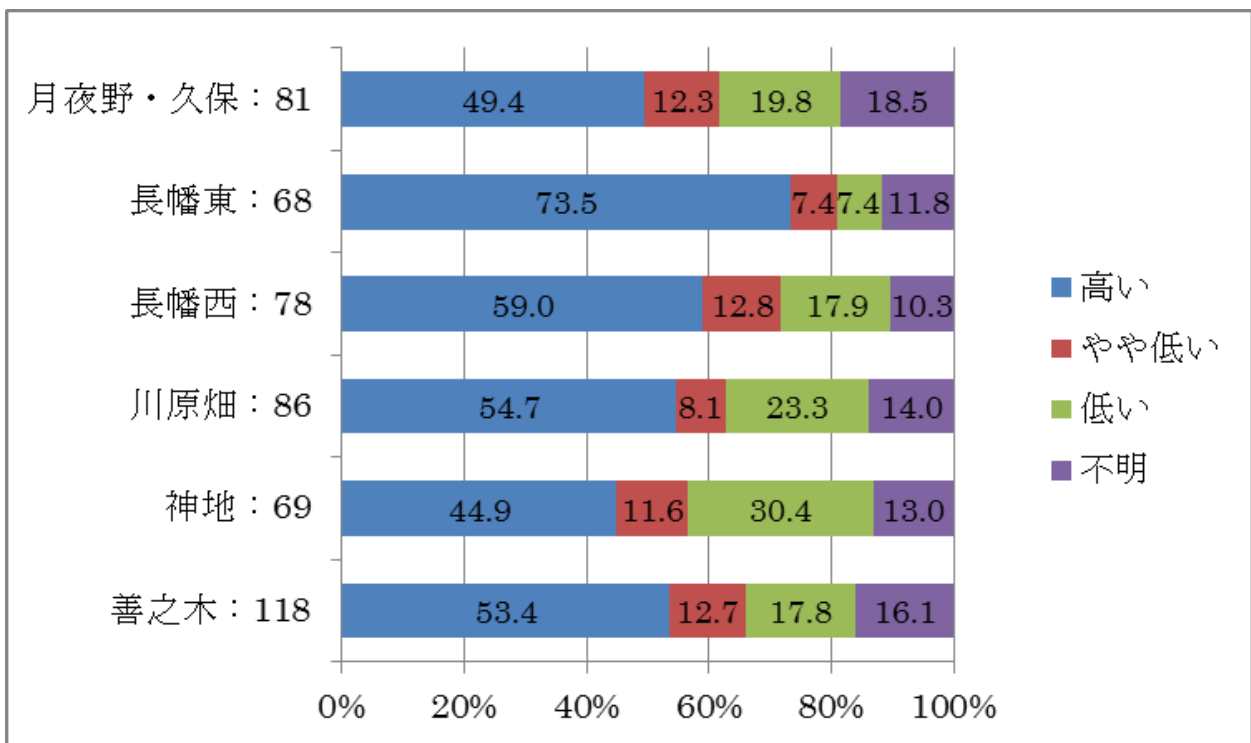
●男女別社会的役割



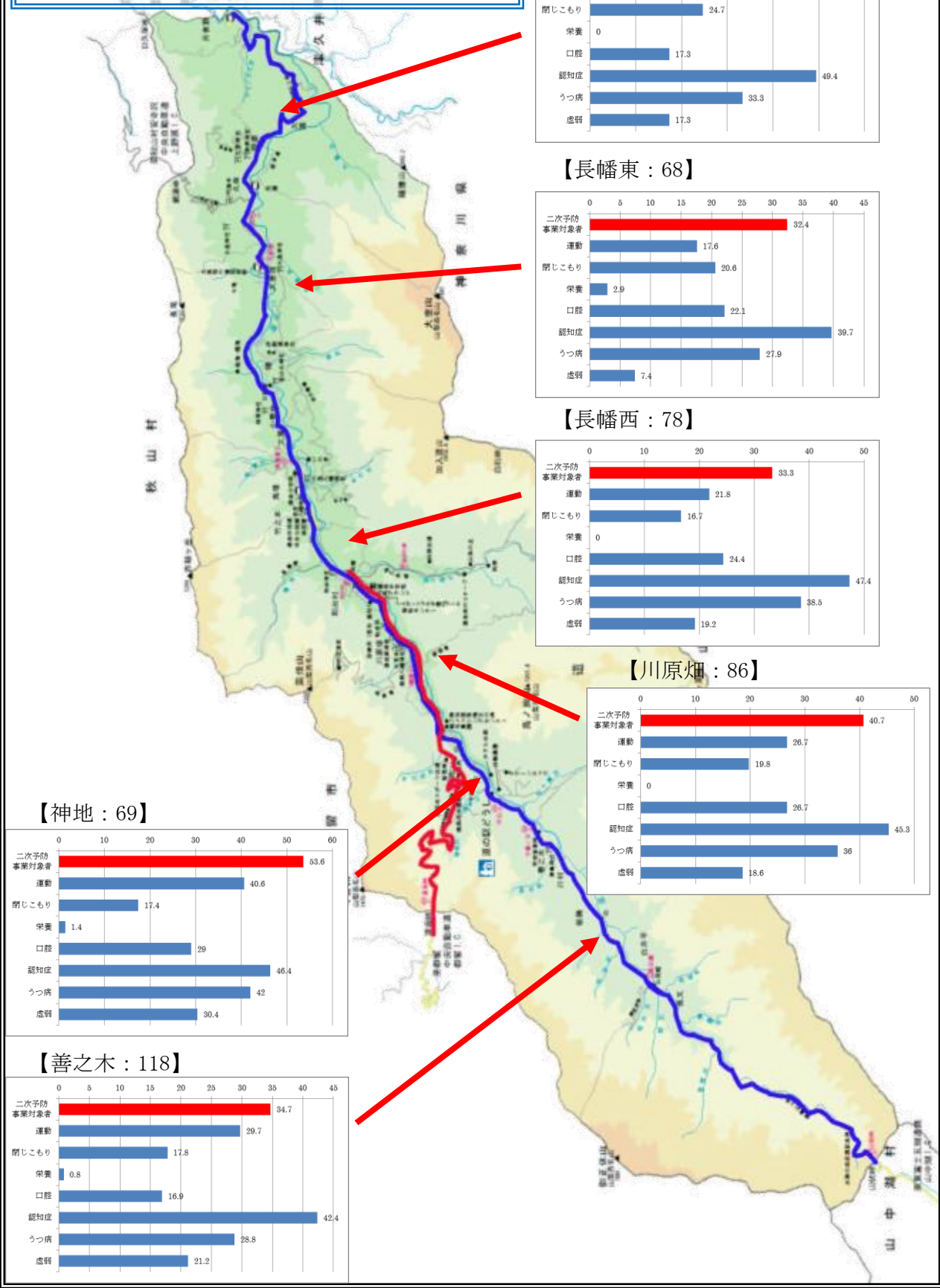
●年齢別社会的役割



●地区別社会的役割



地域別二次予防対象者
及びリスク該当者の割合



資料編

集計報告書 / 調査票

日常生活圏域二一ズ調査報告書

発 行／道志村

編 集／道志村 住民健康課

〒402-0209 山梨県南都留郡道志村 6181 番地 1

TEL 0554-52-2111(代表)

発 行／平成 27 年 3 月
